秋田県文化財調査報告書第256集

県営ほ場整備事業(琴丘地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書II

―― 家の下遺跡（1） ――

1995・3

秋田県教育委員会

県営ほ場整備事業(琴丘地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

—— 家の下(いえのした)遺跡（1） ——

1995・3

秋田県教育委員会

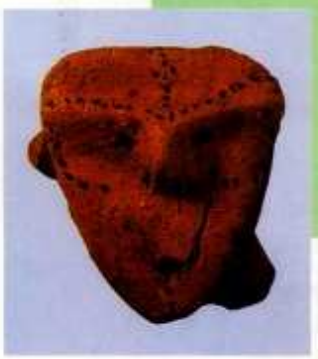
遺跡全景（上：写真右側が北、下：東→）
1994年7月28日撮影

Ⅰ区遺構集中箇所近景（北東→）

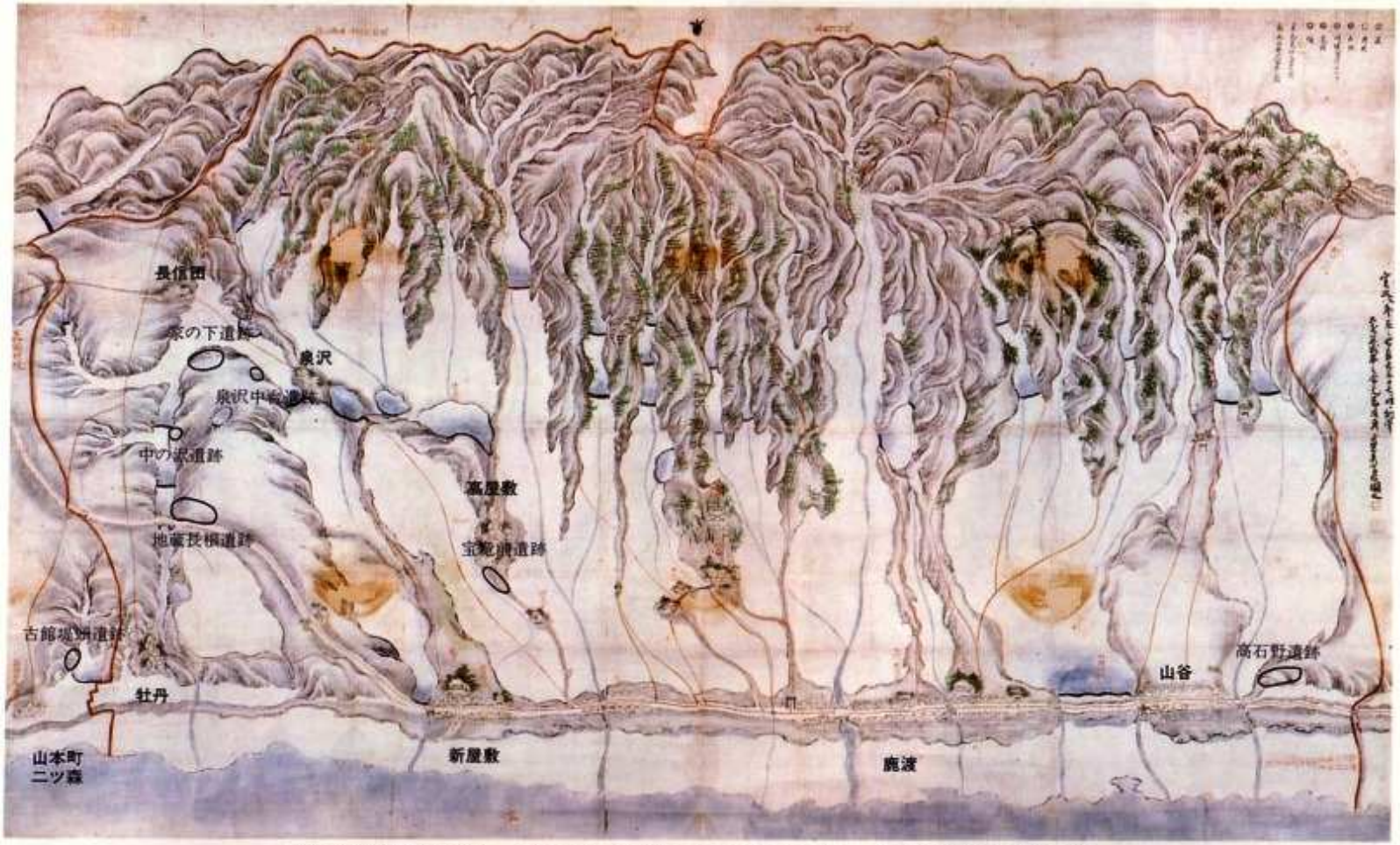
基本土層（Ⅰ区北端部、北→）

石囲炉ＳＮ41Ｂ（北→）

遺物出土状況（上：ＳＫＦ239、右下：ＳＫＦ226）



土偶（上：第97図221、左下：同223）



鹿渡村絵図（縦2.08m、横3.00m）寛政８年（1796年）筆　〈琴丘町教育委員会蔵〉

序

秋田県には、豊かな自然とともに育まれてきた文化遺産が数多く受け継がれております。これら先人の大いなる足跡は、時として埋蔵文化財として大地に刻まれ、我々の目に触れることなく伝えられております。

このたび、琴丘町内でほ場整備事業を実施するにあたり、対象地域内に家の下遺跡が含まれることになりました。そのため本教育委員会は、工事に先立って発掘調査を実施し、遺跡を記録保存することになりました。

その結果、縄文時代中期から晩期にかけての集落跡を確認するとともに、旧石器時代の石器が多量に出土し、２万年にもわたる人々の暮らしの様子が明らかになりました。

本書はこの成果をまとめたものでありますが、文化財に対する御理解と歴史研究の上でいささかでも役立てば幸いと存じます。

最後に、発掘調査から本書の刊行に至るまで御指導、御協力下さった秋田県農政部山本農林事務所・琴丘町教育委員会ならびに関係各位に対し厚く御礼申し上げます。

平成７年３月

秋田県教育委員会
教育長　橋本顕信

例　　言

1　本書は県営ほ場整備事業琴丘地区に係る家の下遺跡の発掘調査報告書である。

2　家の下遺跡の発掘調査は平成6年5月16日～11月25日まで実施した。

3　本報告書では縄文時代の遺構・遺物について報告することとし、旧石器時代の遺物については、後日報告する。

4　『第5章　自然科学分析』はパリノ・サーヴェイ株式会社に業務委託した分析報告書である。

5　図版に使用した空中写真はＮＲＣ岩手空撮に業務委託したものである。

6　本報告書挿図中に使用した土層表記法は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖　1989年版』を使用した。

7　本報告書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行25,000分の1「鹿渡」・50,000分の1「森岳」、秋田県農政部山本農林事務所作製1,000分の1工事計画図、琴丘町作製1,000分の1および5,000分の1管内図である。

8　本遺跡の調査ならびに報告書刊行にあたり、秋田県立五城目高等学校教諭栗山知士氏からは、遺跡周辺の地形・地質について終始有意義な御教示を頂いた。

9　本書の執筆・編集は高橋学および五十嵐一治がおこなった。

凡　　例

1　本報告書に収載した遺跡実測図に付した方位は磁北である。

2　本報告書で各遺構に付している略記号は以下の通りである。

ＳＩ（竪穴住居跡）	ＳＫＩ（竪穴状遺構）	ＳＮ（石囲炉・焼土遺構）
ＳＤ（溝跡）	ＳＫ（土坑）	ＳＫＦ（フラスコ状土坑）
ＳＲ（土器埋設遺構）		

3　土層註記は基本層位にローマ数字を用いた。

4　挿図中に使用したスクリーントーンは以下のとおりであり、それ以外については個々に凡例を示してある。

地山（Ⅳ層）　地山（Ⅴ層）　焼　土　　炭化物

目　　次

序
例言
凡例
目次
第１章　はじめに……1
　第１節　発掘調査に至るまで……1
　第２節　調査要項……1
第２章　遺跡の立地と環境……3
　第１節　遺跡の位置と立地……3
　第２節　歴史的環境……3
第３章　調査の概要……7
　第１節　遺跡の概観……7
　第２節　調査の方法……7
　第３節　発掘調査の経過……9
第４章　調査の記録……13
　第１節　遺跡の基本土層……13
　第２節　検出遺構と出土遺物……14
　第３節　遺構外出土遺物……124
第５章　自然科学分析……140
第６章　まとめ……145
写真図版１～22

挿　図　目　次

第１図　家の下遺跡と周辺遺跡の位置
第２図　地形図及び調査区位置図
第３図　旧石器時代遺物平面分布図　Ⅰ区北西部
第４図　基本土層図
第５図　遺構配置図（１）Ⅰ区
第６図　遺構配置図（２）Ⅰ区北部
第７図　遺構配置図（３）Ⅱ区南部、Ⅲ区
第８図　遺構配置図（４）Ⅱ区北部
第９図　ＳＩ83住居跡
第10図　ＳＩ83内に位置する遺構　ＳＲ83Ｂ、焼土Ａ・Ｂ・Ｃ、ＳＫ55・91・96
第11図　ＳＩ92住居跡
第12図　ＳＩ219竪穴住居跡、ＳＫ229土坑、ＳＮ245Ａ～Ｄ焼土遺構
第13図　ＳＩ273竪穴住居跡、ＳＮ267焼土遺構
第14図　ＳＫＩ４竪穴状遺構
第15図　土坑・フラスコ状土坑分類基準模式図
第16図　土坑（１－１）ＳＫＦ６
第17図　土坑（１－２）ＳＫＦ６・８・24、ＳＫ31
第18図　土坑（２）ＳＫＦ１・２・３・45
第19図　土坑（３）ＳＫＦ７Ａ、ＳＫ７Ｂ、ＳＲ７Ｃ土器埋設遺構
第20図　土坑（４－１）ＳＫＦ21Ａ・21Ｂ・35Ａ・35Ｂ
第21図　土坑（４－２）ＳＫＦ35Ａ・35Ｂ・28Ａ・28Ｂ
第22図　土坑（５－１）ＳＫＦ22Ａ・22Ｂ、ＳＫ89・90、ＳＫＩ23Ａ・23Ｂ竪穴状遺構
第23図　土坑（５－２）ＳＫＦ22Ａ・22Ｂ、ＳＫ29・30・32、ＳＫＩ23Ａ竪穴状遺構

第24図　土坑（6－1）SKF25・22A・22B、SKF26A～I
第25図　土坑（6－2）SKF26A・B・D・F・H・I
第26図　土坑（6－3）SKF26B～E・G、SK36・37、SKF38
第27図　土坑（7）SKF27A～D
第28図　土坑（8－1）SKF33A・42・58A・58B、SN33B石囲炉
第29図　土坑（8－2）SKF33A・58A・58B・46、SK47
第30図　土坑（9－1）SKF34A・C・D、SKF41A、SK34E、SN34B・41B石囲炉
第31図　土坑（9－2）SKF34A・C・D、SKF41A、SK34E
第32図　土坑（10）SKF39・49、SK48・52
第33図　土坑（11）SKF40A・40B・50、SK51
第34図　土坑（12）SKF43、SK44・53・54
第35図　土坑（13）SKF56・67A、SK67B
第36図　土坑（14－1）SKF59A・C～F、SK59B
第37図　土坑（14－2）SKF59A・C～F、SK59B
第38図　土坑（14－3）SKF59A・C～F、SK59B、SK57、SKF63
第39図　土坑（15）SKF61A・61D・62、SK61C、SN61B焼土遺構
第40図　土坑（16－1）SKF64A～F・H・J・K、SK64L
第41図　土坑（16－2）SKF64A～F
第42図　土坑（16－3）SKF64G・H・J・K、SK64L、SKF68
第43図　土坑（17）SKF69A・69B・70B、SK70A・72
第44図　土坑（18－1）SK66A・B、SKF66C～E・H・I、SKF78A～C、SK78D・E、SR66F土器埋設遺構、SD66G溝状遺構
第45図　土坑（18－2）SK66A・B、SKF66C～E、SD66G溝状遺構
第46図　土坑（18－3）SKF66H、SKF78A～C、SK78D、SD66G溝状遺構
第47図　土坑（19）SKF71A・D・E、SK40C、SKF73A、SN73B焼土遺構
第48図　土坑（20）SKF74A～C
第49図　土坑（21）SKF75・77、SD97溝状遺構
第50図　土坑（22）SKF84、SK86
第51図　土坑（23）SKF85・88、SK87
第52図　土坑（24）SK101・102・104・105・109
第53図　土坑（25）SK103・106、SN108焼土遺構
第54図　土坑（26）SK201、SKF202～204
第55図　土坑（27）SKF205・207・210、SK206
第56図　土坑（28）SKF208、SK212・215・220、SN217焼土遺構
第57図　土坑（29）SKF216A・216B・221・223、SK222
第58図　土坑（30）SKF224・226、SK225・227A・228、SN227B・C焼土遺構
第59図　土坑（31）SK230・231・233、SK234・235
第60図　土坑（32）SKF236～239
第61図　土坑（33）SKF244・247、SK243A・248、SN243B・C焼土遺構
第62図　土坑（34）SK250・251・255・256
第63図　土坑（35）SK252・253・254
第64図　土坑（36）SKF260～262、SK263
第65図　土坑（37）SKF269・270A・270B・274
第66図　土器埋設遺構　SR5・7C・60・65・76・80
第67図　石囲炉　SN33B・34B・41B
第68図　焼土遺構（1）SN9～18
第69図　焼土遺構（2）SN20・79・81・82・93・94・95・98・99
第70図　焼土遺構（3）SN211・241・242・249・257・258・264
第71図　焼土遺構（4）SN265A・265B・266・268A・268B・271・272A・272B
第72図　遺構内出土遺物（1）土器（1）I区
第73図　遺構内出土遺物（2）土器（2）I区
第74図　遺構内出土遺物（3）土器（3）I区
第75図　遺構内出土遺物（4）土器（4）I区
第76図　遺構内出土遺物（5）土器（5）I区
第77図　遺構内出土遺物（6）土器（6）I区
第78図　遺構内出土遺物（7）土器（7）I区
第79図　遺構内出土遺物（8）土器（8）II区
第80図　遺構内出土遺物（9）土器（9）II区
第81図　遺構内出土遺物（10）土器（10）II区
第82図　遺構内出土遺物（11）土器（11）II区
第83図　遺構内出土遺物（12）土器（12）II区
第84図　遺構内出土遺物（13）土器（13）II区
第85図　遺構内出土遺物（14）土器埋設遺構（1）
第86図　遺構内出土遺物（15）土器埋設遺構（2）・石囲炉
第87図　遺構内出土遺物（16）土製品　I～III区
第88図　遺構内出土遺物（17）石器（1）I区
第89図　遺構内出土遺物（18）石器（2）I区
第90図　遺構内出土遺物（19）石器（3）I区
第91図　遺構内出土遺物（20）石器（4）I区
第92図　遺構内出土遺物（21）石器（5）II区
第93図　遺構内出土遺物（22）石器（6）II区
第94図　遺構内出土遺物（23）石器（7）II区
第95図　遺構内出土遺物（24）石器（8）II・III区
第96図　遺構外出土遺物（1）土器
第97図　遺構外出土遺物（2）土製品（1）
第98図　遺構外出土遺物（3）土製品（2）・石器（1）
第99図　遺構外出土遺物（4）石器（2）
第100図　遺構外出土遺物（5）石器（3）
第101図　遺構外出土遺物（6）石器（4）
第102図　遺構外出土遺物（7）石器（5）
第103図　遺構外出土遺物（8）石器（6）
第104図　遺構外出土遺物（9）石器（7）
第105図　遺構外出土遺物（10）石器（8）
第106図　遺構外出土遺物（11）石器（9）
第107図　遺構外出土遺物（12）石器（10）

第１章　はじめに

第１節　発掘調査に至るまで

琴丘町は秋田県の沿岸北部に位置し、かつて日本第２の広さを有した八郎潟残存湖の東部に隣接している。

今回、秋田県農政部により町内における圃場整備事業（琴丘北地区・琴丘南地区）が計画された。これは農業の近代化すなわち大規模経営を目指したもので、農地の大区画整理とともに農道・用排水路網の整備を進め、農地の集団化により農家経済の安定向上を目指したものである。

本事業の計画地域内には埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、県農政部は文化財保護法に基づきこの事実確認と今後の対応について秋田県教育委員会に調査と指導の依頼をした。秋田県教育委員会はこれを受けて平成４年度に計画地域内の遺跡分布調査を実施し、事業計画地域に係る埋蔵文化財包蔵地と推測される地区を１箇所発見し今後範囲確認調査が必要であることと、範囲確認調査の結果記録保存が必要な場合には発掘調査を実施すべきことを回答した。

その結果、平成５年度に家の下遺跡の範囲確認調査を実施し、平成６年度には家の下遺跡の発掘調査を実施することになった。

第２節　調査要項

遺跡名称　家の下遺跡　遺跡略号　３ＩＮＳ

所在地　秋田県山本郡琴丘町鹿渡字長信田家の下１－５外

調査期間　平成６年５月16日～11月25日

遺跡面積　15,000m²

調査面積　6,500m²

調査主体者　秋田県教育委員会

調査担当者　高橋　学（秋田県埋蔵文化財センター調査課学芸主事）
五十嵐一治（秋田県埋蔵文化財センター調査課学芸主事）
藤澤　昌（秋田県埋蔵文化財センター調査課学芸主事）
栗澤　光男（秋田県埋蔵文化財センター調査課文化財主任）

総務担当者　藤肥　良清（秋田県埋蔵文化財センター総務課主査）
佐藤　広文（秋田県埋蔵文化財センター総務課主任）
須田　輝樹（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事）

調査協力機関　秋田県農政部山本農林事務所
琴丘町教育委員会生涯学習課
琴丘町鹿渡土地改良区

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置と立地

琴丘町は八郎潟残存湖の東部に隣接し、出羽丘陵の北東辺に位置する（第１図）。平野部は八郎潟残存湖に沿って広がるが、極めて狭小なものであり、そのため旧来の沢すじは水田化され、地形の改変がなされていった。各所に残された堤は谷あいにあたり、それを追っていくと原地形を復元することができる。

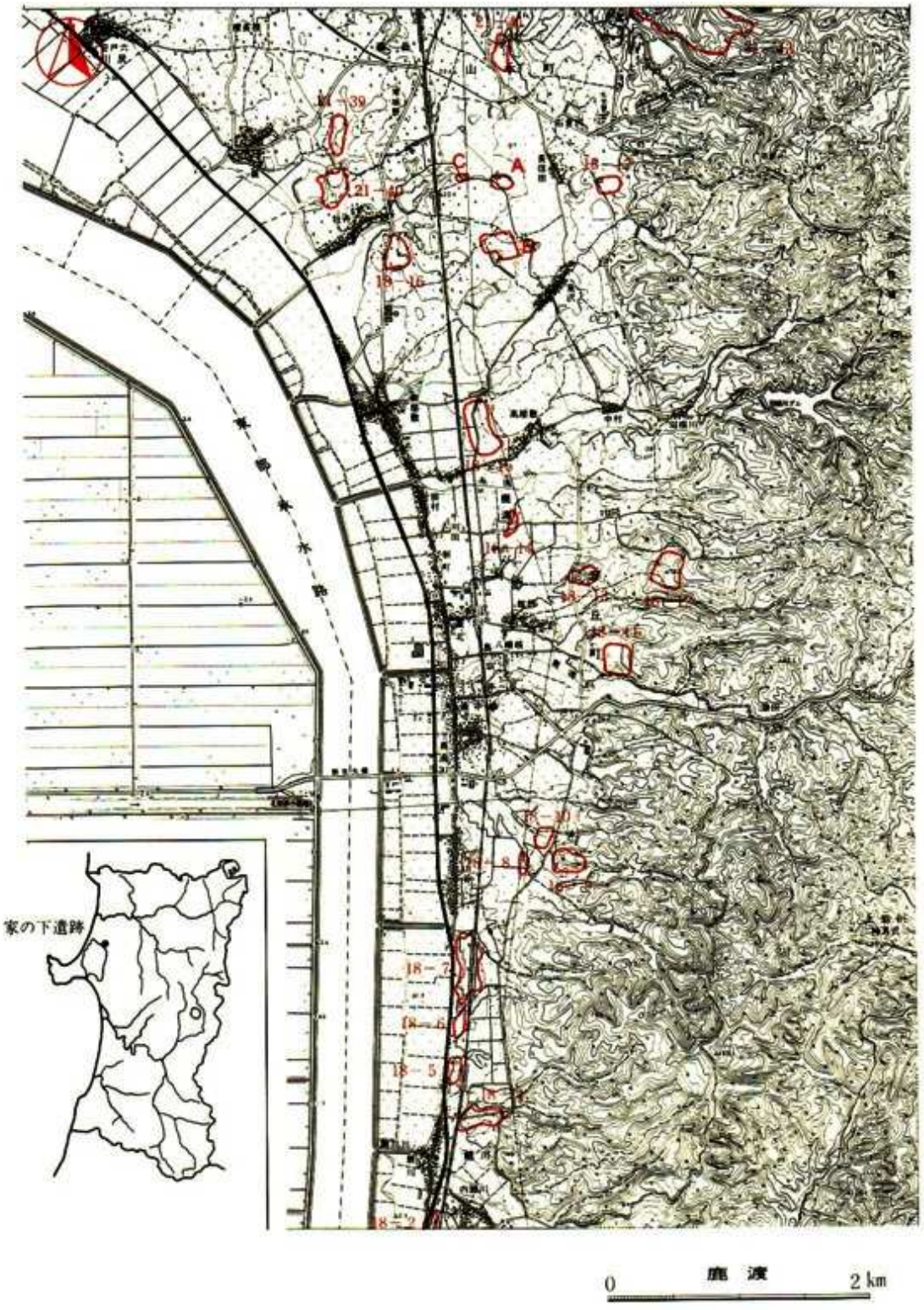
遺跡は琴丘町の長信田集落西部の、水田中に取り残された低丘陵上に位置する。現在は大規模な区画整理によりその原地形をとどめていないが、集落の人々の話や古地図によると、遺跡は小さな沢にはり出した舌状の地形であったものと推測される。遺跡の標高は23～25mであり、丘陵と現在の水田面との比高は２～３ｍである。

遺跡周辺の丘陵地を構成する段丘面は、従来から八郎潟西部に広く分布する潟西層に相当するものと考えられていた。しかし最近の研究では八郎潟東岸部における潟西層の分布および段丘構成の細分化が試みられており、家の下遺跡の立地する段丘面は降下火山灰から約13万年前に形成された下末吉相当面と考えられている。また遺跡東部の石倉山を連ねる丘陵域も古八郎潟縁辺に発達した古砂丘であることが判明している。

これら八郎潟沿岸部の段丘群は温暖な気候下における高海面期の沿岸成堆積物であることが知られている。遺跡の立地する段丘の堆積物は砂層ないし最大径６cm程度の水平層理の発達した砂礫層（基本層位Ⅴ層参照）で、その最上部２ｍほどは風化生成物による黄褐色粘土～砂混じり粘土（基本層位Ⅳ層参照）となっている。またこの層準の上部40cm程度は風化が進んでおり（Ⅳa層）、更新世末期の周氷河活動の痕跡をたどることができる。本調査における旧石器時代遺物包含層はⅢ層（地山漸移層：層厚約40cm）および前述のⅣa層であり、遺物の出土レベルの乱れ（最大75cm程度）も、周氷河活動のクリオターベーション（凍結融解作用）によるものと考えられる。

第２節　歴史的環境

八郎潟東岸～米代川流域にかけての地域は海成段丘がよく発達し、また沿岸部には北方に向かって能代砂丘が形成されている。この段丘および砂丘にある旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡を概観してみる（第１図）。



第１図　家の下遺跡と周辺遺跡の位置

旧石器時代の遺跡は、浅内台地上の能代市此掛沢II遺跡、成合台地上の山本町逆川遺跡・八竜町鴨子台遺跡、米代川河岸段丘上では能代市館下Ⅰ遺跡、二ツ井町竜毛沢館跡、および八森町土井遺跡で発掘調査が実施されている。

此掛沢II遺跡ではナイフ形石器や米ヶ森型台形石器を含むブロックが検出され、その他に石刃・石核など1,750点あまりの石器が出土した。逆川遺跡では昭和56年度に実施された範囲確認調査において石刃・石核等が出土した。館下Ⅰ遺跡では杉久保型のナイフ形石器2点が、土井遺跡では彫器が1点出土した。また竜毛沢館跡では調査区内の盛土中からナイフ形石器1点と剥片が11点出土している。鴨子台遺跡では4ブロックの遺物集中地点があり、2側縁加工のナイフ形石器をはじめ、掻器・彫器・石刃・石核・剥片などが1,000点あまりの石器が出土した。

縄文時代の遺跡は、家の下遺跡と同じ段丘面で琴丘町高石野遺跡・宝竜前遺跡・中の沢遺跡および山本町古館堤頭遺跡の発掘調査が実施されている。

高石野遺跡は縄文時代後期後葉～晩期前葉にかけての集落跡で、該期の住居跡・土坑・竪穴状遺構などが検出された。現在、遺跡範囲はＪＲ奥羽本線線路によって限られているが、踏査の結果、地形的にも同一台地である東側にさらに広がることが明らかになっている。宝竜前遺

遺跡No	遺跡名称	種別	時　代	遺構；遺物
A	家の下	集落	旧石器・縄文	本文参照
B	泉沢中台	集落	古代	掘列・土坑；土師器，鉄滓，石鏃
C	中の沢	集落	縄文	土坑・焼土遺構；縄文土器（前・後・晩），石器
18-2	中野館	館跡	中世	空堀・段築
18-4	真山野	包含地	縄文	縄文土器
18-5	陣場野	包含地	縄文	縄文土器
18-6	鯉川高石野	包含地	縄文	
18-7	高石野	包含地	縄文	住居跡・土坑；縄文土器(中・後・晩)，石器，土製品，石製品
18-8	兵ケ沢	包含地	縄文	石器
18-9	館の越館	館跡	中世	空堀
18-10	狐森	包含地	縄文	縄文土器，石器
18-11	北牛房	包含地	縄文	縄文土器
18-12	古館城跡	館跡	中世	空堀・段築・井戸
18-13	諏訪長根	包含地	縄文，古代	縄文土器，石器，須恵器
18-14	鬼沢口	包含地	縄文	縄文土器，石器
18-15	宝竜前	包含地	縄文，近世	竪穴状遺構・フラスコ状土坑・土器埋設遺構；縄文土器(中)，磨石
18 16	地蔵長根	包含地	縄文	フラスコ状土坑；縄文土器（前），石器
18-17	長倉川	包含地	縄文	石器
21-39	古館堤	包含地	縄文	縄文土器，石器
21-40	古館堤頭	包含地	縄文	竪穴状遺構・フラスコ状土坑；縄文土器(中)，石器
21-41	東堤沢	包含地	縄文	縄文土器，石器
21-43	木戸沢館	館跡	中世	空堀

・地図および表中の遺跡Noは『秋田県遺跡地図（中央版）』による
・遺跡Noは、"18-"が琴丘町内、"21-"が山本町内の遺跡を示す

跡では縄文時代中期のフラスコ状土坑群が検出された。中の沢遺跡では土坑・フラスコ状土坑が検出され、縄文時代中期後半から後期初頭の遺物が出土した。

古館堤頭遺跡は八郎潟残存湖により近く、標高は約23mである。竪穴状遺構およびフラスコ状土坑が検出され、縄文時代中期～後期の遺物が出土した。検出したフラスコ状土坑の周囲には柱穴様ピットが巡るものがあり、その上部構造に関する復元が試みられた。

古館堤頭遺跡から南東に約1㎞、家の下遺跡から南西に約1.5㎞離れて立地する地蔵長根遺跡は家の下遺跡と同じ段丘面に立地する。現在は牡丹集落の児童公園がその一角を占めているが、公園造成工事の際に多量の遺物出土があったことが集落の人々の話から確認できた。また公園に隣接した部分に大きく土取りされた部分があり、その削平面には30基を超えるフラスコ状土坑が確認できる（11頁下写真参照）。

参考文献

白石建雄ほか「秋田県北部日本海沿岸地帯の段丘群」『秋田大学教育学部研究紀要（自然科学）』27　1977（昭和52年）
秋田第四紀研究グループ米代川班「秋田県能代平野から藤里地域にかけての段丘群について」『秋田地学』27　1977（昭和52年）
内藤博夫「秋田県能代平野の段丘地形」『第四紀研究』16(2)　1977（昭和52年）
藤本幸雄・鴻西層団体研究グループ「秋田県北部沿岸地帯の古砂丘について」『日本地質学会第93年学術大会講演要旨』日本地質学会　1986（昭和61年）
大沢穠ほか『森岳地域の地質』地域地質研究報告（5万分の1図幅）　1985（昭和60年）
郷土と科学編集委員会『北海道5万年史』1980（昭和55年）
小疇尚『山を読む』自然景観の読み方3　1991（平成3年）
秋田県教育委員会『此掛沢II・上の山II遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第114集　1984（昭和59年）
秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第93集　1982（昭和57年）
秋田県教育委員会『館下I遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第62集　1979（昭和54年）
秋田県教育委員会『上井遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第111集　1984（昭和59年）
秋田県教育委員会『竜毛沢館跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第188集　1990（平成2年）
秋田県教育委員会『一般国道7号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書III－鵜子台遺跡・八幡台遺跡－』秋田県文化財調査報告書第230集　1992（平成4年）
琴丘町教育委員会『高石野遺跡発掘調査概報』1983（昭和58年）
琴丘町教育委員会『宝竜前遺跡緊急発掘調査報告書』1978（昭和53年）
山本町教育委員会『古館堤頭遺跡発掘調査報告書』1977（昭和52年）

第３章　調査の概要

第１節　遺跡の概観

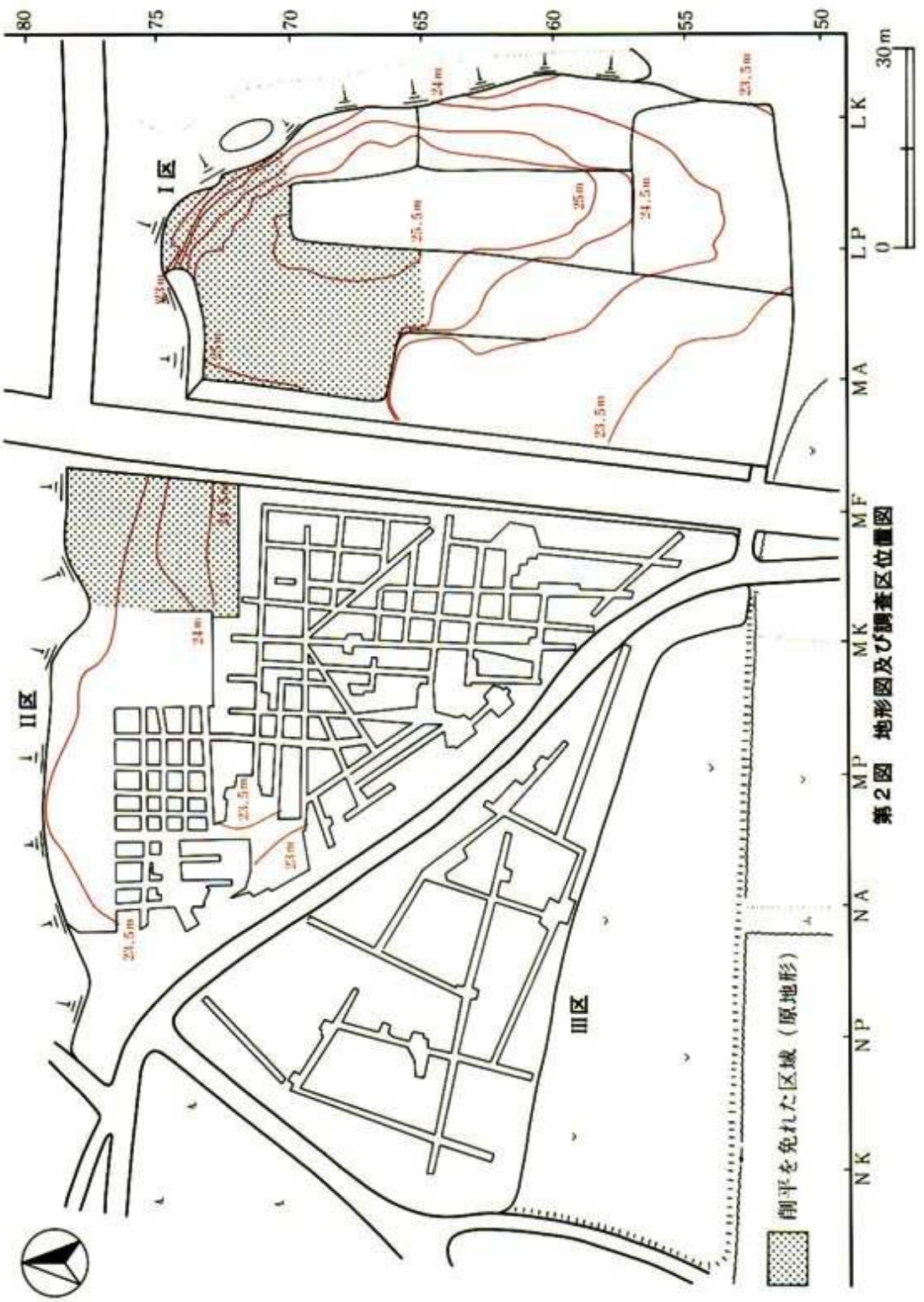
家の下遺跡の調査区は調査区中央を走る農免農道により東西に大きく二分されている（第２図）。元来はひとつの低丘陵状の地形を呈していたもので、農道東側をＩ区、また農道西側の北部をII区、農道西側の南部をIII区とした（第２図参照）。調査はIII区→II区→Ｉ区の順で進めた。

III区は松林となっていた部分で倒木痕が多くみられ、他地区に比べて遺構密度も低い。II区は牧草地および畑地として利用されていたが、元来は田地として開かれたものである。一角に小さな祠があり、その周辺のみが辛うじて開田による削平を免れ原地形を残していた。II区の北辺は旧来の沢すじに面する部分でもあり、遺構数は多いものの、開田の際の削平により遺構の大多数は底部付近の数十cmしか残存していない。Ｉ区でも開田による削平は広い範囲におよぶが、北部はほぼ原地形を残していた。沢に張り出した舌状地形の先端にあたるこの部分からは、100を超える遺構が複雑に重複した状態で検出された（第６図参照）。またＩ区北部の上部平坦面（約700m²）からは旧石器時代の遺物が15,000点あまり出土し、複数の遺物集中部分が認められた（第３図参照）。

第２節　調査の方法

発掘調査はグリッド法を採用した。調査区の設定方法は、調査区内の任意の１点（工事用杭ＢＭ２－８）を選定し、これを原点（MA50）とした。この原点から磁北方向に基準線を設定し、この基準線に直交する４ｍ×４ｍのグリッドを設定した。また５箇所の杭を水準測量してレベル原点とした。グリッド杭には東から西に向かって東西方向を示す…ＬＳ・ＬＴ・ＭＡ・ＭＢ…というアルファベットと、南から北に向かって南北方向を示す…48・49・50・51…の２桁の数字を組み合わせた記号を記入し、４ｍ×４ｍの方眼杭の南東端をグリッドの名称とした。

遺構外出土遺物は、基本的に出土グリッド・出土層位・出土年月日を記入したラベルとともに取り上げた。縄文時代遺物包含層（II層）以下の出土遺物については、さらにグリッド内における東→西（Ｘ）・南→北（Ｙ）・標高（Ｚ）を計測した。遺構内出土遺物は出土遺構名・出土層位・遺物番号・出土年月日を記入したラベルとともに取り上げた。基本的に竪穴住居跡は十字に土層観察用のベルトを残し、４分割して精査した。土坑は長軸に沿って２分割して精



第2図　地形図及び調査区位置図

査した。調査の記録は主に図面と写真によった。図面は基本的には１／２０の縮尺で平・断面図を作図した。写真撮影は35㎜のモノクロとリバーサルフィルムを使用した。

室内における整理では、遺構は現場で作図した平・断面図より第２原図を作成し、これをトレースした。遺物は洗浄・註記の後に実測図・拓影図の作成、写真撮影を行った。

第３節　発掘調査の経過

家の下遺跡の発掘調査開始に前後して、農免農道西側での区画整理工事も着手された。工事が進捗するにしたがい、農道の西側部分にまで遺跡範囲がひろがることが判明した。文化課と協議の結果、遺跡の立地する低丘陵部分全域を調査対象区域とし、工事区域内にまたがる農道西側の区域（II区およびIII区）から優先して調査を進めることとなった。

また家の下遺跡から西および南にそれぞれ300mほど離れた工事区域内においても新たに２箇所の遺跡（中の沢遺跡、泉沢中台遺跡）を発見し、文化課と協議の結果、遺跡部分への工事着手に先立って両遺跡の発掘調査を実施することになった。

５月16日　本日より調査を開始する。発電機とベルトコンベアとの配線工事を実施。センターより発掘機材到着。

５月19日　前年度実施した範囲確認調査時の排土除去を実施。調査区北西部より粗掘を実施。

５月23日　粗掘終了箇所からジョレンがけを実施。瞬く間に大量の遺物を検出。大部分が石器・剥片である。

５月30日　LM57グリッドで魚化石の含まれた頁岩原石が出土（図版22右下参照）。

６月６日　調査区北部、削平を免れていた上部平坦面で土偶の肩部が出土。

６月16日　調査区西側の松林（3,500m²）および牧草地（5,000m²）につい試掘トレンチ調査を実施（～17日）。

６月20日　文化課と打ち合わせの結果、急遽本来の調査区についての発掘を調査を中断し、現在工事が進んでいる西側部分（松林・牧草地）についての調査を優先して実施することになった。また家の下遺跡から南方に約300m離れて立地する泉沢中台遺跡の本年度工事部分についても調査を実施することになった。

６月22日　県立五城目高校教諭栗山知士氏来跡。遺跡周辺の古地形・地質等について有意義な教示を受ける。

６月27日　調査区西側の松林内のトレンチ調査を開始（～７月11日）。また家の下遺跡から西方に約300m離れて立地する中の沢遺跡を発見。本日より重機による家の下遺跡の盛土除去を

開始する。

7月11日　家の下遺跡西側の松林部分の調査終了。牧草地部分より土偶出土。また中の沢遺跡も本日より調査を開始。

7月29日　調査区西側の牧草地部分について調査終了。

8月1日　かねてから要請のあった泉沢中台遺跡について、区画整理工事との関係から繰り上げて調査を実施することになり、家の下遺跡の調査を一時中断する。

8月18日　2ヵ月ぶりに本来の調査区（農道東側）での調査を再開。65ライン以北の上部平坦面はⅢ層以下の保存が良好、旧石器時代遺物も散見される。

8月25日　調査区東端部にて鉄滓が多数出土。55ライン以南の地形測量終了。

8月29日　65ライン以南の遺構確認面までの掘り下げ終了。引き続き遺構精査と、65ライン以北の遺構確認に入る。

9月2日　調査区北東部の遺構確認と並行し、遺構の精査に入る。LM69グリッド付近は10以上の遺構（フラスコ状土坑）が密集している。

9月6日　地山の黄褐色粘土（Ⅳ層）下の基盤砂層（Ⅴ層）まで掘りこんでいる遺構を検出。遺構によっては砂質シルトにより貼床しているものもある。またⅣ層地山面で掘りあげた地山土を用いて人為的に埋め戻された遺構があり、遺構確認が困難であった。

9月9日　調査区北東端で土偶の頭部・足出土。北東端部は捨場と推測される。

9月12日　土坑が遺棄されてある程度埋まったのち、貼床を施して石を配し、屋外炉として再利用しているもの（SKF33A・SKF34A・SKF41A）を検出。

9月14日　SKF28埋土中より旧石器時代遺物と思われる剥片が出土。この周囲が旧石器時代遺物包含範囲と考えられる。

9月21日　調査区北東端の遺構集中部分がさらに広がるため、さらに北東方向へ表土（盛土）除去を進める。すぐ下の田地では稲刈りが行なわれているため、作業進行に十分な注意が必要である。

9月26日　北東端（LM71～73グリッド）から続々と遺構を確認。Ⅳ層地山は希薄となり、Ⅴ層地山を直接掘りこんでいる。

9月27日　埋没した遺構を再利用した屋外炉のうち、SN34B・SN41Bは石囲炉の中に埋設土器を検出する。

10月5日　LT・MA67～69グリッドのⅢ層を掘り下げたところ、旧石器と思われる遺物が多量に出土する。

10月10日　本日より縄文時代の遺構精査と並行して調査区北部の上部平坦面において旧石器時代の調査を開始、平坦部は約700m²である。旧石器時代遺物包含範囲の広がりを調査するため

グリッドを設定したが、ほぼまんべんなく多量の遺物が出土している。

10月12日　遺構の壁面や深掘グリッドで確認したところ、旧石器時代遺物の出土範囲はⅢ層から50cm程度の深さまでのようである。

10月18日　旧石器時代遺物の出土範囲南限はほぼ６５ラインまでで、地山の削平範囲と一致する。

10月21日　旧石器遺物出土範囲はほぼ平坦部全域の700m²におよび、４～６程度のブロックに分れるようである。２週間で約2500点の旧石器遺物を確認している。

10月28日　本日にて縄文時代遺構の精査終了。引き続き全員で旧石器時代の調査へととりかかる。

11月１日　本日より狩猟解禁。遺跡周辺に堤が散在するため、頻繁に銃声が鳴り響く。狩猟者も移動途中で調査を眺めている。通勤時の注意を促す。旧石器時代遺物の出土数は5,000点を超える。

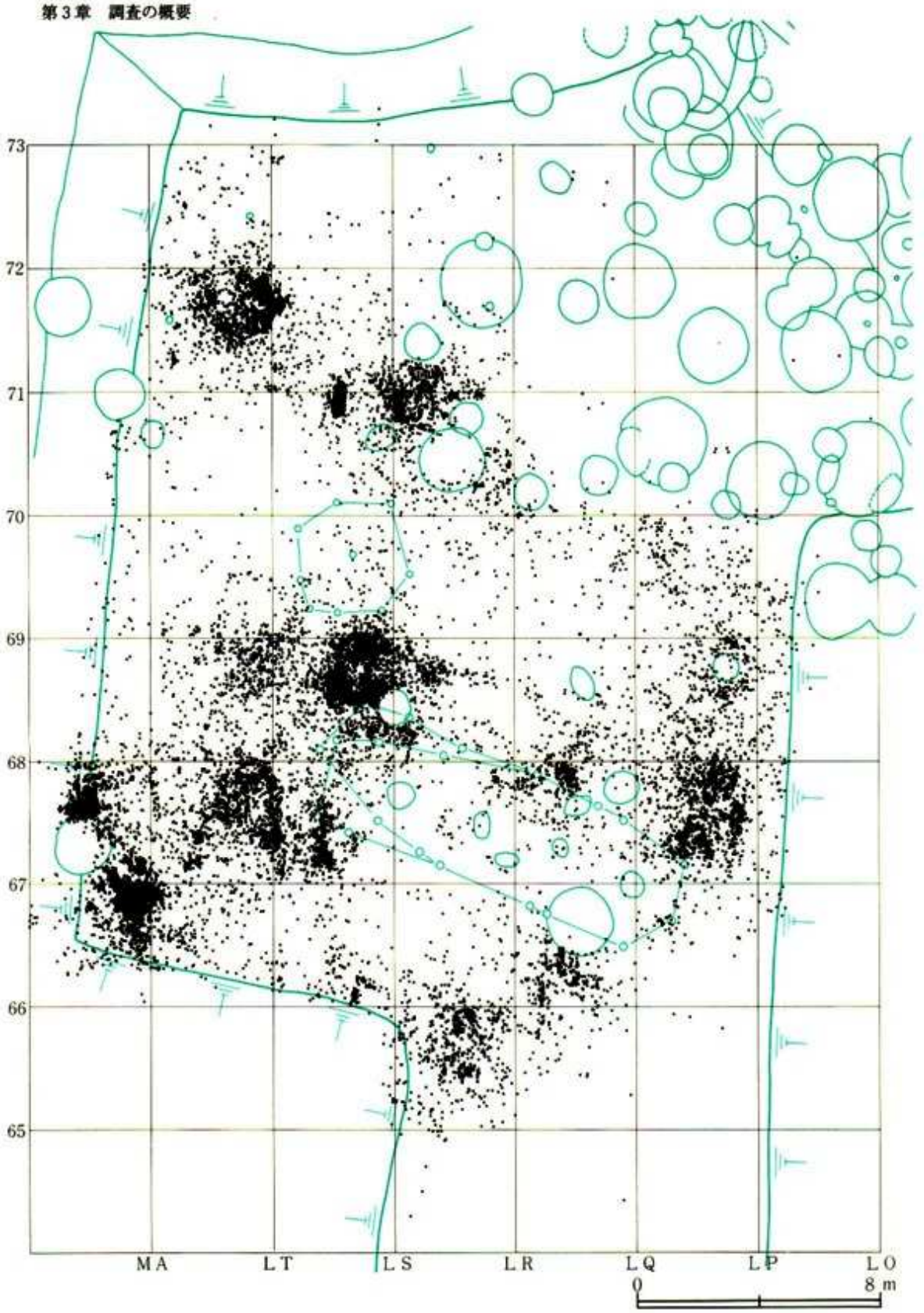
11月２日　掘下げがⅣa層に達したころから、白い固めの土（Ⅳa'層）が散見されるようになってきた。これらは分布にうねりを持つことが断面から観察され、同時に遺物もその付近に集中しているようである。インボリューションなどの周氷河活動と思われる。

11月14日　初雪を観測。吹雪が舞う中、出土した旧石器時代遺物は10,000点を超える。

11月17日　MA66グリッド北東端の部分（１m四方）では、10cm掘り下げるうちに300点以上の遺物を取り上げた。フレーク・チップが多いが、ナイフ形石器・米ヶ森型台形石器・石刃なども出土する。

11月25日　本日をもって旧石器時代の遺物包含層精査を終了し、家の下遺跡発掘調査の全ての工程を終了した。到達した深度は50cm強、もっとも遺物の集中した部分では75cmに達した。取り上げた旧石器時代遺物の点数は14,475点にのぼるが、縄文時代の遺構内（壁面）から出土したものやⅢ層（漸移層）上部から出土したものも含めると、15,000点以上にのぼると思われる。

露頭に見えるフラスコ状土坑（地蔵長根遺跡）



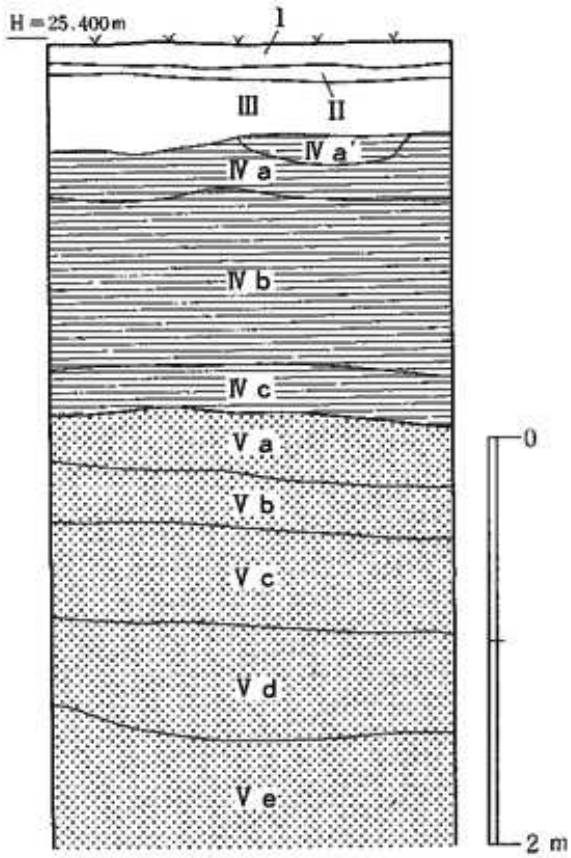
第３図　旧石器時代遺物平面分布図　Ⅰ区北西部

第4章　調査の記録

第1節　遺跡の基本土層

遺跡の立地する段丘は砂層ないし最大径6cm程度の水平層理の発達した砂礫層で構成され、その最上部2mほどは風化生成物による黄褐色粘土～砂混じり粘土となっている。これらはそれぞれ本遺跡における基本層序のⅣ層・Ⅴ層（地山Ⅳ層・地山Ⅴ層）に相当する。

調査区の大部分は開田時に大きく削平され、元地形を留めていたのはⅠ区の北部（主たる旧石器時代遺物出土区）およびⅡ区の一部（祠があった部分）のみであった（第2図参照）。表土下のⅡ層は10～15cm程度の層厚を呈する縄文時代の遺物包含層である。一部では後世の攪乱を受け、旧石器時代遺物も散見される。Ⅲ層は層厚30～40cm程度の漸移層であり、縄文時代遺構の確認面でもある。Ⅲ層以下の地山面（Ⅳ層・Ⅴ層）で確認された遺構も、本来的にはこの層位から掘りこまれた可能性が高いと考えられる。Ⅳ層は地山の黄褐色粘土層である。層厚は最大150cm以上にもおよぶが、旧来の沢すじへの斜面部（Ⅰ区北東部）では極めて薄くなり、消滅する。Ⅳ層上部は風化が進み、粘土がブロック化している（Ⅳa層）。旧石器時代遺物はⅢ層およびⅣa層から出土する。またⅣa層中において白みがかった上層のちぎれ・うねりが観察され（Ⅳa'層）、旧石器遺物の集中する傾向が見られた。Ⅴ層は段丘の基盤である砂層である。上部はラミナのよく発達した細粒砂層であるが、層厚100cmを超える下部では固結し、一部は砂岩化するようになる（第4図）。



第4図　基本土層図

本遺跡の基本層序は次のとおりである。層序・層厚はＬＳ73グリッドの断面を基準とした。

Ⅰ　層　黒褐色シルト（10YR2/3）地山粘土中粒中量含む；耕作土
Ⅱ　層　黒褐色シルト（10YR2/3）地山粘土小粒中量、炭小粒少量含む
Ⅲ　層　暗褐色シルト（10YR3/4）地山粘土大粒中量、炭小粒少量含む；地山漸移層
Ⅳa 層　黄褐色粘土（10YR5/6）粒径15㎜程度に風化、固くしまる
Ⅳa'層　Ⅳa層に細粒白色土を中量含み、極めて固くしまる
Ⅳb 層　黄褐色粘土（10YR5/6）やや粘性あり、固くしまる
Ⅳc 層　明黄褐色砂質粘土（2.5Y6/8）Ⅴ層砂を少量含む、よくしまる
Ⅴa 層　明黄褐色粘土質砂（2.5Y6/6）Ⅳ層粘土を少量含む、固くしまる
Ⅴb 層　にぶい黄色細粒砂（2.5Y6/4）固くしまる
Ⅴc 層　灰オリーブ色細粒砂（5Y5/2）ラミナ発達、固くしまる
Ⅴd 層　灰オリーブ色細粒砂（5Y5/3）固くしまる
Ⅴe 層　浅黄色中粒砂（5Y7/3）一部砂岩化、極めて固くしまる

第2節　検出遺構と出土遺物

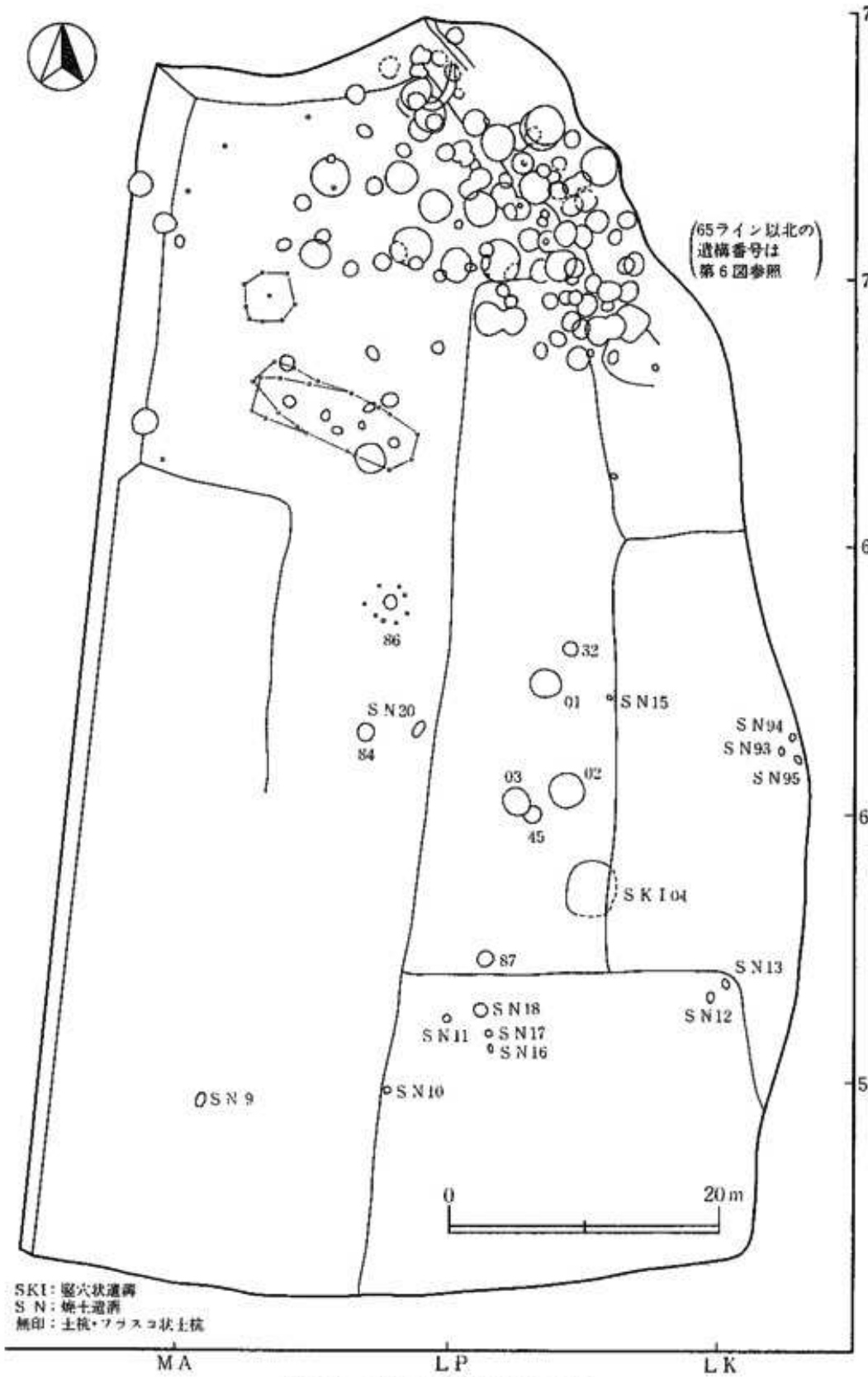
家の下遺跡で検出した遺構は、竪穴住居跡4軒、竪穴状遺構3基、土坑63基、フラスコ状土坑120基、土器埋設遺構8基、石囲炉3基、焼土遺構48基、溝状遺構2条の251を数える。各遺構の構築時期は、遺物の出土がなく不明確なものもあるが、概ね縄文時代中期中葉から晩期中葉までであり、主体は中期後葉から後期前葉と推定される。遺構の分布は、Ⅰ区北東部（緩斜面部）とⅡ区北部、すなわち台地北～北東端部に集中する。逆に台地中央～南部のⅠ・Ⅱ区南側とⅢ区は疎らである。

1．竪穴住居跡

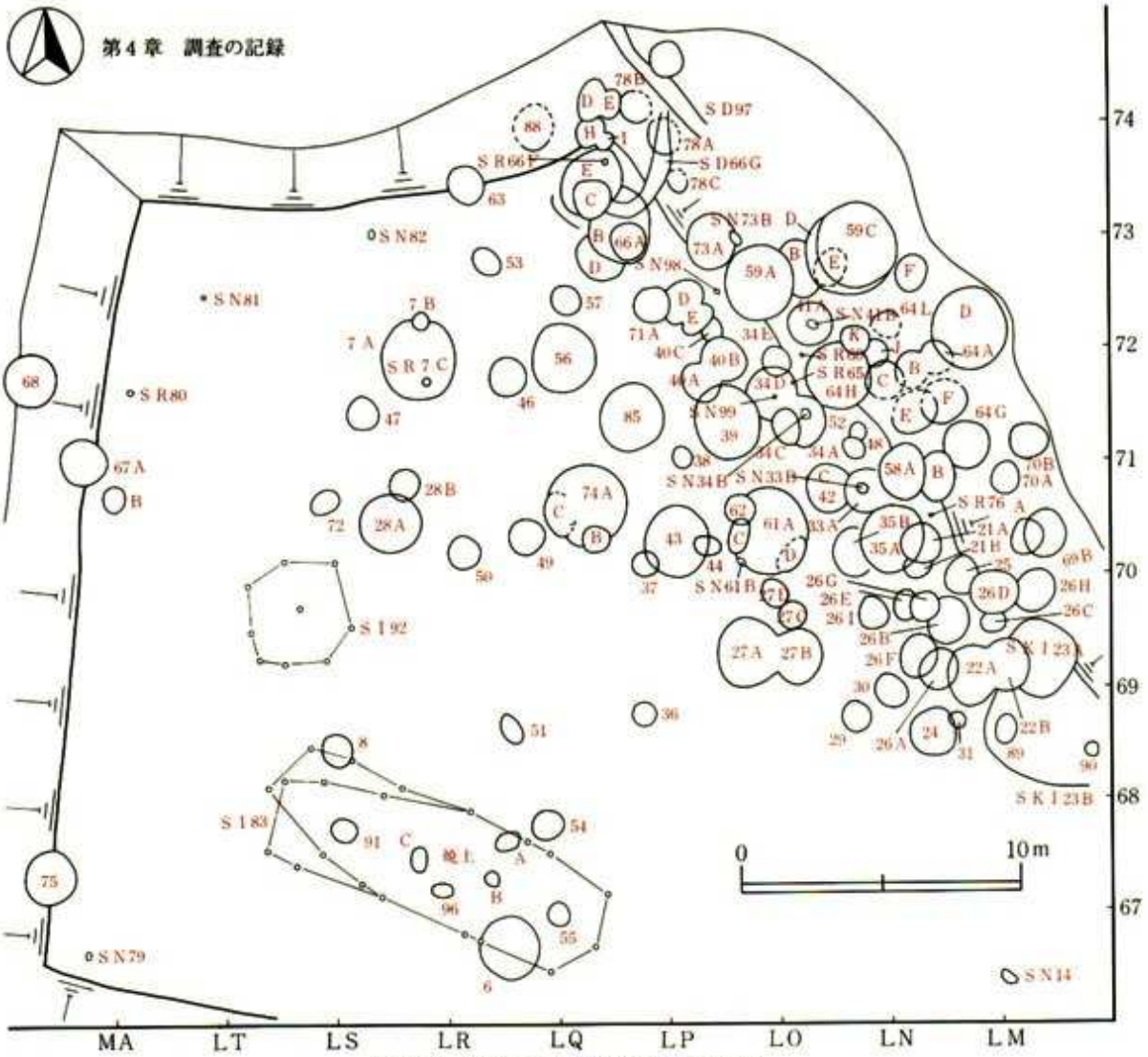
竪穴住居跡は、Ⅰ区で2軒、Ⅱ区で2軒検出した。Ⅰ区の2軒は、住居の周壁を確認できず、柱穴や炉の配置から判断した。遺構の確認面は、Ⅱ区ＳＩ273が第Ⅲ層地山漸移層である以外は、削平された地山面である。出土遺物から導き出される時期は、ＳＩ83が中期中葉、ＳＩ219・273が中期後葉、ＳＩ92が後期前葉である。

ＳＩ83住居跡（第9・10図）

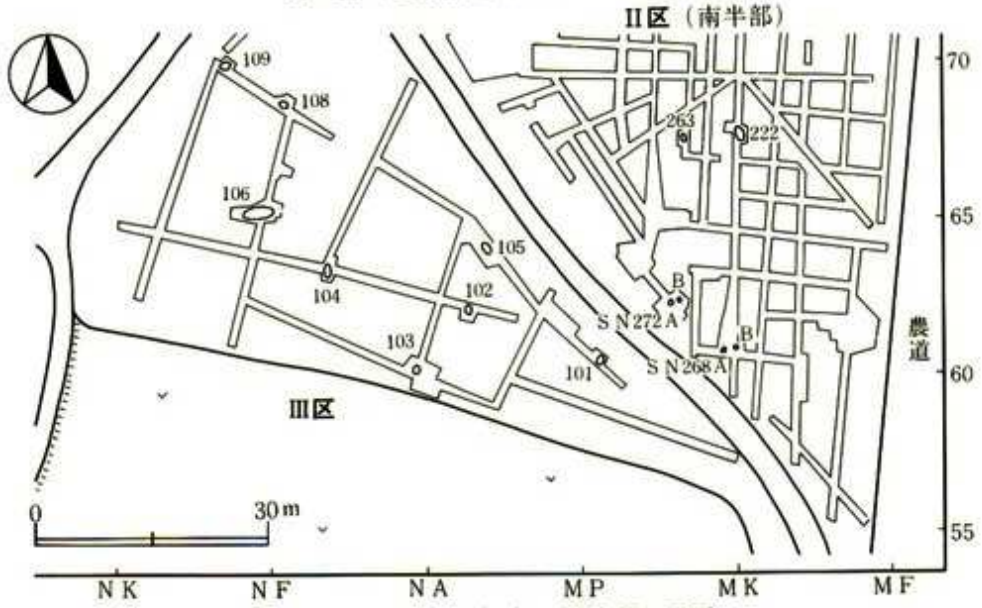
Ⅰ区ＬＱ・Ｒ66・67グリッド周辺で確認した。径25～45cmの円形を呈する柱穴状ピット（Ｐ1～21）が楕円状に巡り、内部に地床炉と考えられる焼土が分布することから住居跡とした。規模は、柱穴間の距離で長軸約13m、短軸約4ｍの大型住居となるようであり、柱穴配置から



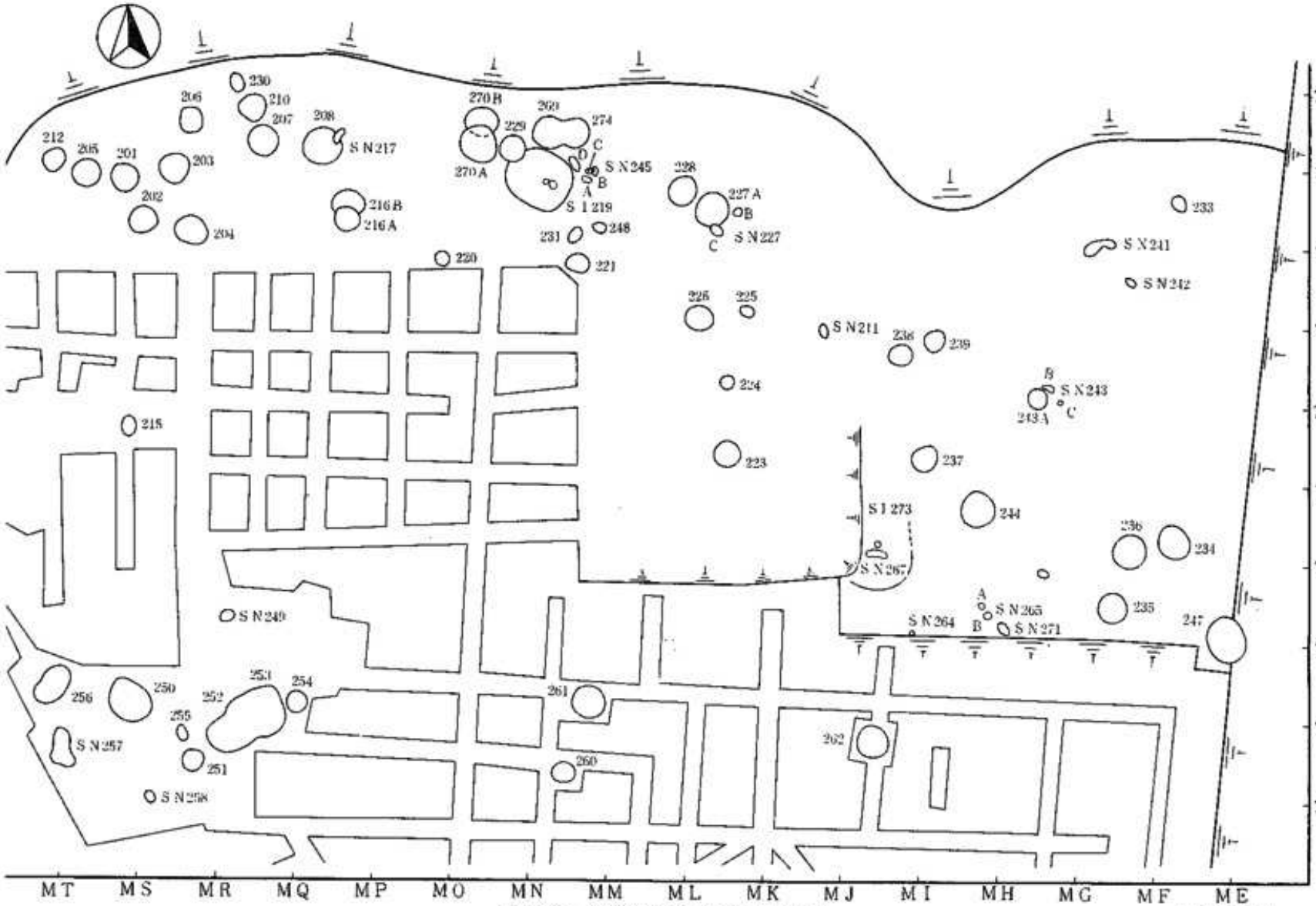
第5図　遺構配置図（1）I区



第6図　遺構配置図（2）I区北部

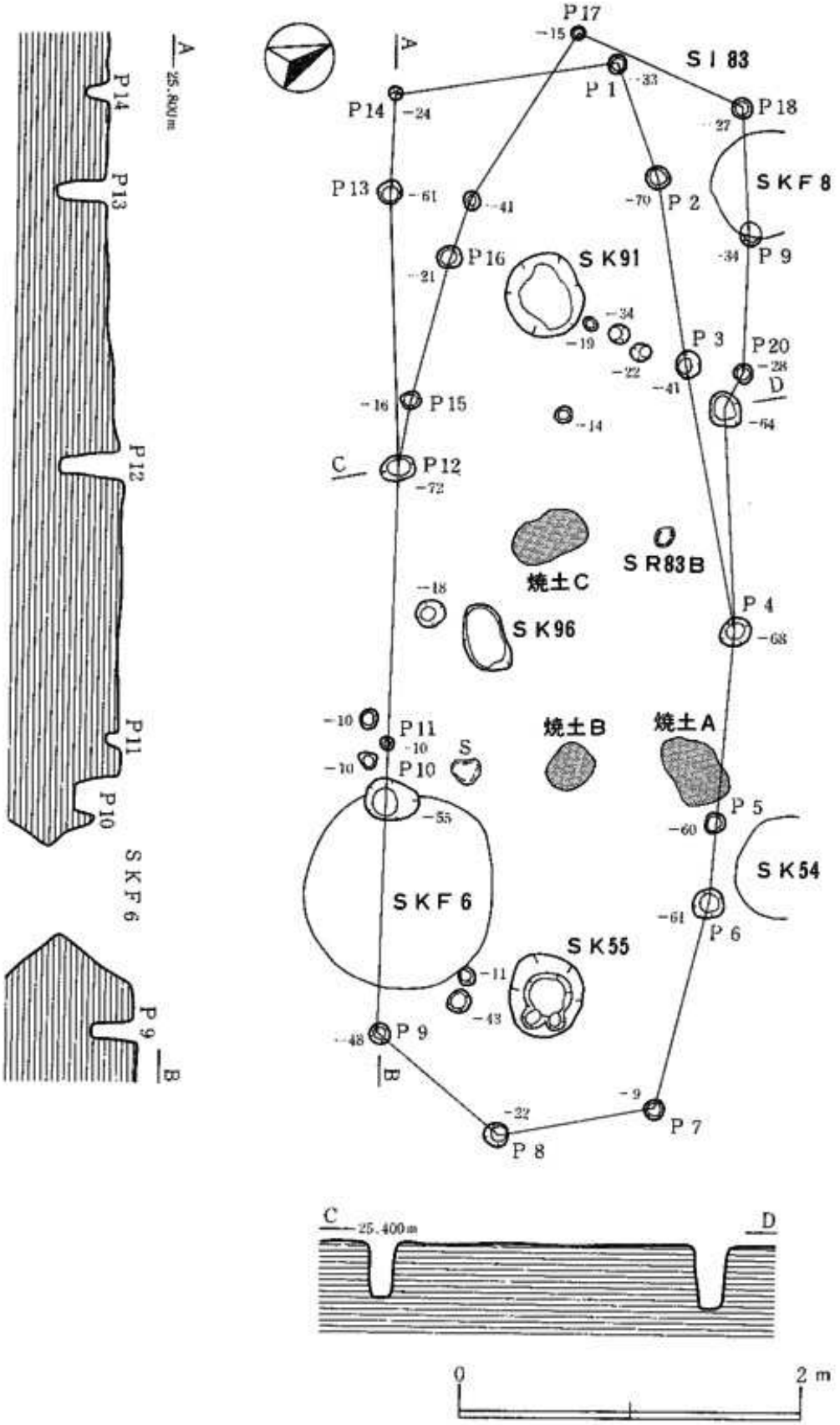


第7図　遺構配置図（3）II区南部、III区

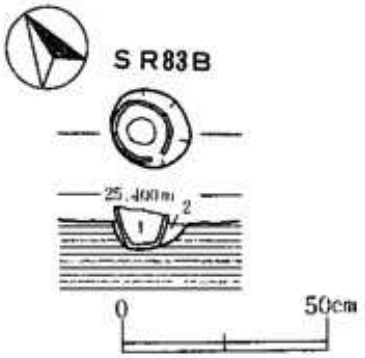


第8図　遺構配置図（4）II区北部

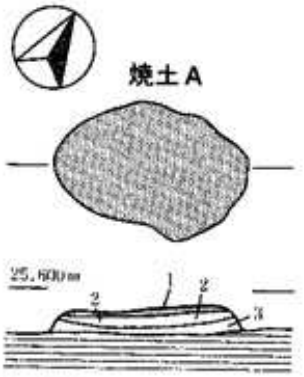
1目盛が4 m

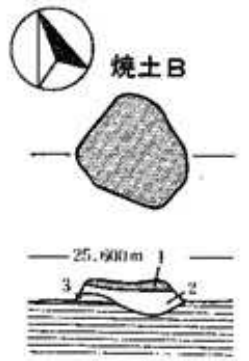

A
25.800m
P14
P13
P12
P11
P10
SKF6
P9
B
P17
-15
SI83
P1
-33
P14
-24
P18
-27
SKF8
P13
-61
-41
-70
P2
P16
-21
SK91
-34
P9
-34
-19
-22
P3
P20
-28
-41
D
-16
P15
-14
-64
C
P12
-72
SR83B
焼土C
-18
SK96
P4
-68
-10
P11
-10
-10
P10
S
焼土B
焼土A
-55
P5
-60
SK54
SKF6
-61
P6
SK55
-11
-43
-48
P9
B
-9
-22
P7
P8
C
25.400m
D
0
2m

第9図　SI83住居跡

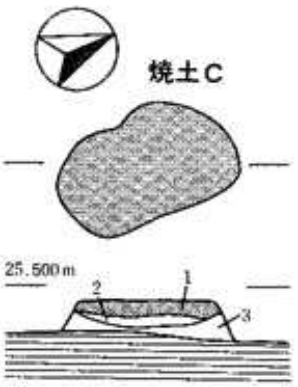


1　暗褐色　7.5YR3/3　炭化物少量含む
2　褐色　10YR4/4　炭化物少量含む

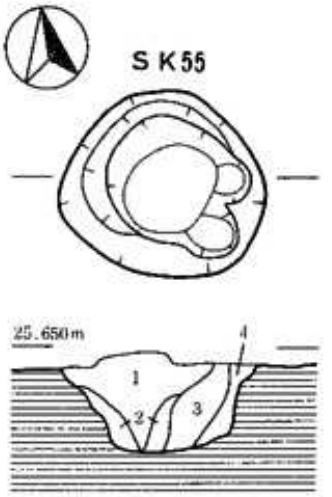




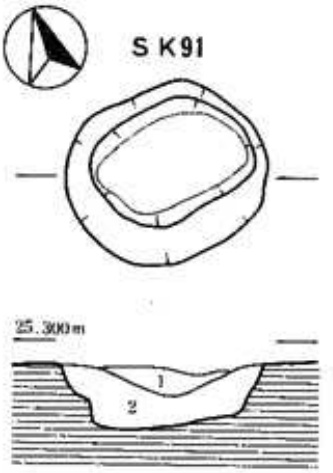
SI83焼土A・B
1　赤褐色　5YR4/8　堅く締まる　赤化固結した粘土
2　赤褐色　5YR4/6　焼土　炭化物少量含む
3　褐色　7.5YR4/6　層相当　同層上面が床面か



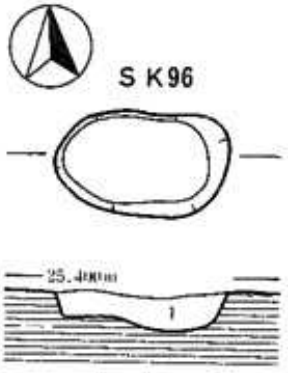
1　明赤褐色　5YR5/8　赤化固結した粘土
2　褐色　7.5YR4/4　焼土・炭化物ごく少量含む
3　褐色　7.5YR4/6　層相当　同層上面が床面か



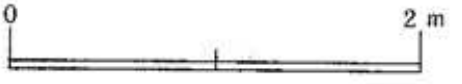
1　黒褐色　10YR3/2　炭化物多量に含む
2　暗褐色　10YR3/3　炭化物少量含む
3　褐色　10YR4/6　炭化物・焼土少量含む
4　褐色　10YR4/4



1　暗褐色　10YR3/4　地山粘土・炭化物やや多く含む
2　褐色　10YR4/6



1　黒褐色　10YR2/3　炭化物少量含む



第10図　ＳＩ83内に位置する遺構　ＳＲ83Ｂ、焼土Ａ・Ｂ・Ｃ、ＳＫ55・91・96

住居西側では一部建て替えも考えられる。長軸方向は概ね北西－南東にとる。各柱穴はその深さが20cm未満の浅いものもあるが（Ｐ７・17など）、Ｐ２・４・５・６・12・13・21は60cm以上のしっかりした掘り込みを有する。柱穴で囲まれた内側には焼土・土坑がそれぞれ３基、土器埋設遺構１基が位置する。このうち、焼土Ｂ・Ｃはその配置から住居に伴う地床炉であった可能性が高い。焼土Ｂは一辺約50cmの不整形、同Ｃは長さ90cm、幅50cm程の楕円形を示す。焼土Ａを含めた３基の遺構は、同上面が平坦で固結しており、この面が住居の床面にあたると考えられる。その他、土坑（ＳＫ55・91・96）と土器埋設遺構（ＳＲ83Ｂ）は本住居に伴うのか否かについては明らかではない。

遺物は柱穴内での出土はなく、柱穴Ｐ４から焼土Ａ・Ｃ周辺の床面相当層で縄文土器がややまとまって確認された。第72図１・２であり、これらの土器が本住居に伴うとすれば、その構築時期は中期中葉となる。

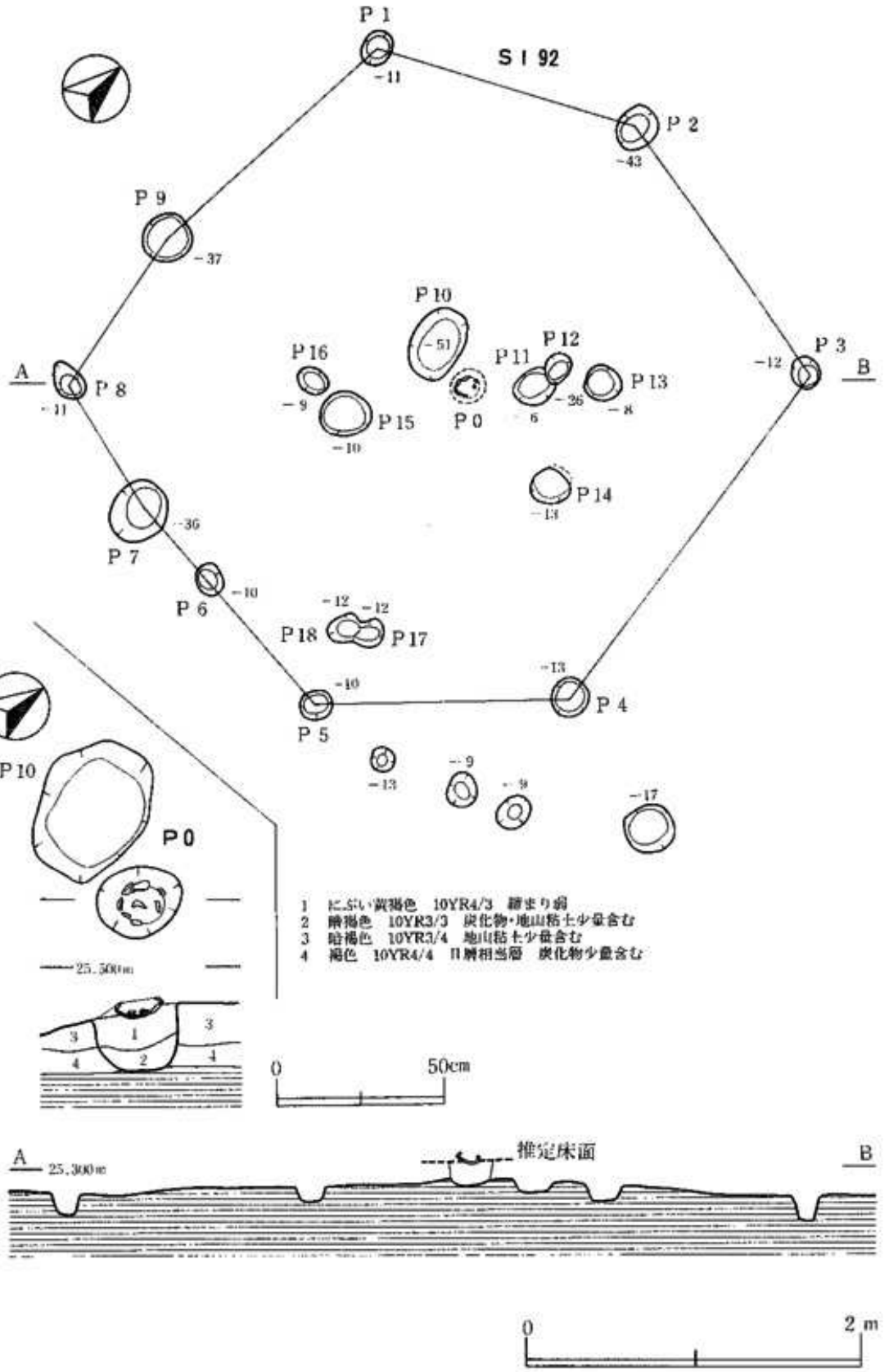
ＳＩ92住居跡（第11図）

Ⅰ区ＬＳ69グリッド周辺で確認した。ＳＩ83の北西側に位置する。径20～40cm程の柱穴状ピットが特異な土器を伴うピットを中心にほぼ円形に配置されており、住居跡とした。規模は柱穴間の距離で直径が3.6～４ｍ程である。各柱穴は確認面からの深さが10～43cmであり、平均の深さは、Ｐ１～９までで20cmとなる。中央に位置するピット（Ｐ０）は、径20～25cmの円形を呈し、深さは約20cmである。ピット確認面上には小さい土器が正立状態で検出された。土器は接合の結果、最大径12.5cmの細口の壺形土器（第72図４）となり、しかも胴上部で切断された、いわゆる切断土器であることが判明した。４は口縁部と底部は欠落し、器外面には赤色顔料が、内面には漆状の付着物が見られる。土器を埋納したピットには、焼土は含まれず、また土器自体の特異性から、一般的な住居とは一線を画すると考えられる。

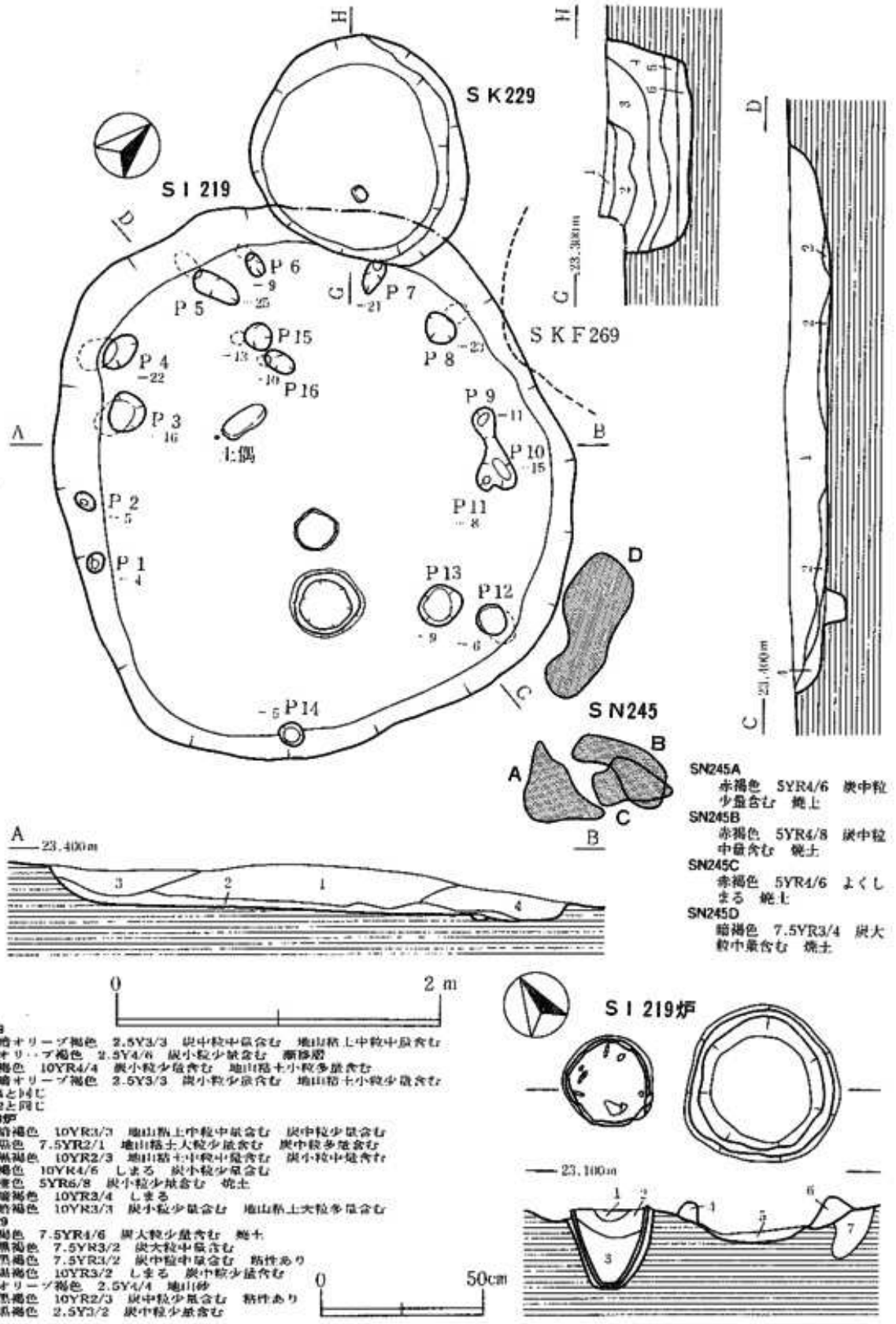
ＳＩ219竪穴住居跡（第12図）

Ⅱ区ＭＮ78グリッド周辺で確認した。ＳＫ229と重複するが、新旧は不明である。規模は東西3.4m南北2.8～3.1mの不整円形を呈する。周壁は緩く立ち上がり、その高さは25cm前後である。床面はほぼ平坦で堅く締まる。中央からやや東よりには炉が築かれる。正立させた土器を埋め込み、10cmほど離れた東側に周堤を伴う浅い土坑が掘り込まれる。両者で一対となる複式炉の形態をなす。土器は深鉢形であり、確認面での径が26cm。土坑は幅、高さとも10cm前後の粘土帯が径約35cmの円形土坑の外周に貼付けられる。粘土帯上部から坑底まで最深で15cmである。床面あるいは周壁面には径・一辺が５～30cm程の円形・楕円形の柱穴状ピットが10数本掘り込まれる。主柱穴やその配置は不明確ではあるが、床面西側に集中し、中央に向かうように斜めに掘り込まれている。

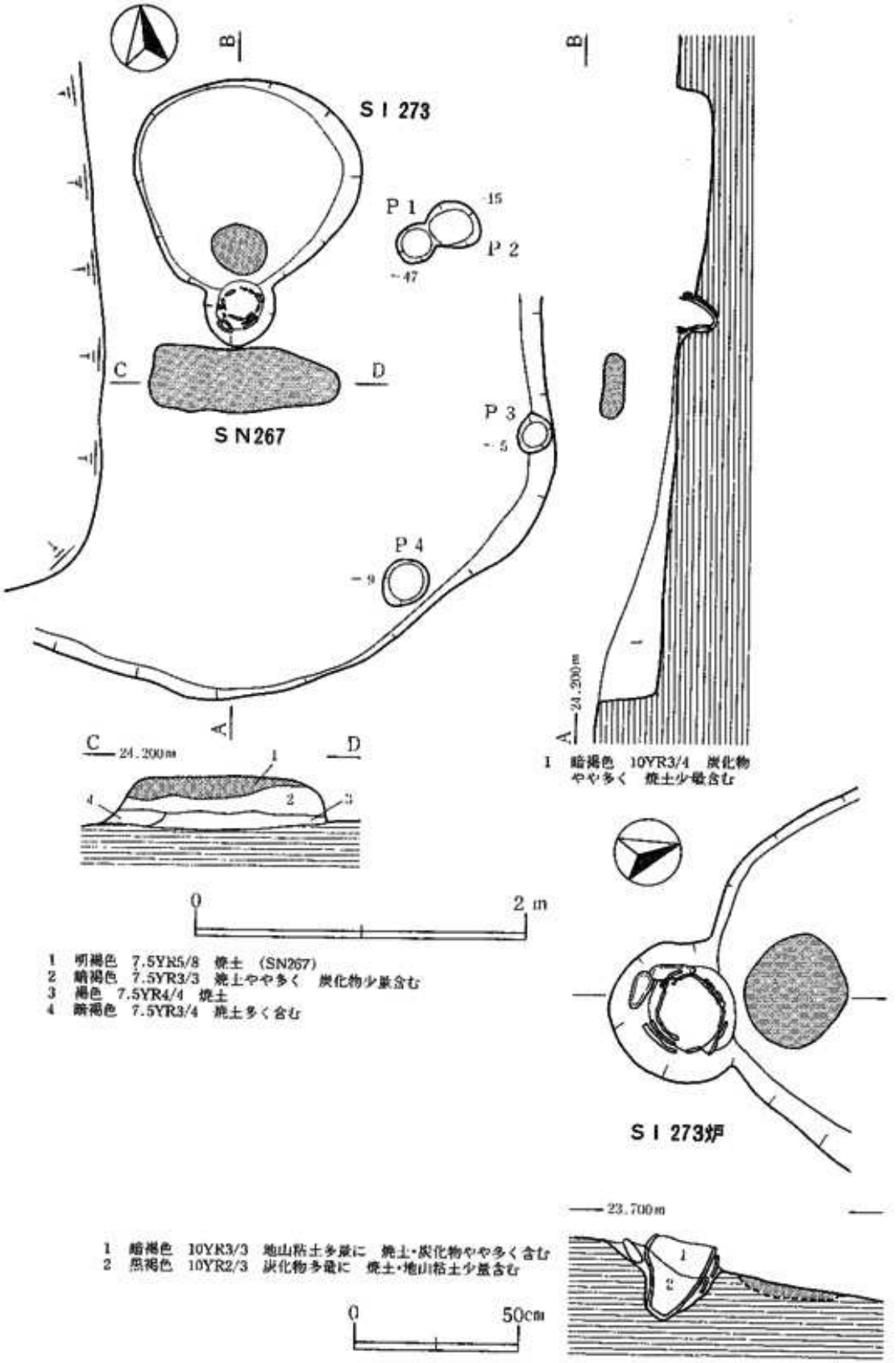
住居内の出土遺物は、炉に埋設された土器を除くと、土器類は縄文土器破片が少量と土偶が



第11図　S I 92住居跡



第12図　ＳＩ219竪穴住居跡、ＳＫ229土坑、ＳＮ245Ａ～Ｄ焼土遺構



第13図　S I 273竪穴住居跡、S N267焼土遺構

1点である。土偶（120）は、住居の中央やや南西よりの扁平な台石に隣接する位置で確認され、床面より約10cm浮いた状態で出土した。

ＳＩ273竪穴住居跡（第13図）

II区ＭＩ73グリッドで確認した。住居中央にＳＮ267焼土遺構が位置するが、これは住居が完全に埋まった後に形成されたものである。住居は東から南側の周壁の一部を検出しただけであり、壁高は南側で最高36cmである。西側の壁は水田造成の際に削平を受け確認できなかったが、北側については精査によっても検出はできなかった。残存部分から南北3.8m以上、東西3.2m以上の規模を有する。床面はほぼ平坦であり堅く締まる。床面から径約1.3～1.4m、深さ0.2mの円形土坑が掘り込まれ、南端には土器を埋設した小土坑が位置する。土器に隣接する北側の土坑底面は径30cmの範囲で焼けており、両施設で住居の炉としての機能を果たしていたと判断した。埋設土器は底部を欠落させた深鉢形土器（第73図７）を正位に納め、その周りに別個体の土器破片を突き刺すようにして並べている。この土器は接合の結果、２個体分（６・９）あることが判明した。柱穴状のピットは４個確認したが配置などは不明である。

炉に使用以外の出土遺物はごく僅かである。11の小型壺は、炉前庭の円形土坑内より得られている。また８は、住居確認面出土であり、同層中で確認したＳＮ267焼土遺構に伴う遺物かもしれない。

２．竪穴状遺構

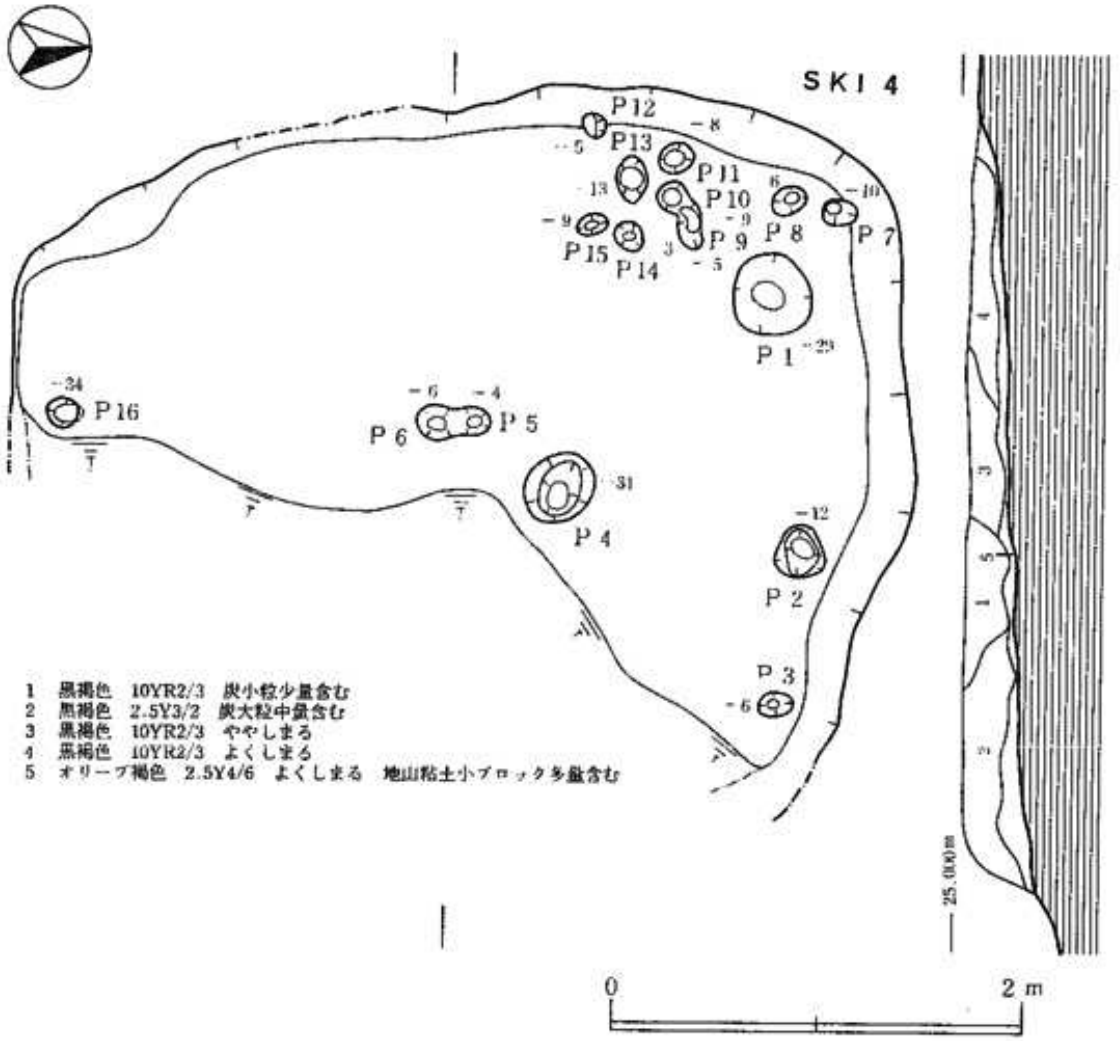
竪穴状遺構はＩ区で３基確認した。遺構は竪穴状の掘り込みと平坦な床面を有するものの、炉・焼土・柱穴等を検出できず、住居と断ずることのできなかったものをまとめた。

ＳＫＩ４（第14図）

ＬＭ58グリッドを中心とする位置で確認した。遺構の東側は開田時の削平により失われている。検出できた規模は、南北が約4.4m、東西は3.2m（以上）であり、隅丸方形を呈していたと推定される。壁高は10～30cmあり、床面はほぼ平坦であるが、全体的に東側に向かって緩く傾斜している。床面あるいは壁際に柱穴状ピットが16基認められるが、Ｐ１・４（径35～40cm、深さ30cm前後）以外は径が25cm未満で、深さもおよそ10cm未満であり、柱穴配置は明確ではない。遺構内出土の遺物は確認できなかった。

ＳＫＩ23Ａ（第22・23図）

ＬＬ69グリッドで確認した。ＳＫＦ22Ｂと重複し、これを切って構築している。規模は東西３m、南北2.7m程の略円形を呈する。確認面からの深さは20cm前後である。床面には東西1.4m、南北1.2m、深さ0.15m隅丸方形の土坑が掘り込まれており、本竪穴に伴うと判断した。その他にピット等は検出できなかった。遺物は土器の小破片が数点出土しており、後期前葉のものと思われる。



第14図　ＳＫＩ４竪穴状遺構

ＳＫＩ23Ｂ（第22図）

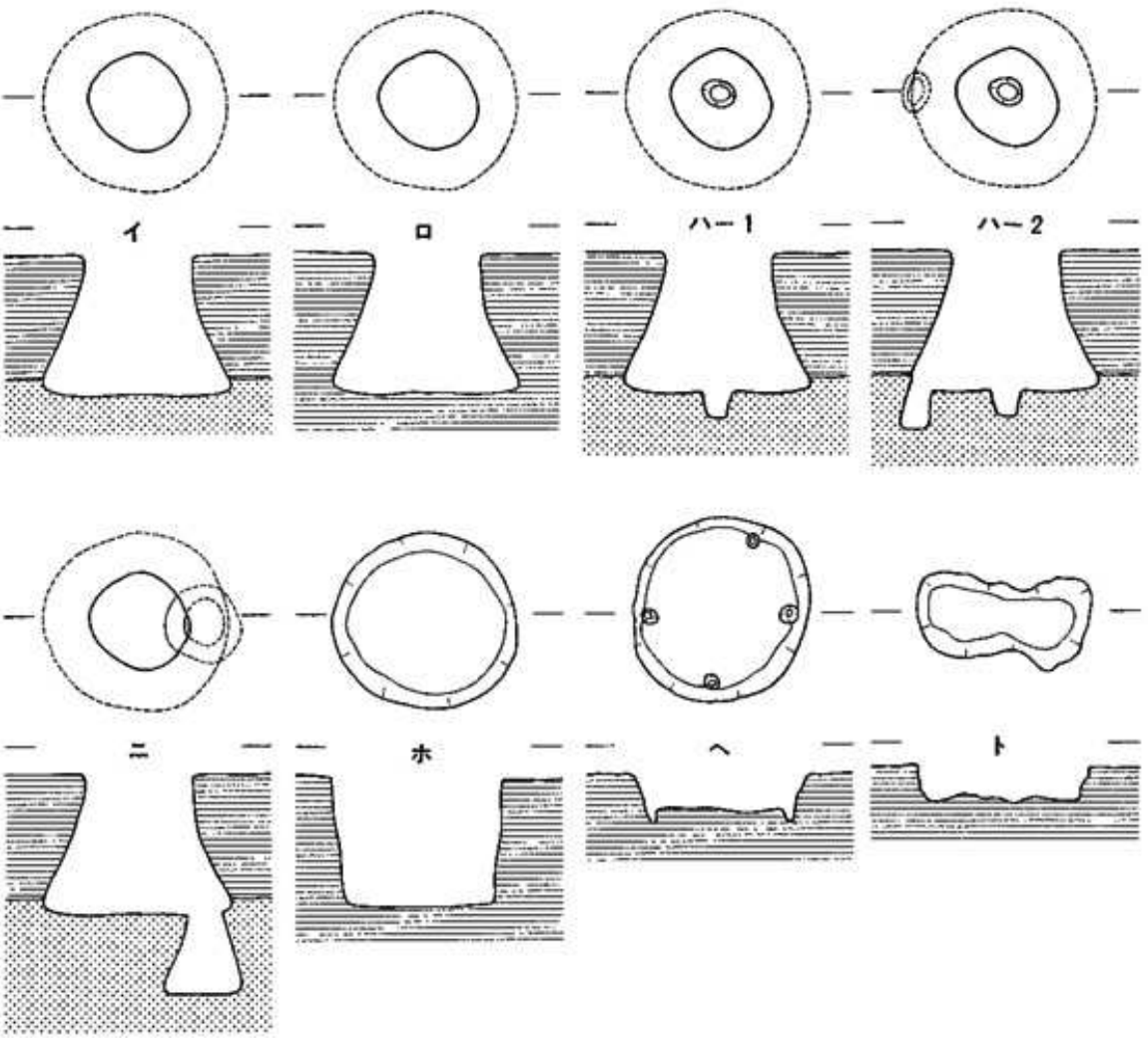
ＬＬ69グリッド、ＳＫＩ23Ａに隣接する位置で確認した。両者の重複の有無、新旧は明らかではない。またＳＫＦ22Ａ・22Ｂ・ＳＫ89・90と重複し、前２者との関係は不明であるが、後２者は本竪穴を切って構築している。規模、形態は、北側・東側で壁を確認できず不明確ではあるが、南北３ｍ以上、東西４ｍ以上の比較的大型の竪穴状の施設となる。確認面から床面までの深さは10～25cmである。その他、柱穴状ピット等は検出できなかった。また遺物の出土もない。

3．土坑・フラスコ状土坑（第16～65図）

本遺跡で確認した遺構のうち、最も検出例の多いものである。土坑63基（Ⅰ区33、Ⅱ区23、Ⅲ区7）、フラスコ状土坑120基（Ⅰ区92、Ⅱ区28）を確認した。両者の識別は、断面形態による。すなわち前者は、断面が円筒状あるいは鍋底状を呈し、基本的に口径より底径が小さいもの、後者は袋状あるいはフラスコ状を呈し、口径より底径が大きいものである。これら遺構の検出位置、規模、形態、出土遺物等については、以下に表形式でまとめる。なお分類の項には、土坑の形態、底面における柱穴状ピットの有無やその位置・配置などからイ～トに類別し、記載している。第15図に模式図を示してあるので参照いただきたい。

イ：フラスコ状の土坑であり、底面が第Ⅴ層（砂層）まで掘り込まれる類。

ロ：フラスコ状の土坑であり、底面が第Ⅳ層（粘土層）中に収まる類。イより一般に浅い傾向にある。



第15図　土坑・フラスコ状土坑分類基準模式図

ハ：フラスコ状の土坑であり、底面に柱穴状のピットが掘り込まれる類。底面は第Ⅴ層まで達する。中央に1基のピットをもつものをハ－1、中央と周壁寄りの2カ所にピットをもつものをハ－2とする。また1基のピットをもつが中央からずれて位置するものをハ－3とする。

ニ：フラスコ状の土坑であり、底面から更に土坑・フラスコ状土坑が掘り込まれる類。子持ちフラスコとでも称することができる。底面は第Ⅴ層まで達する。

ホ：円筒状の土坑であり、平面はほぼ正円形を呈する類。底面は第Ⅳ層中に収まる。シルト質土で人為的に埋められている例が多い。

ヘ：径1～1.4m程の円形あるいは略円形を呈し、壁際に小ピットが4～5基掘り込まれる類。底面は、第Ⅳ層中に収まり、土坑の掘り込みはイ～ホに比べて浅い。

ト：イ～への分類に納まらない土坑をまとめた。形態的にはヘ類型で小ピットをもたない円形土坑も存在するが、大部分は不整形で底面も平坦でない場合が多い。

チ：重複・削平などにより上記分類が不能のものを本類とした。

遺構観察表　凡例　（数字は単位cm）

挿図No.	遺構の平面・断面図の掲載挿図番号を示す
図版No.	遺構の写真図版の掲載図版番号を示す
グリッド	遺構の検出位置を示す
重複	『■→◆』は旧→新、（番号）は推定、?は新旧関係不明を示す
遺物	『-』は出土遺物が無いことを示す 『土器(時期)』は出土土器の帰属時期を示す 『土器』は出土土器が磨滅し、帰属時期が不明なものを示す ［数字］は出土遺物の実測図番号を示す
時期	遺物の出土状況から遺構の帰属時期を決定した

土坑観察表　凡例（P28～35、P72～75）

口径	『●×▲』は長径×短径、（数字）は推定値を示す
深さ	（数字）は上部が削平された土坑の深さを示す
分類	本文および第15図を参照
備考	『埋▼』は地山（Ⅳ・Ⅴ層）土を用い、確認面まで人為的に埋められた土坑を示す 『貼』は地山Ⅴ層まで掘り下げ、埋土最下層が堅いシルト質土で貼られた土坑を示す
時期	遺物の出土状況から遺構の帰属時期を決定した ?は埋土中の出土土器の帰属時期を示す 『-』は出土土器が無く、帰属時期が不明な土坑を示す

土器埋設遺構観察表　凡例（P90）

土器No.	埋設土器の実測図番号を示す
掘込面	遺構の確認面土層を示す
到達面	遺構を掘り込んで到達した土層を示す
供伴遺物	埋設土器内からの出土遺物を示す
時期	埋設土器の帰属時期を示す

焼土観察表　凡例（P91～92）

確認面	焼土の確認面土層を示す
到達面	焼土の到達した土層を示す

土坑・フラスコ状土坑観察表（Ⅰ区）

遺構No.	挿図No.	図版No.	グリッド	口径	深さ	底径	平面形	重複	分類	備考
遺物									時期	
SKF 1	18	6	LN 62	230×200	(79)	210	楕円形	-	ハ	埋Ⅳ,貼
-									-	
SKF 2	18	6	LM 60	230×220	(112)	260	略円形	-	イ	貼
土器(後期前葉), 剥片									後期前葉?	
SKF 3	18	6, 11	LN 60	170×160	(121)	200	略円形	SKF45→	ハ	
土器[12, 32](後期中葉), 剥片;礫;原石									後期中葉	
SKF 6	16,17	6	LQ 66	250×220	253	250	略円形	SI83?	イ	
土器[33](中期中葉), 石錘[160];剥片									中期中葉?	
SKF 7A	19	-	LR 71	150×140	194	320	略円形	→SR07C	イ	
土器[34,35](後期前葉),削器;剥片;礫									後期前葉?	
SK 7B	19	-	LR 72	70×60	24	50	楕円形	-	ト	
土器										
SKF 8	17	6	LR 68	120	72	130	円形	SI83?	ロ	
土器[13,20,21](後期中葉),剥片,黒曜石									後期前葉	
SKF 21A	20	6	LM 70	150	84	150	円形	SKF35A→;→SKF21B	イ	
土器(後期前葉),磨石;凹石;剥片;礫;原石									後期前葉?	
SKF 21B	20	-	LM 70	130	74	130	円形	SKF21A→	イ	
土器(後期),磨石;凹石;剥片;礫;原石									後期?	
SKF 22A	22,23	-	LM 69	(120)	(150)	240	略円形	(SKF26A→);SKF22B?;SKI23B?	イ	
土器(後期初頭～前葉),剥片;礫;原石,黒曜石[129]									後期初頭～前葉?	
SKF 22B	22,23	-	LL 69	(140)	(143)	190	略円形	SKF22A?;→SKI23A;SKI23B?	ハ	
土器[22](後期初頭～前葉),剥片;礫;原石,黒曜石[128]									後期初頭～前葉?	
SKF 24	17	-	LM 68	170×150	(54)	190	楕円形	(→SK31)	イ	埋Ⅴ,貼
土器(後期),礫									後期?	
SKF 25	24	11	LM 69	(150)	(150)	140	楕円形	SKF26D→	イ	
土器[14](後期・晩期中葉),削器[130];石錘[161];磨石;台石;剥片;礫,円盤状土製品[121]										
SKF 26A	24,25	7	LM 69	(110)	(129)	160	楕円形	→SKF26F;(→SKF22A)	イ	埋Ⅳ
土器(後期前葉),削器;剥片									後期前葉?	
SKF 26B	24,26	7	LM 69	170×150	(82)	190	隅丸方形	SKF26D→;SKF26E→;SKF26G→	イ	貼
土器(後期前葉),敲石;磨石;台石;剥片;礫, 土偶[118]									後期前葉?	
SKF 26C	24,26	7	LM 69	(-)	(134)	100	-	→SKF26D	イ	
土器(後期前葉・晩期中葉),剥片;原石										

遺構No.	挿図No.	図版No.	グリッド	口径	厚さ	底径	平面形	重複	分類	備考
遺物									時期	
SKF 26D	24,26	6,7	LM 69	(150)	(156)	160	-	→SKF25;→SKF26B;SKF26C→;SKF25H?	イ	
土器[36,37,38,39](後期前葉・晩期中葉),剥片;礫;原石										
SKF 26E	24,26	7	LM 69	(90)	(98)	130	略円形	SKF26G→;→SKF26B	イ	埋IV
土器(後期前葉),削器[131];剥片									後期前葉?	
SKF 26F	24,25	7	LM 69	(150)	(77)	150	楕円形	SKF26A→;→SKF26B	イ	埋IV
土器(後期前葉),磨石;剥片;礫									後期前葉?	
SKF 26G	24,26	7	LM 69	(-)	(137)	130	-	→SKF26E;→SKF26B	イ	
土器[40](後期前葉),剥片;礫;原石									後期前葉?	
SKF 26H	24,25	7	LL 69	(160)	(107)	150	略円形	SKF26D?	イ	
土器,磨石[162];石核;剥片										
SKF 26I	24,25	7	LN 69	130×110	(63)	140	楕円形	-	イ	埋IV
土器(後期前葉),剥片									後期前葉?	
SKF 27A	27	7	LO 69	(200)	(171)	250	略円形	SKF27B?	ハ2	
土器(後期初頭～前葉),石錐[132];箆状石器[133];台石;剥片;礫									後期初頭～前葉?	
SKF 27B	27	-	LN 69	(150)	(102)	210	略円形	SKF27A?;SKF27C→	イ	
土器[41,42](後期初頭～前葉),石錐[131];箆状石器[132];剥片;礫									後期初頭～前葉?	
SKF 27C	27	-	LN 69	(110)	(81)	120	略円形	→SKF27B;SKF27D→	ハ	埋IV
-									-	
SKF 27D	27	-	LO 69	(110)	(65)	150	略円形	→SKF27C;SKF61A?	ロ	埋IV
土器(後期前葉),剥片;礫									後期前葉?	
SKF 28A	21	7	LR 70	180×170	158	230	略円形	SK28B→	ハ	
土器[23,24,43,44,45](後期初頭～前葉);袖珍土器[123],削器[134・135;磨石;剥片;礫,耳飾[122]									後期初頭～前葉	
SKF 28B	21	7	LR 70	130	94	120	円形	→SKF28A	ロ	
土器(中期中葉・後期前葉),剥片										
SK 29	23	-	LN 68	120	(21)	120	円形	-	ト	
-										
SK 30	23	7	LN 68	130×120	(58)	110	略円形	-	ヘ	
土器(後期前葉),剥片;礫									後期前葉?	
SK 31	17	-	LM 68	(90)	(29)	70	-	(SKF24→)	ト	
土器(晩期中葉),剥片									晩期中葉	
SK 32	23	-	LM 63	140×130	(38)	120	略円形	-	ヘ	
-									-	

遺構No.	挿図No.	図版No.	グリッド	口径	深さ	底径	平面形	重複	分類	備考
遺物									時期	
SKF 33A	28,29	8	LN 70	(150)	133	150	略円形	→SN33B →SN33C;(SKF42→);SKF58A?	イ	
土器(晩期中葉),剥片									晩期中葉	
SKF 34A	30,31	-	LN 71	(180)	127	240	略円形	→SN34B;SKF34C→;SKF34D?;SKF64H?	イ	埋IV
土器(後期前葉),石錐;筒状石器[136・137];磨石[163];剥片;礫									後期前葉?	
SKF 34C	30,31	-	LN 71	(-)	164	130	楕円形	→SKF34A→SN34B; →SKF34D	イ	
土器(後期前葉),石錐;筒状石器[135・136];剥片									後期前葉?	
SKF 34D	30,31	8	LO 71	(190)	109	210	略円形	SKF34A?;SKF34C →;SKF39?;SK34E?; →SR65	イ	
土器,石錐;筒状石器[135・136];石皿[169]										
SK 34E	30,31	-	LO 71	(120)	52	110	略円形	SKF34D?	ト	
-									-	
SKF 35A	20,21	8	LM 70	(120)	153	250	略円形	SKF35B→;→SKF21A	ニ	埋IV,貼
土器[46],石核;剥片;礫										
SKF 35B	20,21	-	LN 70	90×80	145	170	略円形	→SKF35A	イ	埋IV
土器,礫										
SK 36	26	8	LP 68	100×90	34	80	略円形	-	ヘ	礫多量出土
土器(後期前葉),剥片									後期前葉?	
SK 37	26	8	LP 70	100	38	90	円形	-	ト	
土器[25,47](後期前葉),石皿;剥片;礫,鉾形土製品[117]									後期前葉?	
SKF 38	26	8	LO 71	(90)	55	140	略円形	-	ロ	
土器(後期前葉),石匙[138];砥石;剥片									後期前葉?	
SKF 39	32	-	LO 71	100×80	187	270	楕円形	SKF34D?;SKF40A?	ハ	埋IV
土器										
SKF 40A	33	11	LO 71	90×80	102	190	略円形	SKF40B→;SKF39?	ロ	
土器[15](後期前葉・晩期中葉),石皿;剥片										
SKF 40B	33	8	LO 71	(90)	135	200	略円形	→SKF40A	ニ	埋IV
土器,剥片										
SK 40C	47	-	LO 72	(90)	24	80	略円形	(→SKF71E)	ト	
-									-	
SKF 41A	30,31	-	LN 72	180×150	141	160	楕円形	→SN41B	イ	
土器(晩期中葉),削器[139];敲石;凹石[164];剥片;礫;原石									晩期中葉?	
SKF 42	28	-	LN 70	(130)	123	170	楕円形	→SKF33A	イ	
土器(後期前葉),磨石;剥片;礫;原石									後期前葉	

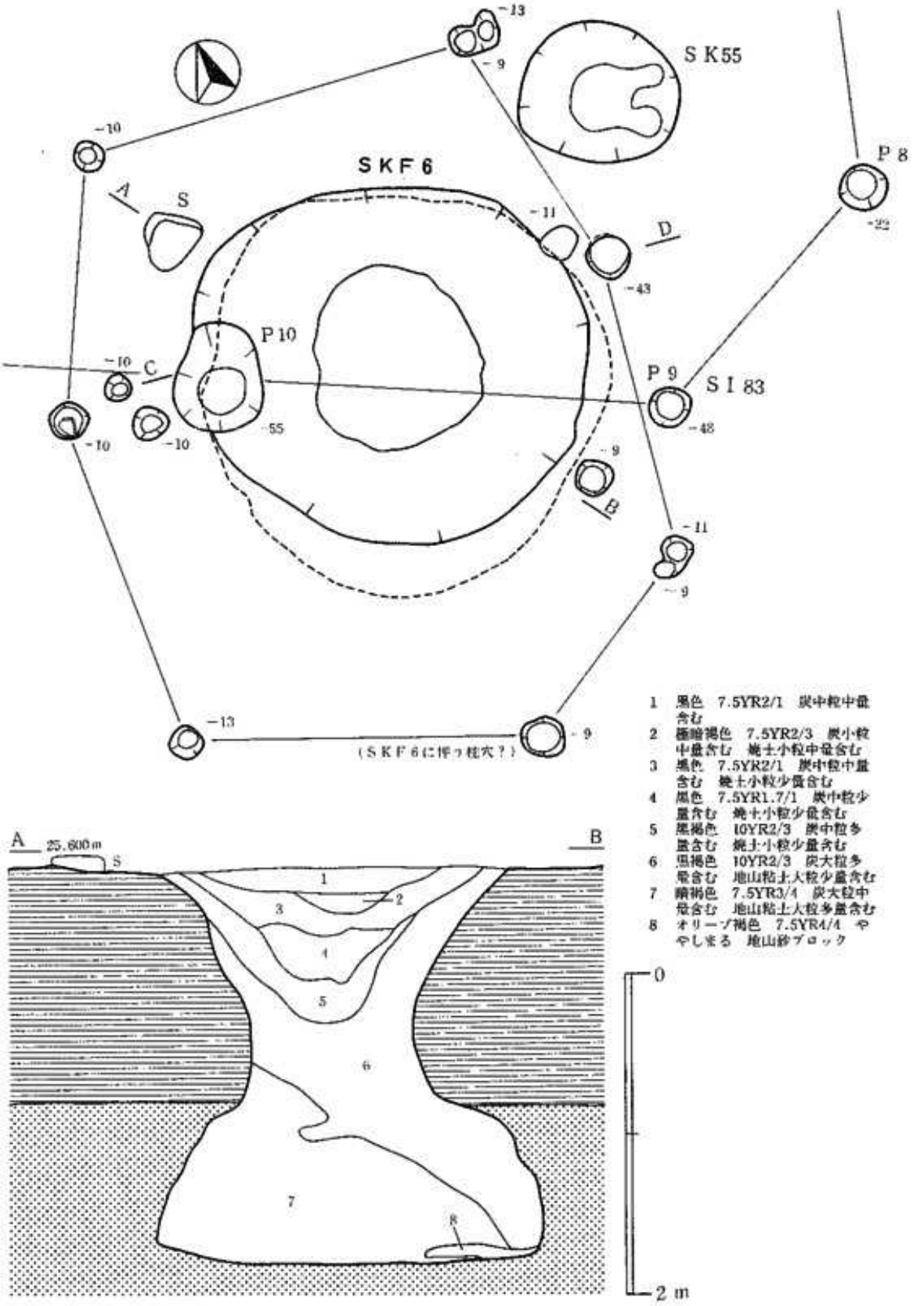
遺構No.	挿図No.	図版No.	グリッド	口径	深さ	底径	平面形	重複	分類	備考
遺物									時期	
SKF 43	34	8	LO 70	90	161	260	円形	-	イ	
土器,剥片										
SK 44	34	-	LO 70	110×40	40	90	連磨形	-	ト	
土器(後期前葉),剥片;礫									後期前葉?	
SKF 45	18	-	LN 69	160×150	(98)	130	略円形	→SKF03	ハ	埋甕,貼
礫									-	
SKF 46	29	9	LQ 71	140	137	150	円形	-	ロ	
土器(中期中葉・後期前葉),剥片										
SK 47	29	9	LR 71	(140)	121	110	略円形	-	ホ	
土器(前期後葉?・後期前葉),篦状石器;削器[141];石核;剥片									後期前葉?	
SK 48	32	9	LN 71	90	36	80	円形	SK52→	ト	
土器,剥片										
SKF 49	32	-	LQ 70	80×70	93	140	円形	-	ロ	
土器(後期前葉),掻器;剥片									後期前葉?	
SKF 50	33	-	LQ 70	90	105	120	円形	-	ロ	
-									-	
SK 51	33	-	LQ 68	130×90	51	110	楕円形	-	ト	
土器(後期前葉),剥片;礫									後期前葉?	
SK 52	32	9	LN 71	80	22	70	円形	→SK48	ト	
-									-	
SK 53	34	9	LQ 72	110×100	68	80	略円形	-	ホ	
土器,剥片;礫										
SK 54	34	-	LQ 67	(120)	20	90	略円形	-	ト	
土器,敲石;磨石;礫										
SK 55	9,10	-	LP 66	100×90	50	80	略円形	(SI83)	ト	
土器,剥片										
SKF 56	35	9	LP 71	150×120	148	260	楕円形	-	イ	
土器[48](後期前葉),掻器[142];剥片									後期前葉?	
SK 57	38	-	LP 72	130×110	74	100	楕円形	-	ホ	
土器										
SKF 58A	28,29	-	LM 70	(210)	135	170	略円形	(SKF33A・・);(→SKF58B)	イ	
土器(後期前葉),剥片									後期前葉?	

遺構No.	挿図No.	図版No.	グリッド	口径	深さ	底径	平面形	重複	分類	備考
遺物									時期	
SKF 58B	28,29	-	LM 70	(170)	106	120	略円形	(SKF58A→)	イ	
-									-	
SKF 59A	36,37	-	LO 72	300×210	175	290	楕円形	SK59B→	イ	
土器[49](中期中葉・後期前葉)										
SK 59B	36~38	-	LN 72	(-)	100	-	-	→SKF59A;→SKF59D;→SKF59E	チ	
土器										
SKF 59C	36~38	9	LN 72	(-)	190	-	-	SKF59D→;→SKF59E;SK59F?	ハ	
土器(後期前葉),石匙[149];剥片									後期前葉?	
SKF 59D	36~38	9	LN 72	(370)	190	350	楕円形	SK59B→;→SKF59C;SK59F?	チ	
土器(後期前葉),剥片;礫									後期前葉?	
SKF 59E	36~38	9	LN 72	(-)	80	-	-	SKF59C→	チ	
土器(後期前葉)									後期前葉?	
SKF 59F	36~38	-	LM 52	(140)	68	140	楕円形	SKF59C?;SKF59D?	イ	埋V,貼
-									-	
SKF 61A	39	9	LO 70	(300)	179	270	略円形	→SKF62;→SN61B;→SKF61C;SKF61D→	ハ	埋IV
土器[26,50](中期中葉・後期初頭~前葉),石槍[145];石匙[144];剥片・礫・原石										
SKF 61C	39	-	LO 70	(-)	193	120	-	SKF61A→	チ	
剥片;礫									-	
SKF 61D	39	-	LN 70	(-)	153	-	-	→SKF61A	チ	
剥片;礫									-	
SKF 62	39	9	LO 70	(90)	135	120	円形	SKF61A→	イ	
土器[51,52,53](後期前葉・晩期中葉),石槍[146];剥片・礫										
SKF 63	38	9	LQ 73	(110)	55	150	略円形	-	ロ	
土器[54](後期前葉),石錐[147];剥片									後期前葉?	
SKF 64A	40,41	11	LM 71	(-)	90	-	-	SKF64B→;→SKF64D	イ	
土器[16](中期中葉;北陸系・後期前葉),削器[148];剥片;礫										
SKF 64B	40,41	-	LM 71	(-)	122	-	-	→SKF64A;SKF64C→	イ	
剥片;礫									-	
SKF 64C	40,41	-	LN 71	(-)	97	150	-	→SKF64B;(→SKF64H);SKF64J?	イ	埋IV
礫									-	
SKF 64D	40,41	10	LM 72	290×240	157	290	楕円形	-	イ	貼
土器[27](中期中葉・後期前葉),石槍[149];石錐;原石;剥片;礫										

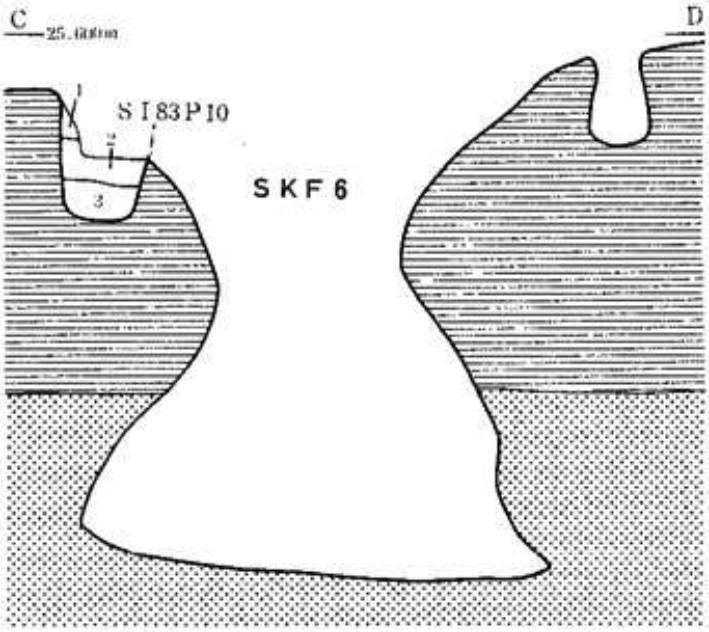
遺構No.	挿図No.	図版No.	グリッド	口径	深さ	底径	平面形	重複	分類	備考
遺物									時期	
SKF 64E	40,41	-	LM 71	(-)	91	-	-	→SKF64F	イ	
礫									-	
SKF 64F	40,41	-	LM 71	(-)	118	160	楕円形	SKF64E→	イ	埋IV
土器,剥片;礫;原石										
SKF 64G	42	-	LM 71	(140)	133	180	略円形	-	ハ	埋IV
剥片;礫;原石,									-	
SKF 64H	40,42	-	LN 71	130×120	120	260	略円形	(SKF64C→);SKF64J?;→SKF64K;SKF34A?	ハ	埋IV,貼
土器[55](中期前葉),剥片;礫									中期前葉?	
SKF 64J	40,42	-	LN 72	(-)	74	120	-	SKF64C?;SKF64H?;SKF64K?;SK64L?	チ	埋V
土器,敲石;剥片;礫										
SKF 64K	40,42	-	LN 72	(100)	81	-	略円形	SKF64H→;SKF64J?	イ	
礫									-	
SK 64L	40,42	-	LN 72	(-)	38	-	-	SKF64J?	チ	
剥片									-	
SK 66A	44,45	10	LP 73	140×130	127	120	略円形	SK66B→;SKF66D→	ホ	
土器[17,28,29](後期初頭～前葉),掻器[152];削器[149];剥片;礫									後期初頭～前葉?	
SK 66B	44,45	10	LP 73	(250)	155	230	略円形		ホ	
石匙[150];掻器[151];磨石[167];剥片,									-	
SKF 66C	44,45	-	LP 73	150×120	-63	160	楕円形	SKF66B?;→SKF66E;SD66G→	イ	
土器[18](中期末～後期前葉),石槍[151];掻器[153];磨石[168];凹石;剥片									中期末～後期前葉?	
SKF 66D	44,45	-	LP 72	(130)	119	180	略円形	→SKF66B;→SKF66A	ロ	
土器[30](後期前葉),剥片									後期前葉?	
SKF 66E	44,45	-	LP 73	270×200	135	240	楕円形	SKF66C→;SKF66B→;→SKF66F;SKF66I?	ロ	
土器[56](後期前葉),掻器[152];剥片;礫,黒曜石									後期前葉?	
SKF 66H	44,46	10	LP 73	(120)	80	130	略円形	SKF66I→;(→SK78D)	ハ	
剥片									-	
SKF 66I	44	-	LP 73	(100)	46	120	楕円形	SKF66E?;→SKF66H	チ	
剥片									-	
SKF 67A	35	-	MA71	(130)	84	150	略円形	-	ロ	
土器(後期初頭～前葉),石槍[155];石鏃;石錐[154];剥片									後期初頭～前葉?	
SK 67B	35	-	MA70	90×70	21	80	楕円形	-	ト	
石槍;石鏃;剥片									-	

遺構No.	挿図No.	図版No.	グリッド	口径	深さ	底径	平面形	重複	分類	備考
遺物									時期	
SKF 68	42	10	MA71	(210)	30	200	略円形	-	ハ2	埋Ⅳ
剥片									-	
SKF 69A	43	10	LL 70	(140)	71	120	略円形	SKF69B→	イ	
土器(後期初頭～前葉),剥片;礫									後期初頭～前葉?	
SKF 69B	43	10	LL 70	(140)	146	160	略円形	→SKF69A	ハ	貼
土器(後期前葉),剥片;礫:原石									後期前葉?	
SK 70A	43	-	LL 70	(100)	30	90	略円形	-	ト	
礫									-	
SKF 70B	43	-	LL 71	150×120	110	160	楕円形	-	イ	貼
土器										
SKF 71A	47	11	LP 72	130×100	106	160	楕円形	SKF71D・	イ	
土器(後期初頭～前葉),打製石斧;剥片;礫									後期初頭～前葉?	
SKF 71D	47	-	LO 72	(-)	86	-	楕円形	・→SKF71A;SKF71E?	イ	埋Ⅳ
土器(中期中葉),剥片									中期中葉?	
SKF 71E	47	-	LO 72	(-)	115	-	楕円形	(SK40C→);SKF71D?	イ	埋Ⅳ
-									-	
SK 72	43	-	LS 70	110×80	23	100	楕円形	-	ト	
土器[57](後期初頭～前葉),箆状石器[156];磨石;剥片									後期初頭～前葉?	
SKF 73A	47	10	LO 73	180×170	130	210	略円形	→SN73B	イ	
-									-	
SKF 74A	48	-	LP 70	(110)	172	290	円形	→SKF74B;SKF74C?	ハ	
土器[31,78,59](中期中葉・後期前葉),剥片										
SKF 74B	48	-	LP 70	(100)	64	130	隅丸方形	SKF74A→	ロ	
土器[10](中期中葉・後期初頭～前葉);袖珍土器[124・125],剥片										
SKF 74C	48	-	LP 70	(-)	172	-	-	SKF74A?	チ	
-									-	
SKF 75	49	10	MA67	(160)	98	220	略円形	-	ロ	
土器[60,61](後期前葉),剥片									後期前葉?	
SKF 77	49	-	LO 74	130×110	66	140	楕円形	-	ハ	
-									-	
SKF 78A	44,46	10	LO 73	(150)	80	-	楕円形	SD66G→;SKF78C?	イ	
-									-	

遺構No.	挿図No.	図版No.	グリッド	口径	深さ	底径	平面形	重複	分類	備考
遺物									時期	
SKF 78B	44,46	10	LP 74	(120)	105	130	楕円形	SK78E→	イ	
-									-	
SKF 78C	44,46	-	LO 73	(-)	109	-	-	SKF78A?:SD66G→	チ	埋IV
-									-	
SK 78D	44,46	10	LP 74	(150)	35	140	楕円形	(SKF66H→):SK78E→	イ	
土器[62](中期中葉)									中期中葉?	
SK 78E	44	-	LP 74	(110)	-	100	-	→SKF78B:→SK78D	チ	
-									-	
SKF 84	50	11	LQ 61	130×120	(88)	160	隅丸方形	-	イ	貼
石鏃[159]:剥片									-	
SKF 85	51	11	LP 71	110×100	132	250	略円形	-	ニ	埋IV
土器										
SK 86	50	-	LQ 63	(130)	(30)	120	略円形	-	ロ	
土器										
SK 87	51	-	LO 57	130×110	(57)	100	楕円形	-	ホ	
-									-	
SKF 88	51	10	LP 73	(-)	-	-	-	-	チ	
-									-	
SK 89	22	-	LL 68	90×80	(22)	80	略円形	(SK123B→)	ト	埋V
-									-	
SK 90	22	-	LL 68	(50)	(38)	30	円形	(SK123B→)	ト	
-									-	
SK 91	9,10	-	LR 67	100×80	33	80	楕円形	(SH3)	ト	
土器										
SK 96	9,10	-	LR 67	90×50	20	70	楕円形	(SH3)	ト	
-									-	



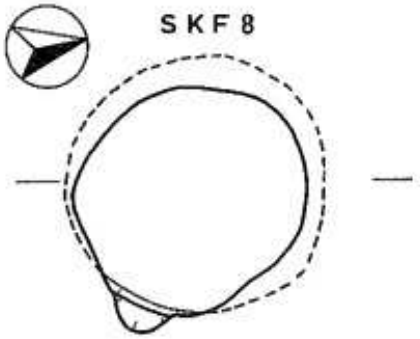
第16図　土坑（1－1）SKF6

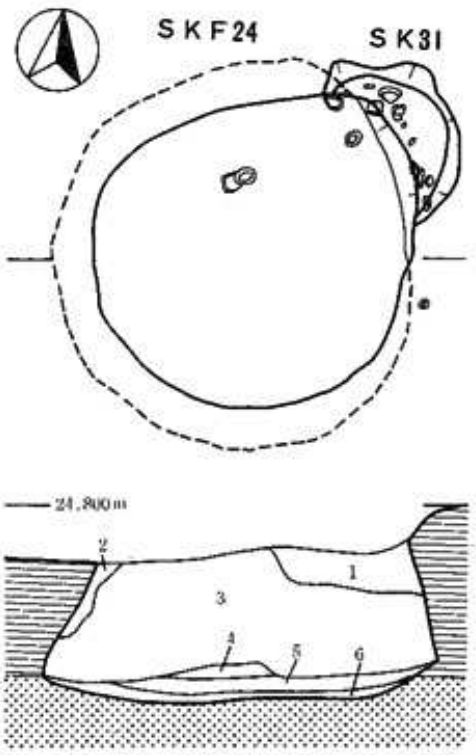


SI83P10
1　褐色　10YR4/4　地山粘土多量に　炭化物少量含む
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土・炭化物やや多く含む
3　暗褐色　10YR3/3　下位ほど締まる

SKF8
1　黒褐色　10YR2/3　締まり強　地山粘土少量含む
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多量に含む
3　黒褐色　10YR3/2　地山粘土・炭化物多量に含む
4　3層より炭化物多く含む　土器・礫も含む

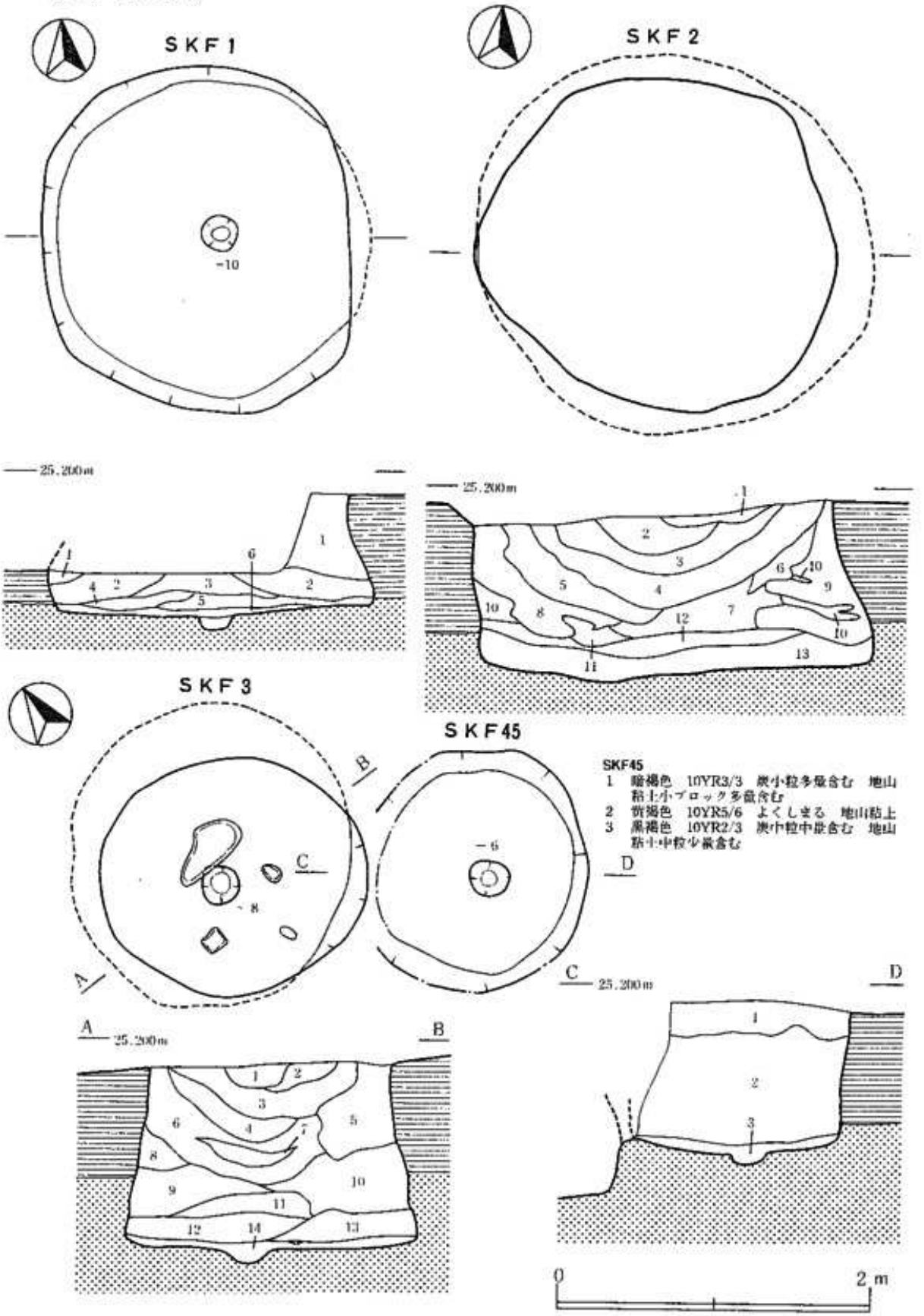
SKF24
1　オリーブ褐色　2.5Y4/4　炭中粒少量含む　3を中量含む
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土中粒中量含む　3を少量含む
3　オリーブ黄色　5Y6/4　炭中粒少量含む　地山砂
4　オリーブ褐色　2.5Y4/4　地山粘土大粒少量含む　3を中量含む
5　暗褐色　10YR3/4　地山粘土大粒少量含む　3を極少量含む
6　オリーブ褐色　2.5Y4/4　地山砂二次堆積



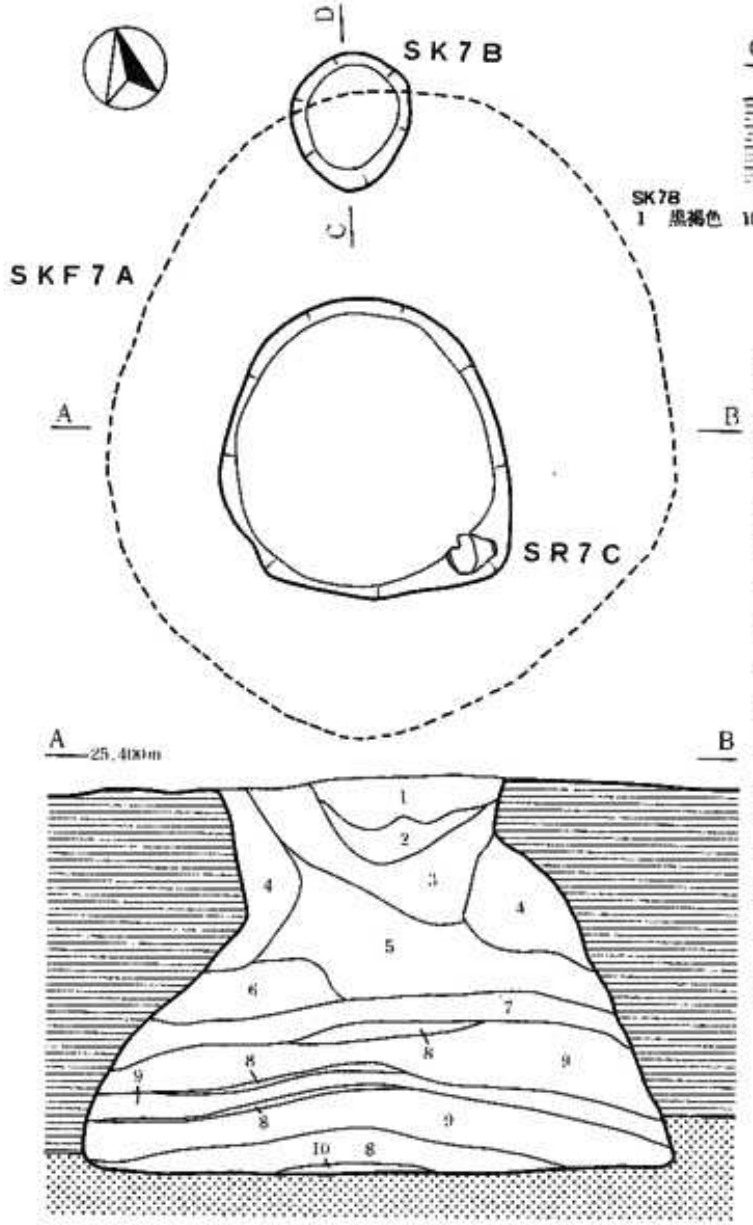


0　2 m

第17図　土坑（1－2）SKF6・8・24、SK31



第18図　土坑（2）SKF1・2・3・45



SK7B
1　黒褐色　10YR3/2　地山粘土・炭化物やや多く含む

SKF7A
1　黒褐色　10YR2/3　炭化物少量　地山ごく少量含む
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多量に含む
3　黒褐色　10YR3/2　地山粘土・炭化物多量に含む
4　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土二次堆積
5　黒褐色　10YR2/2　地山粘土・炭化物やや多く含む
6　明黄褐色　10YR6/8　堅く締まる　地山粘土ブロック
7　黒褐色　10YR3/2　炭化物少量　地山粘土ごく少量含む
8　明黄褐色　10YR6/6　地山粘土二次堆積
9　オリーブ黄色　5Y6/4　地山砂二次堆積
10　黒褐色　10YR2/3　地山土含まず

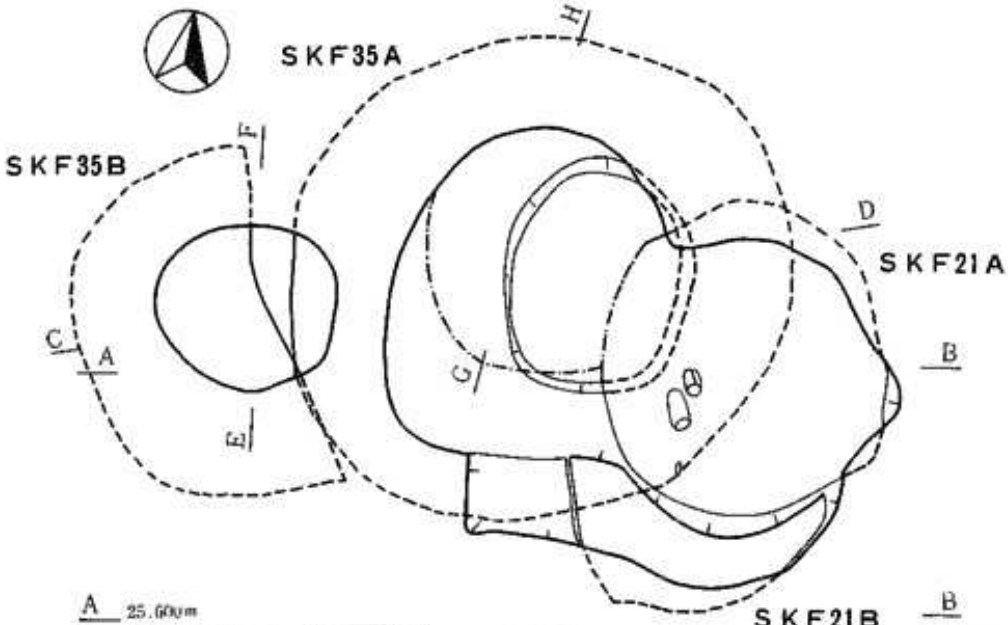
SKF1
1　暗褐色　10YR3/4　炭化物少量含む　地山粘土とII層土の混合
2　黄褐色　10YR5/8　地山粘土二次堆積
3　黒褐色　10YR2/2　地山粘土やや多く含む
4　黒褐色　10YR2/3　地山粘土やや多く(3層より多)含む
5　褐色　10YR4/6　地山粘土主
6　暗褐色　10YR3/3　地山砂とII層土の混合　貼床か

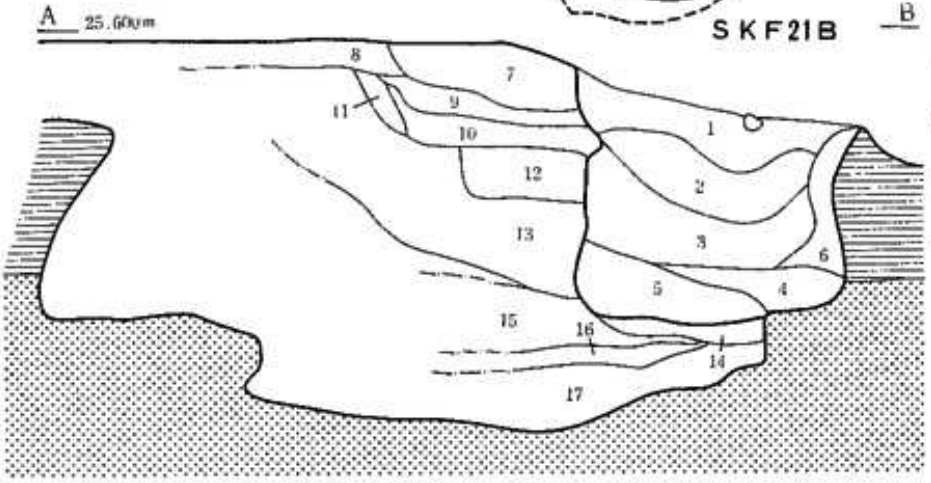
SKF2
1　褐色　10YR4/4　炭化物少量含む　地山粘土多量に
2　黒褐色　10YR2/3　地山粘土・炭化物やや多く含む
3　褐色　10YR4/6　炭化物やや多く含む　地山粘土多量に(1層より多)
4　黒褐色　10YR2/2　地山粘土・炭化物やや多く(2層より少)　含む
5　黒褐色　10YR3/1　地山粘土・砂・炭化物ごく少量含む
6　黒褐色　10YR2/3　炭化物少量含む　地山粘土やや多く
7　褐色　10YR4/6　地山粘土多量に含む
8　黄褐色　10YR5/6　地山粘土主　黒色シルト質土が筋状に入る
9　明黄褐色　10YR6/8　地山粘土主　黒色シルト質土が筋状に入る
10　暗褐色　10YR3/4　締まり弱　地山粘土とII層土の混合
11　黒褐色　10YR3/1　地山粘土・砂・炭化物ごく少量含む
12　黒褐色　10YR3/2　堅く締まる　地山砂とII層土の混合
13　暗褐色　10YR3/3　堅く締まる　地山砂とII層土の混合　底面(砂層)が凹凸しており12・13層で貼床したものと思われる

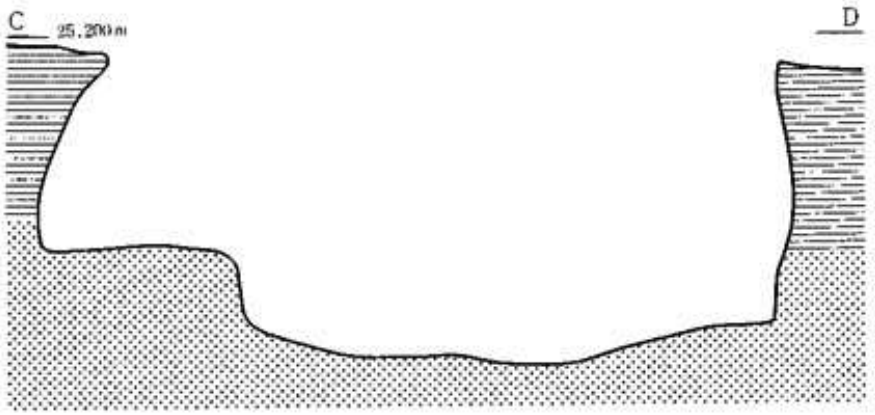
0　2 m

SKF3
1　黒褐色　10YR2/2　炭化物ごく少量含む
2　黒褐色　10YR2/3　地山粘土やや多く含む
3　黒褐色　10YR3/1　地山粘土・炭化物やや多く含む
4　褐色　10YR4/4　地山粘土二次堆積
5　褐色　10YR4/4　地山粘土と6層土の混合
6　黒褐色　10YR3/1　地山粘土やや多く含む
7　黒褐色　2.5Y3/2　砂層と6層土の混合
8　黒褐色　10YR3/1　地山粘土と6層土の混合
9　黄褐色　10YR5/8　締まり弱　地山粘土二次堆積
10　暗褐色　10YR3/4　地山粘土と6層土の混合　炭化物やや多く含む
11　黒色　10YR2/1
12　黒褐色　10YR3/2　II層相当土に地山粘土と砂層土・炭化物　混じる
13　褐色　10YR4/6　地山粘土二次堆積
14　暗オリーブ褐色　2.5Y3/3　堅く締まる　II層相当土と砂層土の混合

第19図　土坑（3）SKF7A、SK7B、SR7C土器埋設遺構

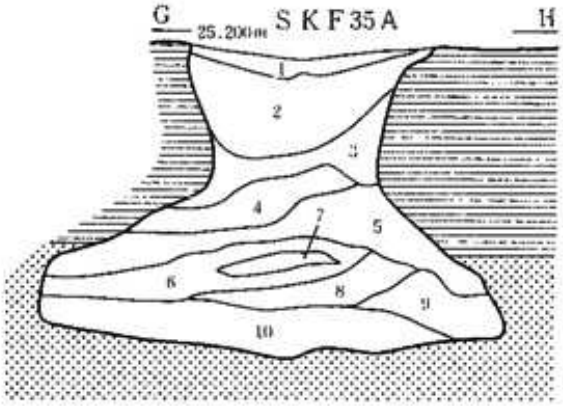


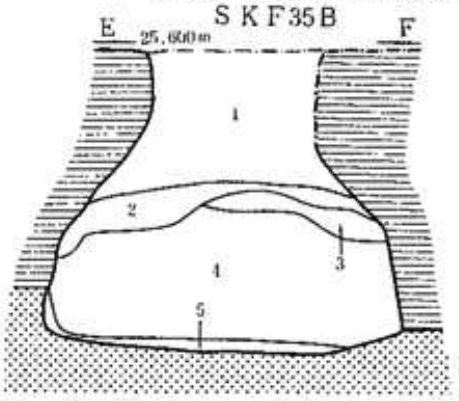




1　黒褐色　10YR2/3　炭大粒少量含む　地山粘土大粒中量含む
2　黒褐色　10YR2/2　炭大粒多量含む　地山粘土中粒少量含む
3　暗褐色　10YR3/4　炭中粒少量含む　地山粘土中粒多量含む
4　黒褐色　10YR3/2　炭大粒少量含む　地山粘土中粒少量含む
5　暗褐色　10YR3/3　炭中粒中量含む　地山粘土中粒中量含む
6　暗褐色　7.5YR3/3　炭大粒少量含む　地山粘土大粒多量含む
7　暗褐色　10YR3/3　炭中粒中量含む　地山粘土小ブロック多量含む
8　暗褐色　10YR3/3　炭中粒少量含む　地山粘土中粒中量含む
9　暗褐色　10YR3/4　炭中粒多量含む　地山粘土中粒中量含む
10　暗褐色　10YR3/4　炭中粒少量含む　地山粘土小ブロック少量含む
11　暗褐色　10YR3/3　炭小粒中量含む　地山粘土小粒中量含む
12　黄褐色　10YR5/6　11を少量含む　貼っている
13　地山　（N層）
14　暗褐色　7.5YR4/4　地山粘土大粒多量含む　貼っている
15　褐色　7.5YR4/4　地山砂ブロック中量含む　粘性あり
16　暗褐色　7.5YR4/4　地山粘土中粒多量含む　粘性あり
17　黒褐色　7.5YR3/2　地山砂中量含む

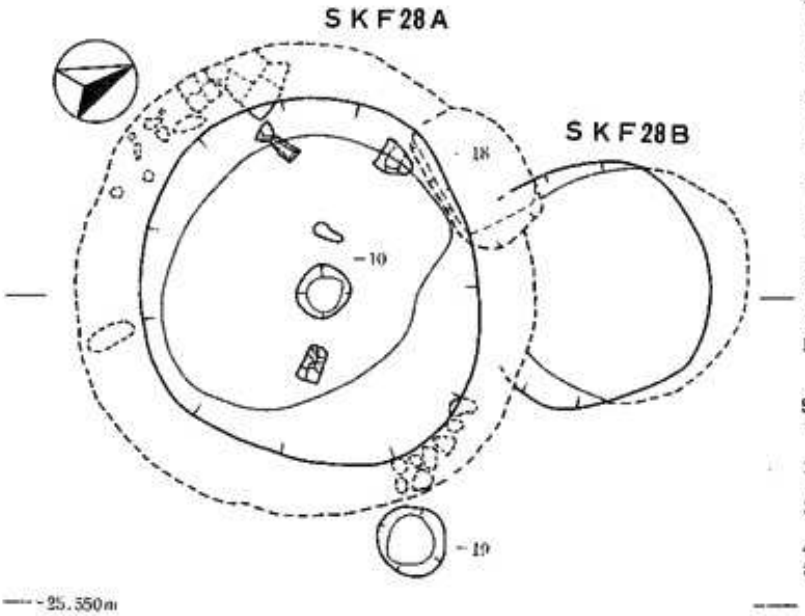
第20図　土坑（4－1）SKF21A・21B・35A・35B

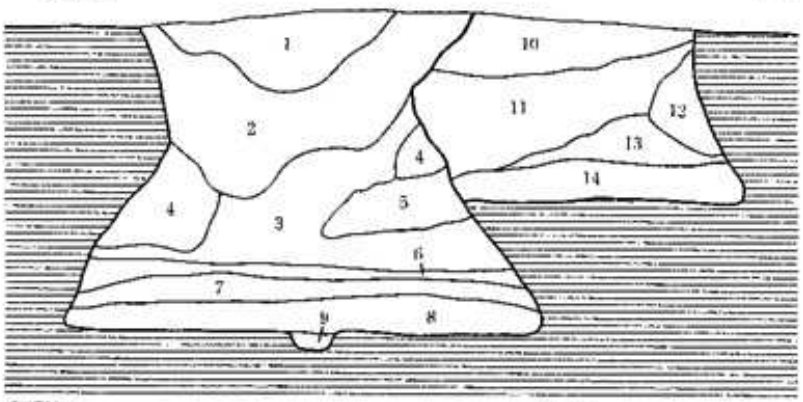




SKF35A
1　黄褐色　10YR5/6　よくしまる　粘性あり
2　黒褐色　10YR2/3　炭中粒少量含む　地山粘土中粒中量含む
3　暗褐色　10YR3/4　炭中粒中量含む　地山大粒中量含む
4　褐色　10YR4/4　ややしまる　炭中粒多量含む
5　黄褐色　10YR5/6　よくしまる　地山粘土
6　暗褐色　10YR3/4　炭小粒少量含む　地山粘土大粒多量含む
7　5と同じ
8　褐色　10YR4/6　炭中粒中量含む　地山粘土
9　褐色　10YR4/4　よくしまる
10　暗褐色　10YR3/4　地山粘土小ブロック中量含む　地山砂少量含む

SKF35B
1　暗褐色　10YR3/4　地山粘土小ブロック多量含む　粘性あり
2　黒褐色　10YR2/3　炭中粒中量含む　地山粘土中ブロック多量含む
3　オリーブ褐色　2.5Y4/3　地山砂多量含む
4　黄褐色　2.5Y5/4　地山砂
5　暗褐色　10YR3/3　地山粘土大粒中量含む　粘性あり



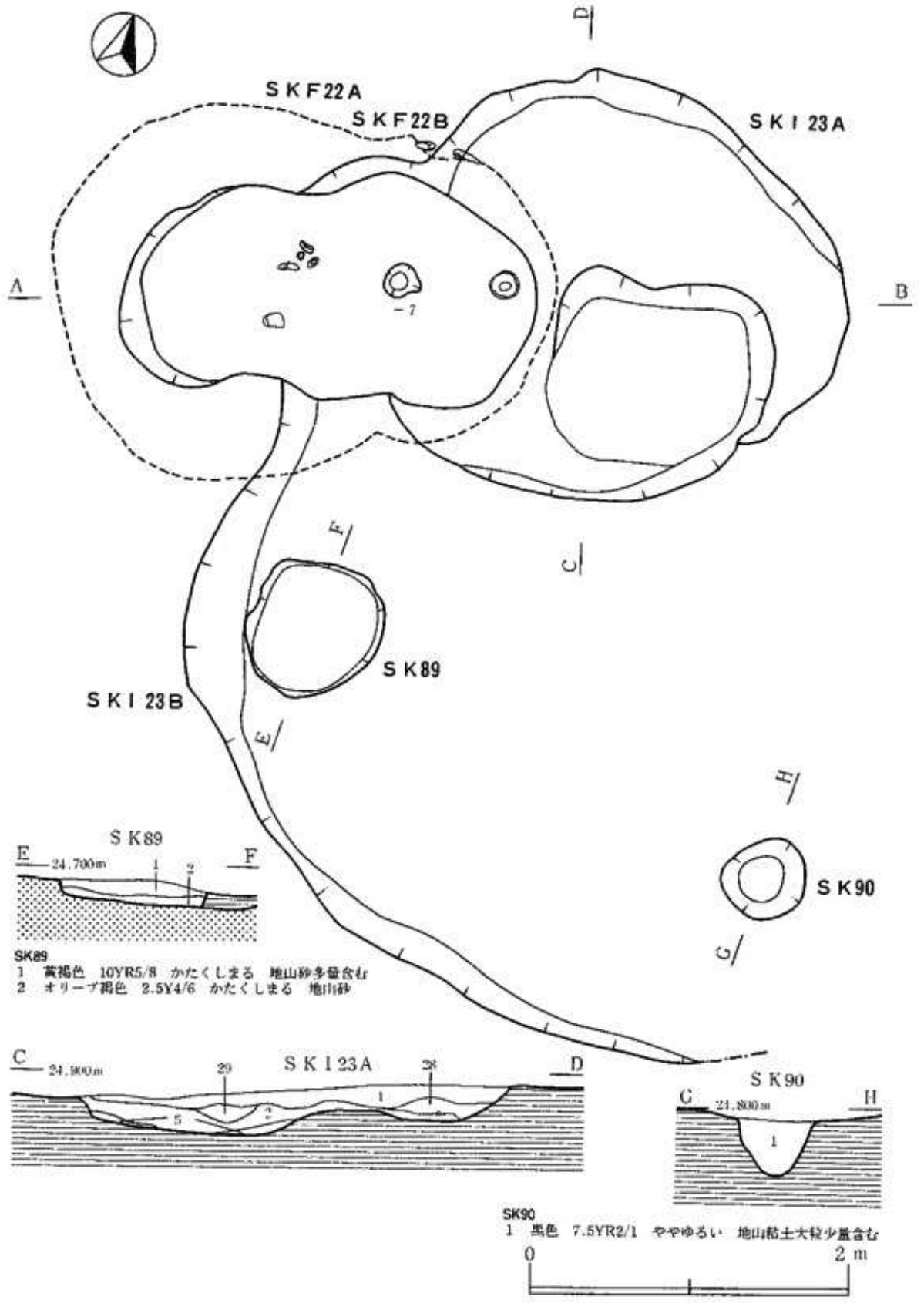


SKF28A
1　黒褐色　10YR2/3　地山粘土やや多く　炭化物少量含む
2　黒褐色　10YR2/2　地山粘土やや多く含む
3　暗褐色　10YR3/3　地山粘土多量に含む
4　褐色　10YR4/6　地山粘土二次堆積
5　明黄褐色　10YR6/8　堅く締まる　地山粘土ブロック
6　褐色　10YR4/4　地山粘土二次堆積　6層以下縞多し
7　黒色　10YR2/1　締まり弱　炭化物多量に含む
8　黒褐色　10YR2/2　堅く締まる
9　黒褐色　10YR2/3

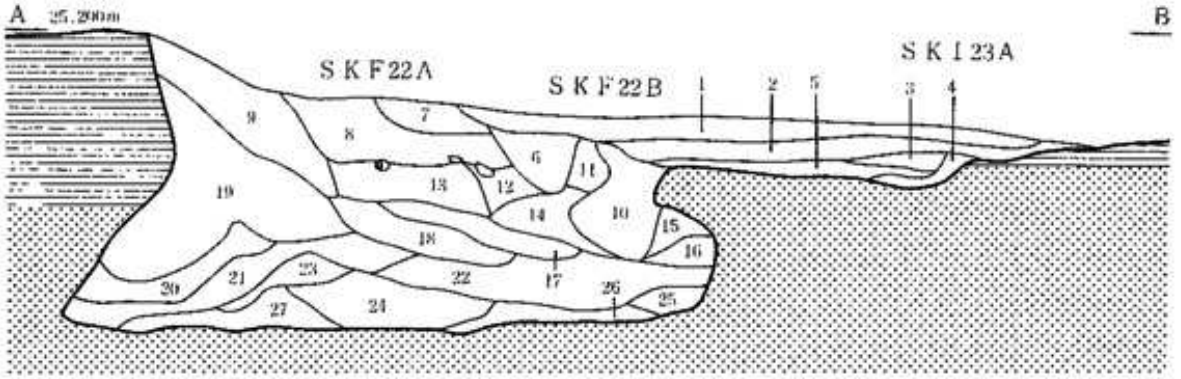
SKF28B
10　暗褐色　10YR3/3　地山粘土やや多く含む
11　黒褐色　10YR2/3　2～4層とも地山粘土多量に　炭化物少量含む
12　黒褐色　10YR3/2　2～4層境はっきりせず
13　黒褐色　10YR2/2
14　黒褐色　10YR3/1　地山粘土やや多く含む

0　2 m

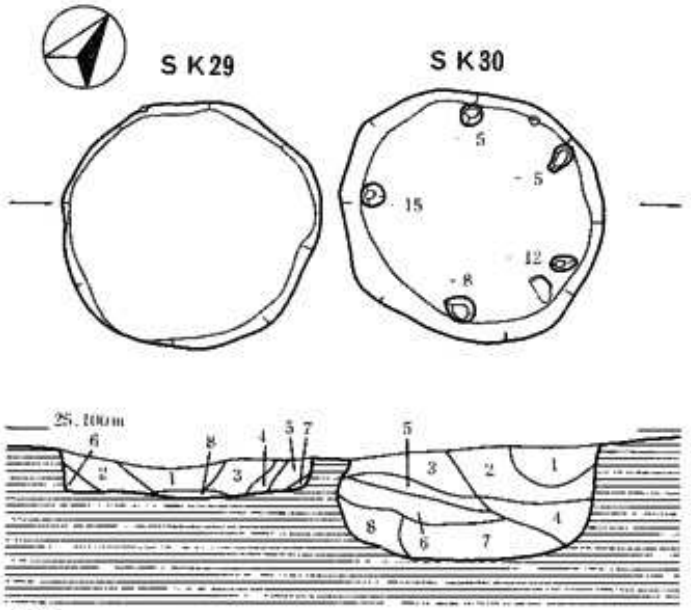
第21図　土坑（4－2）SKF35A・35B・28A・28B



第22図　土坑（5－1）ＳＫＦ22Ａ・22Ｂ、ＳＫ89・90、ＳＫＩ23Ａ・23Ｂ竪穴状遺構

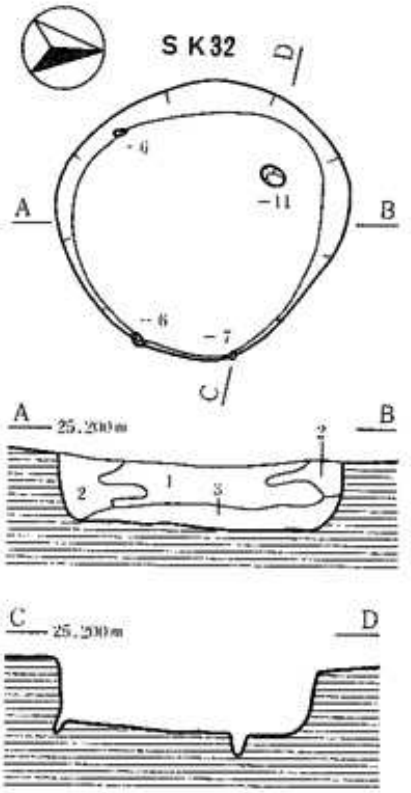


SKF22A・B、SKI23A
1　黒色　10YR2/1　ややしまる　地山粘土大粒中量含む
2　黒褐色　10YR2/3　ややしまる　地山粘土小粒多量含む
3　オリーブ褐色　2.5Y4/3　地山粘土中粒多量含む
4　オリーブ褐色　2.5Y4/6　地山砂
5　褐色　10YR4/4　地山粘土中粒多量含む　地山砂中粒含む
6　黒褐色　10YR3/2　炭小粒少量含む　地山粘土小粒中量含む
7　黒褐色　10YR2/2　炭小粒少量含む　地山粘土小粒少量含む
8　黒褐色　10YR2/3　炭中粒中量含む　地山粘土小粒少量含む
9　暗褐色　10YR3/3　炭中粒少量含む　地山粘土大粒少量含む
10　黄褐色　10YR5/6　地山粘土
11　暗褐色　10YR3/3　炭中粒中量含む　地山粘土中粒中量含む
12　黒褐色　7.5YR2/2　炭中粒多量含む　地山粘土小粒中量含む
13　黒褐色　10YR2/2　炭小粒少量含む　地山粘土小粒少量含む
14　黒褐色　10YR2/3　地山粘土小ブロック中量含む　炭中粒少量含む
15　黄褐色　10YR5/6　地山砂中量含む
16　暗褐色　10YR3/4　地山粘土大粒中量含む　地山砂少量含む
17　黒褐色　10YR2/3　炭大粒中量含む　地山粘土小粒中量含む
18　黒褐色　10YR2/2　炭大粒中量含む　地山粘土大ブロック多量含む
19　黄褐色　10YR5/6　よくしまる　地山粘土
20　黄褐色　10YR5/6　ややしまる　地山粘土
21　暗褐色　10YR3/3　地山粘土大粒多量含む
22　黒褐色　10YR3/2　地山粘土小粒中量含む
23　黒褐色　10YR3/2　炭中粒少量含む　地山粘土中粒少量含む
24　黒褐色　7.5YR3/2　炭中粒少量含む　地山粘土中粒多量含む
25　4と同じ
26　黒褐色　7.5YR2/2　よくしまる　地山粘土大粒少量含む
27　黒褐色　10YR2/2　ややしまる　地山粘土大粒多量含む
28　黒褐色　10YR2/2　地山粘土大粒中量含む
29　黒褐色　2.5Y3/1　地山粘土小粒少量含む



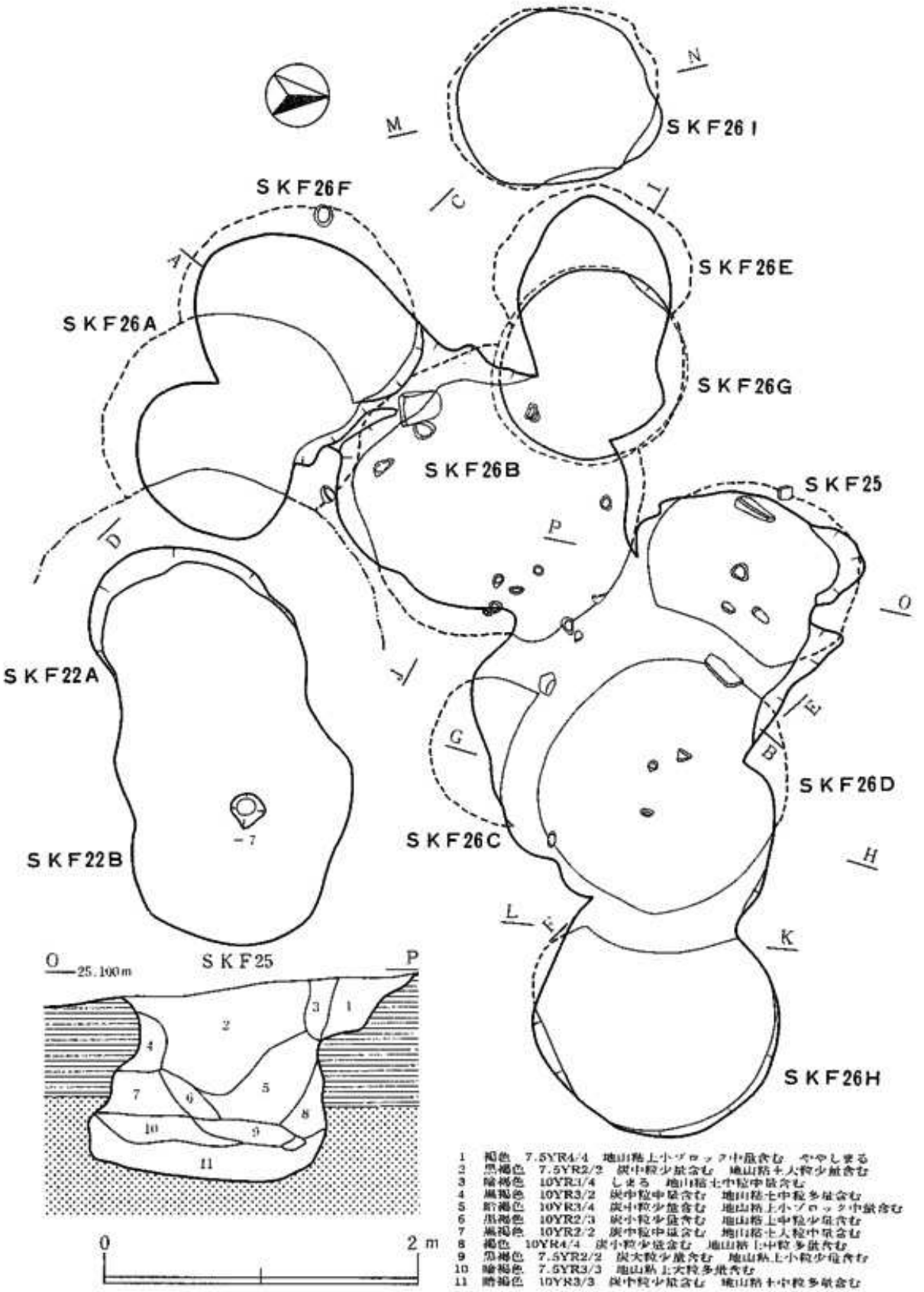
SK29
1　黒褐色　10YR2/3　よくしまる　炭中粒中量含む
2　黒褐色　10YR3/2　よくしまる　炭小粒少量含む
3　明褐色　10YR3/3　炭中粒中量含む　地山粘土中粒少量含む
4　暗褐色　10YR3/3　炭大粒多量含む　地山粘土小粒多量含む
5　オリーブ褐色　2.5Y4/3　炭大粒少量含む　地山粘土大粒多量含む

SK30
1　暗褐色　10YR3/4　地山粘土中粒多量含む
2　黒褐色　10YR2/3　炭中粒中量含む　地山粘土中粒中量含む
3　黒褐色　10YR3/2　炭中粒少量含む　地山粘土小粒多量含む
4　暗褐色　10YR3/4　炭小粒少量含む　地山粘土小粒多量含む
5　褐色　10YR4/4　炭中粒少量含む　地山粘土大粒多量含む
6　黒褐色　10YR3/2　炭中粒中量含む　地山粘土小粒少量含む
7　暗褐色　7.5YR3/3　炭小粒中量含む　地山粘土中粒中量含む
8　褐色　7.5YR4/4　炭小粒少量含む　地山粘土中粒中量含む

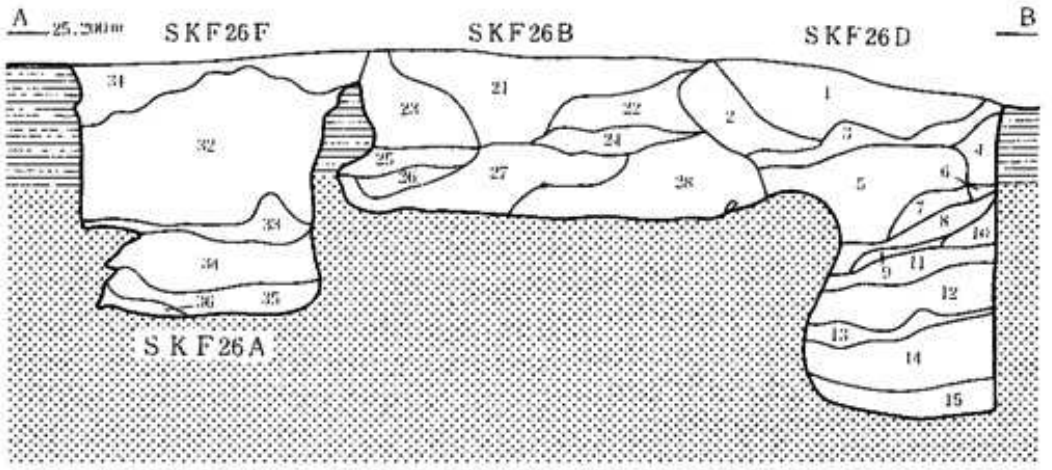


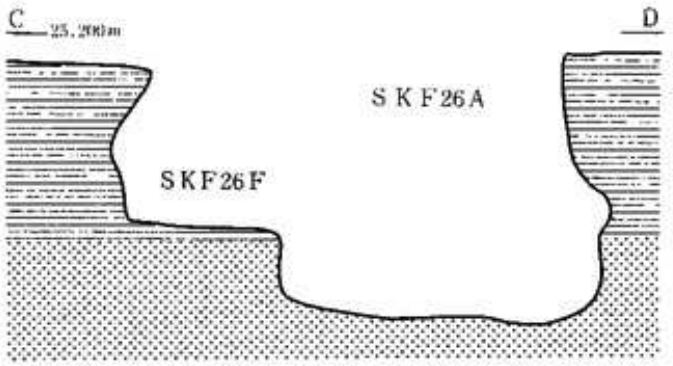
SK32
1　黒褐色　10YR2/3　締まり弱　地山粘土多量に含む
2　黄褐色　10YR5/8　地山粘土ブロック　1～3層とも炭化物少量含む
3　暗褐色　10YR3/4　堅く締まる　地山粘土と砂の混合か

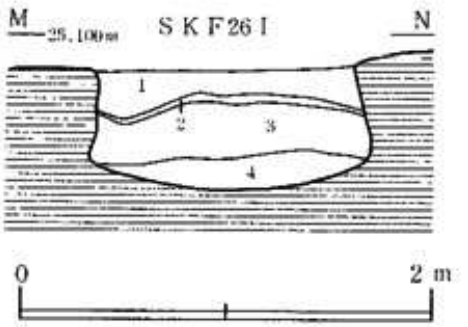
第23図　土坑（５－２）ＳＫＦ22Ａ・22Ｂ、ＳＫ29・30・32、ＳＫＩ23Ａ竪穴状遺構

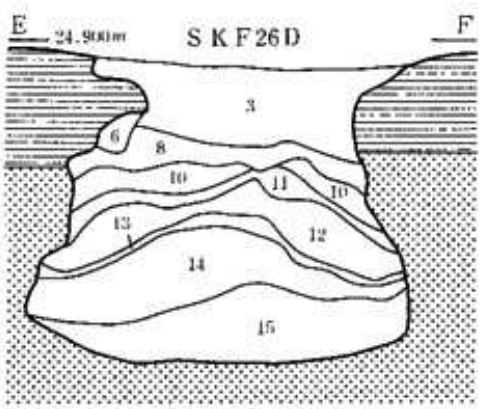


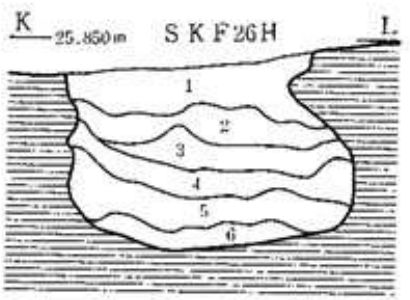
第24図　土坑（6－1）SKF25・22A・22B、SKF26A～I











SKF26A・B・D

1　黒褐色　2.5Y3/2　炭中粒中量含む　地山粘土中粒中量含む
2　黄褐色　10YR5/6　炭大粒少量含む　地山粘土
3　オリーブ褐色　2.5Y4/3　炭中粒少量含む　地山粘土大粒中量含む
4　褐色　10YR4/6　地山粘土大ブロック中量含む　ややしまる
5　黄褐色　10YR5/6　よくしまる　地山粘土
6　4と同じ
7　暗褐色　10YR3/4　炭小粒中量含む　地山砂少量含む
8　オリーブ褐色　7.5YR4/6　炭小粒中量含む　地山砂多量含む
9　7と同じ
10　褐色　10YR4/4　炭大粒少量含む　地山砂少量含む
11　褐色　10YR4/6　地山粘土大粒多量含む　地山砂少量含む
12　黄褐色　10YR5/6　ややしまる　地山粘土
13　暗褐色　10YR3/4　ややしまる　地山粘土大粒多量含む
14　黄褐色　10YR5/6　地山粘土
15　黒褐色　10YR2/3　炭大粒中量含む　地山粘土中粒中量含む
21　黒褐色　10YR2/3　炭中粒中量含む　地山粘土中粒中量含む
22　黒褐色　10YR3/2　炭中粒少量含む　地山砂大粒少量含む
23　暗褐色　10YR3/3　炭大粒少量含む　地山粘土大粒多量含む
24　オリーブ褐色　2.5Y4/6　炭大粒少量含む　地山砂多量含む
25　24と同じ
26　黄褐色　10YR5/6　炭中粒少量含む　地山粘土
27　黄褐色　10YR5/8　炭中粒少量含む　地山粘土
28　褐色　10YR4/4　炭大粒中量含む　地山粘土大粒少量含む
31　黒褐色　10YR2/3　炭中粒中量含む　地山粘土中粒中量含む
32　黄褐色　10YR5/6　よくしまる　地山粘土
33　暗褐色　10YR3/3　炭中粒中量含む　地山粘土大粒多量含む
34　黄褐色　10YR5/6　ややしまる
35　暗褐色　10YR3/4　炭中粒中量含む　地山粘土中粒中量含む
36　暗褐色　10YR3/4　炭中粒少量含む

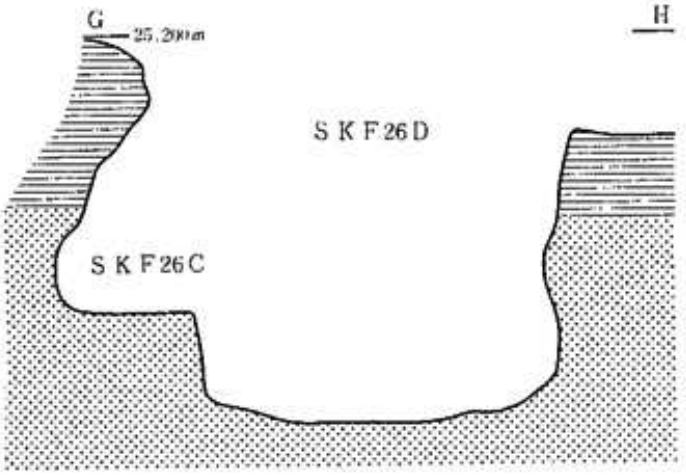
SKF26I

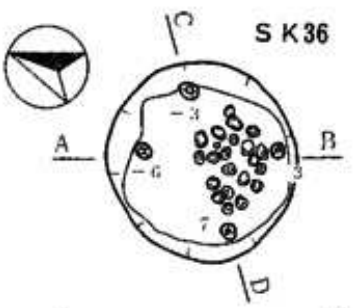
1　黄褐色　10YR5/6　ややしまる　地山粘土
2　暗褐色　10YR3/4　ややしまる　炭中粒少量含む
3　1と同じ
4　黒褐色　10YR2/3　炭中粒少量含む　地山粘土中粒少量含む

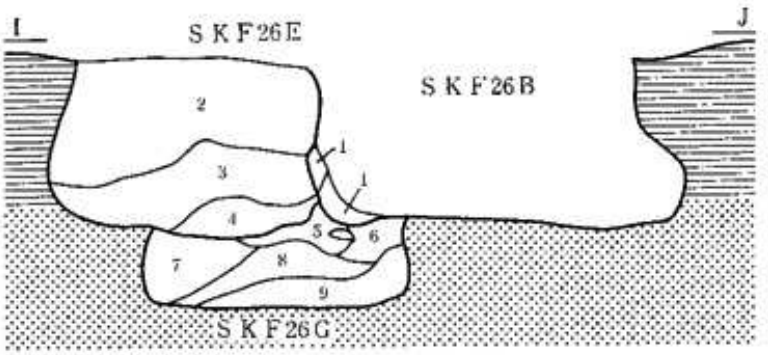
SKF26H

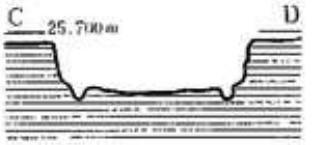
1　黒褐色　10YR2/2
2　オリーブ褐色　2.5Y4/6
3　暗褐色　10YR3/4
4　黒褐色　10YR2/2
5　褐色　10YR4/4　地山粘土小ブロック多量含む
6　暗褐色　10YR3/3

第25図　土坑（6－2）SKF26A・B・D・F・H・I



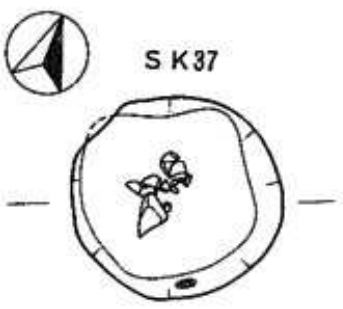




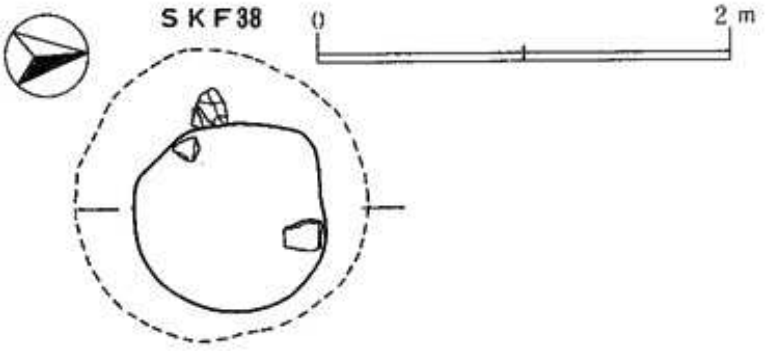


1　燕褐色　10YR2/2　炭化物やや多く含む　2層との境不明瞭
2　黒褐色　10YR3/2　南側に半拳大の礫10数個集中　炭化物少量含む

1　浅褐色　10YR5/6　ややしまる　地山粘土
2　明褐色　7.5YR5/8　よくしまる　地山粘土
3　褐色　10YR4/6　地山粘土　部分的に黒土少量含む
4　黒褐色　10YR2/3　ややしまる　地山粘土中粒多量含む
5　褐色　10YR4/6　ややしまる　地山粘土大粒多量含む
6　暗褐色　10YR3/4　地山粘土中粒中量含む　地山砂小ブロック少量含む
7　褐色　10YR4/4　地山粘土大粒多量含む
8　黒褐色　10YR2/2　ややしまる　地山粘土大粒少量含む
9　暗褐色　10YR3/3　砂多量含む　地山粘土中粒中量含む

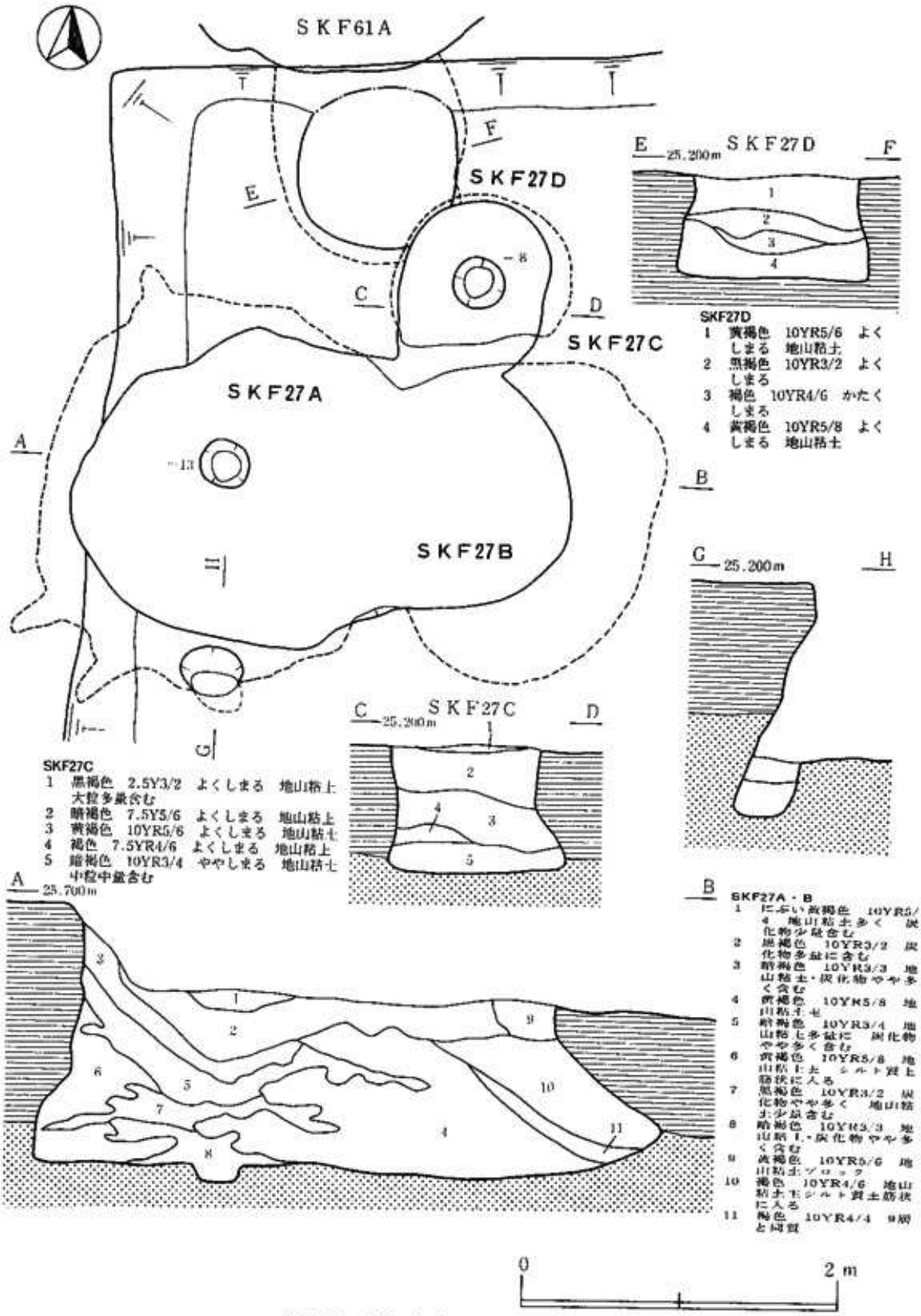


1　黒褐色　10YR2/2　2層との境不明瞭
2　暗褐色　10YR3/4　炭化物少量含む

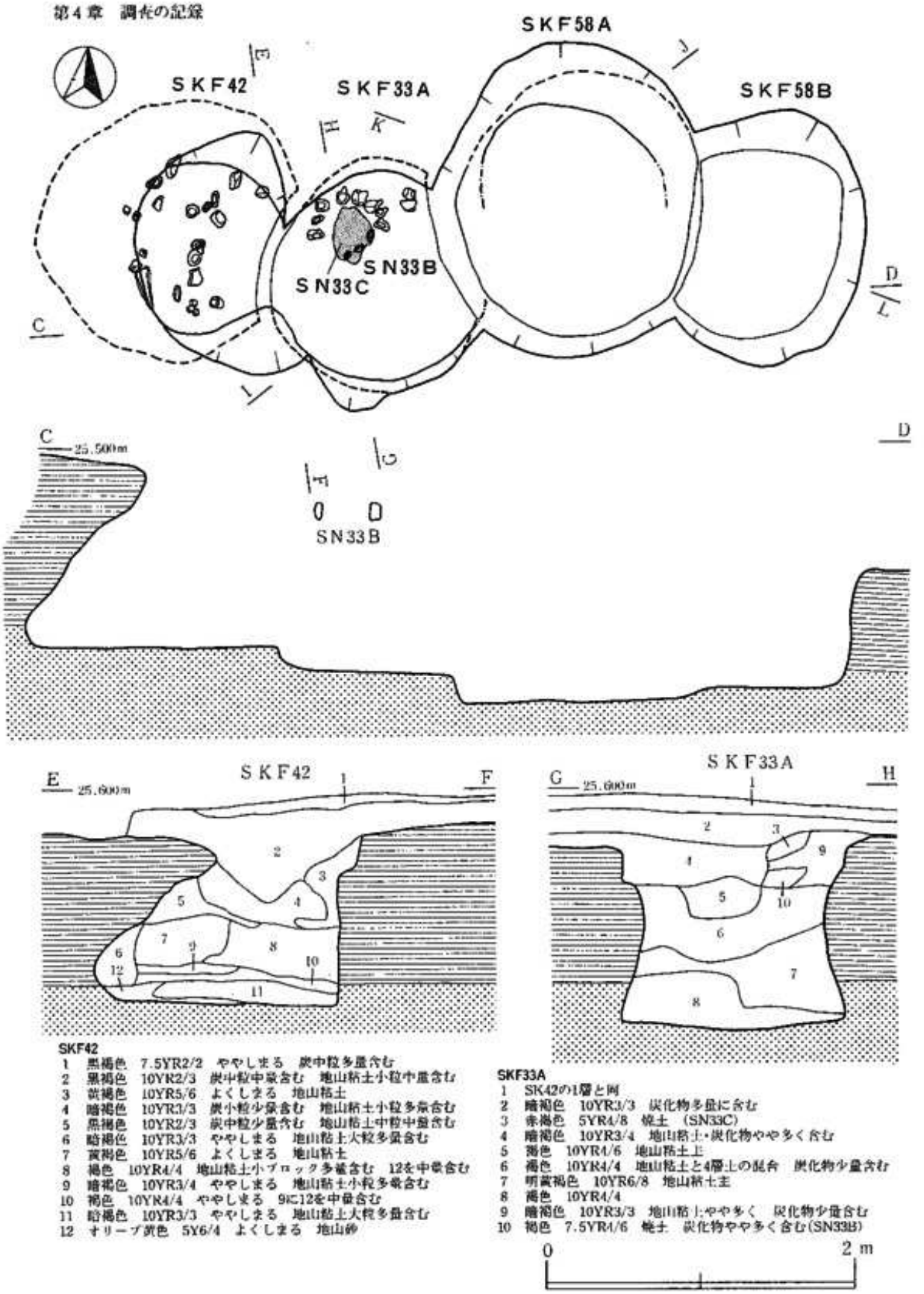


1　黒褐色　10YR2/3　炭化物やや多く含む
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多く含む
3　黒褐色　10YR3/1　締まり強　炭化物やや多く含む
4　黒褐色　10YR2/3　堅く締まる　炭化物やや多く含む

第26図　土坑（6－3）SKF26B～E・G、SK36・37、SKF38



第27図　土坑（７）ＳＫＦ27Ａ～Ｄ

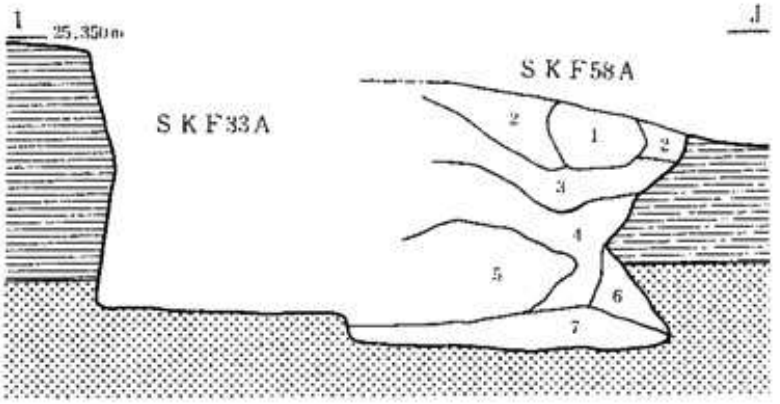


SKF42
1　黒褐色　7.5YR2/2　ややしまる　炭中粒多量含む
2　黒褐色　10YR2/3　炭中粒中量含む　地山粘土小粒中量含む
3　黄褐色　10YR5/6　よくしまる　地山粘土
4　暗褐色　10YR3/3　炭小粒少量含む　地山粘土小粒多量含む
5　黒褐色　10YR2/3　炭中粒少量含む　地山粘土中粒中量含む
6　暗褐色　10YR3/3　ややしまる　地山粘土大粒多量含む
7　黄褐色　10YR5/6　よくしまる　地山粘土
8　褐色　10YR4/4　地山粘土小ブロック多量含む　12を中量含む
9　暗褐色　10YR3/4　ややしまる　地山粘土小粒多量含む
10　褐色　10YR4/4　ややしまる　9に12を中量含む
11　暗褐色　10YR3/3　ややしまる　地山粘土大粒多量含む
12　オリーブ黄色　5Y6/4　よくしまる　地山砂

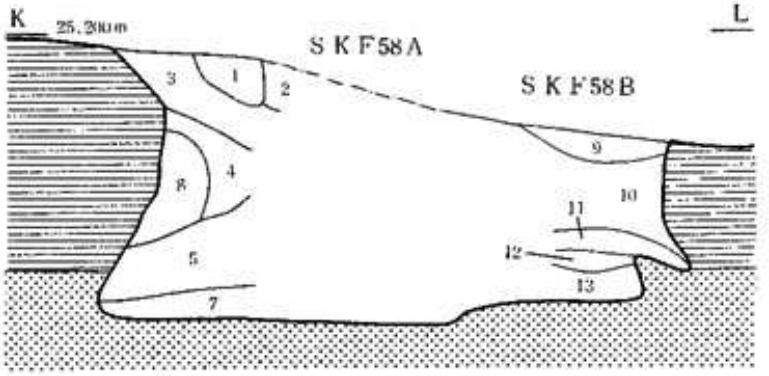
SKF33A
1　SK42の1層と同
2　暗褐色　10YR3/3　炭化物多量に含む
3　赤褐色　5YR4/8　焼土　(SN33C)
4　暗褐色　10YR3/4　地山粘土・炭化物やや多く含む
5　褐色　10YR4/6　地山粘土上
6　褐色　10YR4/4　地山粘土と4層土の混合　炭化物少量含む
7　明黄褐色　10YR6/8　地山粘土主
8　褐色　10YR4/4
9　暗褐色　10YR3/3　地山粘土やや多く　炭化物少量含む
10　褐色　7.5YR4/6　焼土　炭化物やや多く含む(SN33B)

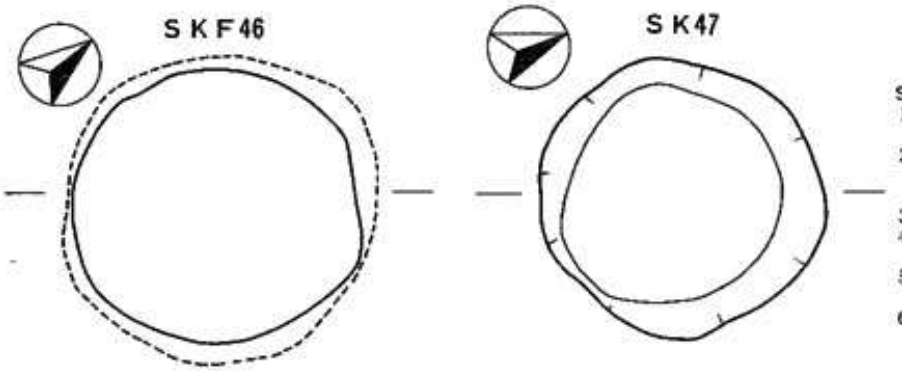
0　2 m

第28図　土坑（8－1）SKF33A・42・58A・58B、SN33B石囲炉

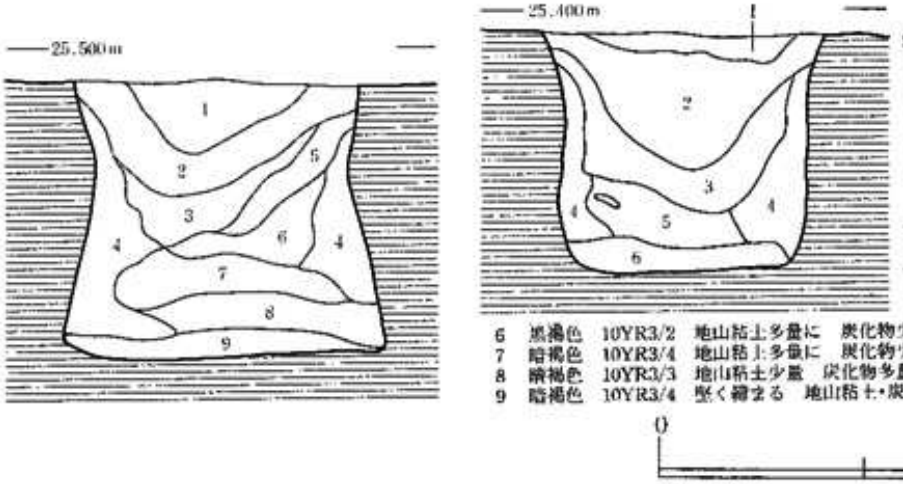


SKF58A・SKF58B
1　褐色　10YR4/6　地山粘土ブロック
2　暗褐色　10YR3/3　地山粘土多量に含む
3　黒褐色　10YR2/2　堅く締まる　地山粘土少量含む
4　黒褐色　10YR2/3　地山粘土・炭化物やや多く含む
5　明褐色　10YR5/8　地山粘土二次堆積
6　褐色　10YR4/6　地山粘土ブロック
7　褐色　10YR4/4
8　褐色　10YR4/4　地山粘土ブロック
9　褐色　10YR4/4
10　明黄褐色　10YR6/8　地山粘土二次堆積
11　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土・炭化物やや多く含む
12　褐色　10YR4/6　地山粘土多量に含む
13　暗褐色　10YR3/3　地山砂土





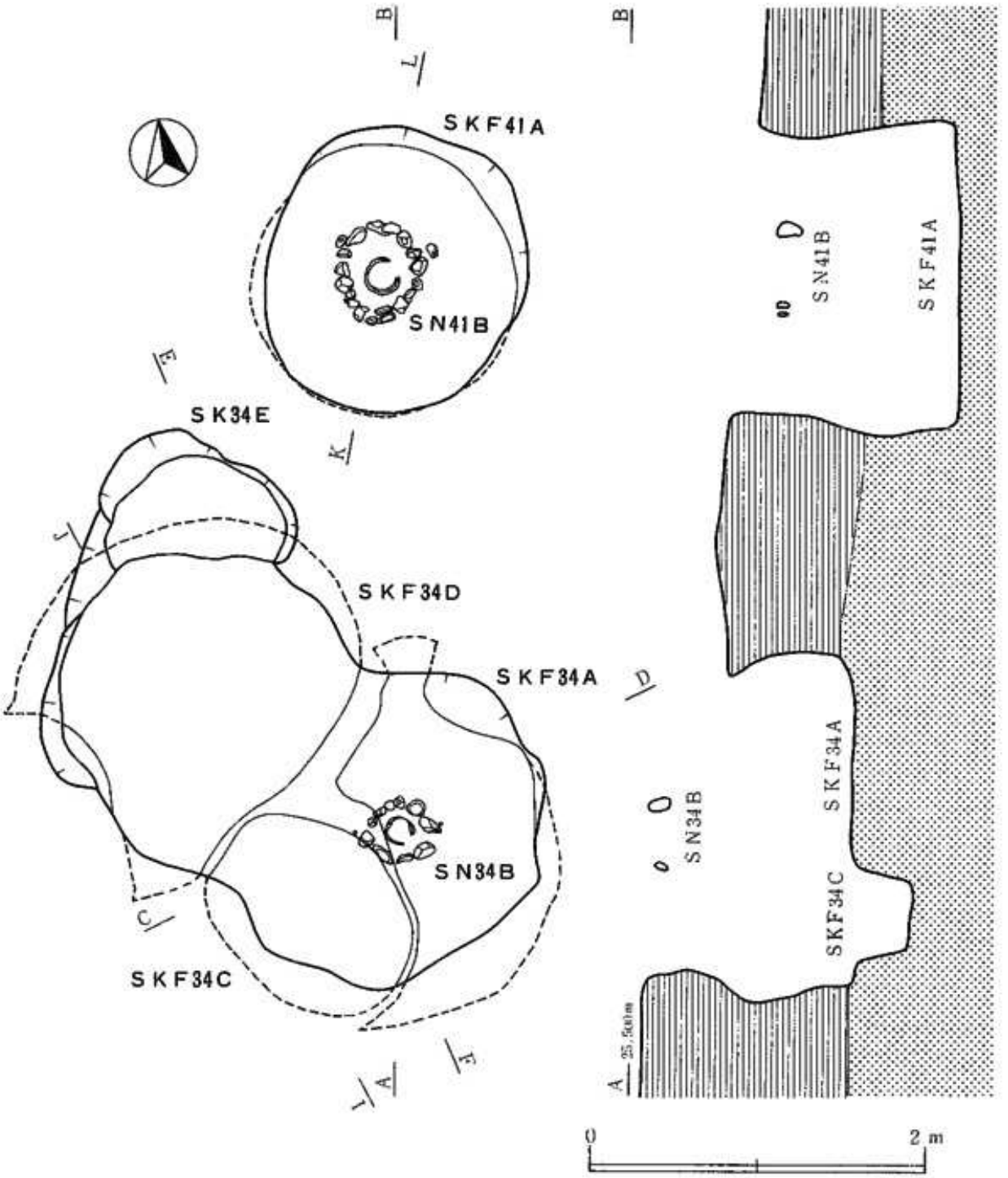
SK47
1　暗褐色　10YR3/3　地山粘土やや多く含む
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土やや多く　炭化物少量含む
3　黒褐色　10YR3/1
4　褐色　10YR4/6　地山粘土2次堆積
5　褐色　10YR4/4　地山粘土やや多く含む
6　黒褐色　10YR2/3



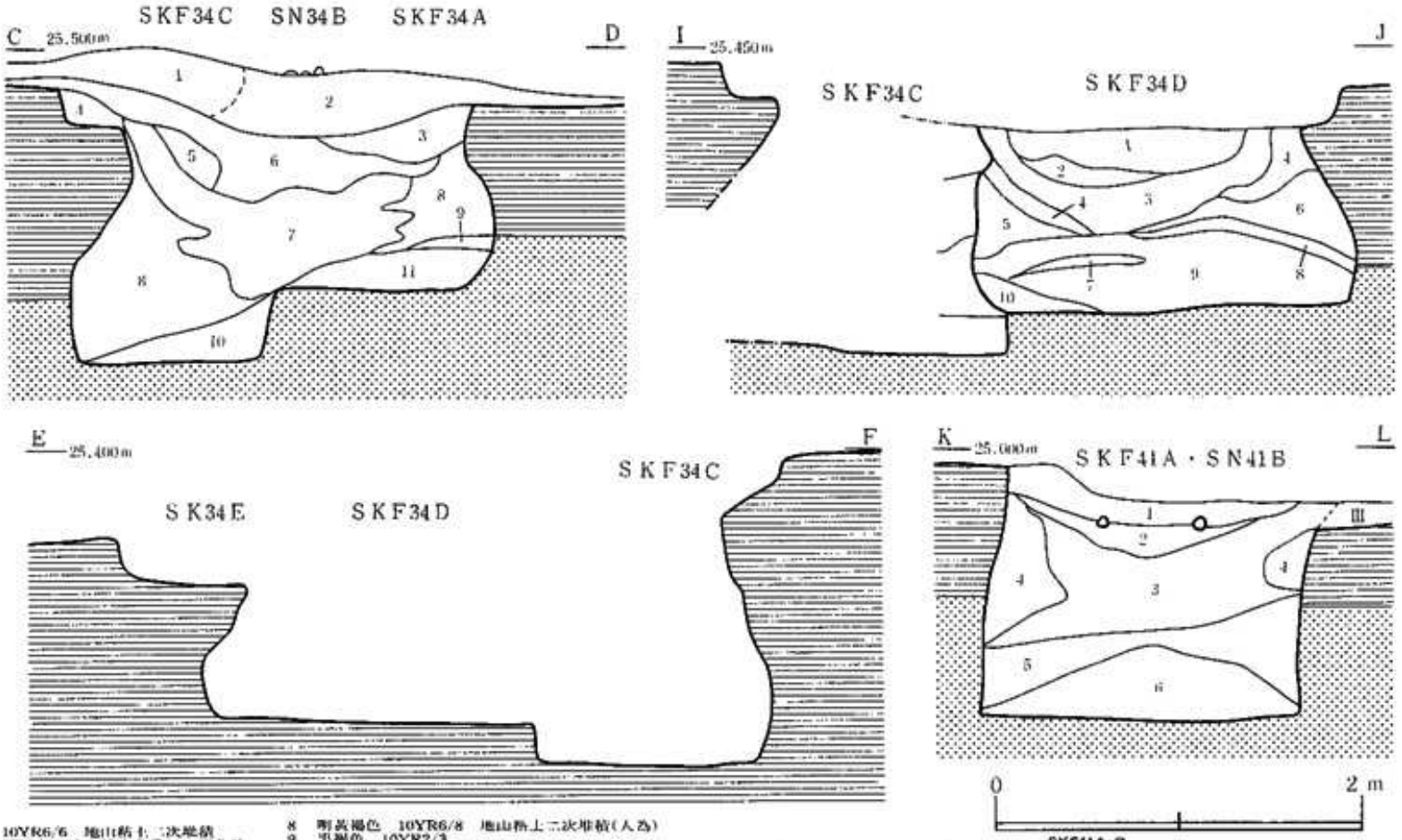
SKF46
1　暗褐色　10YR3/4　地山粘土やや多く　炭化物少量含む
2　暗褐色　10YR3/3　地山粘土多量に　炭化物やや多く含む
3　黒褐色　10YR3/2　1～8層締まりやや弱
4　褐色　10YR4/6　地山粘土多量に含む
5　黄褐色～褐色　10YR5/6～10YR4/6　地山粘土多量に含む
6　黒褐色　10YR3/2　地山粘土多量に　炭化物少量含む
7　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多量に　炭化物少量含む
8　暗褐色　10YR3/3　地山粘土少量　炭化物多量に含む
9　暗褐色　10YR3/4　堅く締まる　地山粘土・炭化物少量含む

0　2 m

第29図　土坑（8－2）SKF33A・58A・58B・46、SK47



第30図　土坑（9－1） SKF34A・C・D、SKF41A、SK34E、SN34B・41B 石囲炉



SKF34A・B・C

1　明黄褐色　10YR6/6　地山粘土二次堆積
2　暗褐色　10YR3/3　地山粘土多量に　炭化物やや多く含む
3　黒褐色　10YR3/2
4　褐色　10YR4/4　地山粘土・炭化物ややや多く含む
5　明黄褐色　10YR6/6　地山粘土ブロック
6　褐色　10YR4/6　地山粘土多量に含む
7　黒褐色　10YR3/2　炭化物ややや多く　地山粘土少量含む
8　明黄褐色　10YR6/8　地山粘土二次堆積(人為)
9　黒褐色　10YR2/3
10　オリーブ黄色　5Y6/4　砂層の二次堆積
11　にぶい黄色　10YR6/4　砂を少量含む

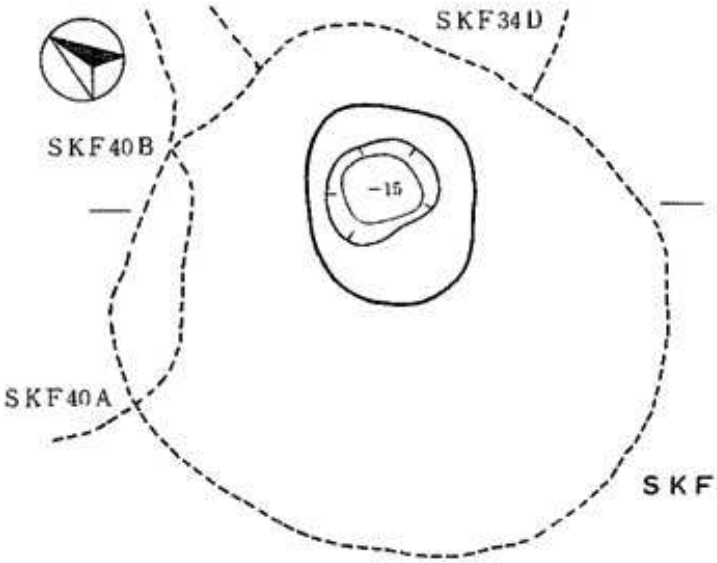
SKF34D

1　褐色　10YR4/4　地山粘土・砂多量に　炭化物少量含む
2　黄褐色　10YR5/6　地山粘土主
3　黒褐色　10YR3/2　地山粘土少量含む
4　褐色　10YR4/6　地山粘土主
5　暗褐色　10YR3/3　地山粘土・炭化物ややや多く含む
6　明黄褐色　10YR6/8　地山粘土二次堆積
7　にぶい黄褐色　10YR4/3　II層相当層・地山砂・粘土の混合　6・9層中に帯状に入る
8　黄褐色　10YR5/6　II層相当層多量混じる　地山粘土と砂の混合
9　黄褐色　10YR5/8　地山粘土と砂の混合
10　暗褐色　10YR3/4　軟く締まる　地山粘土は含まれない

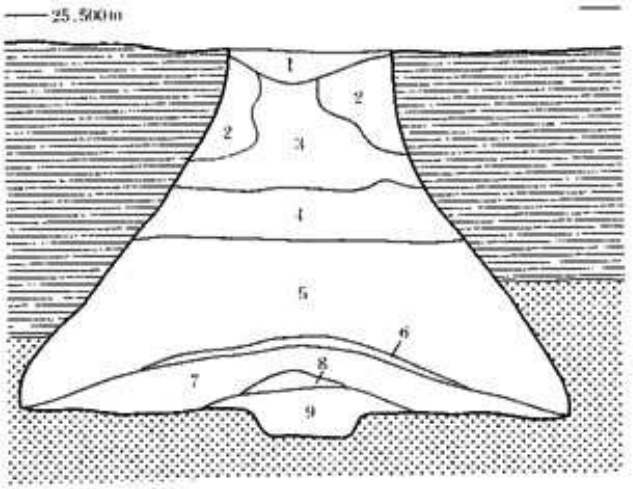
SKF41A・B

1　黒褐色　10YR3/2　炭化物ややや多く　焼土少量含む
2　褐色　10YR4/4　軟く締まる　人為的に埋めた層か
3　黒褐色　10YR3/2　地山粘土ややや多く　炭化物少量含む
4　褐色　10YR4/6　地山粘土主　地山がブロック状に崩落か
5　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土主
6　黒褐色　10YR3/2　地山粘土少量含む

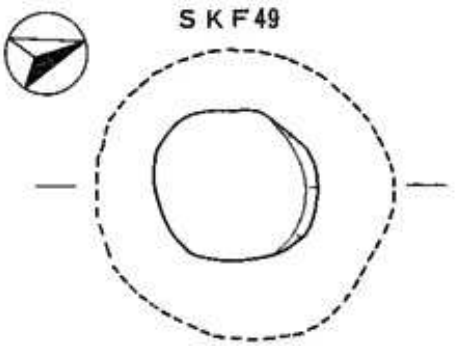
第31図　土坑（9－2）SKF34A・C・D、SKF41A、SK34E

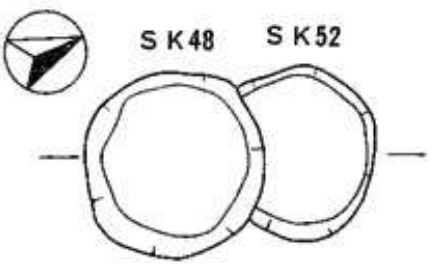


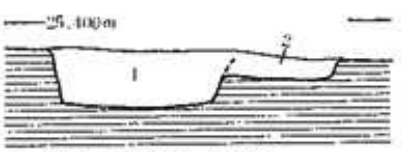
SKF39
1　暗褐色　10YR3/3　炭化物・地山粘土少量含む
2　褐色　10YR4/6　堅く締まる　地山粘土主
3　暗褐色　10YR3/4　地山粘土・炭化物やや多く含む
4　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土・砂多量に含む
5　黄褐色　10YR5/8　地山粘土二次堆積
6　褐色　10YR4/4　地山粘土とⅡ層土の混合　炭化物少量含む
7　黄褐色　10YR5/6　地山粘土二次堆積
8　暗褐色　10YR3/4　地山粘土とⅡ層土の混合
9　暗褐色　10YR3/3　地山粘土ごく少量含む



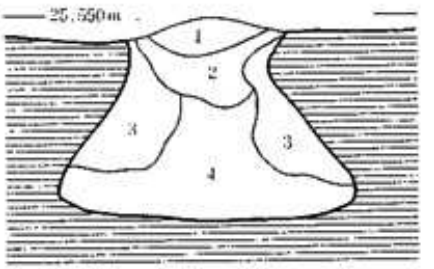
SKF49
1　黒褐色　10YR3/2　1～4層締まり全体に弱
2　黒褐色　10YR2/3
3　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多く含む
4　暗褐色　10YR3/3

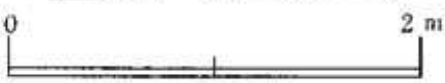




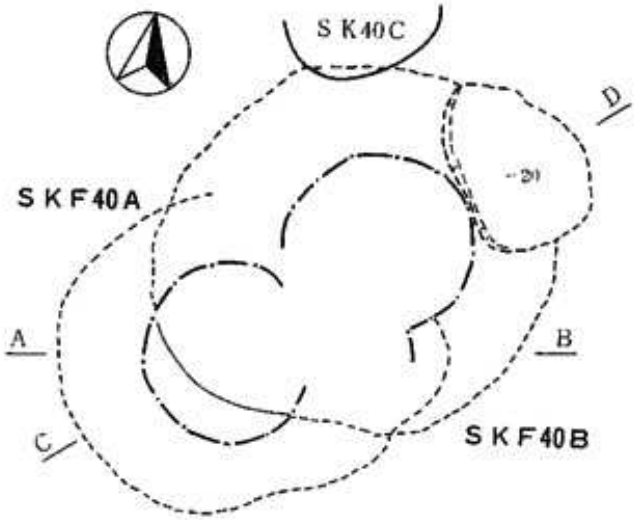


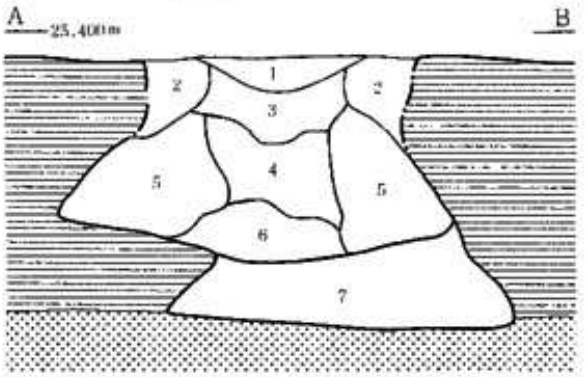
1　暗褐色　10YR3/3　炭少量
2　黒褐色　10YR3/2

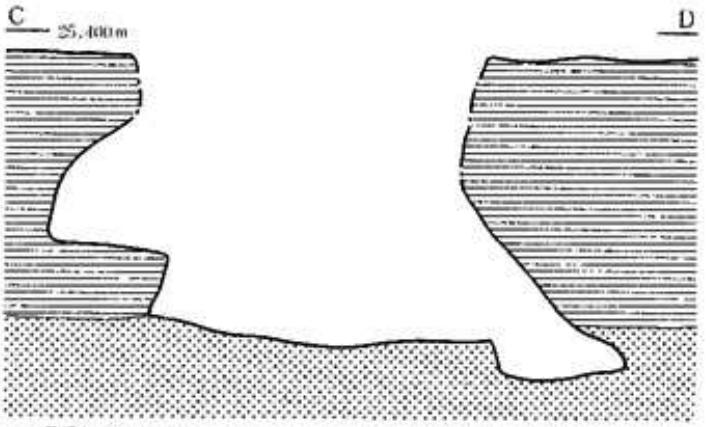




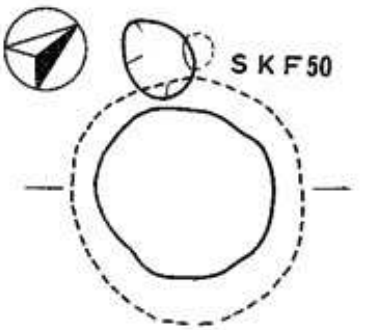
第32図　土坑（10）SKF39・49、SK48・52

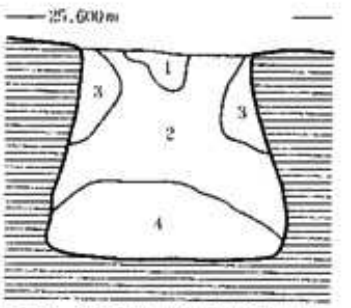




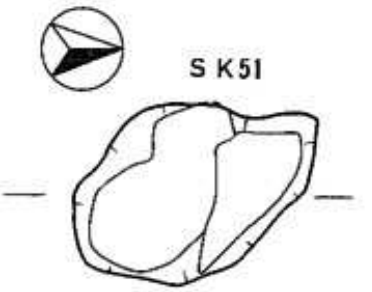


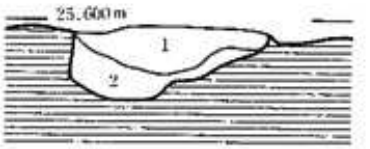
1　黒褐色　10YR3/2
2　褐色　10YR4/6　地山粘土2次堆積
3　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多く含む
4　黒褐色　10YR2/3　地山粘土・炭化物やや多く含む
5　褐色　10YR4/4　地山粘土多く含む　ボソボソ
6　黒褐色　10YR2/2　炭化物少量含む
7　黄褐色　10YR5/6　堅く締まる　地山粘土二次堆積





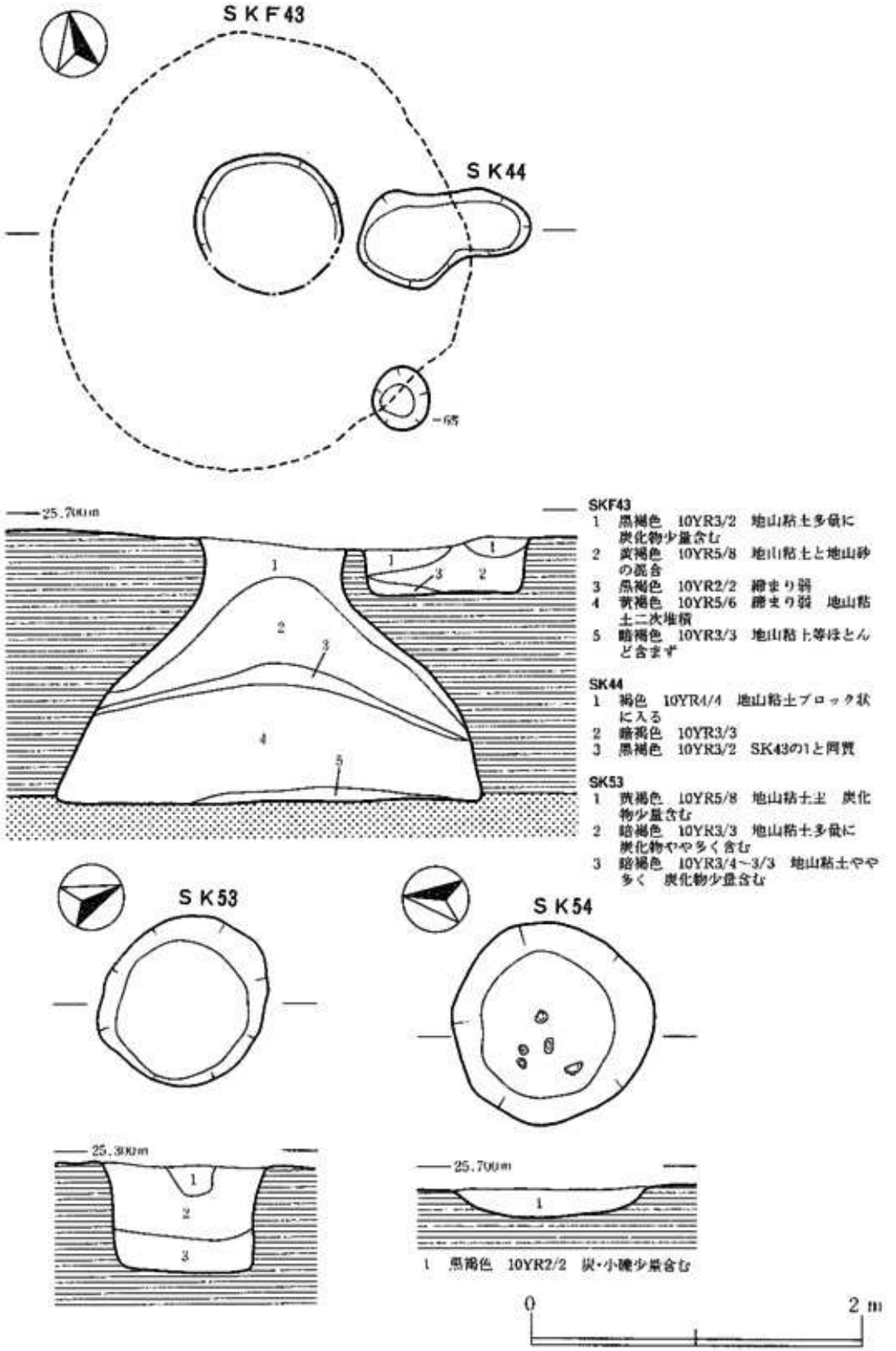
1　褐色　10YR4/4　地山粘土多量に含む
2　黒褐色　10YR2/3　地山粘土やや多く含む
3　褐色　10YR4/6　地山粘土多量に含む
4　黒褐色　10YR2/2　下位ほど堅く締まる



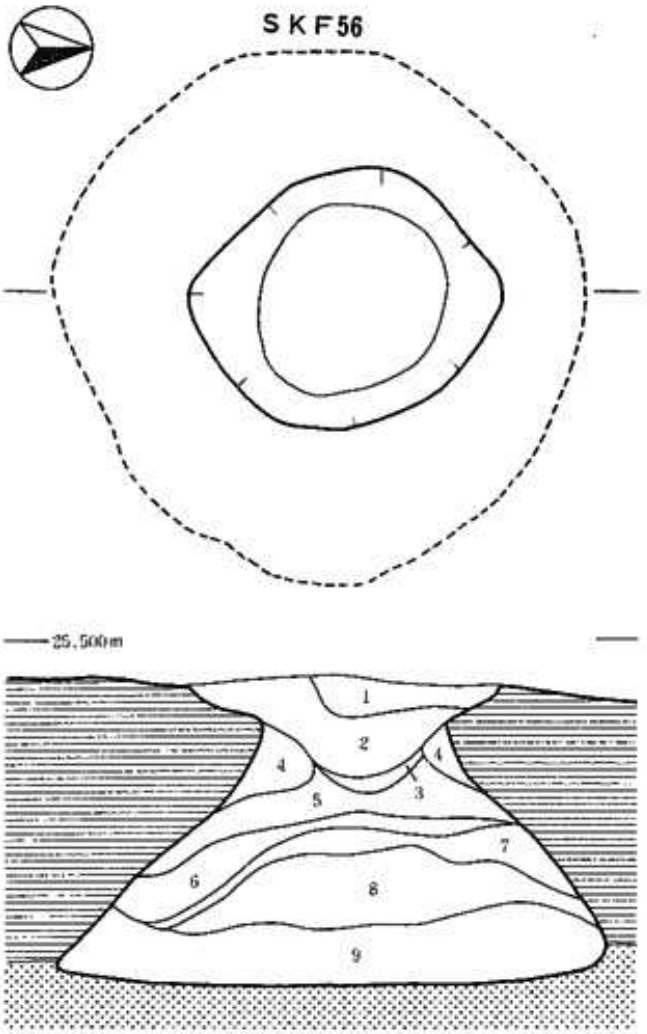


1　黒褐色　10YR2/3　炭化物少量含む
2　褐色　10YR4/4　1層土と地山粘土の混合

第33図　土坑（11）ＳＫＦ40Ａ・40Ｂ・50、ＳＫ51

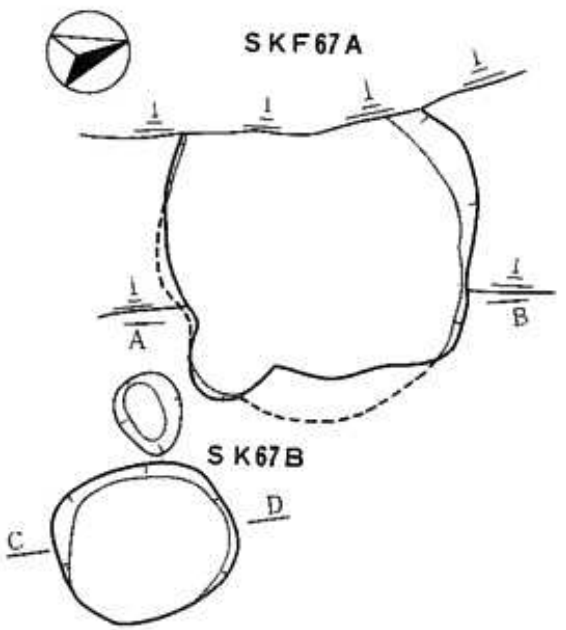


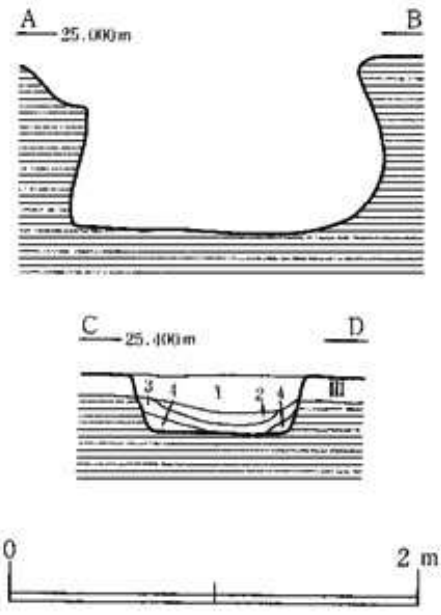
第34図　土坑（12）ＳＫＦ43、ＳＫ44・53・54



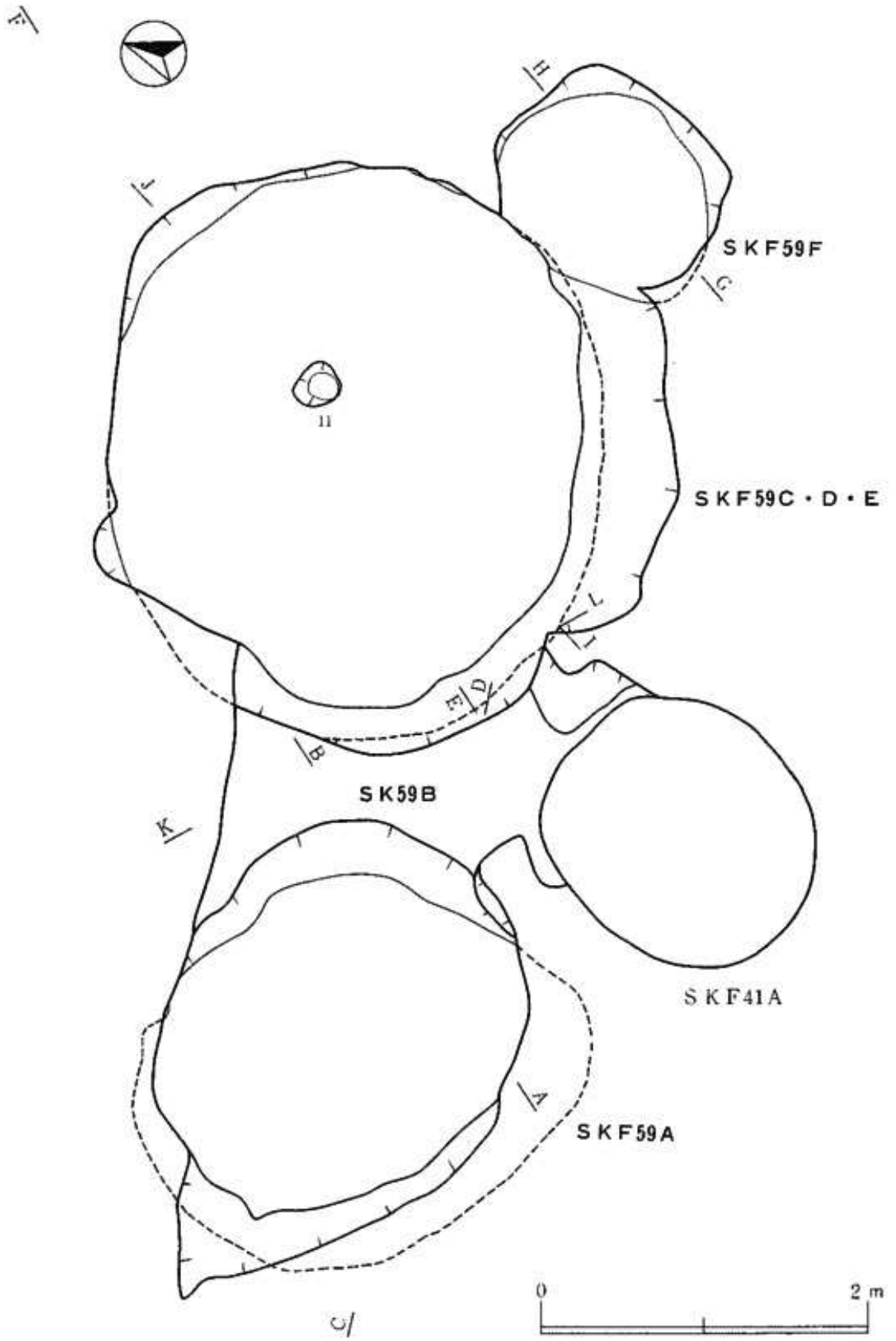
SKF56
1　暗褐色　10YR3/3　地山粘土少量含む
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土・炭化物多量に含む
3　黄褐色　10YR5/8　地山粘土主
4　黄褐色　10YR5/6　地山粘土多く含む　地山崩落土か
5　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土・砂・炭化物多量に含む
6　明黄褐色　10YR6/8　地山粘土主(3層と同質)
7　黒褐色　10YR2/3　地山粘土少量含む
8　オリーブ黄色　5Y6/4　地山砂二次堆積　人為か
9　黒褐色　10YR3/2　地山粘土・砂やや多く含む
3・6層以外締まり全体に弱

SK67B
1　黒色　10YR1.7/1　締まり弱　炭化物やや多く含む
2　黒褐色　10YR2/3
3　褐色　7.5YR4/4　締まり弱　焼土が帯状に入る
4　黒褐色　10YR3/1　締まり弱

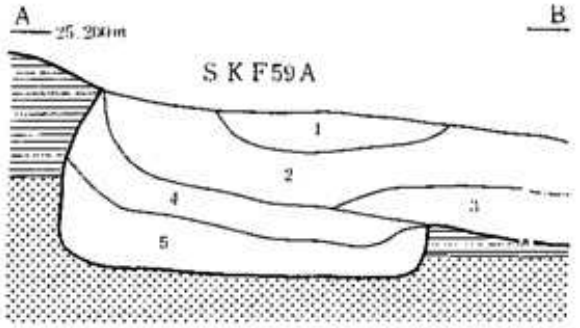




第35図　土坑（13）ＳＫＦ56・67Ａ、ＳＫ67Ｂ



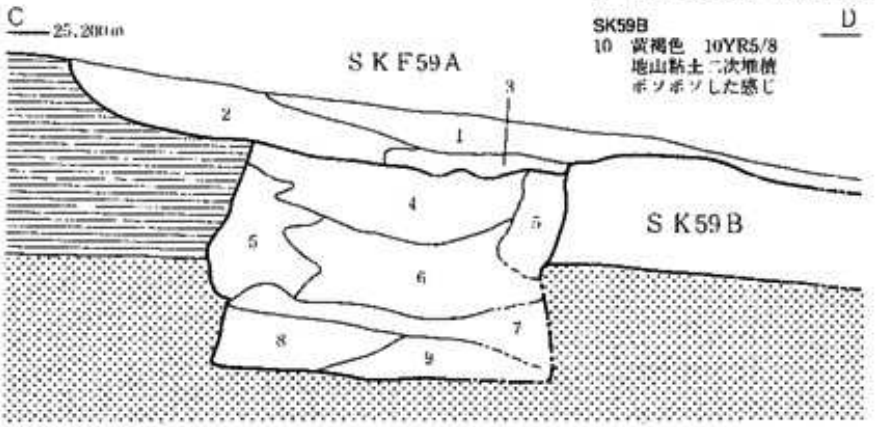
第36図　土坑（14－1）SKF59A・C～F、SK59B

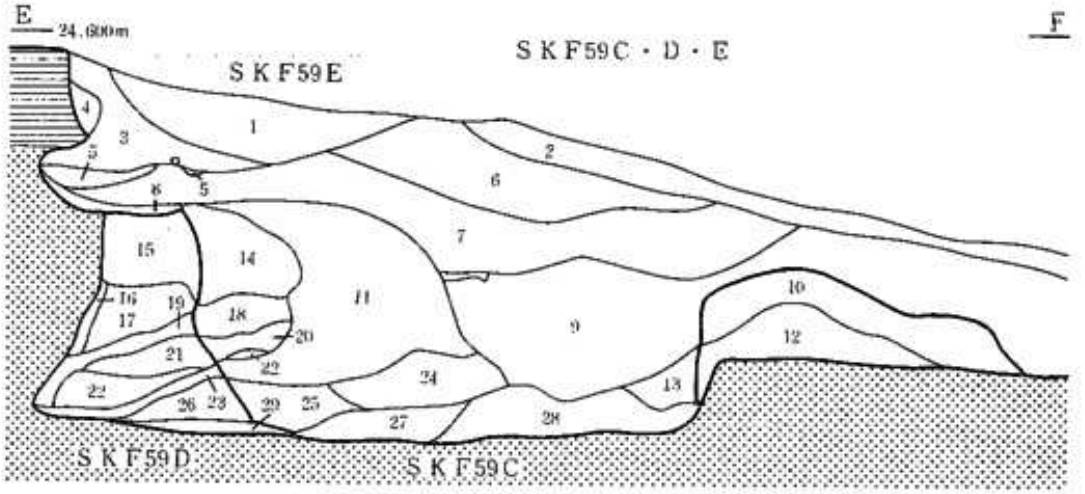


SKF59A
1　黄褐色　10YR5/6　地山粘土主
2　暗褐色　10YR3/3　II層相当層の二次堆積か　炭化物少量含む
3　黄褐色　10YR5/6　地山粘土主　炭化物少量含む
4　褐色　10YR4/4　堅く締まる　地山粘土多量に含む
5　黄褐色　10YR5/8　堅く締まる　地山粘土二次堆積

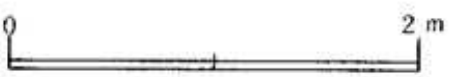
SKF59A
1　暗褐色　10YR3/3　地山粘土少量含む
2　黒褐色　10YR3/2　地山粘土ごく少量含む
3　褐色　10YR4/6　地山粘土主
4　黒褐色　10YR2/2　地山粘土やや多く含む
5　褐色　10YR4/4　地山粘土主　地山崩落土か
6　暗褐色　10YR3/3　地山粘土多量に　炭化物・礫少量含む
7　黄褐色　10YR5/8　地山粘土二次堆積
8　黄褐色　10YR5/6　地山粘土主　炭化物少量含む
9　褐色　10YR4/6　地山粘土主　7～9層人為堆積か

SK59B
10　黄褐色　10YR5/8　地山粘土二次堆積　ボソボソした感じ

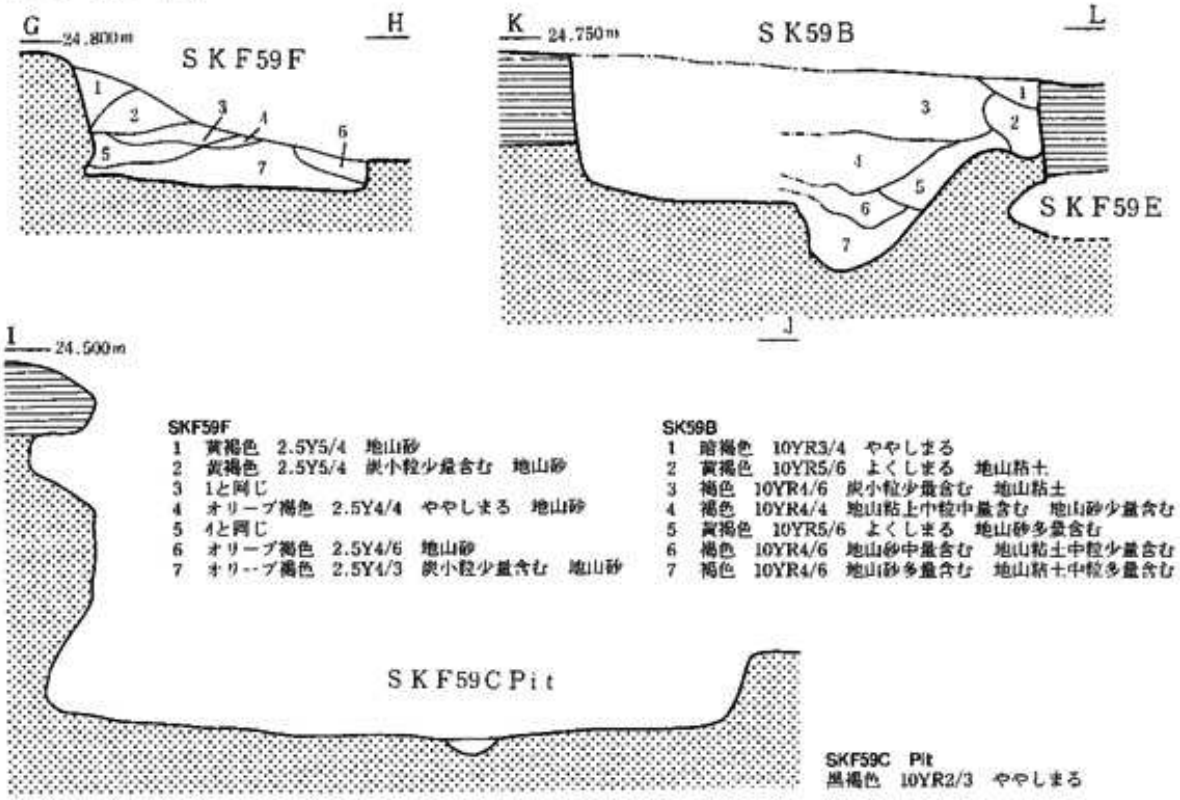


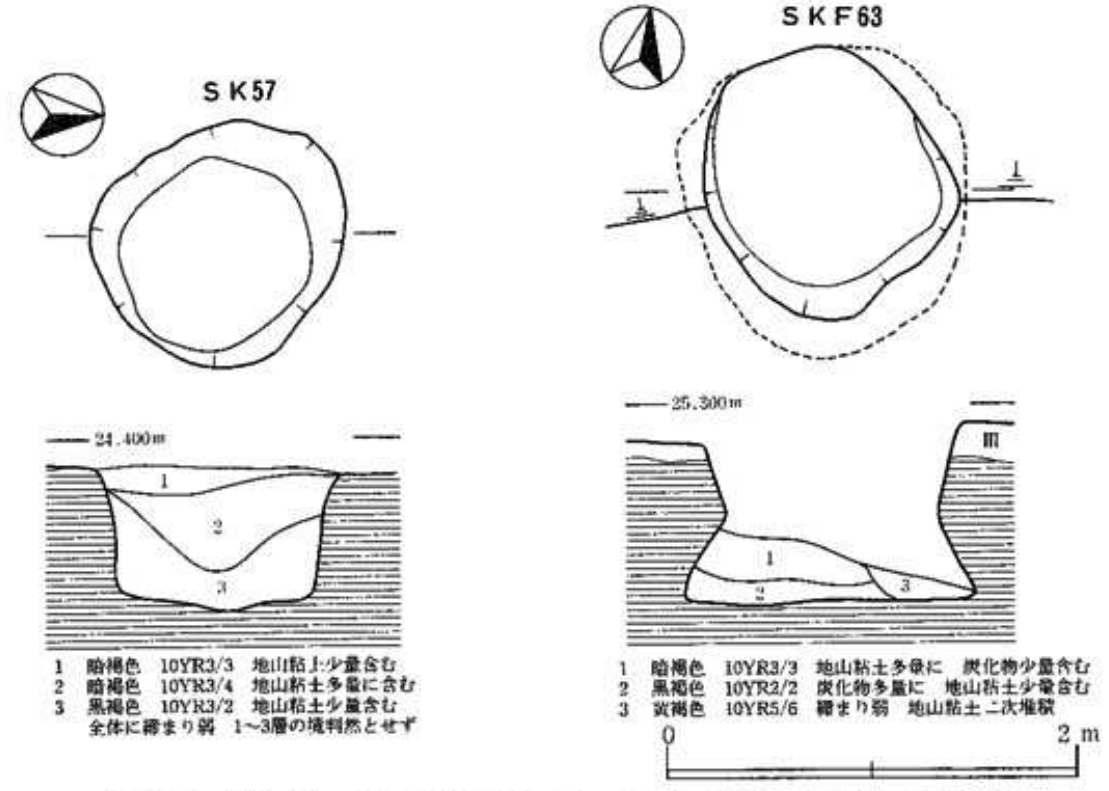


1　黒色　7.5YR1.7/1　炭土
2　黒色　10YR1.7/1　炭土
3　褐色　7.5YR2/1　炭小粒少量含む　地山粘土大粒少量含む
4　黄褐色　10YR5/6　ややしまる　地山粘土
5　黄褐色　2.5Y5/4　ややゆるい　地山砂
6　黒色　10YR2/1　炭大粒中量含む　地山粘土中粒中量含む
7　黒褐色　10YR3/2　炭中粒中量含む　地山粘土小ブロック中量含む
8　5と同じ
9　黒褐色　10YR2/2　炭中粒中量含む　地山粘土大粒少量含む
10　暗褐色　10YR3/3　炭大粒少量含む　地山粘土大粒少量含む
11　黒褐色　10YR2/3　炭大粒中量含む　地山粘土大粒少量含む
12　15と同じ
13　黒褐色　10YR3/2　地山粘土大粒中量含む　地山砂少量含む
14　暗褐色　10YR3/4　炭中粒少量含む　地山粘土大粒中量含む
15　褐色　10YR4/6　炭中粒少量含む　地山粘土
16　5と同じ
17　灰褐色　10YR5/4　よくしまる　地山砂
18　黒褐色　7.5YR3/2　炭中粒中量含む　地山粘土中粒中量含む
19　黒褐色　10YR3/2　地山粘土中粒中量含む　地山砂中量含む
20　暗褐色　10YR3/3　炭中粒中量含む　地山粘土中粒多量含む
21　オリーブ褐色　2.5Y4/6　地山粘土大粒多量含む　地山砂少量含む
22　5と同じ
23　暗褐色　10YR3/4　地山粘土中粒中量含む　粘性あり
24　黒褐色　10YR2/2　炭大粒少量含む　地山粘土大粒中量含む
25　黒褐色　10YR2/3　地山粘土大粒中量含む　地山砂中量含む
26　黄褐色　2.5Y5/6　地山粘土大粒多量含む　地山砂多量含む
27　黒褐色　2.5Y3/2　よくしまる　地山粘土大粒多量含む
28　暗褐色　10YR3/3　よくしまる　地山粘土中ブロック多量含む
29　褐色　10YR4/6　ややゆるい　炭小粒少量含む

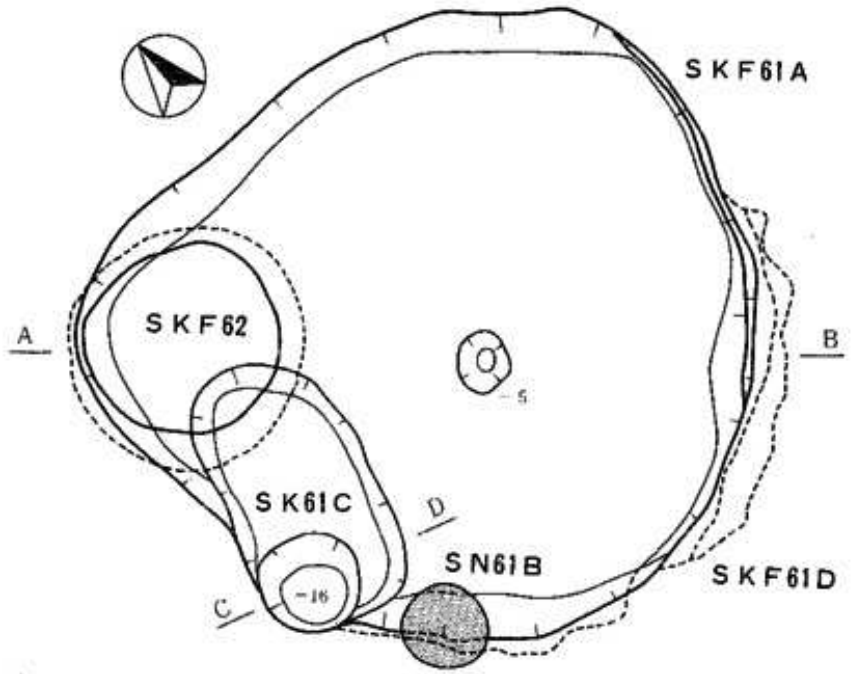


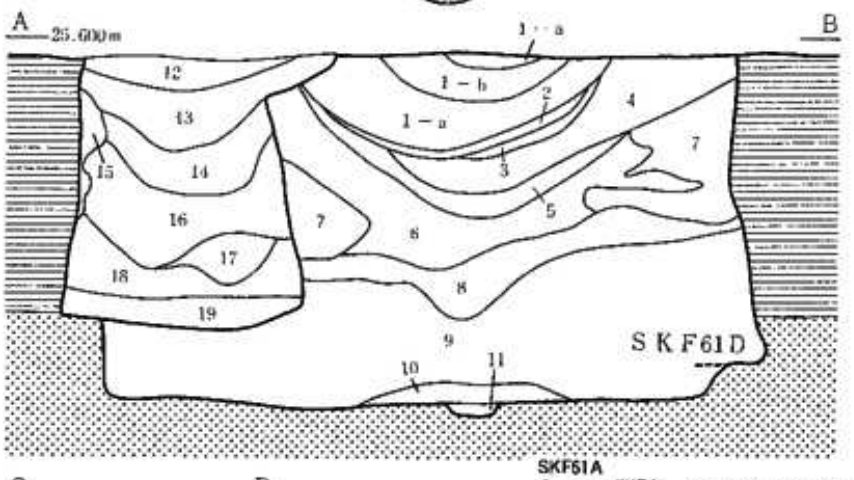
第37図　土坑（14－2）SKF59A・C～F、SK59B

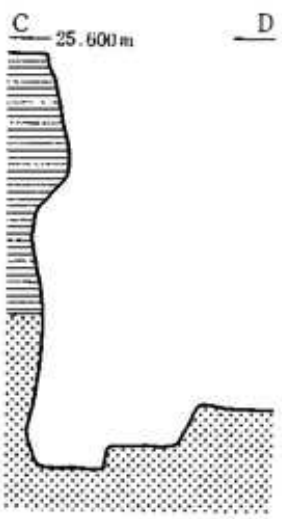




第38図　土坑（14－3）SKF59A・C～F、SK59B、SK57、SKF63





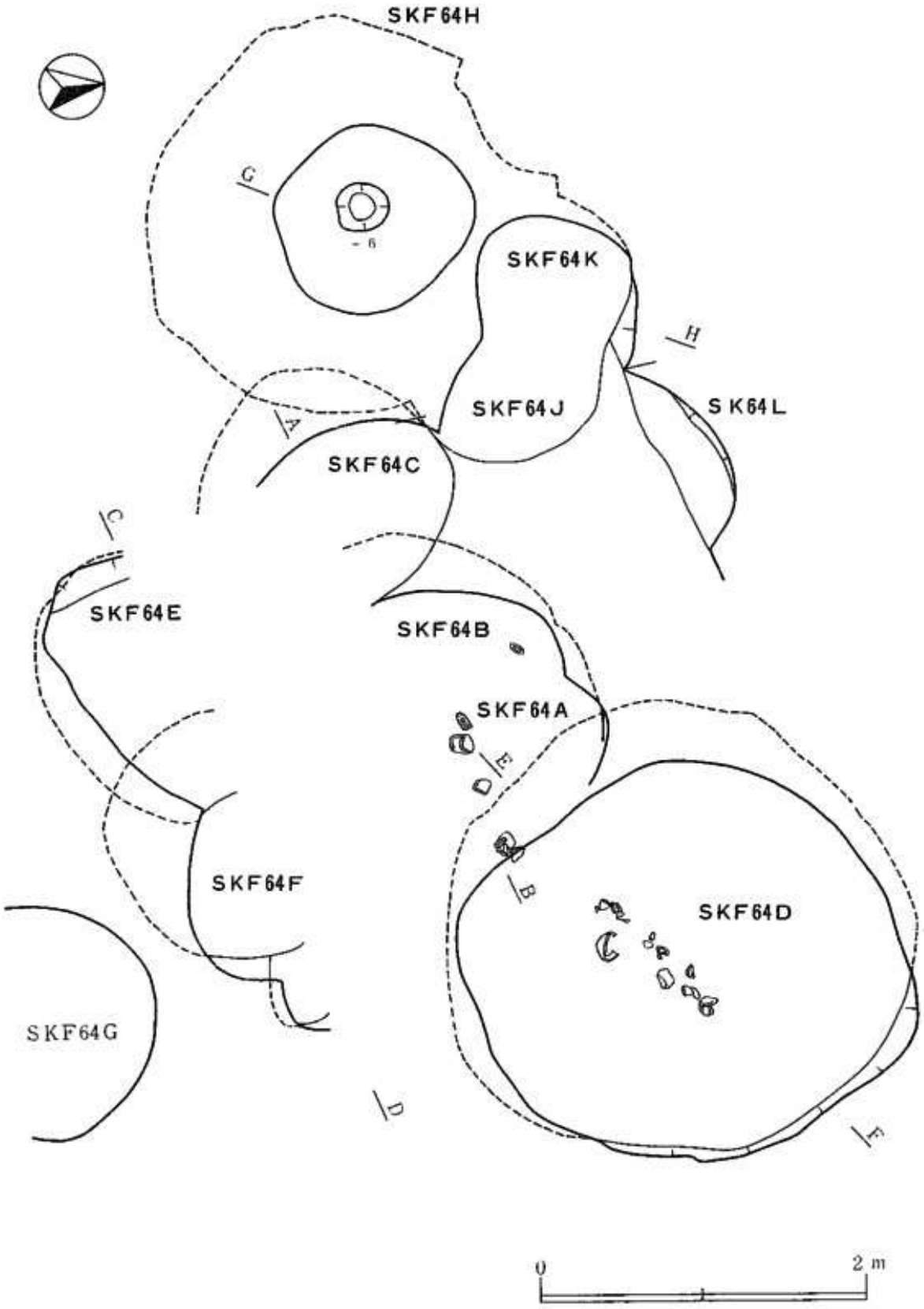


SKF61A
1－a　黄褐色　10YR5/8　地山粘上主　人為的
1－b　暗褐色　10YR3/3
2　黒褐色　10YR3/2　炭化物帯状に入る
3　黒褐色　10YR3/2　炭化物ごく少量含む
4　黒褐色　10YR2/3　地山粘上・炭化物少量含む
5　暗褐色　10YR3/3　地山粘土やや多く　炭化物少量含む
6　黒褐色　10YR2/2　地山粘土・炭化物少量含む　上層入る
7　褐色　10YR4/4　地山粘土多量に含む　地山崩落土か
8　にぶい黄褐色　10YR4/3　堅く締まる　地山粘上主
9　暗褐色　10YR3/4　堅く締まる　地山粘土多量に含む
10　暗褐色　10YR3/3　しまりやや弱　地山土ほとんど含まず
11　黒褐色　10YR2/2

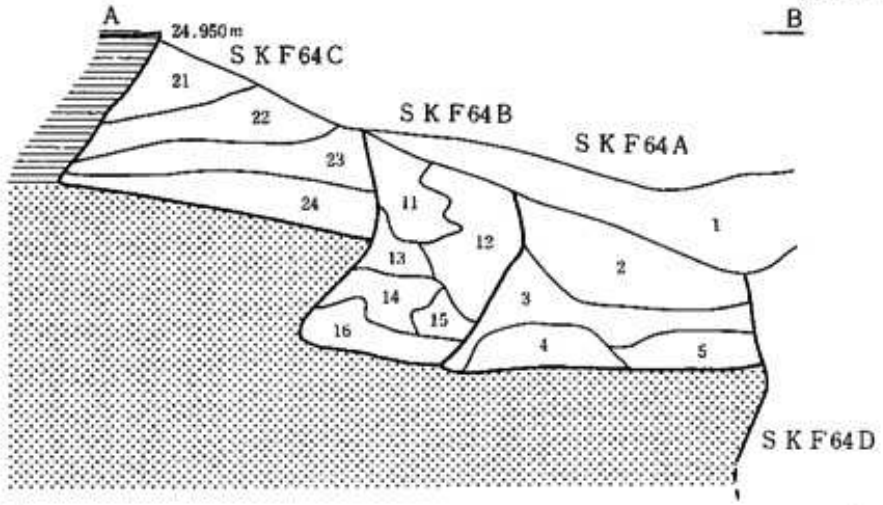
SKF62
12　黒褐色　10YR2/2　地山粘上・炭化物少量含む
13　黒褐色　10YR2/3　地山粘土少量(10層より多)含む
14　黒褐色　10YR3/2　地山粘土やや多く　地山砂少量含む
15　褐色　10YR4/4　地山粘土主　地山崩落土か
16　黒褐色　10YR2/2　地山粘土・炭化物やや多く含む
17　黒褐色　10YR3/1　地山粘土・砂少量含む
18　黒褐色　10YR3/2　地山粘土・砂やや多く含む
19　黄褐色　10YR5/8　地山粘土主　人為的に埋めた

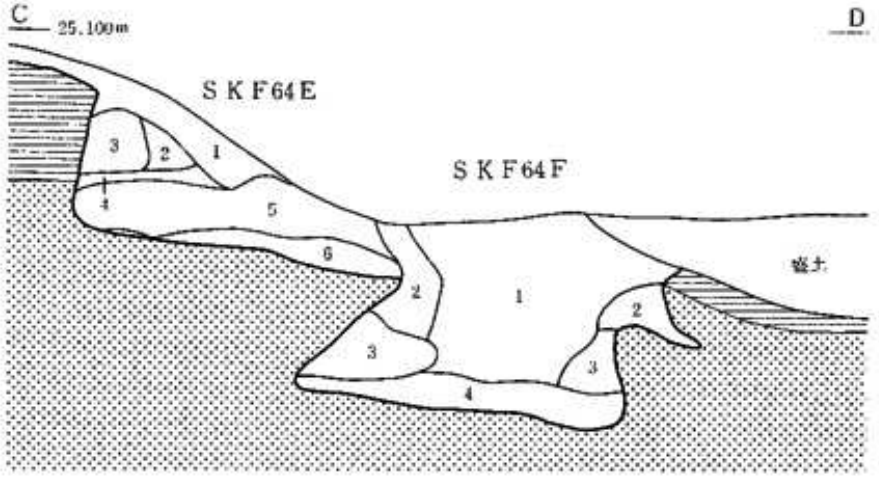
0　2 m

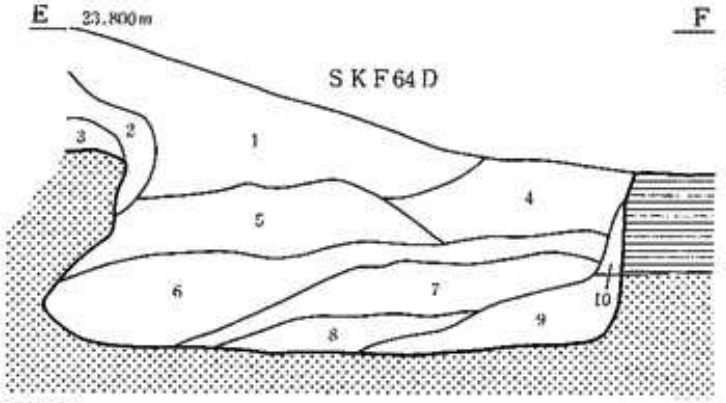
第39図　土坑（15）ＳＫＦ61Ａ・61Ｄ・62、ＳＫ61Ｃ、ＳＮ61Ｂ焼土遺構



第40図　土坑（16－1）SKF64A～F・H・J・K，SK64L







SKF64A
1　黒褐色　10YR2/3　地山粒土・炭化物少量含む
2　暗褐色　10YR3/3　地山粒土・炭化物・土器やや多く含む
3　黒褐色　10YR2/2　地山粒土・炭化物やや多く含む
4　黄褐色　10YR5/8　堅く締まる　地山粒土二次堆積
5　褐色　10YR4/4　地山粒土二次堆積

SKF64B
11　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山砂・粒土多量に含む
12　暗オリーブ褐色　2.5Y3/3　地　山砂・粒土・炭化物少量含む
13　黄褐色　10YR5/6　地山粒土二次堆積
14　暗褐色　10YR3/3
15　褐色　10YR4/6　地山二次堆積
16　オリーブ黄色　5Y6/3　地山砂二次堆積

SKF64C
21　黄褐色　10YR5/6　地山粒土二次堆積
22　オリーブ黄色　5Y6/3　堅く締まる　地山砂二次堆積
23　黄褐色　10YR5/8　地山粒土二次堆積
24　黒褐色　10YR2/3　地山土含まず

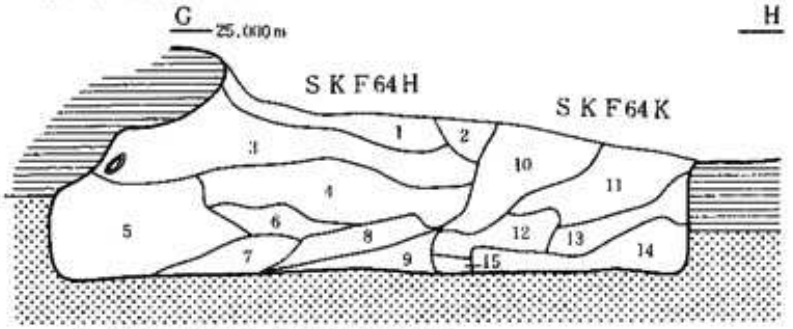
SKF64E
1　黒褐色　10YR3/2　地山粒土・炭化物少量含む
2　褐色　10YR4/6
3　明黄褐色　10YR6/8　地山粒土ブロック
4　暗褐色　10YR3/4　地山粒土やや多く含む
5　灰オリーブ　5Y5/3　地山砂二次堆積
6　暗褐色　10YR3/3　堅く締まる　炭化物少量含む

SKF64F
1　黒褐色　10YR3/2　地山粒土・炭化物やや多く含む
2　暗褐色　10YR3/3　地山粒土・炭化物やや多く（1層より多）　含む
3　暗褐色　10YR3/4　地山粒土・炭化物やや多く含む　地山砂多く含む
4　黒褐色　10YR2/2　地山粒土・炭化物少量含む　堅く締まる

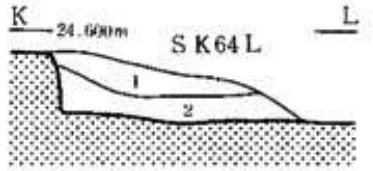
SKF64D
1　黒褐色　10YR2/3　炭中粒多量含む　地山粒土中粒中量含む
2　暗褐色　10YR3/3　炭小粒中量含む　地山粒土小粒多量含む
3　褐色　10YR4/4　よくしまる　地山粒土
4　黒褐色　10YR3/2　炭中粒少量含む　地山粒土中粒少量含む
5　黒褐色　10YR2/3　炭中粒中量含む　地山粒土小粒少量含む
6　暗褐色　10YR3/3　地山粒土大粒多量含む　地山砂中ブロック含む
7　褐色　10YR4/4　地山砂中ブロック少量含む　地山粒土大粒多量含む
8　褐色　10YR4/6　炭小粒少量含む　地山粒土
9　褐色　10YR4/4　地山砂少量含む　粘性あり
10　褐色　10YR4/6　地山砂少量含む　層位層か?

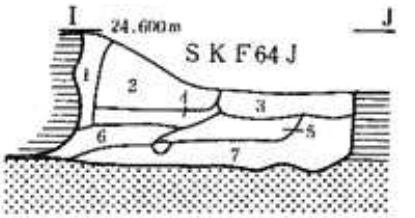
0　2m

第41図　土坑（16－2）SKF64A～F



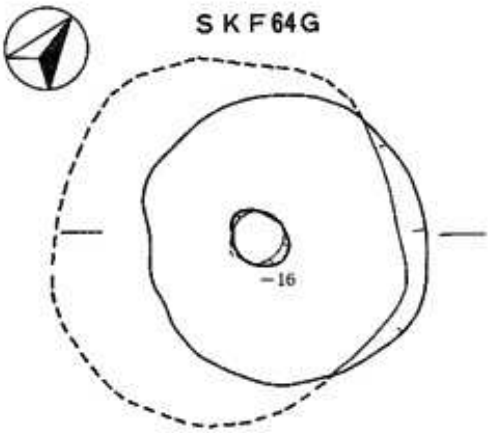
1　黄褐色　10YR5/6　よくしまる　地山粘土
2　褐色　10YR4/6　よくしまる　地山粘土大ブロック多量含む
3　褐色　10YR4/4　よくしまる　地山粘土大粒多量含む
4　黄褐色　10YR5/6　ややしまる　地山粘土ブロック
5　黒褐色　10YR3/2　炭中粒少量含む　地山粘土中粒中量含む
6　黒褐色　10YR3/2　地山粘土中粒多量含む　粘性あり
7　黒褐色　10YR2/3　炭小粒中量含む　地山小粒中量含む
8　暗褐色　10YR3/3　炭小粒中量含む　粘性あり
9　黒褐色　10YR3/2　炭小粒中量含む　地山粘土中粒多量含む
10　暗褐色　10YR3/4　炭大粒少量含む　地山粘土大粒多量含む
11　褐色　10YR4/4　よくしまる　粘性あり
12　暗褐色　10YR3/4　地山粘土中粒少量含む　粘性あり
13　黄褐色　2.5Y5/4　よくしまる　地山砂
14　黒褐色　2.5Y3/2　地山粘土小粒少量含む　粘性あり

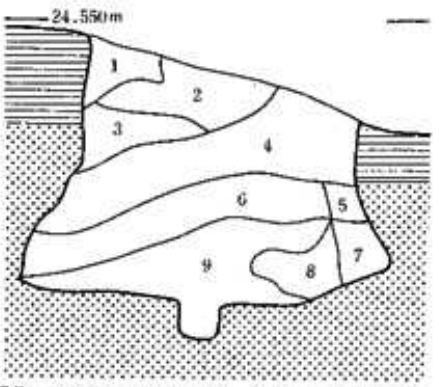




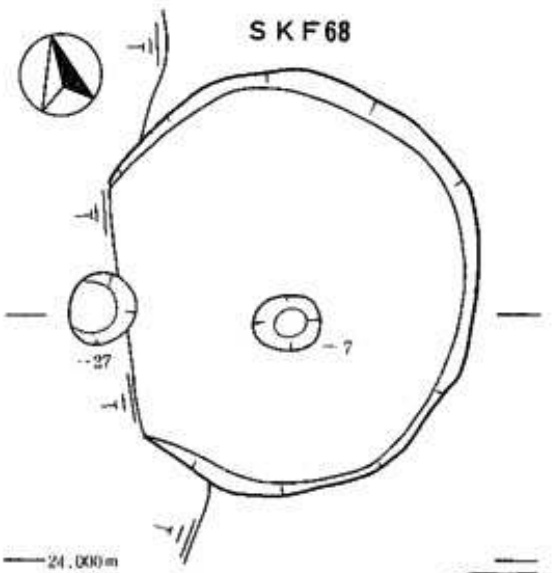
SK64L
1　暗褐色　10YR3/3　ややしまる　炭小粒中量含む
2　褐色　10YR4/4　よくしまる

SKF64J
1　黄褐色　2.5Y5/4　かたくしまる　粘土質地山砂
2　黄褐色　2.5Y5/4　粘土質地山砂　1の再堆積
3　暗褐色　10YR3/3　ややしまる　炭小粒中量含む
4　黄褐色　10YR5/6　ややしまる　地山砂
5　黒褐色　10YR2/3　ややしまる　炭小粒中量含む
6　暗褐色　10YR4/4　ややしまる　炭小粒中量含む
7　暗褐色　10YR4/4　ややしまる　地山砂少量含む



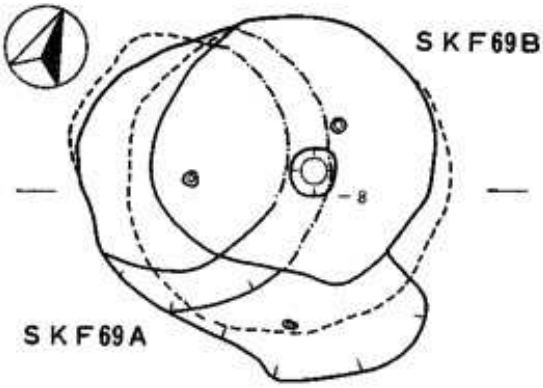


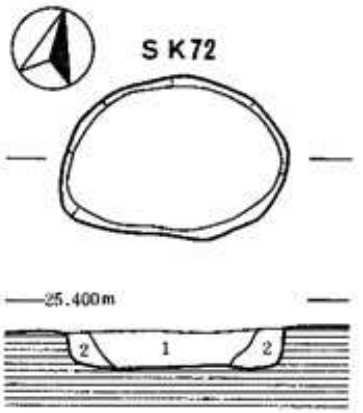
1　褐色　10YR4/4　ややしまる　地山粘土大粒多量含む
2　赤褐色　10YR5/6　よくしまる　地山粘土
3　褐色　10YR4/6　よくしまる　地山粘土大粒少量含む
4　黄褐色　10YR5/6　よくしまる　地山粘土
5　暗褐色　10YR3/4　地山粘土大粒中量含む　地山砂ブロック含む
6　暗褐色　10YR3/4　炭大粒少量含む　地山粘土大粒中量含む
7　地山粘土ブロック
8　褐色　10YR4/4　地山砂大粒中量含む　地山粘土大粒少量含む
9　黒褐色　10YR2/3　炭大粒中量含む　地山粘土小粒中量含む



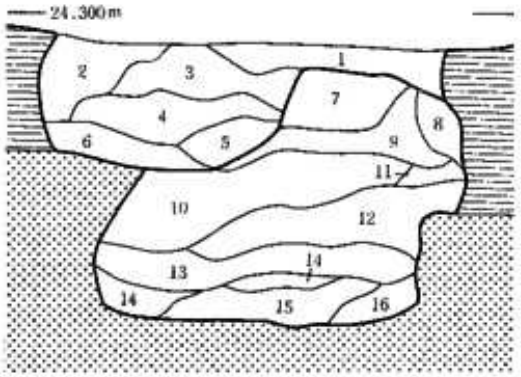
1　黄褐色　10YR5/6　締まり弱　地山粘土二次堆積(人為)
2　黒褐色　10YR3/2　地山粘土少量含む
3　黒褐色　10YR2/3

第42図　土坑（16－3）SKF64G・H・J・K、SK64L、SKF68





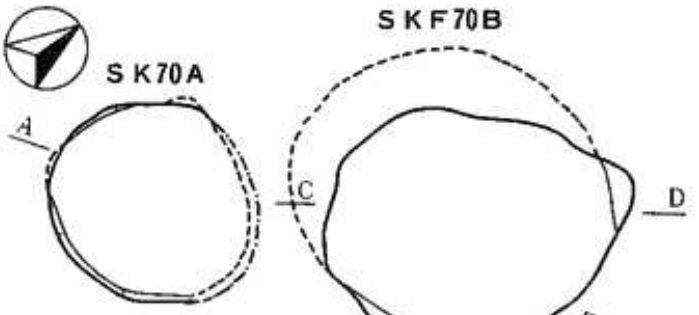
SK72
1　黒褐色　10YR2/3　炭化物・地山粘土少量含む
2　褐色　10YR4/6　地山粘土やや多く含む

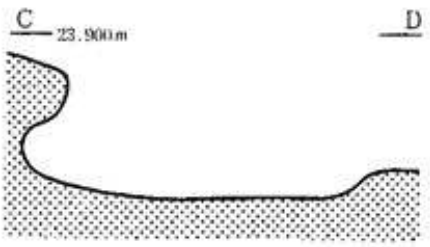


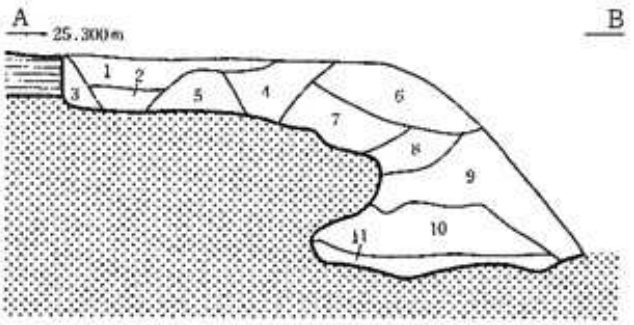
SK70A、SKF70B
1　黒褐色　10YR2/2　地山粘土中粒少量含む
2　黒褐色　10YR3/2　ややしまる　地山砂少量含む
3　暗褐色　10YR3/4　地山砂少量含む
4　黒褐色　10YR3/2　炭小粒中量含む　地山粘土小ブロック中量含む
5　黒褐色　10YR3/2　炭中粒中量含む　地山粘土中粒少量含む
6　褐色　10YR4/4　ややしまる　地山粘土小ブロック多量含む
7　黄褐色　10YR5/8　ややしまる　地山粘土
8　褐色　10YR4/6　ややしまる　地山粘土
9　暗褐色　10YR3/4　炭中粒少量含む　地山粘土大粒中量含む
10　黄褐色　2.5Y5/6　地山砂
11　暗褐色　10YR3/3　よくしまる　炭大粒少量含む

SKF69A
1　黒褐色　10YR2/2　地山粘土大粒中量含む
2　1と同じ
3　黒褐色　10YR3/2　炭中粒少量含む　地山粘土中粒中量含む
4　暗褐色　10YR3/3　炭中粒中量含む　地山粘土中粒中量含む
5　暗褐色　10YR3/4　地山粘土小ブロック中量含む　地山砂中量含む
6　暗褐色　10YR3/4　地山砂小ブロック中量含む　地山粘土小ブロック中量含む

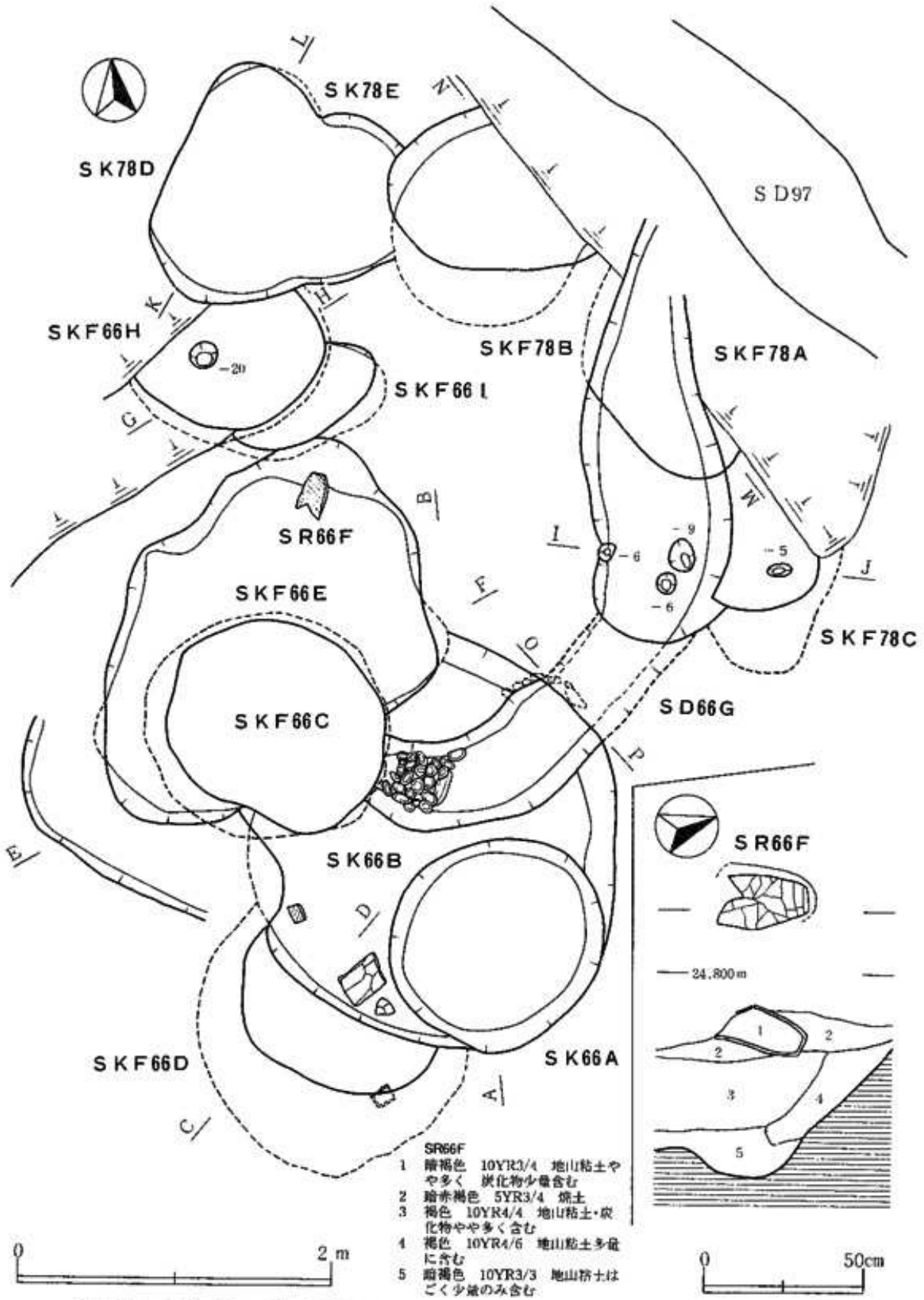
SKF69B
7　暗褐色　2.5Y5/6　地山砂　1・9を少量含む
8　褐色　10YR4/6　よくしまる　地山粘土
9　褐色　10YR4/4　ややしまる
10　オリーブ褐色　2.5Y4/6　よくしまる
11　褐色　10YR4/6　ややしまる　地山砂中量含む
12　褐色　10YR4/6　ややしまる　地山砂極少量含む
13　褐色　10YR4/6　ややしまる　粘性あり
14　暗褐色　10YR3/4　ややしまる　粘性あり
15　黒色　7.5YR2/1　よくしまる
16　黒色　7.5YR2/1　よくしまる　地山砂中量含む



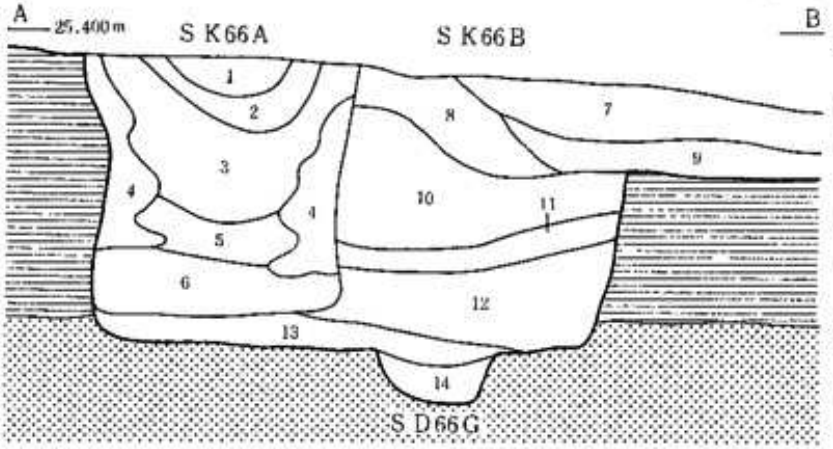




第43図　土坑（17）SKF69A・69B・70B、SK70A・72

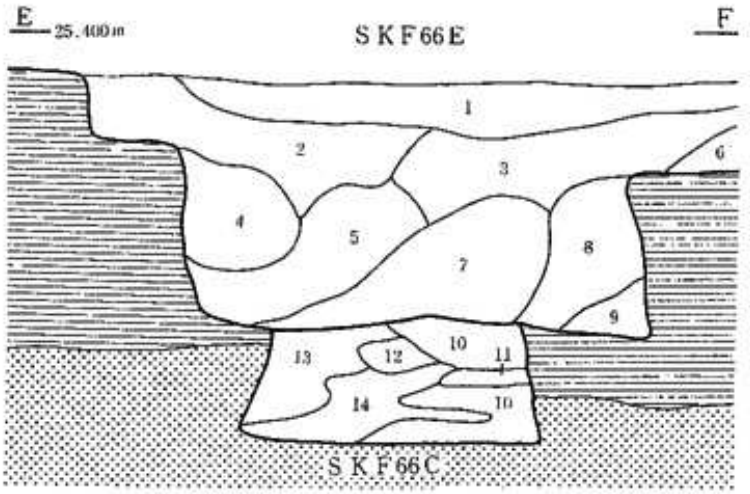


第44図　土坑（18－1） SK66A・B、SKF66C～E・H・I、SKF78A～C、SK78D・E、SR66F土器埋設遺構、SD66G溝状遺構



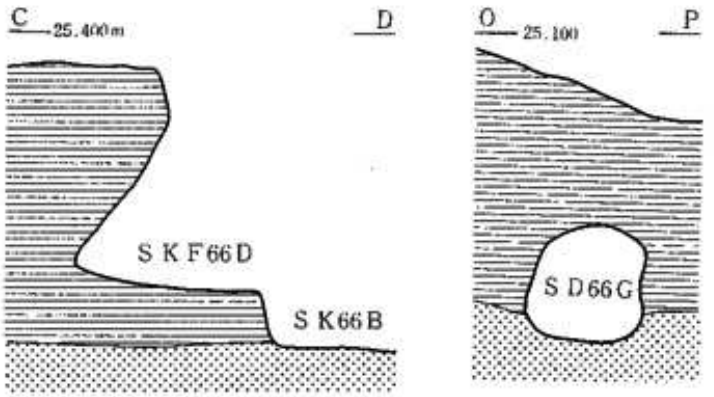
SK66A
1　黒褐色　10YR2/3　炭化物・地山粘土少量含む
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多量に含む
3　黒褐色　10YR3/2　地山粘土・炭化物やや多く含む　締まり弱
4　褐色　10YR4/4　地山粘土主　地山崩落土か
5　黒褐色　10YR2/2　地山粘土少量含む
6　黒褐色　10YR2/2　炭化物少量　地山粘土ごく少量含む

SK66B
7　黒褐色　10YR2/2　地山粘土・炭化物少量含む
8　暗褐色　10YR3/3　地山粘土やや多く　炭化物少量含む
9　黒褐色　10YR2/3　地山粘土やや多く(2層より少)含む
10　黄褐色　10YR5/8　堅く締まる　地山粘土二次堆積
11　明褐色　10YR3/4　地山粘土やや多く　炭化物少量含む
12　黄褐色　2.5Y5/4　地山砂主で地山粘土やや多く含む
13　黄褐色　10YR5/6　地山粘土主で砂・炭化物少量含む　堅く締まる
14　黄褐色　10YR5/8　6層より堅く締まる　(SD66G)　地山粘土主

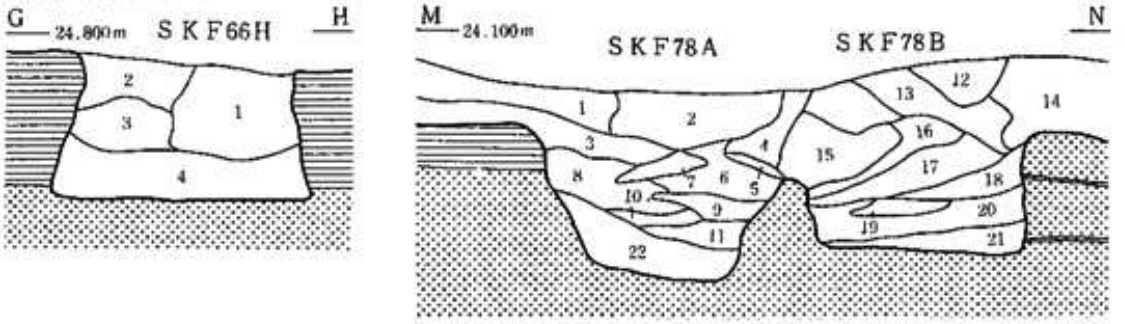


SKF66E
1　暗褐色　10YR3/3　地山粘土やや多く含む
2　黒褐色　10YR3/2　地山粘土やや多く(1層よりやや少)含む
3　黒褐色　10YR2/3　地山粘土少量含む　2～6層炭化物やや多く含む
4　褐色　10YR4/4　地山粘土多量に含む
5　黒褐色　10YR2/3　地山粘土やや多く含む
6　黄褐色　10YR5/6　地山粘土主　炭化物少量含む
7　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土やや多く(5層よりやや多)含む
8　黄褐色　10YR5/8　堅くしまる
9　黄褐色　2.5Y5/4　地山砂主

SKF66C
10　黄褐色　10YR5/8　地山粘土二次堆積
11　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土と地山砂の混合
12　黄褐色　2.5Y5/4　地山砂主で地山粘土少量含む
13　褐色　10YR4/6　地山粘土主
14　暗褐色　10YR3/3　地山粘土やや多く炭化物少量含む



第45図　土坑（18－2）SK66A・B、SKF66C～E、SD66G溝状遺構



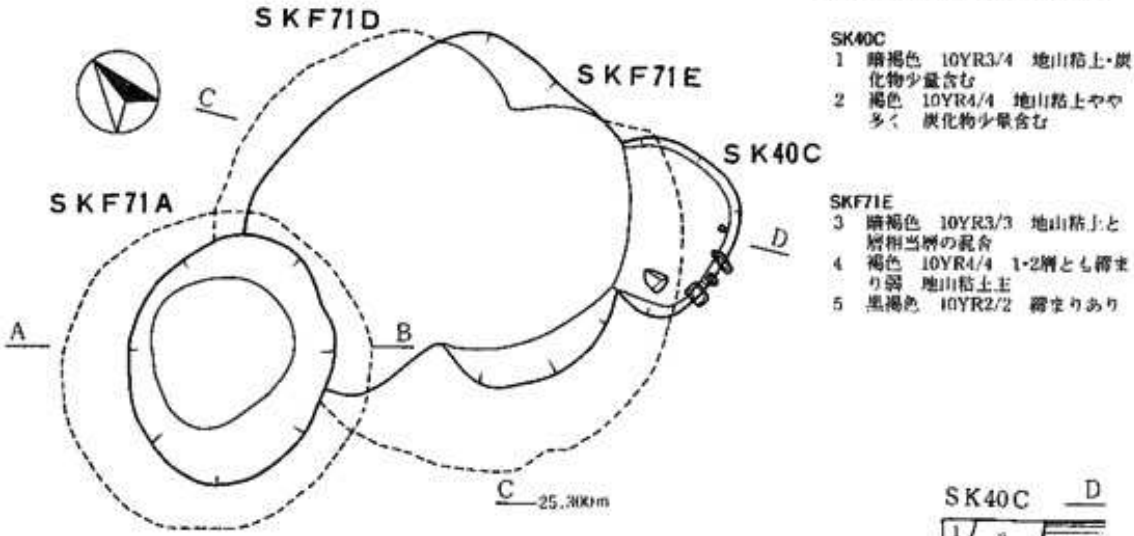
SKF66H
1　褐色　10YR4/4　地山粘土やや多く含む
2　褐色　10YR4/6　地山粘土やや多く含む
3　黄褐色　10YR5/6　地山粘土主
4　褐色　10YR4/6　地山粘土やや多く含む

SKF78A・B
1　褐色　10YR4/4　地山粘土多量に含む
2　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土多量に含む
3　暗褐色　10YR3/3
4　黄褐色　10YR5/8　地山粘土ブロック
5　オリーブ黄色　5Y6/4　地山砂
6　黄褐色　10YR5/6　地山粘土主
7　明黄褐色　10YR6/8　地山粘土と砂の混合
8　暗褐色　10YR3/4　地山粘土・砂少量含む
9　暗褐色　10YR3/3　地山粘土ごく少量含む
10　黒褐色　10YR3/2　地山粘土・砂ごく少量含む
11　黄褐色　10YR5/6　堅く締まる　地山粘土主
12　暗褐色　10YR3/3　地山粘土やや多く　炭化物少量含む
13　黄褐色　10YR5/6　地山粘土主　炭化物少量含む
14　にぶい黄褐色　10YR5/4　地山粘土主
15　褐色　10YR4/6　地山粘土とII層土の混合
16　黄褐色　10YR5/8　地山粘土二次堆積
17　黒褐色　10YR2/3　地山粘土少量　炭化物ごく少量含む
18　オリーブ黄色　5Y6/4　堅く締まる　地山砂
19　黄褐色　10YR5/6　地山粘土主II層土・砂少量混じる
20　暗褐色　10YR3/4　地山粘土・炭化物ごく少量含む
21　オリーブ褐色　2.5Y4/3　堅く締まるII層土と地山砂の混合
22　にぶい黄褐色　10YR5/4　堅くしまる

SK78D
1　オリーブ黄色　5Y6/3　地山砂の二次堆積
2　褐色　10YR4/4　地山粘土多量に含む
3　黒褐色　10YR3/2　地山粘土・砂少量含む
4　暗褐色　10YR3/4　地山粘土・炭化物ごく少量含む　堅く締まる

第46図　土坑（18－3）SKF66H、SKF78A～C、SK78D、SD66G溝状遺構

調査風景
（SKF78A）



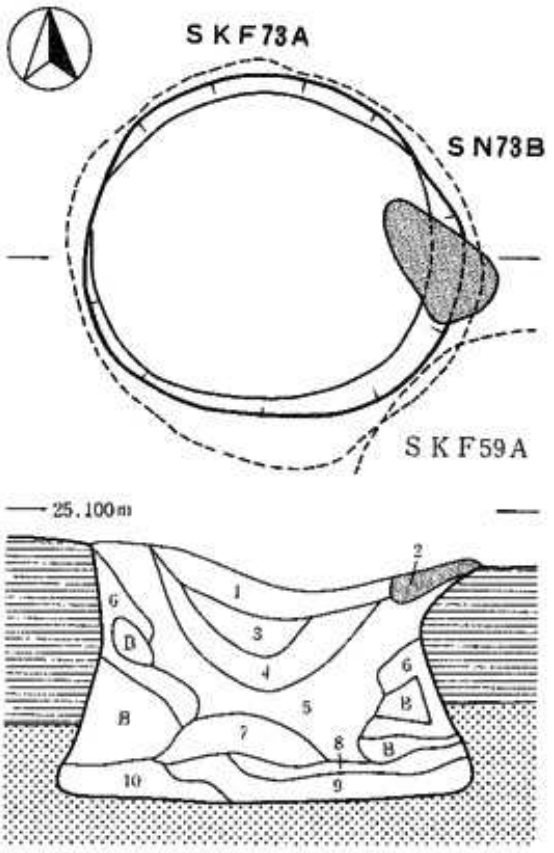
SK40C
1　暗褐色　10YR3/4　地山粘土・炭化物少量含む
2　褐色　10YR4/4　地山粘土やや多く　炭化物少量含む

SKF71E
3　暗褐色　10YR3/3　地山粘土と層相当層の混合
4　褐色　10YR4/4　1-2層とも締まり弱　地山粘土主
5　黒褐色　10YR2/2　締まりあり

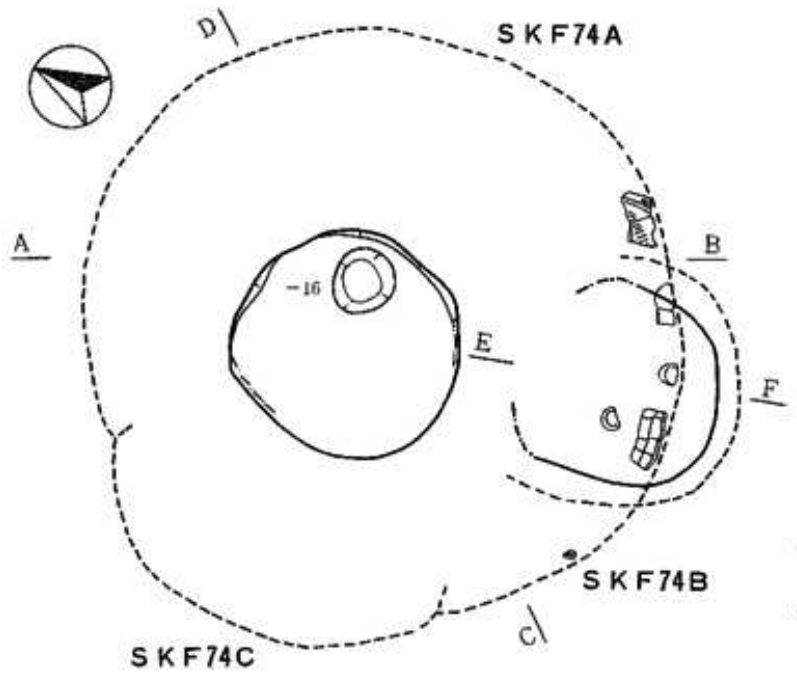
SKF71D
1　黄褐色　10YR5/8　地山粘土主　炭化物・焼土少量含む
2　黒褐色　10YR2/3　地山粘土・炭化物ややや多く含む　砂・焼土のブロック混じる
3　褐色　10YR4/4　地山粘土多く　炭化物少量含む
4　黒褐色　10YR3/2　地山粘土多く　炭化物ごく少量含む
5　黄褐色　10YR5/6　地山粘土主(人為か)

SKF71A
1　暗褐色　10YR3/3　地山粘土ややや多く　炭化物少量含む
2　褐色　10YR4/4　地山粘土多量に　炭化物ややや多く含む
3　黒褐色　10YR2/3　炭化物ややや多く　地山粘土少量含む
4　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多量に　炭化物ごく少量含む
5　黒褐色　10YR2/3　炭化物多量に　地山粘土ごく少量含む
6　黒褐色　10YR3/2　炭化物ややや多く　地山粘土少量含む

SKF73A
1　褐色　7.5YR4/4　地山粘土多量に　炭化物・焼土少量含む
2　赤褐色　5YR4/8　焼土(SN78B)
3　黄褐色　10YR5/6　地山粘土多量に　炭化物少量含む
4　暗褐色　10YR3/3　締まり弱　炭化物・地山粘土少量含む
5　黒褐色　10YR2/3　炭化物ややや多く　地山粘土少量含む
6　褐色　10YR4/6　同層中に粘土ブロック入り込む　地山粘土主
7　暗褐色　10YR3/3　地山粘土ややや多く　炭化物少量含む
8　暗褐色　10YR3/3　地山粘土ややや多く(7層より少)含む
9　黒褐色　10YR3/2　炭化物ややや多く　地山粘土ごく少量含む
10　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土と11層相当層の混合　締まり弱
B：地山粘土ブロック

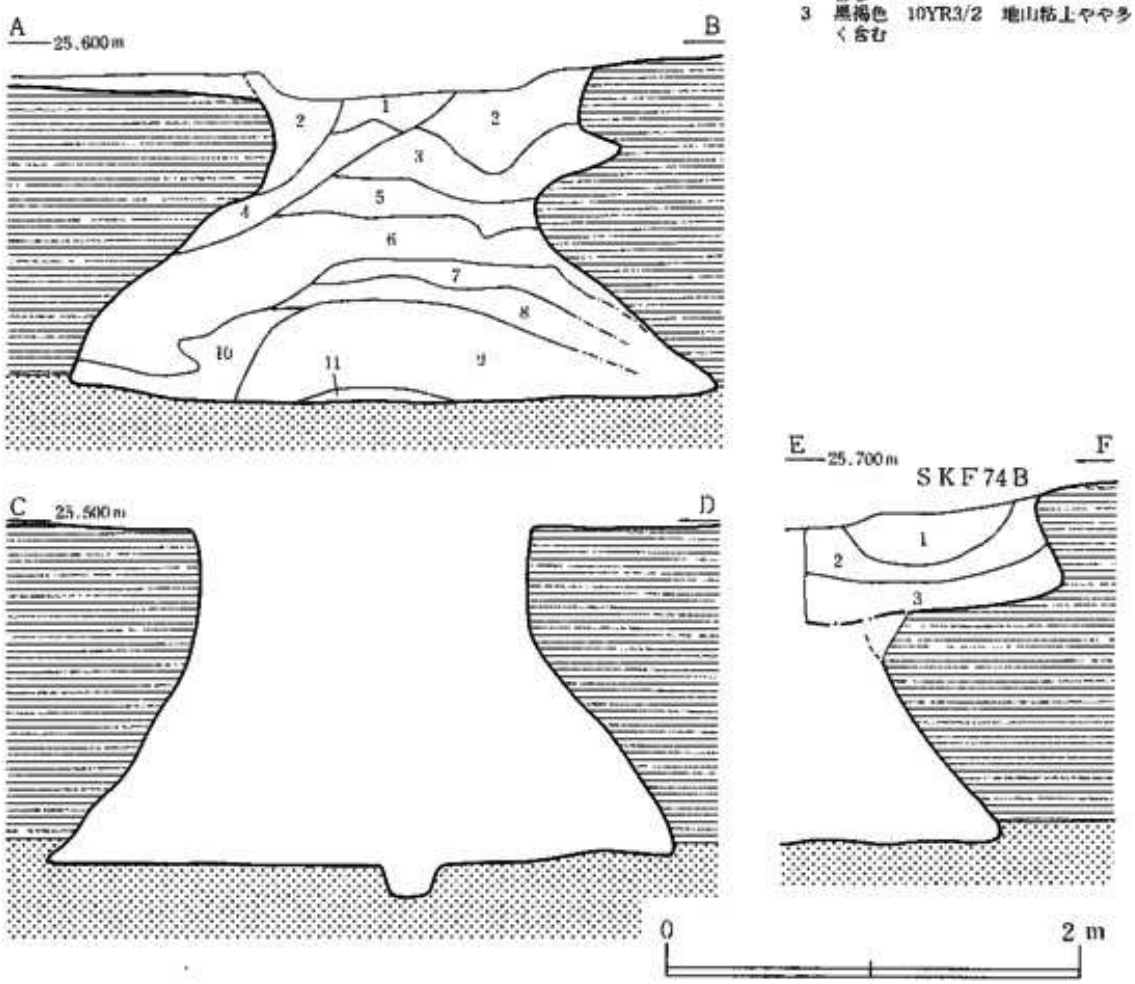


第47図　土坑（19）SKF71A・D・E、SK40C、SKF73A、SN73B焼土遺構

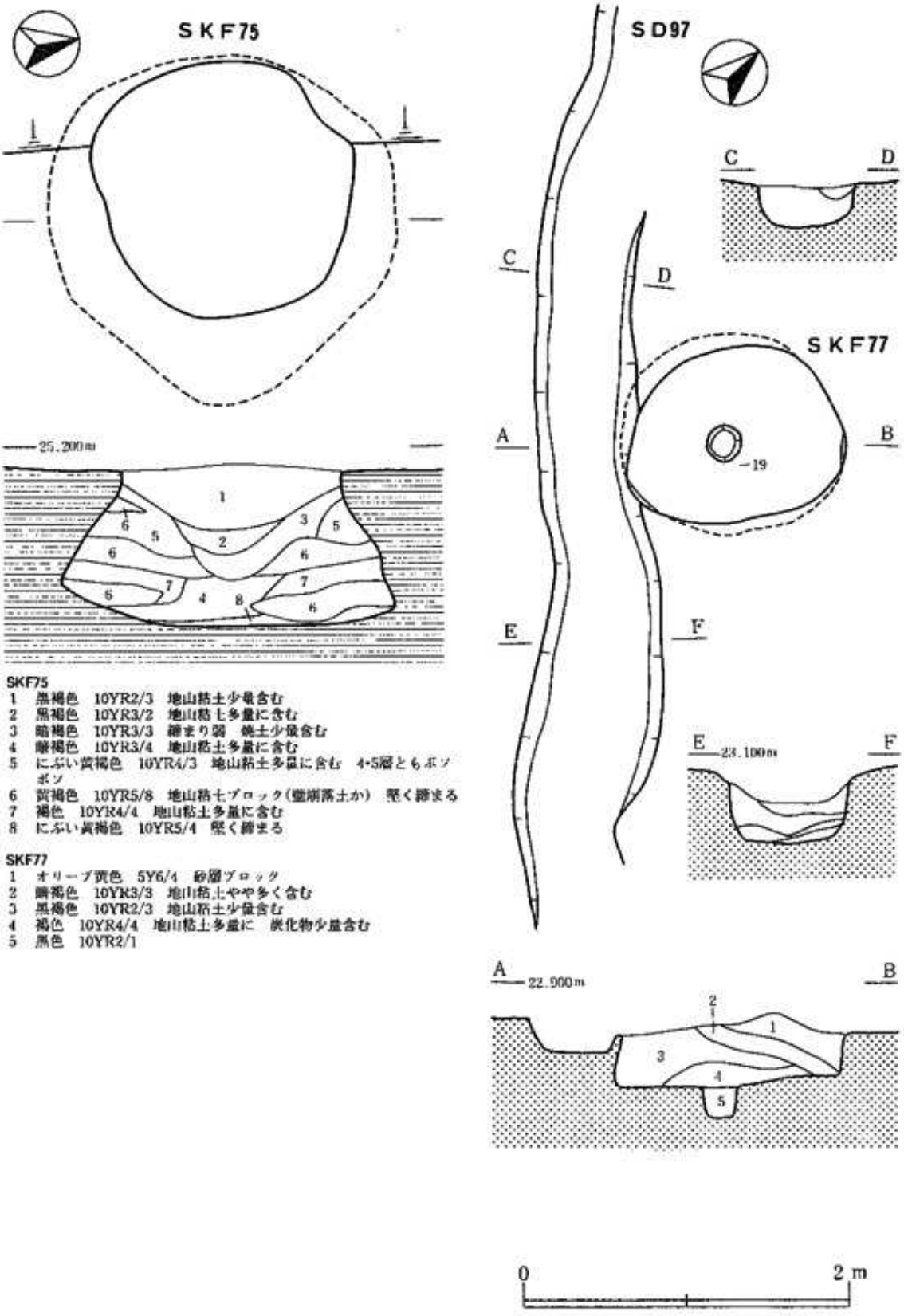


SKF74A
1　暗褐色　10YR3/4　地山粘土やや多く　炭化物少量含む
2　黄褐色　10YR5/8　堅く締まる　地山粘土二次堆積
3　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土多量に　炭化物少量含む
4　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土・砂多量に含む
5　明黄褐色　10YR6/8　地山粘土二次堆積
6　黄褐色　2.5Y5/4　堅く締まる　地山砂二次堆積
7　黄褐色　10YR5/6　地山粘土二次堆積
8　黒褐色　10YR2/3　地山砂やや多く炭化物・地山粘土少量含む
9　黄褐色　10YR5/8　堅く締まる　地山粘土二次堆積
10　褐色　10YR4/6　地山粘土・砂・旧耕土・炭化物の混合
11　暗褐色　10YR3/4　締まり弱　地山粘土・炭化物少量含む

SKF74B
1　黒色　10YR2/1　締まり弱　炭化物少量含む
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多量に含む
3　黒褐色　10YR3/2　地山粘土やや多く含む



第48図　土坑（20）ＳＫＦ74Ａ～Ｃ



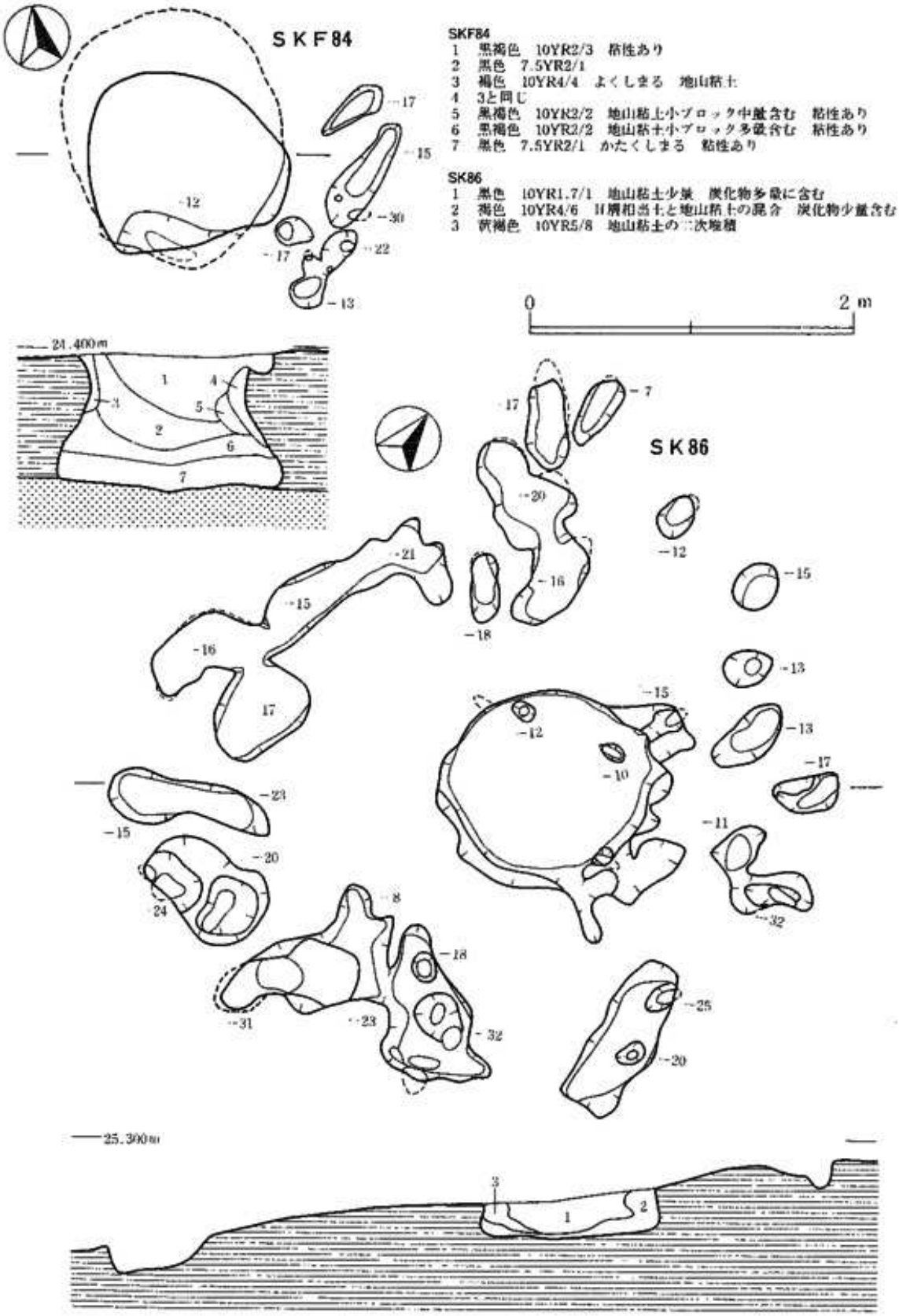
SKF75

1　黒褐色　10YR2/3　地山粘土少量含む
2　黒褐色　10YR3/2　地山粘土多量に含む
3　暗褐色　10YR3/3　締まり弱　焼土少量含む
4　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多量に含む
5　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土多量に含む　4・5層ともボソボソ
6　黄褐色　10YR5/8　地山粘土ブロック（壁崩落土か）　堅く締まる
7　褐色　10YR4/4　地山粘土多量に含む
8　にぶい黄褐色　10YR5/4　堅く締まる

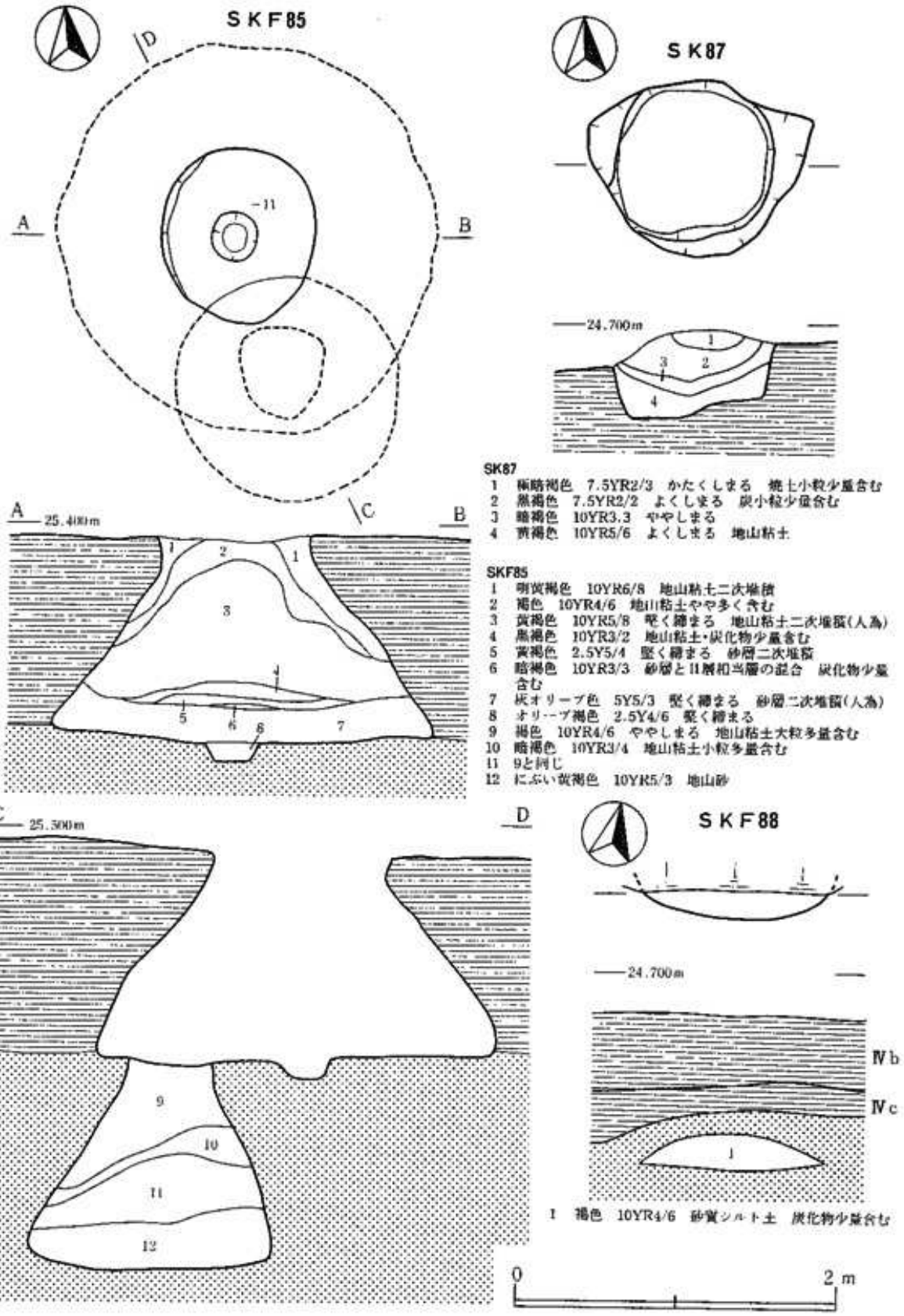
SKF77

1　オリーブ黄色　5Y6/4　砂層ブロック
2　暗褐色　10YR3/3　地山粘土やや多く含む
3　黒褐色　10YR2/3　地山粘土少量含む
4　褐色　10YR4/4　地山粘土多量に　炭化物少量含む
5　黒色　10YR2/1

第49図　土坑（21）ＳＫＦ75・77、ＳＤ97溝状遺構



第50図　土坑（22）ＳＫＦ84、ＳＫ86



第51図　土坑（23）ＳＫＦ85・88、ＳＫ87

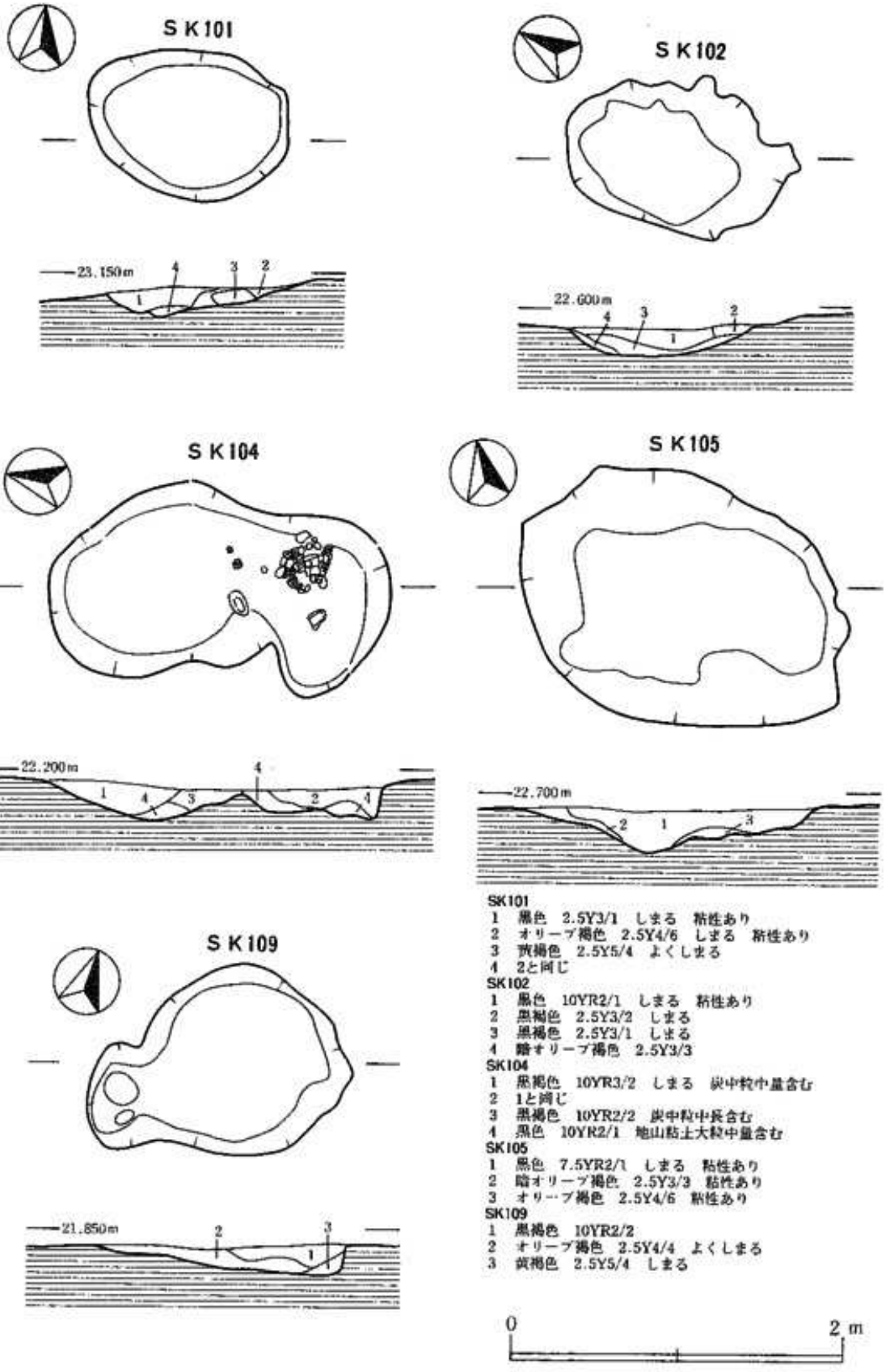
土坑・フラスコ状土坑観察表（II区・III区）

遺構No.	挿図No.	図版No.	グリッド	口径	深さ	底径	平面形	重複	分類	備考
遺物									時期	
SK 101	52	-	MO60	130×90	16	100	楕円形	-	ト	
-									-	
SK 102	52	12	MS 62	145×100	27	100	楕円形	-	ト	
-									-	
SK 103	53	-	NA 60	130×100	15	-	楕円形	-	ト	小柱穴?
土器「107」(後期前葉),磨製石斧「207」;剥片:礫,耳飾「126」,黒曜石「205・206」									後期前葉?	
SK 104	52	12	NC 64	210×110	22	180	連磨形	-	ト	
土器(後期前葉),掻器;削器;円形石器「209」;剥片;礫									後期前葉?	
SK 105	52	12	MS 64	220×150	54	160	隅丸長方形	-	ト	
-									-	
SK 106	53	12	NF 65	480×215	43	380	隅丸長方形	-	ト	
剥片									-	
SK 109	52	-	NG 70	160×115	17	140	連磨形	-	ト	
-									-	
SK 201	54	13	MS 77	(140)	(40)	130	円形	-	ホ	
土器(後期前葉),磨石「201」;剥片;礫									後期前葉?	
SKF 202	54	-	MS 77	130×120	(81)	150	略円形	-	ロ	
土器(中期中葉・後期前葉),磨石;石皿;剥片;礫;原石										
SKF 203	54	13	MR 78	130×110	(89)	170	楕円形	-	ロ	
土器(後期前葉),石核;剥片;礫;原石,黒曜石									後期前葉?	
SKF 204	54	13	MR 77	110×90	(53)	170	楕円形	-	ロ	
土器(中期中葉),筒状石器「173」;磨石;剥片;礫,黒曜石「172」									中期中葉?	
SKF 205	55	-	MS 77	130×110	(103)	160	楕円形	-	ロ	
土器(後期前葉),掻器;削器「174・175・176」;剥片									後期前葉?	
SK 206	55	13	MR 78	150×120	(42)	130	隅丸長方形	-	ト	土壌墓?
土器(後期前葉),剥片:礫									後期前葉?	
SKF 207	55	13	MQ78	160×150	(60)	180	略円形	-	ロ	
土器「81」(後期前葉),剥片;礫									後期前葉?	
SKF 208	56	13	MP 78	200×190	(77)	200	略円形	→SN217	ニ	
土器(後期初頭～前葉),剥片;礫									後期初頭～前葉?	
SKF 210	55	-	MQ78	(130)	(44)	140	略円形	-	ロ	
土器「63」(後期中葉),剥片;礫									後期中葉?	

遺構No.	挿図No.	図版No.	グリッド	口径	深さ	底径	平面形	重複	分類	備考
遺物									時期	
SK 212	56	13	MT78	120×110	(75)	110	楕円形	-	ト	
土器(後期初頭～前葉),剥片;礫									後期初頭～前葉?	
SK 215	56	-	MS74	130×110	(16)	120	隅丸方形	-	ト	
土器(中期中葉・後期前葉)										
SKF 216A	57	13	MP77	100	(62)	140	円形	SKF216B→	ロ	
土器[64,65,66](後期初頭～前葉),磨器[177];台石;剥片;礫;原石,土偶[119]									後期初頭～前葉?	
SKF 216B	57	-	MP77	110	(47)	170	円形	→SKF216A	ロ	
土器(後期前葉),台石;剥片;礫,土偶									後期前葉?	
SK 220	56	-	MO76	80×60	(46)	70	楕円形	-	ホ	
土器(後期初頭～前葉),削器;剥片;礫;原石									後期初頭～前葉?	
SKF 221	57	-	MM76	(80)	(70)	120	円形	-	ロ	
土器,筒状石器[178];剥片										
SK 222	57	14	MK67	240×110	(63)	180	隅丸長方形	-	ト	
土器(後期前葉)									後期前葉?	
SKF 223	57	14	MK74	120×100	(45)	160	楕円形	-	ロ	
土器[67](後期前葉),剥片多数,炭化クルミ核									後期前葉?	
SKF 224	58	14	MK75	(80)	(44)	80	略円形	-	ロ	
土器(後期前葉),礫									後期前葉?	
SK 225	58	14	MK76	70×60	(29)	70	略円形	-	ト	
土器(後期前葉),磨器;凹石;剥片;礫,土製品									後期前葉?	
SKF 226	58	14	MK76	110×90	(110)	130	楕円形	-	ロ	
土器[68,69,70,71,82,83,84,85](後期前葉～中葉),敲石;磨石;剥片;礫									後期前葉～中葉?	
SK 227A	58	14	MK77	190×180	(76)	190	略円形	→SN227B	ロ	
土器[72,86](後期初頭～前葉),台石;剥片;礫;原石									後期初頭～前葉?	
SK 228	58	-	ML77	160×140	(27)	130	楕円形	-	ト	
-									-	
SK 229	12	-	MN78	140×130	(54)	120	略円形	SI219?	ホ	
土器(後期前葉),剥片;原石									後期前葉?	
SK 230	59	-	MQ79	90×60	(48)	80	楕円形	-	ロ	
土器,剥片										
SK 231	59	-	MM77	90×40	(15)	70	楕円形	-	ト	
黒曜石[179]									-	

遺構No.	挿図No.	図版No.	グリッド	口径	深さ	底径	平面形	重複	分類	備考
遺物									時期	
SK 233	59	14	ME 77	100×80	17	90	隅丸長方形	-	ト	
土器[87](後期前葉),剥片									後期前葉?	
SKF 234	59	15	ME 73	120×110	72	170	略円形	-	ロ	
土器,剥片;礫										
SKF 235	59	-	MF 72	120×110	124	160	略円形	-	ロ	
土器,石槍[180];剥片										
SKF 236	60	-	MF 73	110×90	97	200	略円形	-	ロ	
土器[73](後期前葉),剥片;礫									後期前葉	
SKF 237	60	15	MH74	100	83	140	円形	-	イ	
土器[88](中期中葉・後期前葉),磨石;剥片;原石										
SKF 238	60	-	MI 75	100×90	49	120	略円形	-	イ	
土器[89,90](後期前葉),掻器;石槍[181];礫									後期前葉?	
SKF 239	60	15	MH75	90×70	66	120	楕円形	-	ロ	
土器[75,91,92](中期末～後期前葉),剥片;礫									中期末～後期前葉?	
SK 243A	61	15	MG 75	120×110	43	100	略円形	→SN243B	ホ	
土器,剥片										
SKF 244	61	15	MH73	(100)	142	180	略円形	-	イ	
土器(後期初頭～前葉),敲石;削器;打製石斧[182];剥片;礫;原石									後期初頭～前葉?	
SKF 247	61	-	ME 72	160×140	136	220	楕円形	-	ロ	
土器(後期前葉),剥片;礫									後期前葉?	
SK 248	61	-	MM77	60×50	(39)	40	略円形	-	ト	
剥片									-	
SK 250	62	-	MS 71	270×200	(103)	160	楕円形		ト	
土器(後期前葉),不定形石器;磨石[202・203];削器[183];剥片									後期前葉	
SK 251	62	-	MR 70	130×120	(31)	100	略円形	-	ト	
土器[93,94,95,96](後期初頭～前葉),掻器[184];剥片;礫									後期前葉	
SK 252	63	15	MQ70	(250)	(38)	170	楕円形	SK253?	ト	
土器(後期前葉),石核;剥片;礫;原石,炭化クルミ核									後期前葉	
SK 253	63	15	MQ71	(340)	(45)	230	隅丸長方形	SK252?	ト	
土器(後期中葉),石錐[185・186・187・188];石匙[189];掻器;石錘;凹石;石核;剥片;礫;原石,黒曜石[190]									後期中葉	
SK 254	63		MQ71	110×90	(39)	80	略円形	-	ト	
土器[74](後期初頭～前葉),削器[191];剥片;礫									後期初頭～前葉	

遺構No.	挿図No.	図版No.	グリッド	口径	深さ	底径	平面形	重複	分類	備考
遺物									時期	
SK 255	62	15	MR70	90×60	(19)	80	隅丸長方形	-	ト	
礫									-	
SK 256	62	-	MT71	230×150	(39)	190	長円形	-	ト	
土器(後期中葉),石槍[192・193・195];掻器;石匙[194]剥片									後期中葉	
SKF 260	64	-	MM70	120×100	(104)	80	略円形	-	ハ3	
土器[97,98,99](後期前葉),剥片									後期前葉?	
SKF 261	64	-	MM71	140×130	(127)	180	略円形	-	ロ	
土器[100,101,102,103](後期前葉),剥片;礫									後期前葉?	
SKF 262	64	16	Ml 70	100×90	(87)	180	略円形	-	ロ	
土器(後期初頭～前葉),剥片									後期初頭～前葉?	
SK 263	64	-	ML67	120×90	(83)	130	楕円形	-	ト	
土器(後期初頭～前葉),石核;剥片									後期初頭～前葉?	
SKF 269	65	16	MM78	170	(138)	180	円形	(SKF274→)	イ	
土器(後期初頭～前葉),削器[196];剥片;礫									後期初頭～前葉?	
SKF 270A	65	16	MN78	130	(129)	210	円形	→SKF270B	イ	
土器[76,77,78,79](後期前葉),三脚石器[199];削器[197];石匙[198];敲石;磨石[204];石核;剥片;礫;原石									後期前葉?	
SKF 270B	65	-	MN78	130	(64)	110	円形	SKF270A→	イ	
土器(後期前葉),石核;剥片;礫;原石									後期前葉?	
SKF 274	65	-	MM78	140	(123)	150	円形	(→SKF269)	イ	埋V
土器[80,105,106](後期前葉～中葉),石槍[200];剥片;礫									後期前葉～中葉?	



SK101
1　黒色　2.5Y3/1　しまる　粘性あり
2　オリーブ褐色　2.5Y4/6　しまる　粘性あり
3　黄褐色　2.5Y5/4　よくしまる
4　2と同じ

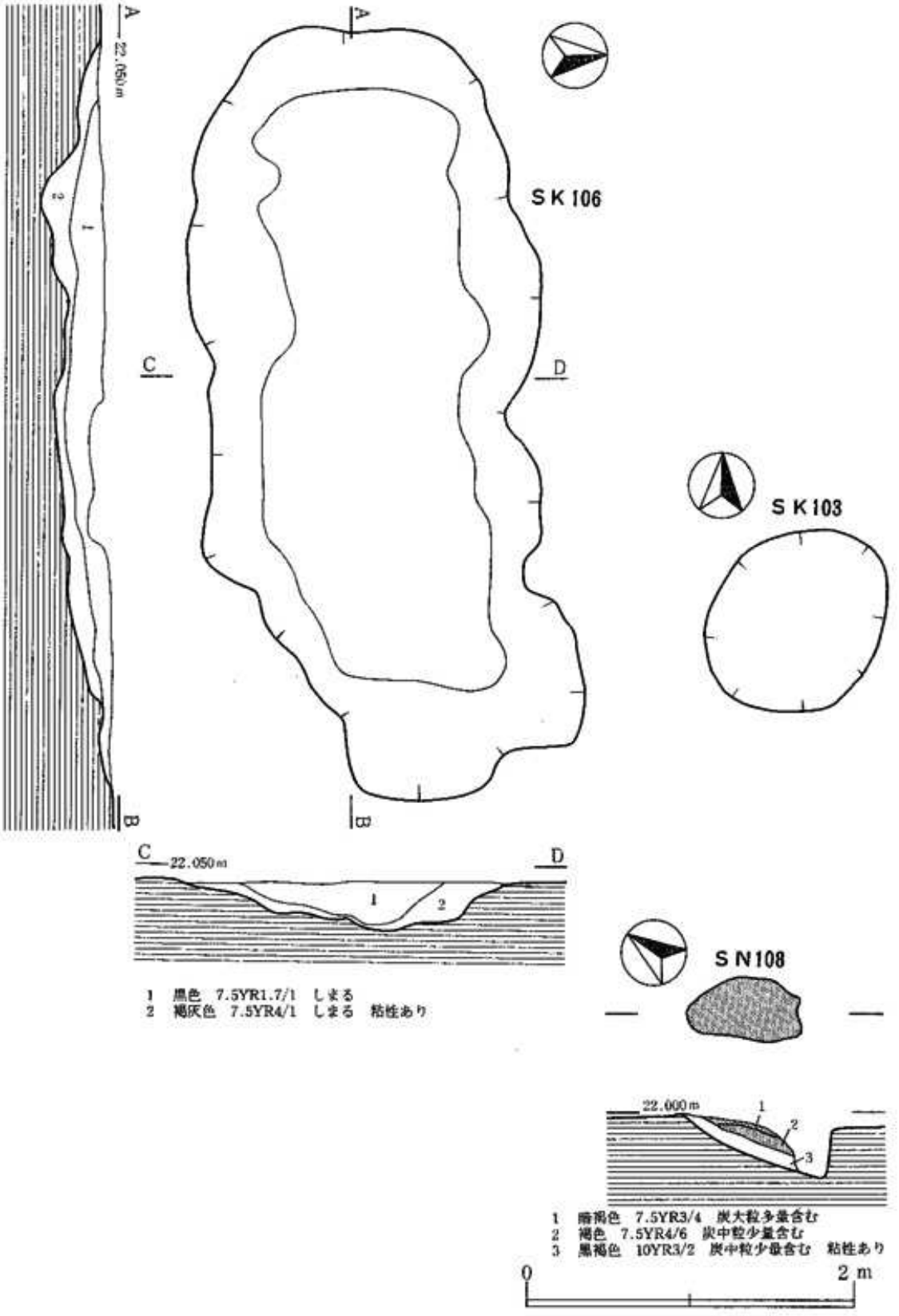
SK102
1　黒色　10YR2/1　しまる　粘性あり
2　黒褐色　2.5Y3/2　しまる
3　黒褐色　2.5Y3/1　しまる
4　暗オリーブ褐色　2.5Y3/3

SK104
1　黒褐色　10YR3/2　しまる　炭中粒中量含む
2　1と同じ
3　黒褐色　10YR2/2　炭中粒中長含む
4　黒色　10YR2/1　地山粘土大粒中量含む

SK105
1　黒色　7.5YR2/1　しまる　粘性あり
2　暗オリーブ褐色　2.5Y3/3　粘性あり
3　オリーブ褐色　2.5Y4/6　粘性あり

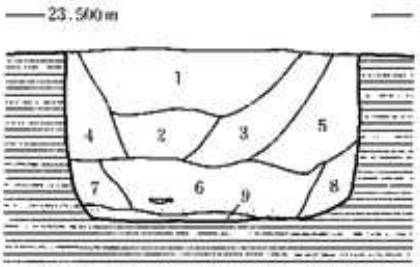
SK109
1　黒褐色　10YR2/2
2　オリーブ褐色　2.5Y4/4　よくしまる
3　黄褐色　2.5Y5/4　しまる

第52図　土坑（24）SK101・102・104・105・109



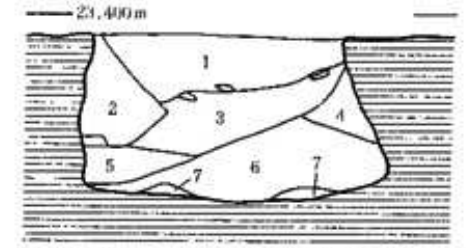
第53図　土坑（25）SK103・106、SN108焼土遺構

SK201



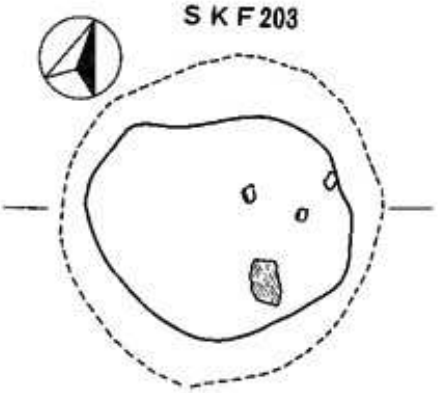
1　暗褐色　10YR4/4　よくしまる　炭大粒多量含む
2　暗褐色　10YR4/4　炭中粒少量含む
3　暗褐色　10YR3/4　しまる　炭中粒少量含む
4　褐色　7.5YR4/4
5　明褐色　7.5YR5/6　地山粘土ブロック多量含む
6　褐色　7.5YR4/3　炭中粒少量含む
7　明褐色　7.5YR5/6　地山ブロック多量含む
8　暗褐色　10YR3/4　炭小粒少量含む
9　黒褐色　10YR3/2　粘性あり

SKF202



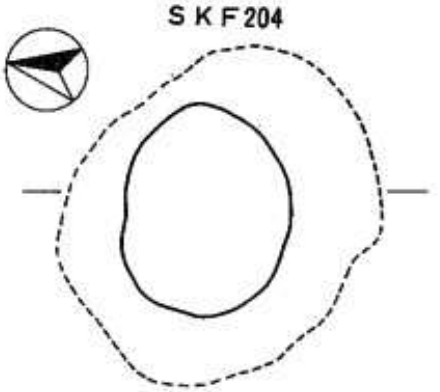
1　暗褐色　10YR3/4　炭化物・地山粘土多量に含む　拳大の礫
2　褐色　10YR4/4　締まり2～7層やや弱　地山粘土二次堆積
3　暗褐色　10YR3/3　炭化物・地山粘土やや多く含む
4　褐色　10YR4/4　地山粘土二次堆積
5　にぶい黄褐色　10YR4/3　地山粘土主
6　黒褐色　10YR3/2　地山粘土やや多く　炭化物少量含む
7　明黄褐色　10YR6/6　地山粘土二次堆積

SKF203



1　暗褐色　10YR3/4　しまる
2　暗褐色　7.5YR3/4　地山粘土ブロック多量含む
3　2と同じ
4　暗褐色　7.5YR3/3
5　黄褐色　10YR5/6　よくしまる　地山粘土ブロック
6　黒褐色　10YR3/2
7　黒褐色　10YR2/3　しまる

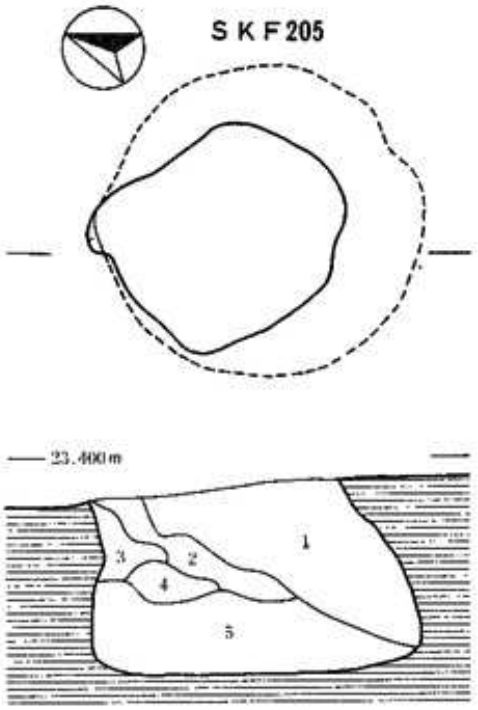
SKF204

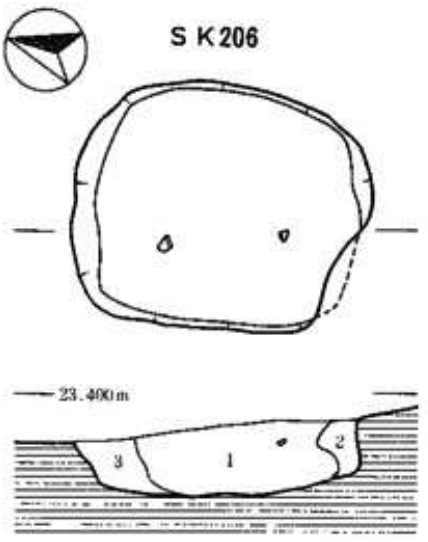


1　黒褐色　10YR2/3　地山粘土やや多く含む　1～7層全体に炭化物少量含む
2　黒褐色　10YR2/2　炭化物少量含む
3　黒褐色　2.5Y3/1　締まり弱　灰色に見える
4　褐色　7.5YR4/6　堅く締まる
5　褐色　10YR4/4
6　暗褐色　10YR3/4
7　にぶい黄褐色　10YR4/3

0　2 m

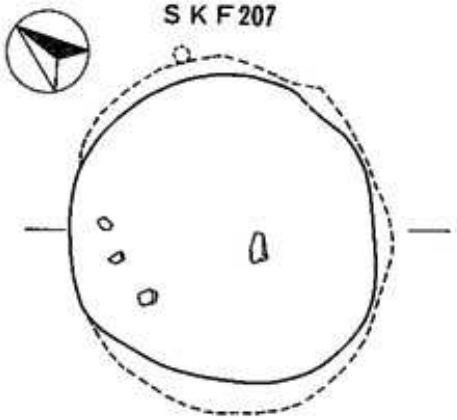
第54図　土坑（26）SK201、SKF202～204



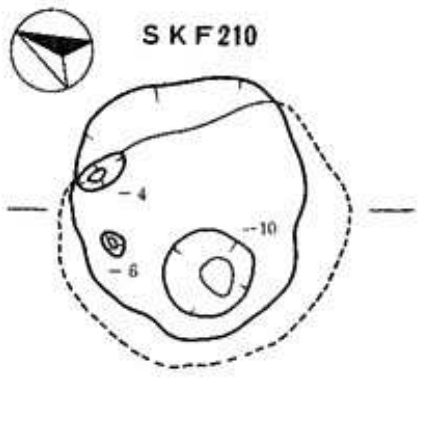


SKF205
1　褐色　7.5YR4/4　炭中粒中量含む　地山大粒中量含む
2　褐色　7.5YR4/4　炭大粒少量含む　地山中粒中量含む
3　褐色　10YR4/4　よくしまる　地山粘土ブロック
4　暗褐色　10YR3/4　しまる　炭大粒少量含む
5　黄褐色　10YR5/6　しまる　地山粘土ブロック

SK206
1　暗褐色　10YR3/4　粘性あり　炭中粒少量含む
2　褐色　10YR4/6　しまる　粘性あり
3　褐色　10YR4/4　しまる

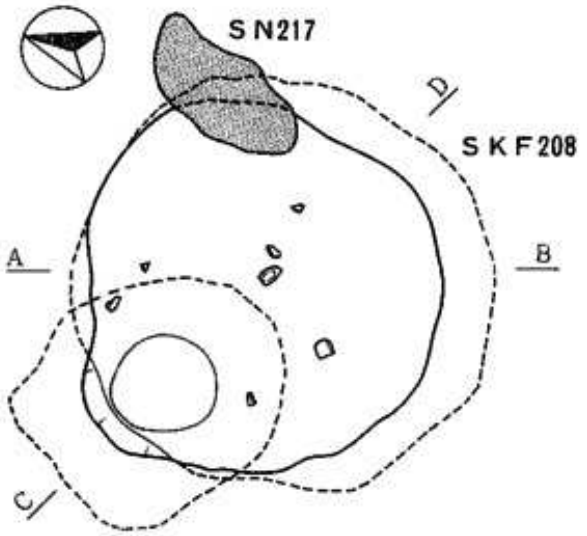


1　暗褐色　10YR3/4　しまる
2　暗褐色　10YR3/3　炭中粒少量含む　地山粘土中粒中量含む
3　暗褐色　10YR3/4
4　褐色　10YR4/4　しまる　炭小粒少量含む
5　黒褐色　10YR3/2　炭小粒中量含む
6　5と同じ
7　オリーブ褐色　2.5Y4/3　しまる



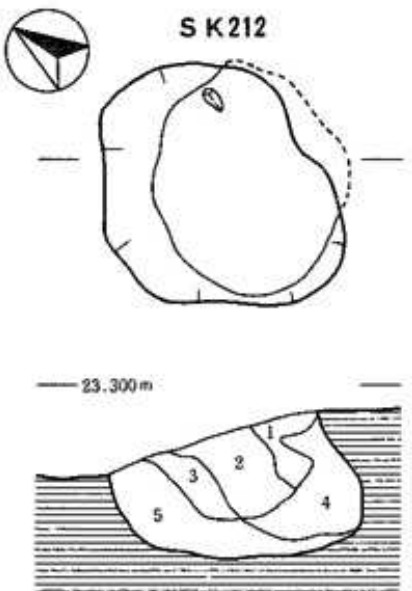
1　暗褐色　10YR3/3　よくしまる　炭小粒少量含む
2　暗褐色　10YR3/4　しまる　炭小粒少量含む
3　暗褐色　10YR3/3　しまる　地山砂少量含む
4　暗褐色　10YR3/4　地山粘土大粒少量含む

第55図　土坑（27）ＳＫＦ205・207・210、ＳＫ206

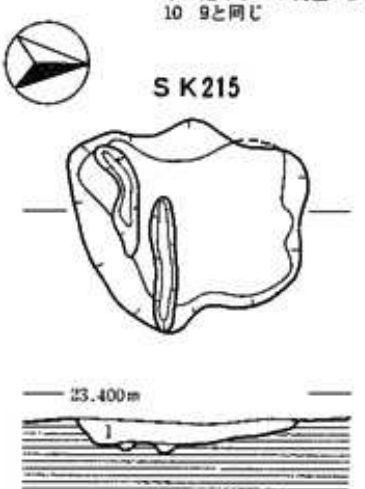


SN217
焼色　5YR7/6　炭大粒中量含む　焼土

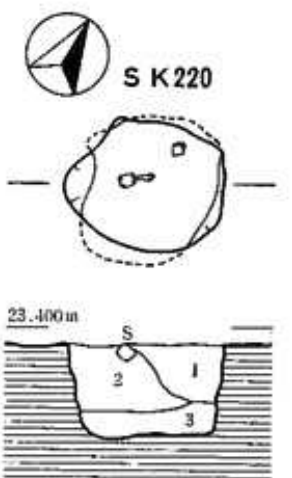
SKF208
1　黒褐色　10YR3/2　炭小粒中量含む　地山粘土小粒少量含む
2　暗褐色　10YR3/3　炭小粒多量含む　地山粘土小粒中量含む
3　黒褐色　10YR2/3　炭中粒少量含む
4　暗褐色　10YR3/4　炭中粒少量含む　地山粘土大粒多量含む
5　オリーブ褐色　2.5Y4/4　ややゆるい
6　暗褐色　10YR3/4　シルト質地山砂
7　黒褐色　10YR3/2　炭小粒少量含む
8　黄褐色　2.5Y5/4　地山砂
9　暗オリーブ褐色　2.5Y3/3
10　9と同じ



1　暗褐色　10YR3/4　炭中粒小量含む
2　黒褐色　10YR2/3　炭小粒少量含む
3　暗褐色　10YR3/3
4　褐色　10YR4/6　よくしまる　地山粘土ブロック
5　褐色　10YR4/6　地山粘土

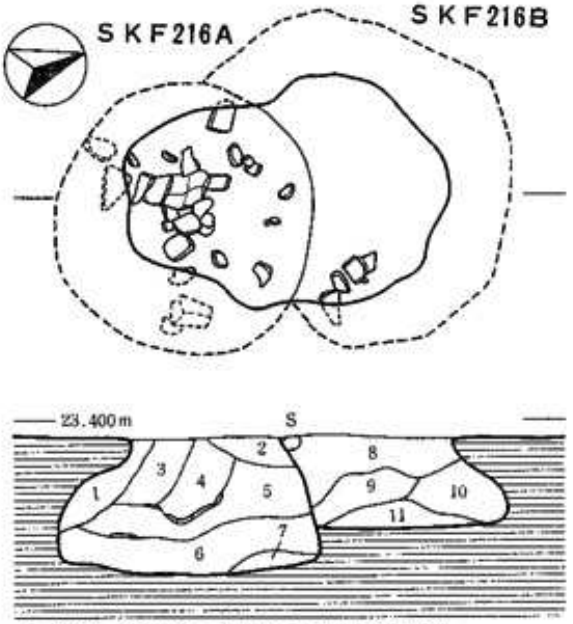


1　黒褐色　10YR2/2　炭化物少量含む

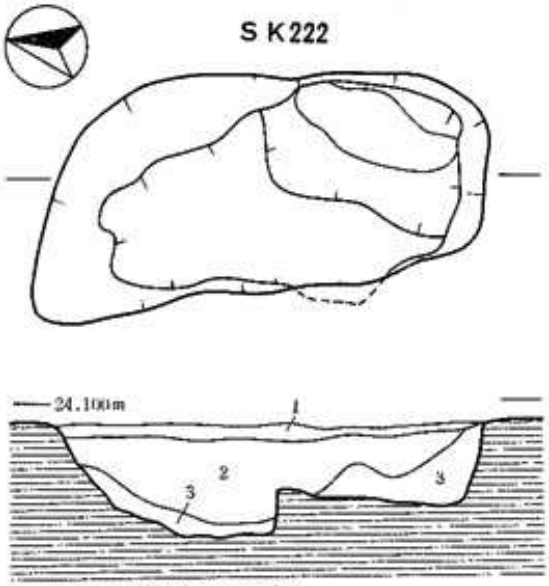


1　黒褐色　10YR2/3　しまる
2　暗褐色　7.5YR3/3
3　黒褐色　7.5YR3/2

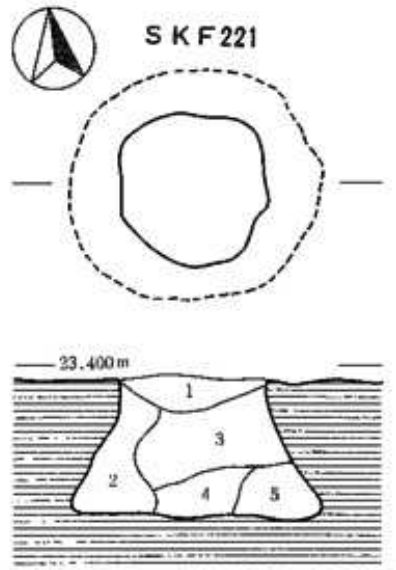
第56図　土坑（28）ＳＫＦ208、ＳＫ212・215・220、ＳＮ217焼土遺構



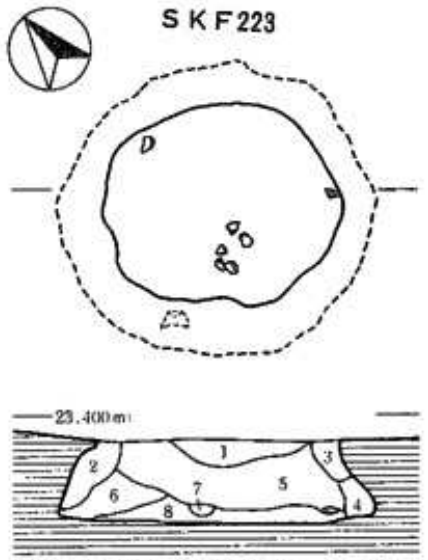
1　暗褐色　10YR3/4　地山粘土主で炭化物少量含む
2　黒褐色　10YR2/3　炭化物・地山粘土やや多く含む
3　黒褐色　10YR3/2　炭化物・地山粘土やや多く(2層より多)　含む
4　黒褐色　10YR2/2　炭化物・地山粘土やや多く(2層より少)　含む
5　黒褐色　10YR3/1　炭化物・地山粘土・焼土少量含む
6　黒褐色　10YR2/2　炭化物やや多く含む
7　黒色　10YR2/1　炭化物主
8　褐色　10YR4/4　7～9層地山粘土主で炭化物少量含む
9　暗褐色　10YR3/4　7～10層は層境判然とせず　人為か
10　褐色　10YR4/6
11　暗褐色　10YR3/3　炭化物・地山粘土・焼土少量含む



1　黒褐色　10YR2/3　よくしまる
2　黒褐色　10YR2/3　しまる　地山粘土小粒中量含む
3　黄褐色　10YR5/6　しまる　漸移層

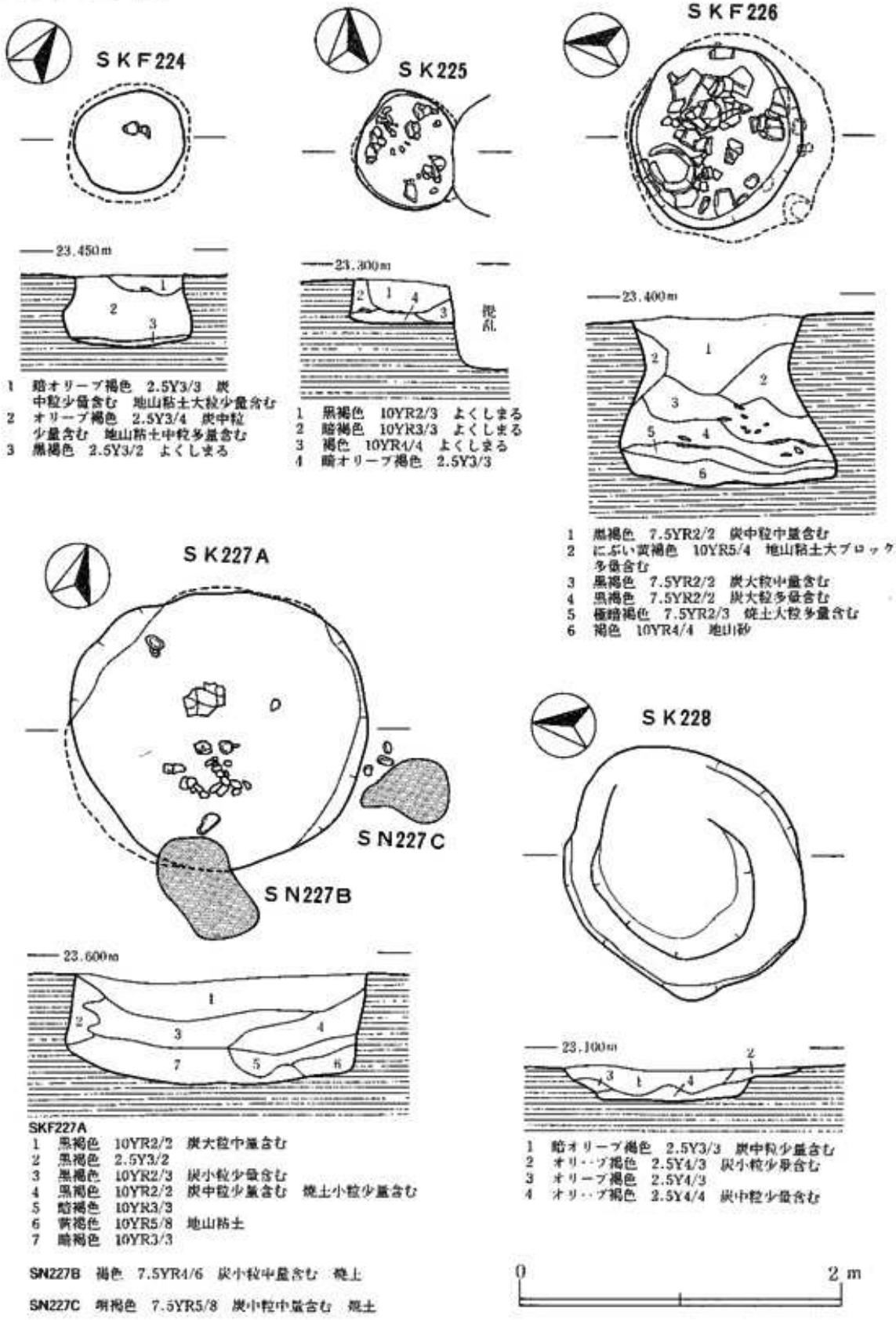


1　黒褐色　10YR2/3　炭小粒中量含む　焼土小粒少量含む
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土大粒多量含む
3　黒褐色　10YR2/3　炭小粒少量含む　地山粘土中粒少量含む
4　黒褐色　10YR3/2　地山粘土大粒少量含む
5　暗褐色　10YR3/4　地山粘土ブロック中量含む

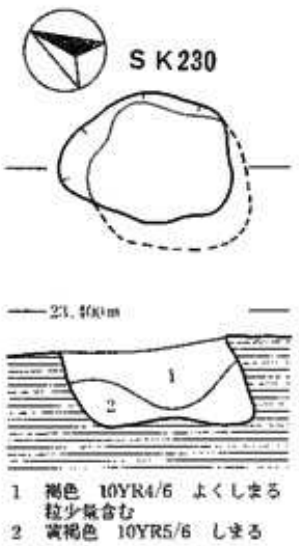


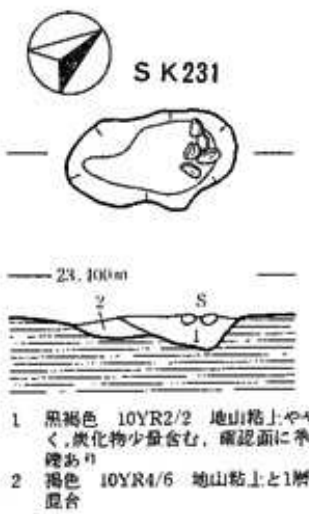
1　黒褐色　10YR3/2　炭中粒少量含む　地山粘土小粒多量含む
2　褐色　10YR4/6　しまる　地山粘土大粒多量含む
3　2と同じ
4　暗褐色　10YR3/4　炭中粒中量含む　地山粘土小粒中量含む
5　暗褐色　10YR3/4　炭中粒多量含む　地山粘土小粒多量含む
6　黒褐色　10YR2/3
7　オリーブ褐色　2.5Y4/4　地山粘土ブロック
8　黒褐色　10YR2/3　炭中粒中量含む

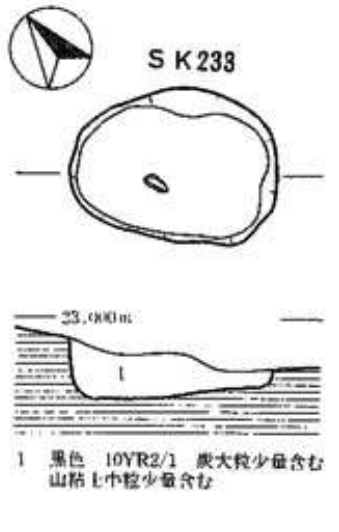
第57図　土坑（29）ＳＫＦ216Ａ・216Ｂ・221・223、ＳＫ222

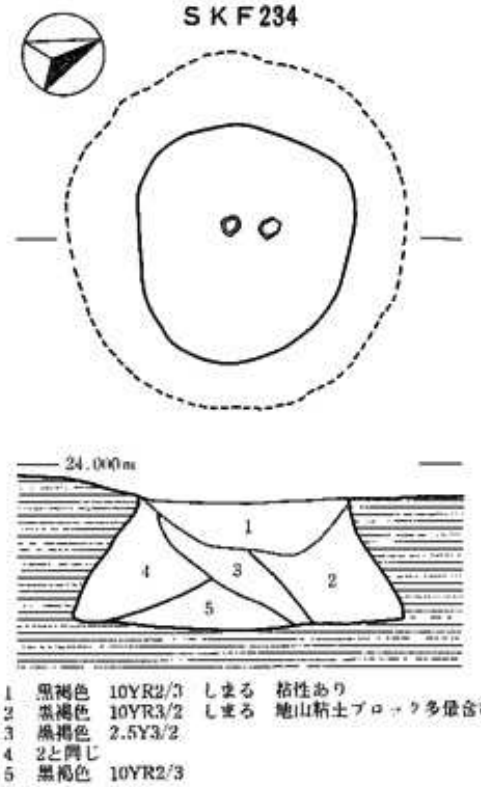


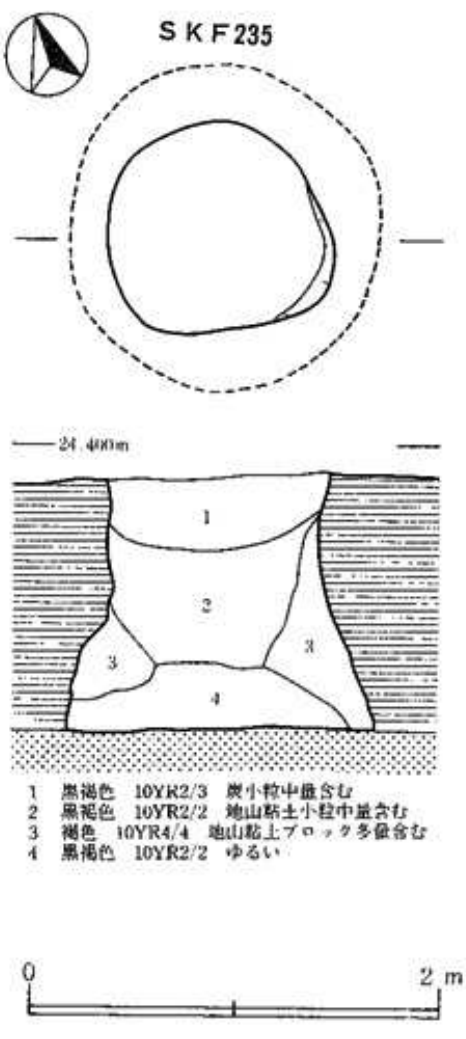
第58図　土坑（30）ＳＫＦ224・226、ＳＫ225・227Ａ・228、ＳＮ227Ｂ・Ｃ焼土遺構





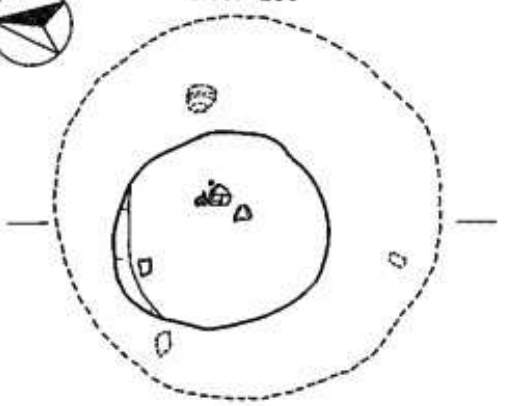


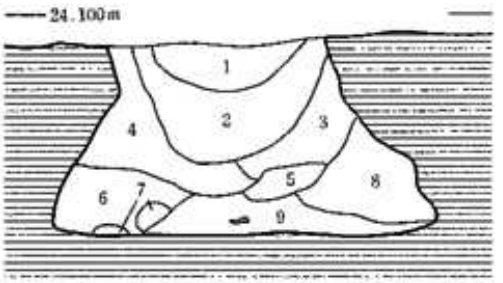




第59図　土坑（31） SK230・231・233、SKF234・235

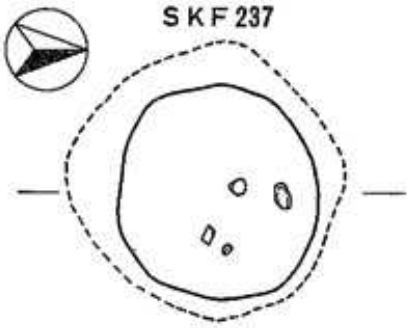
SKF236

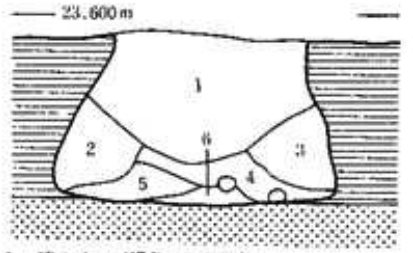




1　暗褐色　10YR3/4　炭大粒多量含む　地山粘土ブロック多量含む
2　黒褐色　10YR2/3　炭中粒中量含む　地山粘土中粒多量含む
3　黒褐色　10YR2/2　炭大粒少量含む
4　黒褐色　10YR2/2　炭大粒多量含む　地山粘土小粒多量含む
5　黒色　7.5YR2/1　地山粘土小粒少量含む
6　黒褐色　10YR2/2　炭大粒中量含む　地山粘土中粒少量含む
7　黄褐色　10YR5/6　地山粘土ブロック
8　暗褐色　10YR3/3　炭小粒少量含む　地山粘土ブロック多量含む
9　黒色　7.5YR2/1　炭大粒多量含む

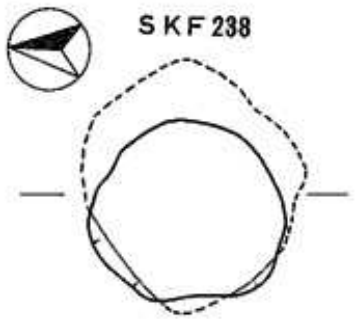
SKF237

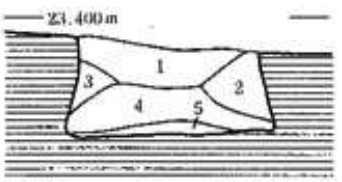




1　褐オリーブ褐色　2.5Y3/3
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土ブロック多量含む
3　2と同じ
4　暗オリーブ褐色　2.5Y3/3
5　暗褐色　10YR3/3　よくしまる
6　黒褐色　10YR2/3　よくしまる

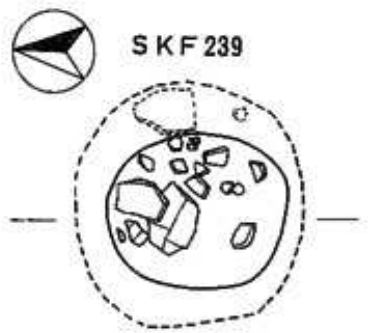
SKF238

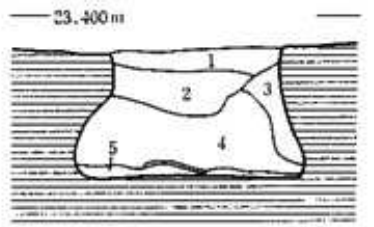




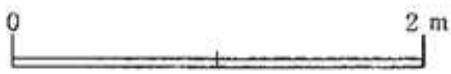
1　黒褐色　10YR2/3　よくしまる
2　褐色　10YR4/4
3　2と同じ
4　黒褐色　7.5YR3/2　よくしまる
5　暗褐色　10YR3/4　よくしまる　漸移層

SKF239

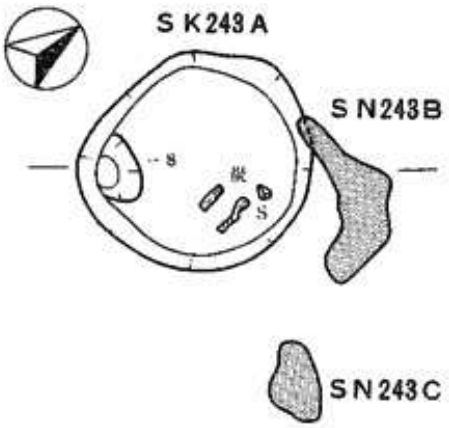


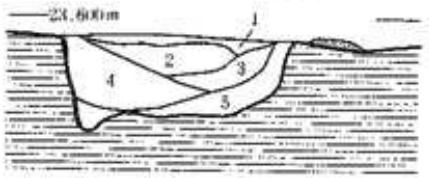


1　黒褐色　2.5Y2/2　よくしまる
2　黒褐色　10YR2/2　しまる
3　オリーブ褐色　2.5Y4/6　しまる　地山粘土ブロック
4　黒褐色　10YR2/3
5　黒褐色　2.5Y2/2　よくしまる　粘性あり

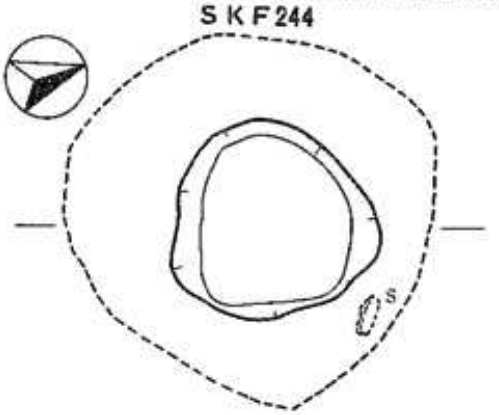


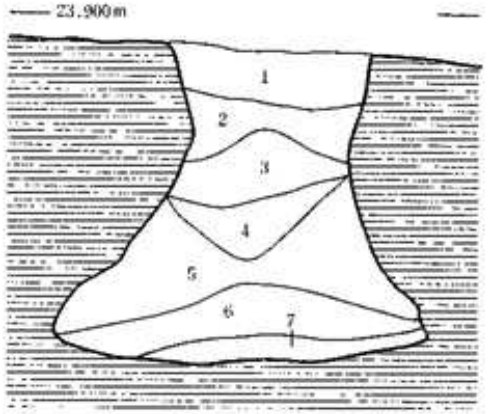
第60図　土坑（32）SKF236～239



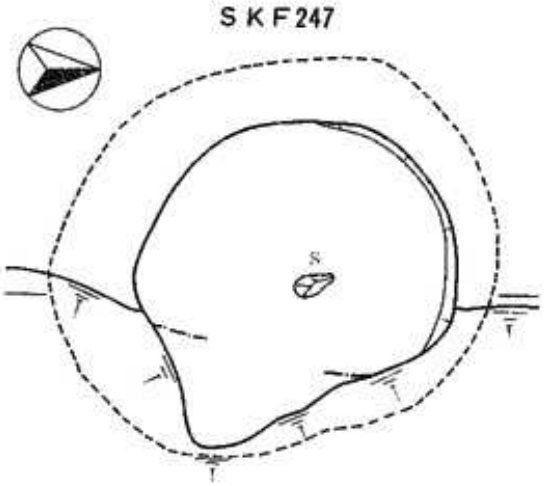


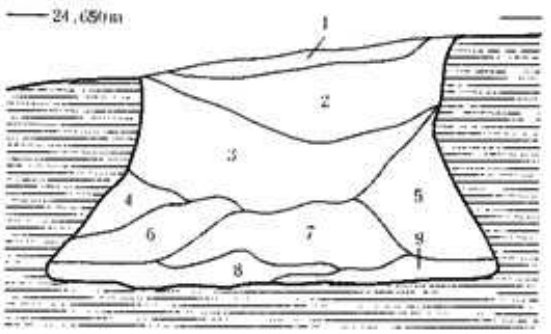
1　黒褐色　10YR2/3
2　黒褐色　10YR3/2
3　黒褐色　7.5YR3/2
4　極暗褐色　7.5YR2/3
5　暗褐色　10YR3/3

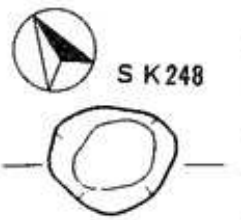


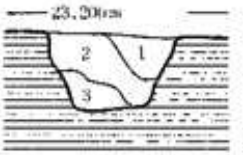


1　暗褐色　10YR3/4　よくしまる　旧表土
2　暗褐色　10YR3/3　しまる　地山粘土大粒少量含む
3　黒褐色　10YR3/2　炭大粒多量含む
4　黒褐色　10YR3/2　炭大粒少量含む　地山粘土大粒少量含む
5　暗褐色　10YR3/4　炭大粒少量含む　地山粘土大ブロック多量含む
6　黒褐色　10YR2/2　しまる　炭中粒中量含む
7　黒褐色　10YR2/3　しまる　炭中粒少量含む





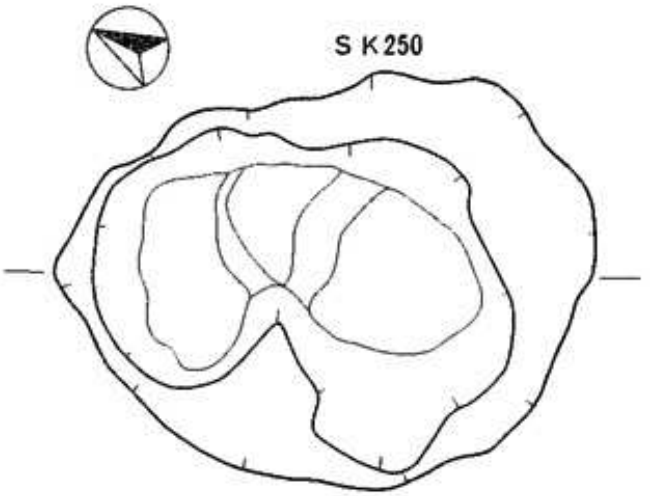


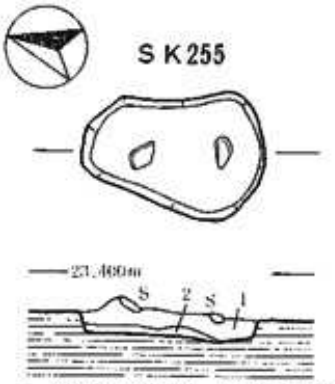


SKF247
1　黒褐色　10YR2/2　よくしまる
2　黒褐色　10YR2/2　しまる　炭中粒少量含む
3　黒褐色　10YR3/2　炭大粒少量含む
4　明褐色　7.5YR5/6　地山粘土ブロック
5　4と同じ
6　暗褐色　10YR3/3　地山粘土ブロック含む
7　褐色　10YR4/6　炭大粒少量含む
8　暗褐色　10YR3/4　炭小粒中量含む
9　暗オリーブ褐色　2.5Y3/3　炭小粒多量含む

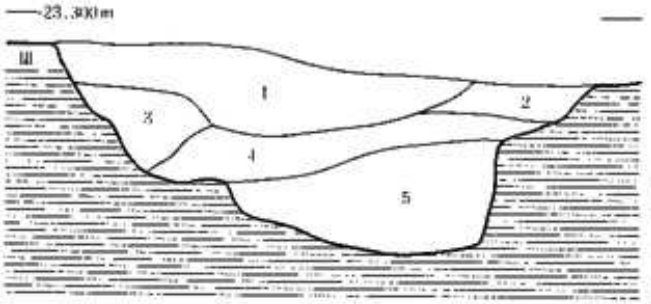
SK248
1　暗オリーブ褐色　2.5Y3/3
2　黒褐色　2.5Y3/2
3　暗褐色　10YR3/3

第61図　土坑（33）SKF244・247、SK243A・248、SN243B・C焼土遺構

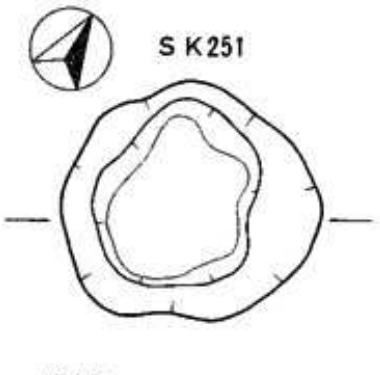




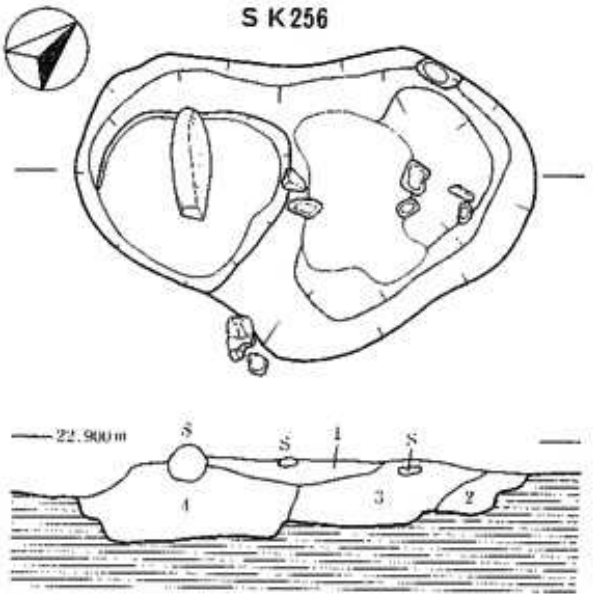
1　黒褐色　10YR2/3　炭化物少量含む
2　褐色　10YR4/4



1　黒褐色　10YR2/3　炭化物多量に　地山粘土少量含む
2　褐色　10YR4/4　地山粘土主体
3　暗褐色　10YR3/3　II層と地山粘土の混合　炭化物少量含む
4　黒褐色　10YR2/2　炭化物多量に(1層より多い)　地山粘土少量含む
5　黒褐色　10YR2/3　II層と地山粘土の混合

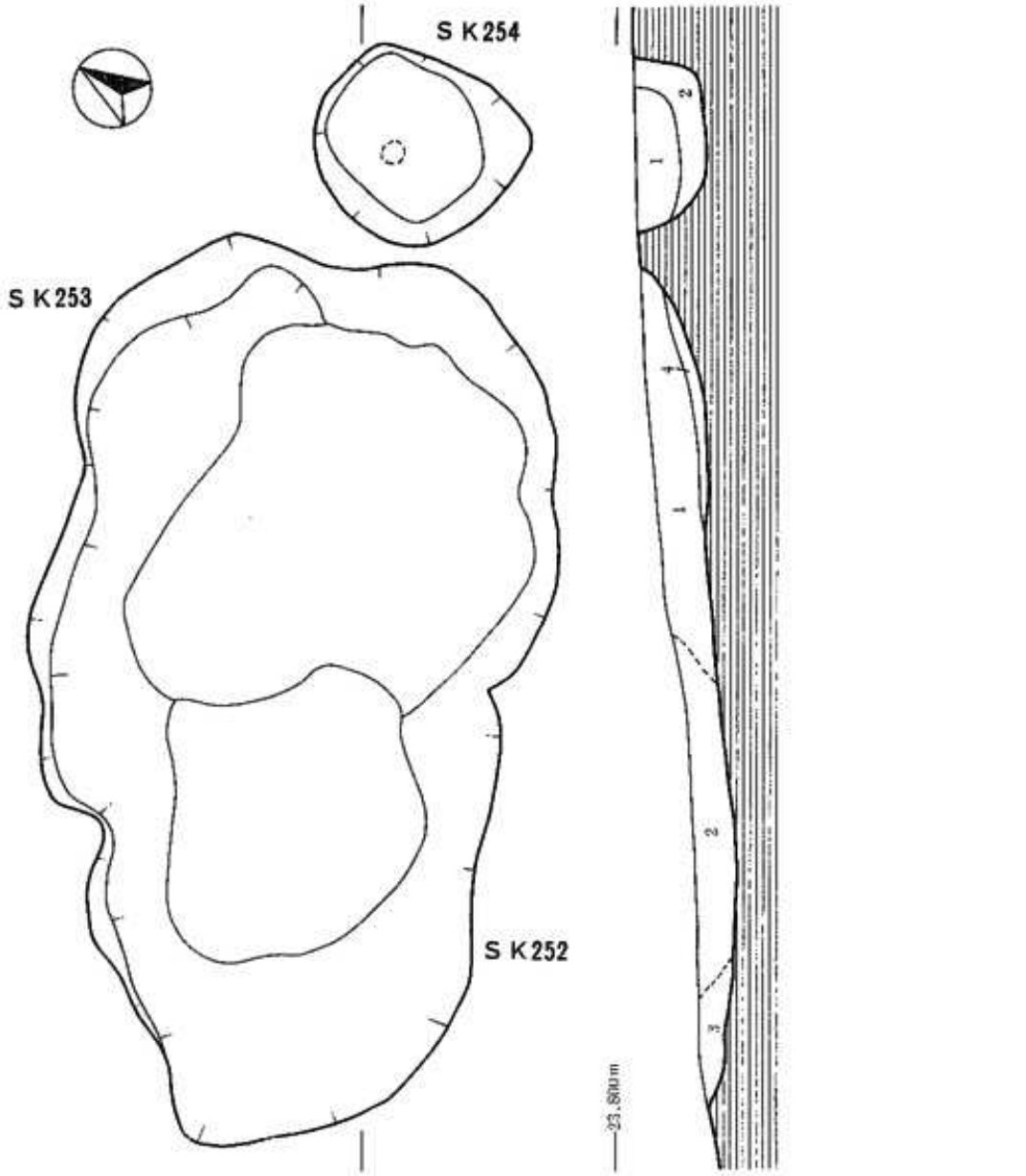


SK251
1　黒褐色　10YR2/2　炭化物やや多く含む
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多く　炭化物少量含む



SK256
1　褐色　10YR3/3　炭化物少量含む
2　暗褐色～褐色　10YR3/4～10YR4/4　粘質土　炭化物少量含む
3　黒褐色　10YR2/2　炭化物やや多く含む
4　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多く　炭化物少量含む

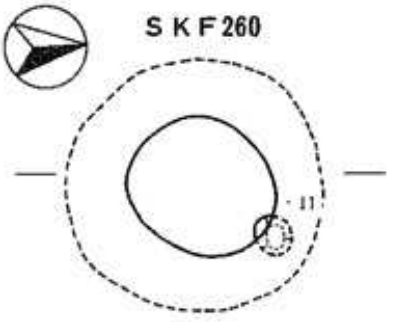
第62図　土坑（34）S K250・251・255・256

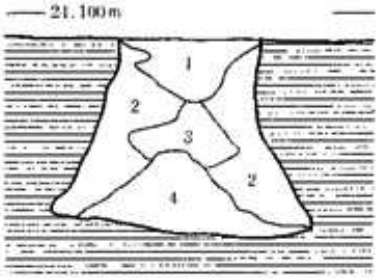


SK252・253
1　黒褐色　10YR2/3　炭化物・地山粘土やや多く含む
2　暗褐色　10YR3/3　炭化物やや多く含む
3　暗褐色　10YR3/4　炭化物少量含む
4　褐色　10YR4/4　地山粘土主で炭化物少量含む

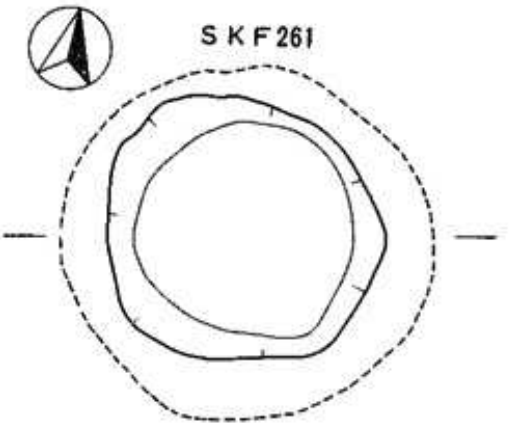
SK254
1　黒褐色　10YR2/3　炭化物やや多く含む
2　暗褐色　10YR3/4　地山粘土多く　炭化物少量含む

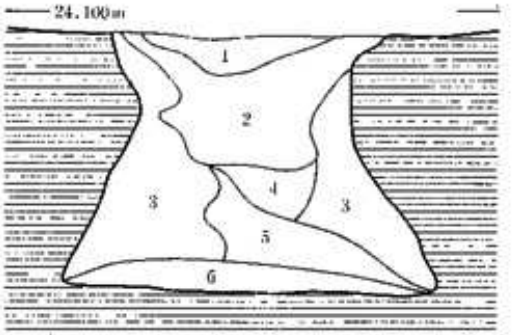
第63図　土坑（35） S K252・253・254



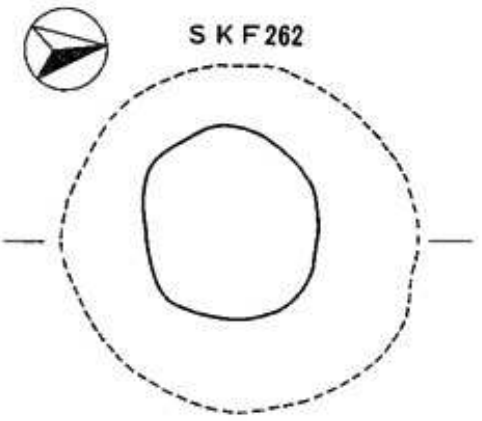


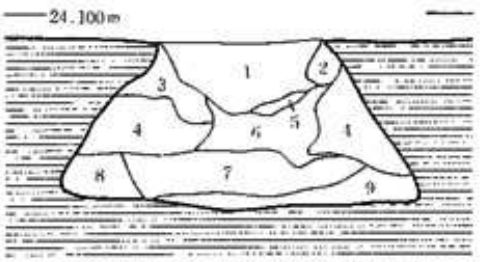
1　黒褐色　10YR2/3　炭化物少量含む
2　暗褐色　10YR3/4　1・3層土の混合
3　黒褐色　10YR3/2　締まり弱　炭化物・焼土少量含
4　黒色　10YR2/1



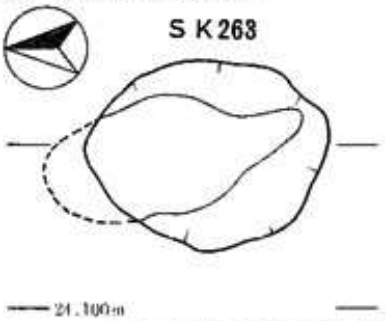


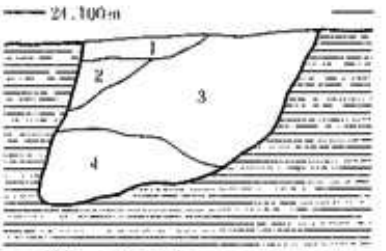
1　暗褐色　10YR3/3　地山粘土やや多く　焼土・炭化物少量含む
2　黒褐色　10YR3/2　炭化物やや多く含む
3　暗褐色・黄褐色　10YR3/4・10YR5/8　地山粘土が互層に入る
4　黒褐色　10YR3/2　3～5層締まり弱　遺人物等ごなし
5　黒褐色　10YR2/2　焼土・炭化物少量含む
6　黒褐色　10YR2/3　焼土少量含む



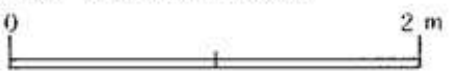


1　暗褐色　7.5YR3/4　焼土・炭化物やや多く含む
2　褐色　7.5YR4/4　地山粘土やや多く含む
3　暗褐色　10YR3/4　地山粘土やや多く含む
4　褐色　10YR4/4　地山粘土主　焼土ブロック混じる
5　暗赤褐色　5YR3/6　焼土主
6　黒褐色　10YR2/3　地山粘土少量含む
7　暗褐色　10YR3/3　地山粘土・炭化物(材)やや多く含む　焼土多量に含む
8　暗褐色　7.5YR3/3　焼土・炭化物少量含む
9　暗褐色　7.5YR3/4　炭化物少量含む

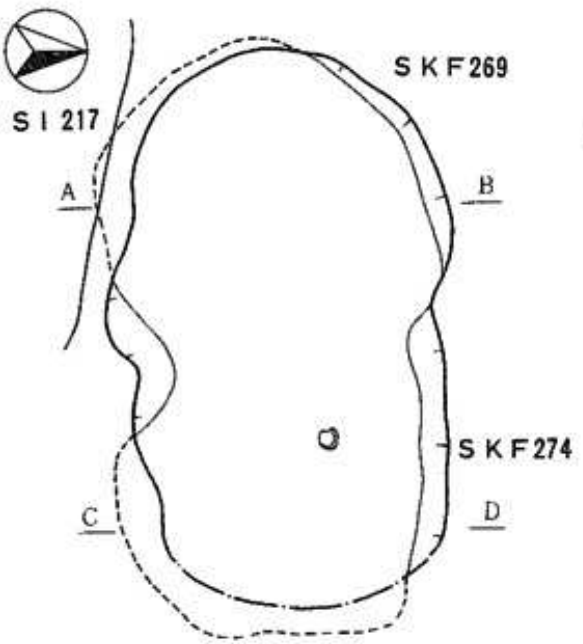


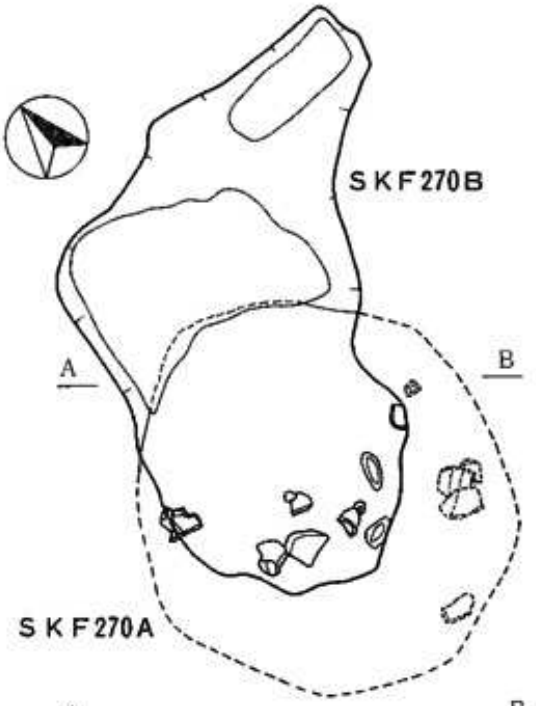


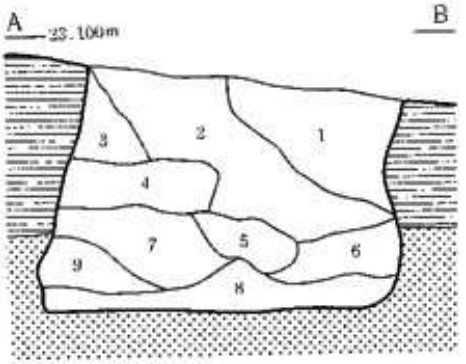
1　黒色　10YR1.7/1
2　黒褐色　10YR2/2
3　黒色　10YR2/1　1～3層地山粘土含まず
4　褐色　10YR4/4　地山粘土2次堆積

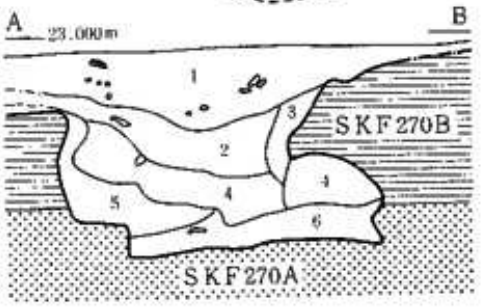


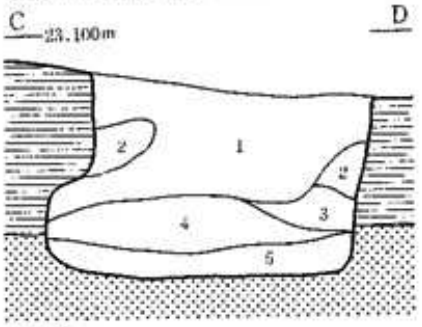
第64図　土坑（36）ＳＫＦ260～262、ＳＫ263











SKF269
1　暗褐色　10YR3/3　炭化物　地山砂少量含む
2　黒褐色　10YR2/3　炭化物多く含む
3　褐褐色　10YR3/3　地山粘土少量含む
4　暗褐色　10YR3/4　地山粘土やや多く　炭化物少量含む
5　黒褐色　10YR2/2　地山粘土少量含む
6　黄褐色　10YR5/8　地山粘土2次堆積
7　黄褐色　10YR5/6　地山粘土2次堆積土に黒褐色10YR2/2帯状に入る
8　黒褐色　10YR3/2　地山粘土少量　炭化物やや多く含む
9　オリーブ褐色　2.5Y4/4　堅く締まる　砂層

SKF274
1　黒褐色　10YR2/3　しまる　炭中粒多量含む
2　暗褐色　10YR3/4　炭中粒少量含む　地山粘土ブロック多量含む
3　黒褐色　10YR3/2　炭小粒中量含む　地山砂中量含む
4　にぶい黄色　2.5Y6/4　地山砂
5　黒褐色　10YR2/3　炭大粒中量含む　粘性あり

SKF270A・B
1　暗褐色　10YR3/3　炭化物やや多く　地山粘土少量含む
2　黒褐色　10YR2/3　炭化物・地山粘土やや多く含む
3　暗褐色　10YR3/4　地山粘土ブロック
4　黒褐色　10YR2/2　炭化物やや多く　地山粘土少量含む
5　黒褐色　10YR2/3　地山粘土多量に　炭化物やや多く含む
6　褐色　10YR4/6　地山粘土主　炭化物少量含む(SKF270A)

第65図　土坑（37）ＳＫＦ269・270Ａ・270Ｂ・274

4．土器埋設遺構（第66図）

土器埋設遺構は、Ⅰ区北部で8基確認した。埋設の形態、堆積土の状況（焼土の有無）、付属施設の有無から3タイプに類別できる。

A：土器が単独で正位して埋め込まれるもの（5基、SR5・7C・65・66F・83B）

B：土器が単独で倒立して埋め込まれるもの（1基、SR60）

C：埋め込まれた土器（正位）に隣接して焼土の広がりの見られるもの（2基、SR76・80）

A・Cは、SR83Bを除くと土器が火熱を受け器面が脆弱しており、堆積土に焼土・炭化物を含む。このことから住居に伴う炉であった可能性が高いが、周壁、柱穴等が明確に確認できなかったため、本項に含めている。SR83BはSI83内に位置し、両者の関係は不明である。堆積土には焼土を含まず、本類の中では異質である。一方のBは、堆積土中に少量の炭化物を含むものの焼土は見られず、土器内部に球状の礫石器が2点（第91図166・167）入れられていた。土器棺墓の可能性を推定しておきたい。時期は使用の土器から、A・Cが縄文時代中期中葉～後葉に、Bは晩期前葉～中葉と考えられる。各遺構の検出位置、規模等については土坑同様に表にしてまとめる。

土器埋設遺構観察表

遺構No.	挿図No.	土器No.	図版No.	グリッド	掘込面	到達面	重複	供伴遺物	時期
SR 5	66	108	17	LP 69	Ⅲ	Ⅳ	-	-	後期前葉
SR 7C	19,66	109	17	LR 71	Ⅲ	Ⅳ	SKF7A→	剥片	中期後葉
SR 60	66	110	17	LN 71	Ⅲ	Ⅳ	-	磨石[167]；敲石[165]；	晩期前葉～中葉
SR 65	66	111	17	LN 71	Ⅲ	Ⅲ	SKF34D→	-	後期前葉
SR 66F	44	112	18	LP 73	-	-	SKF66E→	剥片	中期後葉
SR 76	66	113	-	LM 70	Ⅲ	Ⅲ	-	削器[158]；石錐[157]	後期前葉
SR 80	66	114	18	LT 71	Ⅲ	Ⅲ	-	剥片	後期初頭
SR 83B	9,10	2	-	LR 67	Ⅲ	Ⅳ	(SI83)	剥片	後期初頭

5．石囲炉（第67図）

石囲炉とした遺構は、Ⅰ区北東部で隣接して3基検出された（SN33B・34B・41B）。いずれもフラスコ状土坑埋土上位に構築される。土坑との直接的な関係は不明であるが、少なくとも土坑が大部分埋まり、皿状に窪んだ場に石囲の炉を形成させる。SN41Bは、皿状に窪んだ場に褐色の粘質土（SKF41A－2層）を貼りその上に石を配している。これら遺構の周囲には柱穴、周壁等を確認できなかったことから、住居に伴う施設ではなく、屋外の炉であったと推定する。炉内部には比較的厚く焼土が堆積している。炉に使用の石は拳大から半頭大の円

礫を10～19個円形に巡らしている。炉の規模は3基とも径が50～60cmであり、うち2基には炉中央に土器が正立して埋められていた。土器は後期以降の時期と思われるが、地文以外の文様はなく、時期の特定はできない。しかしSN33B・41Bは、直下の土坑SKF33A・41Aが出土遺物から晩期前葉～中葉の構築と判断されることから、これら石囲炉は、該期あるいは以降の時期と考えられる。

6．焼土遺構（第68～71図）

焼土遺構は、I区22基、II区25基、III区1基の計48基を確認した。本遺構は、土坑等がI・II区北部に集中するのに比較すると、数は少ないものの主にI・II区の調査区内に点在するように分布する。各遺構は、単独で位置する場合と、土坑等と重複が認められる場合がある。後者は重複の位置関係から、前述の石囲炉のように、土坑が埋没し僅かに窪んだ場を利用して火の使用がなされたとも考えられる。SN33C・61B・73B・217・227B・243Bの6遺構が該当する。またSN33Cは、石囲炉SN33Bの真上に位置するが、10cm程の間層を挟んでおり、両者一連の遺構ではなく、33B廃棄後の窪みを利用していることが判明した。

遺構の構築時期は、焼土内あるいは周辺出土の土器から後期前葉を中心とすると見られるが、I区東端中央に位置するSN93～95は、周辺で鉄滓の出土が認められることから平安時代かそれ以降の可能性もある。各遺構の位置、規模、確認面等については以下の表にまとめる。

焼土遺構観察表

遺構No.	挿図No.	グリッド	長軸	短軸	厚さ	平面形	確認面	検出面	重　複	遺　物
SN 9	68	LT 54	120	90	10	不整	IV	IV	-	-
SN 10	68	LQ 54	40	30	10	楕円形	I	II	-	-
SN 11	68	LO 56	40	20	-	楕円形	IV	IV	-	-
SN 12	68	LK 56	60	40	-	楕円形	II	II	-	-
SN 13	68	LJ 56	40	30	8	楕円形	II	II	-	-
SN 14	68	LL 66	80	40	10	楕円形	III	IV	-	剥片
SN 15	68	LM 62	40	30	15	略円形	IV	IV	-	-
SN 16	68	LO 55	60	20	-	長円形	IV	IV	-	-
SN 17	68	LO 55	40	30	-	三角形	IV	IV	-	-
SN 18	68	LO 56	110	80	-	楕円形	IV	IV	-	-
SN 20	69	LP 61	180	90	16	楕円形	-	-	-	-
SN 33C	28	LN 70	40	30	10	楕円形	II	II	SKF33A→SN33B→	-
SN 61B	39	LO 70	40	-	16	円形	IV	IV	SKF61A→	-
SN 73B	47	LO 73	70	40	14	楕円形	-	-	SKF73A→	-
SN 79	69	MA66	50	40	10	楕円形	II	II	-	-

遺構No.	挿図No.	グリッド	長軸	短軸	厚さ	平面形	確認面	到達面	底　　板	遺　　物
SN 81	69	LT 72	30	20	8	楕円形	II	III	-	石鏃;剥片
SN 82	69	LR 73	50	40	16	楕円形	II	III	-	土器
SN 93	69	LI 61	30	20	8	楕円形	II	III	-	-
SN 94	69	LI 61	50	30	6	楕円形	II	III	-	-
SN 95	69	LI 61	70	20	4	三日月形	II	III	-	-
SN 98	69	LO 72	40	20	-	楕円形	IV	IV	-	-
SN 99	69	LO 71	40	-	-	隅丸方形	III	III	-	-
SN 108	53	NE 68	70	35	10	楕円形	-	-	-	土器(後期前葉),礫;剥片[208];剥片
SN 211	70	MJ 76	80	40	10	楕円形	III	IV	-	-
SN 217	56	MP 78	90	40	-	楕円形	III	IV	SKF208→	-
SN 227B	58	MK 77	70	40	-	隅丸長方形	III	IV	SK227A→	-
SN 227C	58	MK 77	50	40	-	三角形	IV	IV	-	-
SN 241	70	MF 77	180	70	16	三日月形	II	III	-	-
SN 242	70	MF 76	50	30	14	楕円形	II	III	-	-
SN 243B	61	MG 75	80	20	-	三日月形	III	IV	SK243A→	-
SN 243C	61	MG 75	40	20	-	楕円形	IV	IV	-	-
SN 245A	12	MM77	60	40	-	三角形	III	III	SN245C→	-
SN 245B	12	MM78	70	30	-	弧状形	III	III	SN245C→	-
SN 245C	12	MM78	50	30	-	楕円形	IV	IV	←SN245A;→SN245B	-
SN 245D	12	MM78	90	40	-	楕円形	III	III		-
SN 249	70	MQ 72	80	60	12	楕円形	IV	IV	-	-
SN 257	70	MT 70	190	150	14	隅丸長方形	I	II	-	-
SN 258	70	MR 70	50	30	6	楕円形	III	III	-	剥片
SN 264	70	MI 72	40	30	10	楕円形	II	III		-
SN 265A	71	MH 72	30	-	16	楕円形	IV	IV	-	剥片
SN 265B	71	MH 72	40	30	24	楕円形	IV	IV	-	剥片
SN 266	71	MG 72	50	40	10	楕円形	III	III	-	剥片;礫
SN 267	13	MI 73	110	40	13	楕円形	II	III	SI273 →	-
SN 268A	71	MK 60	30	20	8	三日月形	II	III	-	土器[104]
SN 268B	71	MK 60	60	20	10	弧状形	II	II	-	土器[104]
SN 271	71	MG 72	80	30	8	楕円形	III	IV		-
SN 272A	71	MM62	50	30	10	楕円形	II	II	-	-
SN 272B	71	MM62	70	40	10	弧状形	II	II		-

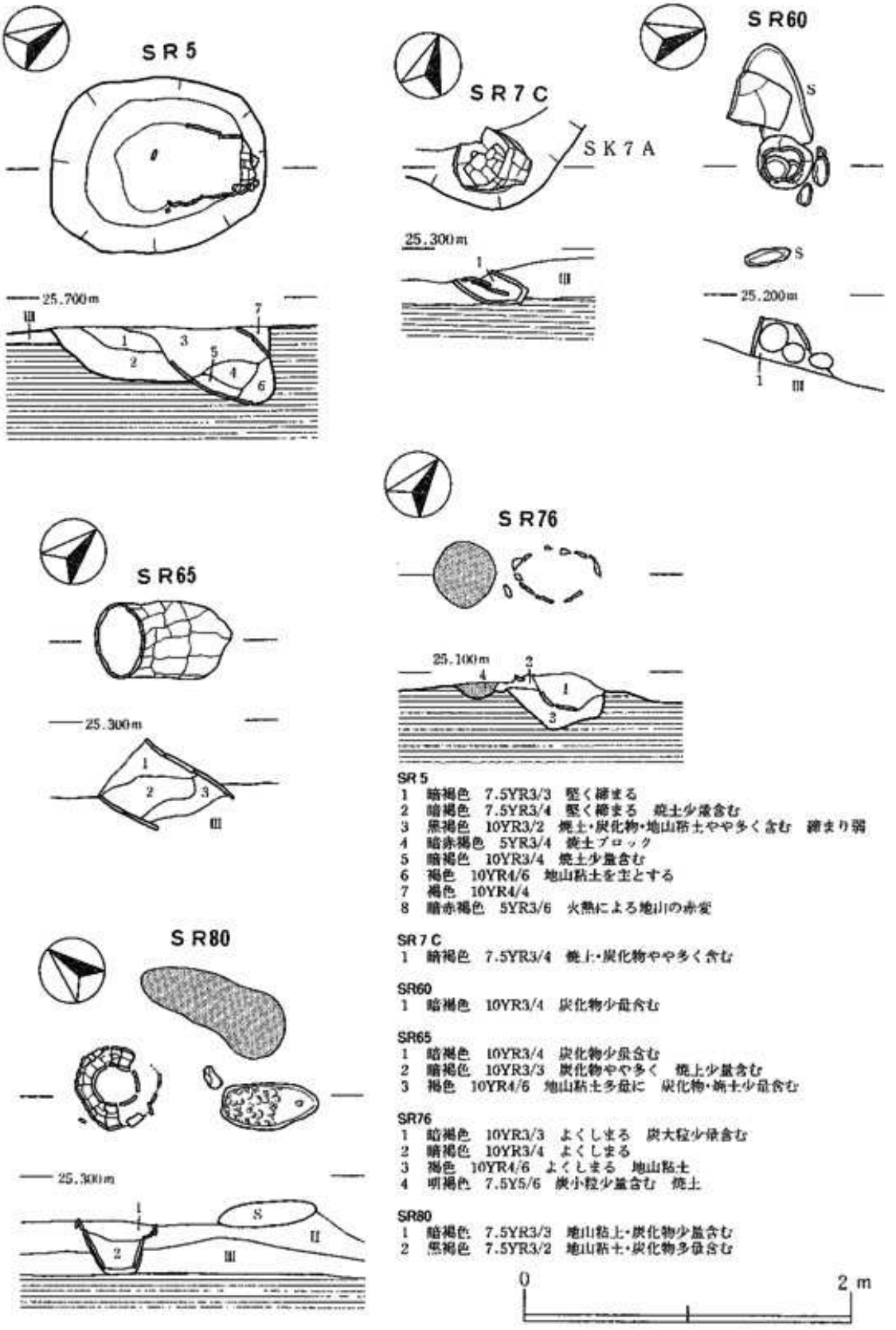
７．溝状遺構

溝状遺構は、Ｉ区北東端で２条確認した。土坑との重複あるいは確認状況から縄文時代に構築された遺構であることが判明している。

ＳＤ66Ｇ（第44・45図）は、およそ南西から北東方向に延びる（下る）溝で、幅0.6ｍ前後、確認できた長さは約４ｍである。ＳＫ66Ｂ・66Ｃ・78Ａ・78Ｃと重複し、各土坑に切られる。ＳＫＦ66Ｂと78Ｃの間は溝がトンネル状（幅、高さとも約60㎝）を呈する。溝内部には南西部、ＳＫＦ66Ｃと重複する部分に拳大の礫が30個ほど集中する（下の写真参照）。

ＳＤ97（第49図）は、およそ南東から北西方向に延びる（下る）溝で、幅0.6～0.85ｍ、確認した長さは約5.7ｍである。深さは、17～46㎝である。本溝と直接的な重複関係をもつ遺構はないが、北側に隣接するＳＫＦ77と同一面で確認していることから縄文時代の構築と判断した。

集積された礫
（ＳＤ66Ｇ）



SR5
1　暗褐色　7.5YR3/3　堅く締まる
2　暗褐色　7.5YR3/4　堅く締まる　焼土少量含む
3　黒褐色　10YR3/2　焼土・炭化物・地山粘土やや多く含む　締まり弱
4　暗赤褐色　5YR3/4　焼土ブロック
5　暗褐色　10YR3/4　焼土少量含む
6　褐色　10YR4/6　地山粘土を主とする
7　褐色　10YR4/4
8　暗赤褐色　5YR3/6　火熱による地山の赤変

SR7C
1　暗褐色　7.5YR3/4　焼土・炭化物やや多く含む

SR60
1　暗褐色　10YR3/4　炭化物少量含む

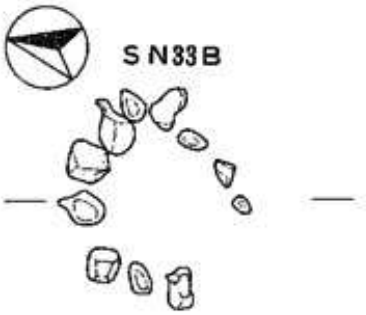
SR65
1　暗褐色　10YR3/4　炭化物少量含む
2　暗褐色　10YR3/3　炭化物やや多く　焼土少量含む
3　褐色　10YR4/6　地山粘土多量に　炭化物・焼土少量含む

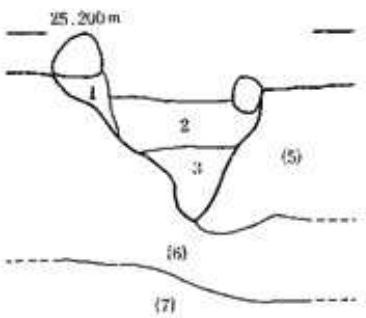
SR76
1　暗褐色　10YR3/3　よくしまる　炭大粒少量含む
2　暗褐色　10YR3/4　よくしまる
3　褐色　10YR4/6　よくしまる　地山粘土
4　明褐色　7.5Y5/6　炭小粒少量含む　焼土

SR80
1　暗褐色　7.5YR3/3　地山粘土・炭化物少量含む
2　黒褐色　7.5YR3/2　地山粘土・炭化物多量含む

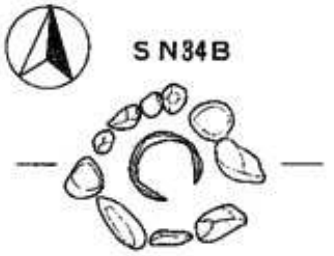
0　2 m

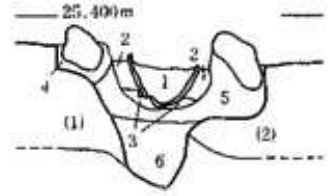
第66図　土器埋設遺構　SR5・7C・60・65・76・80



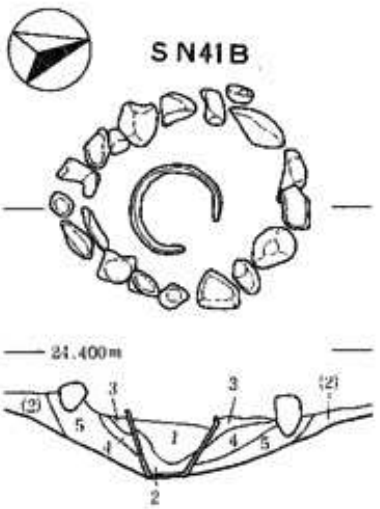


1　暗褐色　10YR3/4　炭小粒中量含む　焼土小粒中量含む
2　褐色　7.5YR4/6　炭中粒少量含む　焼土
3　暗褐色　7.5YR3/4　炭中粒少量含む　焼土中粒中量含む



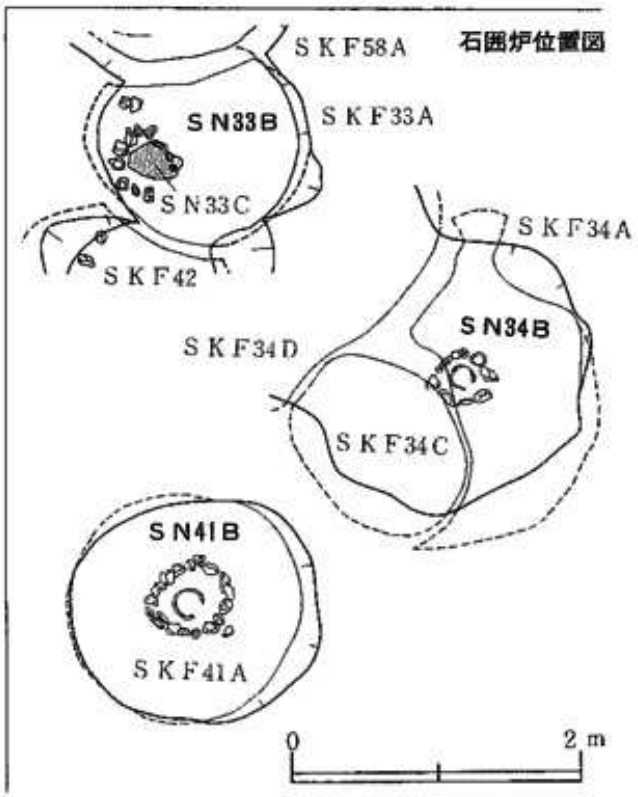


1　黒色　7.5YR2/1　炭小粒中量含む　焼土小粒中量含む
2　暗褐色　7.5YR3/4　炭小粒中量含む　焼土
3　極暗褐色　7.5YR2/3　焼土中量含む
4　黒褐色　10YR3/2　よくしまる　炭中粒中量含む
5　黒褐色　10YR3/2　よくしまる
6　暗褐色　10YR3/3　炭中粒少量含む　焼土大粒少量含む

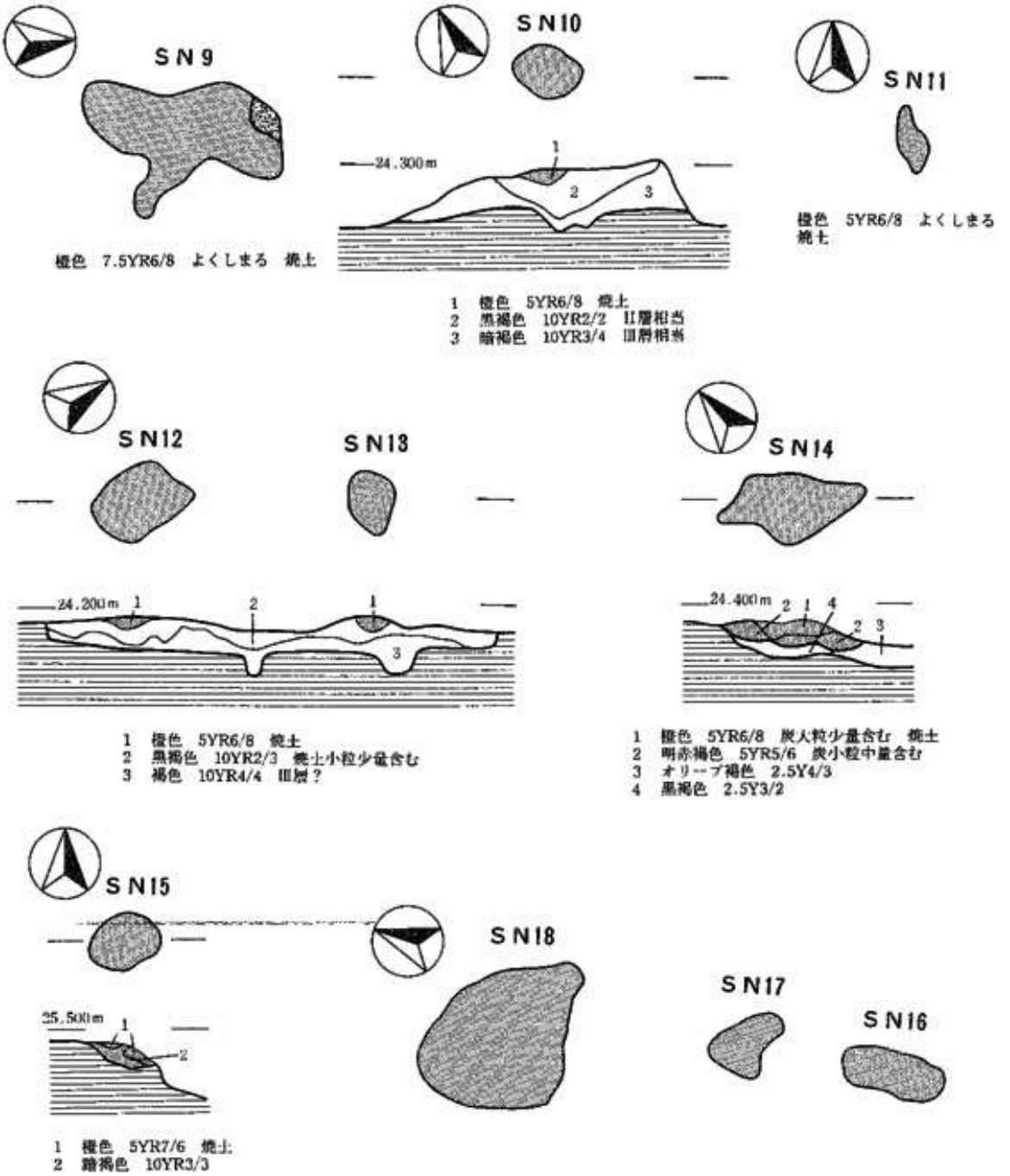


1　黒褐色　7.5YR2/2　炭小粒中量含む　焼土大粒中量含む
2　黒褐色　10YR3/2　炭小粒少量含む　焼土中粒中量含む
3　橙色　7.5YR6/8　炭中粒中量含む　焼土ブロック
4　褐色　7.5YR4/6　よくしまる　焼土小粒中量含む
5　暗褐色　7.5YR3/4　ややしまる　焼土小粒少量含む

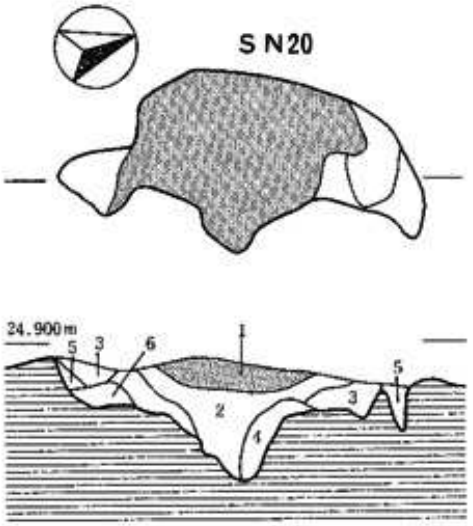
(　)内は土坑内の層序



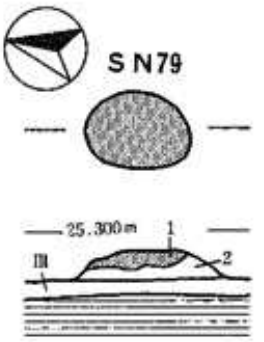
第67図　石囲炉　SN33B・34B・41B



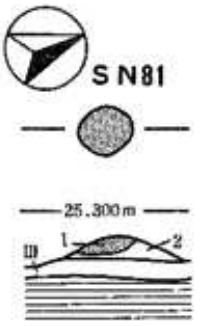
第68図　焼土遺構（1）SN9～18



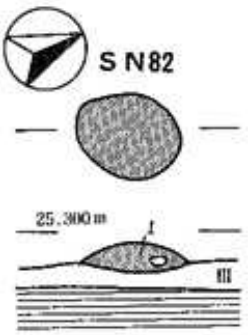
1　黒褐色　2.5Y3/1　炭大粒少量含む
2　黒褐色　10YR2/3　炭大粒少量含む　焼土中粒少量含む
3　橙色　5YR6/8　焼土
4　暗褐色　7.5YR3/4　焼土中粒多量含む
5　黒褐色　10YR2/2
6　黄褐色　10YR5/6



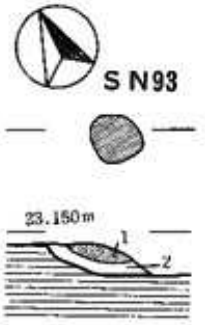
1　明褐色　7.5YR5/8　焼土
2　暗褐色　10YR3/3　炭・焼土中量含む



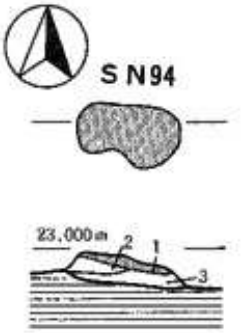
1　赤褐色　5YR4/6　焼土　炭化物少量含む
2　にぶい黄褐色　10YR4/3



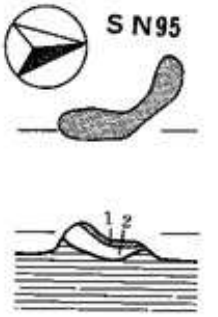
1　赤褐色　5YR4/6　焼土



1　褐色　7.5YR4/6　炭中粒少量含む　焼土大粒多量含む
2　黒褐色　2.5Y3/1　炭小粒中量含む



1　褐色　7.5Y4/6　炭大粒少量含む　焼土大粒多量含む
2　黒褐色　2.5Y3/2
3　黒色　7.5Y2/1　炭中粒中量含む

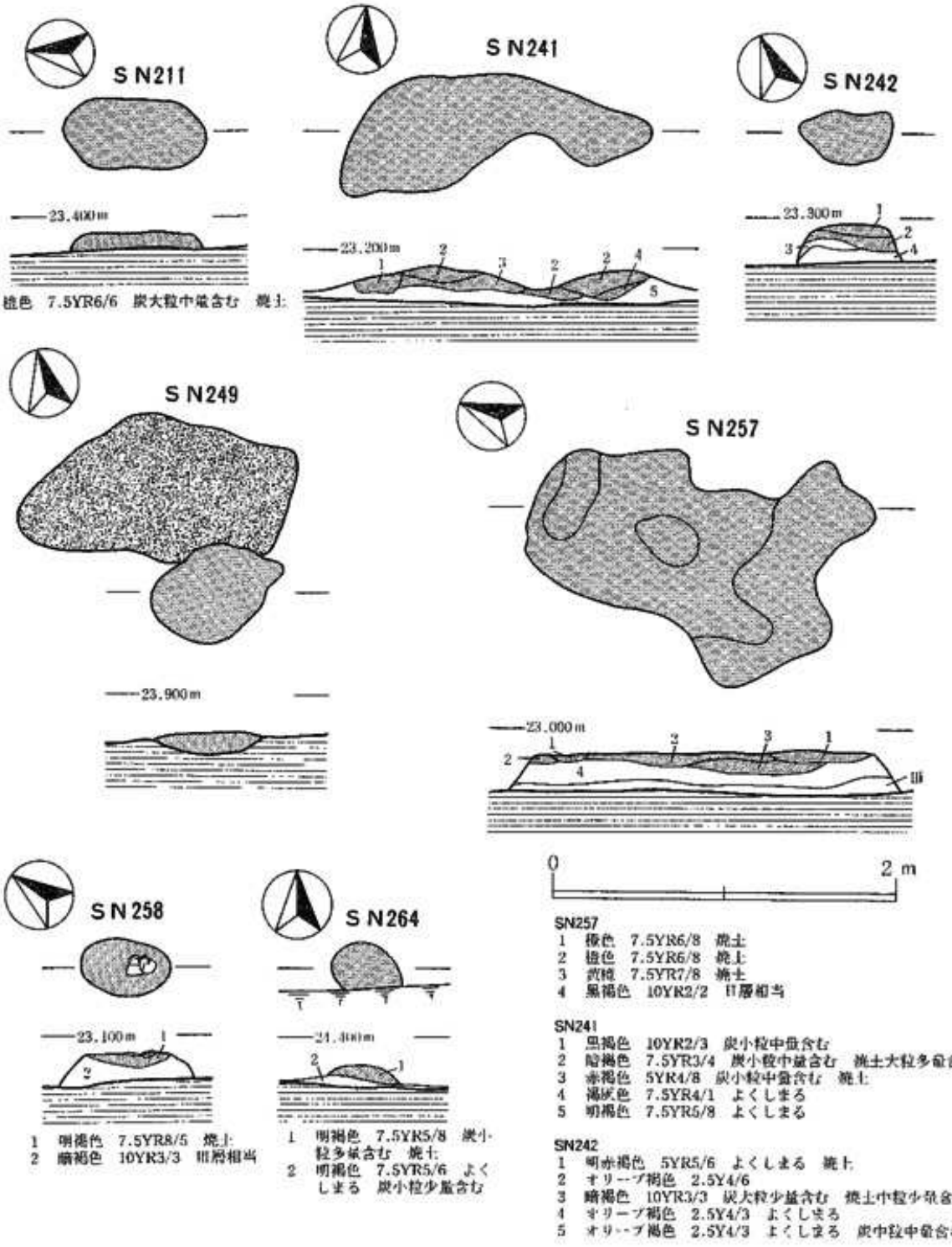


1　暗褐色　7.5YR3/4　焼土中粒多量含む
2　黒色　7.5YR2/1　炭中粒少量含む

明褐色　7.5YR5/6　焼土

褐色　7.5YR4/6　焼土　砂質粘土

第69図　焼土遺構（2） S N20・79・81・82・93・94・95・98・99



橙色　7.5YR6/6　炭大粒中量含む　焼土

SN257
1　橙色　7.5YR6/8　焼土
2　橙色　7.5YR6/8　焼土
3　黄橙　7.5YR7/8　焼土
4　黒褐色　10YR2/2　旧層相当

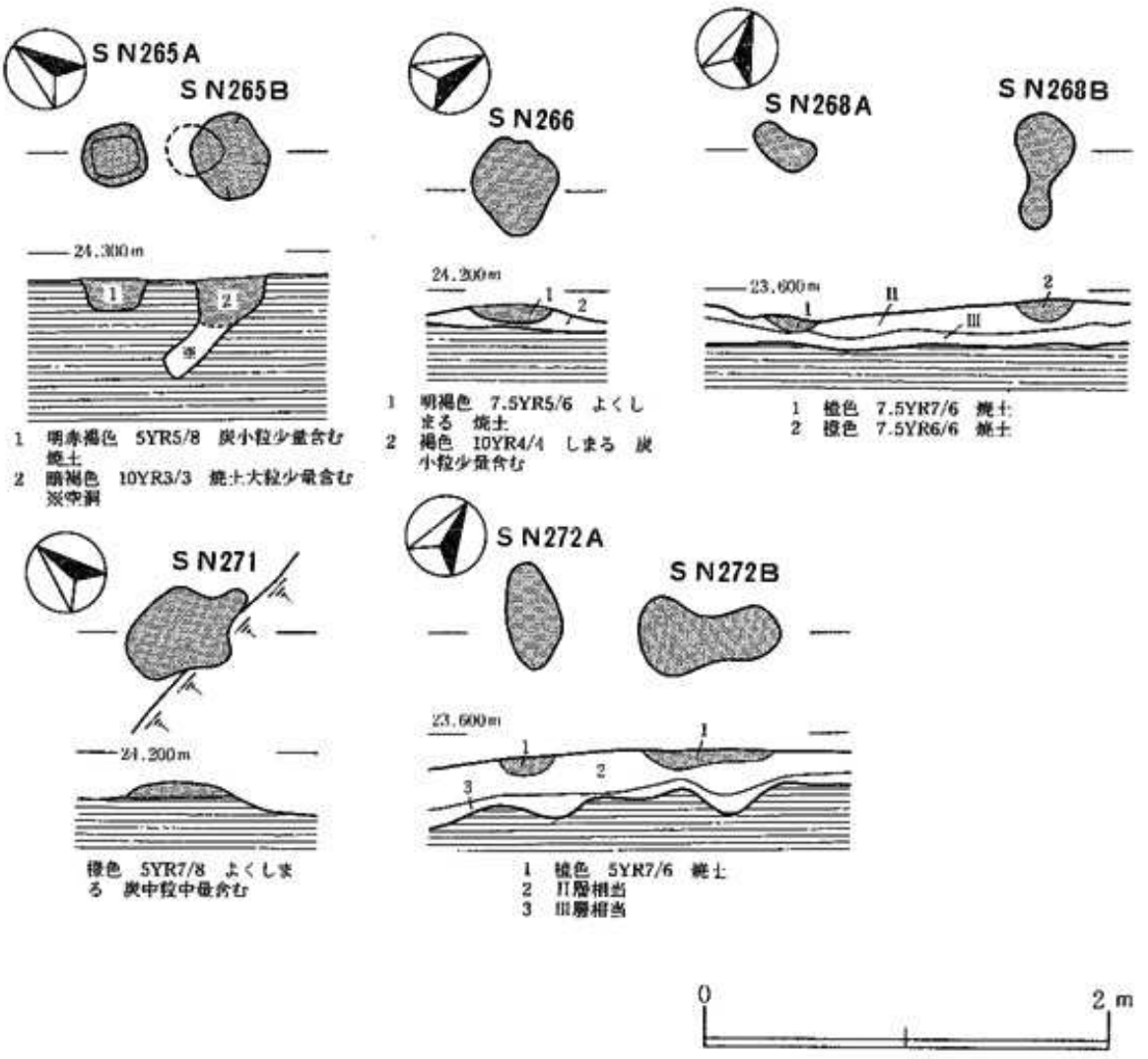
SN241
1　黒褐色　10YR2/3　炭小粒中量含む
2　暗褐色　7.5YR3/4　炭小粒中量含む　焼土大粒多量含む
3　赤褐色　5YR4/8　炭小粒中量含む　焼土
4　褐灰色　7.5YR4/1　よくしまる
5　明褐色　7.5YR5/8　よくしまる

SN242
1　明赤褐色　5YR5/6　よくしまる　焼土
2　オリーブ褐色　2.5Y4/6
3　暗褐色　10YR3/3　炭大粒少量含む　焼土中粒少量含む
4　オリーブ褐色　2.5Y4/3　よくしまる
5　オリーブ褐色　2.5Y4/3　よくしまる　炭中粒中量含む

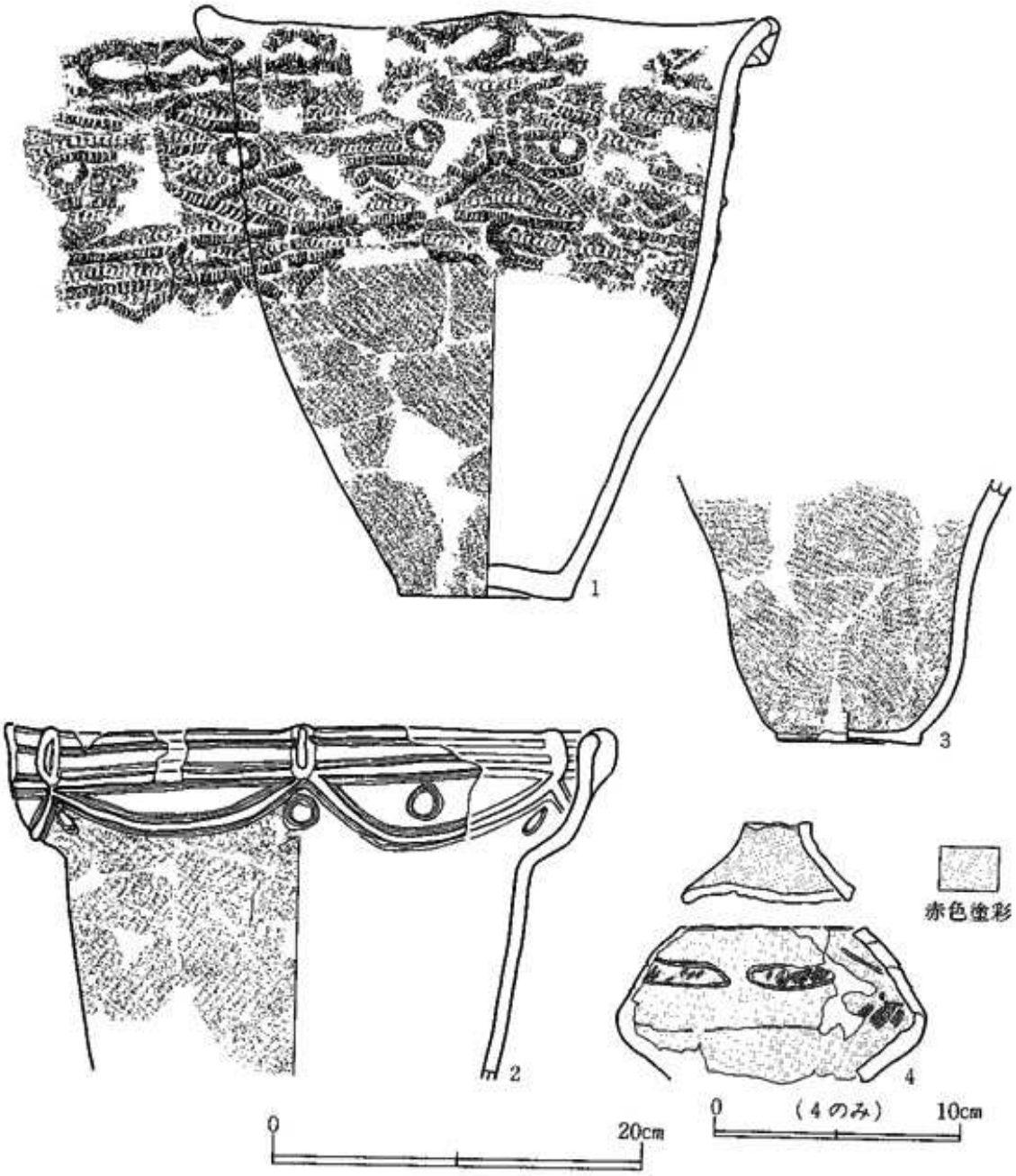
1　明褐色　7.5YR8/5　焼土
2　暗褐色　10YR3/3　旧層相当

1　明褐色　7.5YR5/8　炭小粒多量含む　焼土
2　明褐色　7.5YR5/6　よくしまる　炭小粒少量含む

第70図　焼土遺構（3）S N211・241・242・249・257・258・264

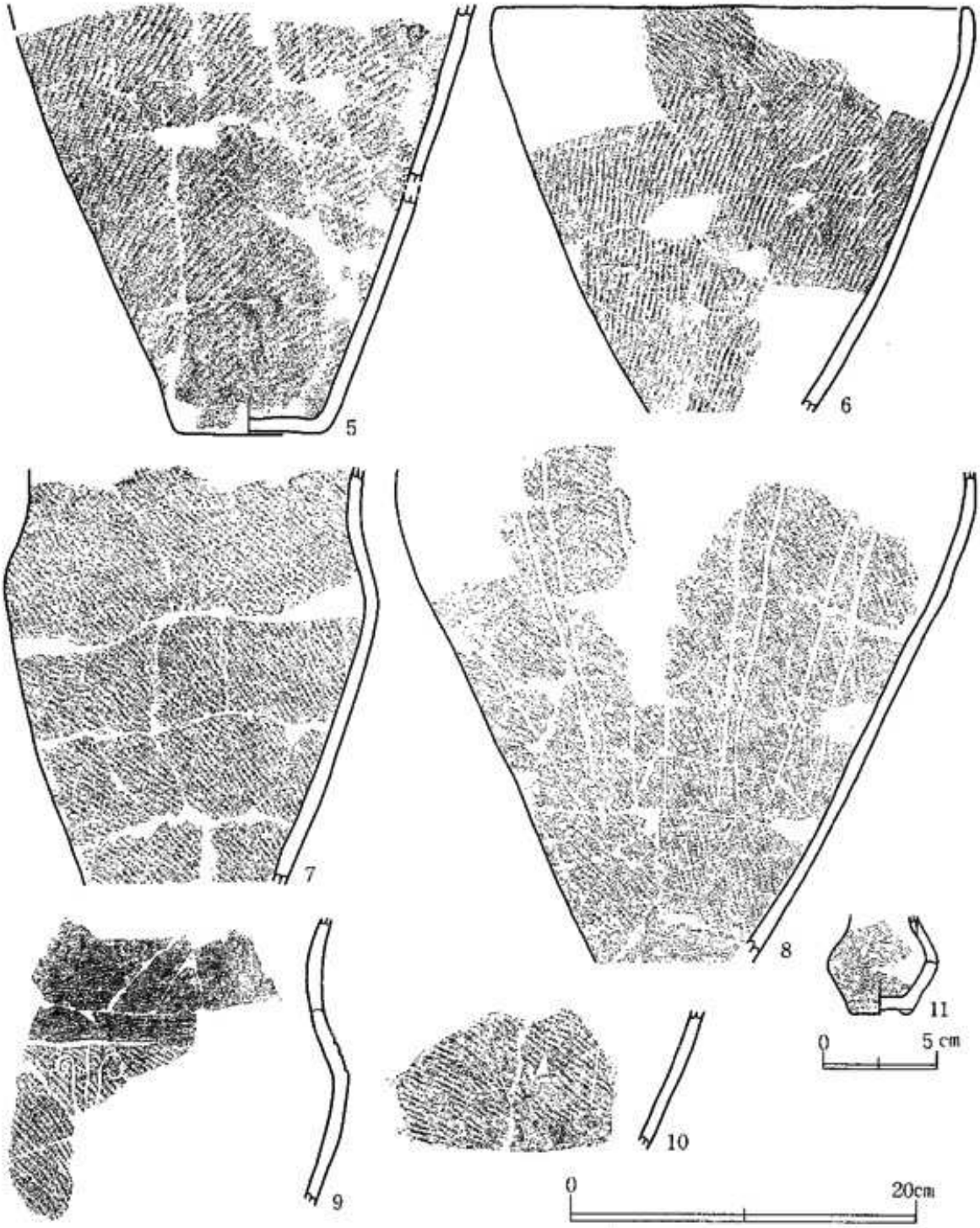


第71図　焼土遺構（４） S N265A・265B・266・268A・268B・271・272A・272B



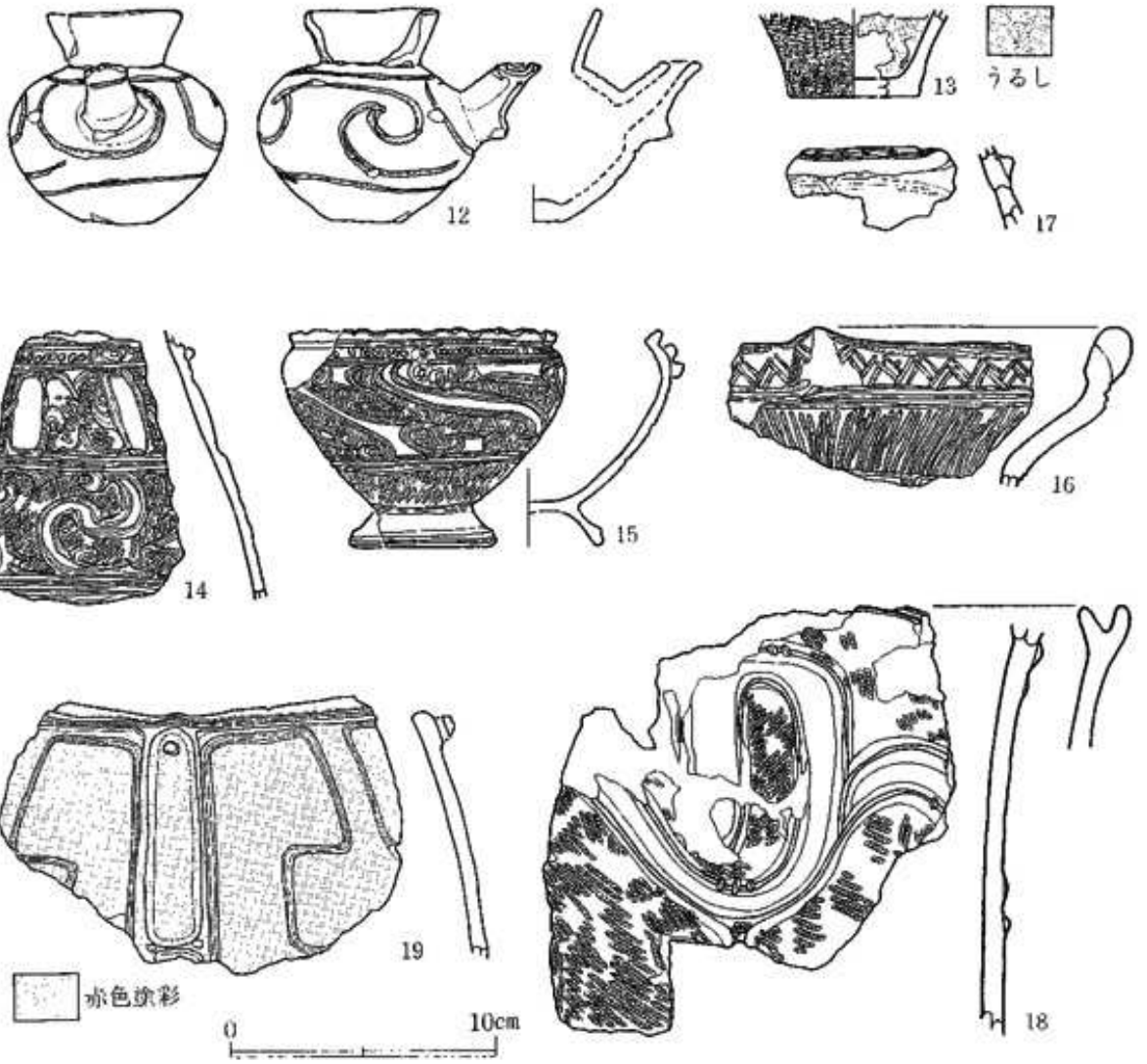
番号	出土遺構	文様・調整等	口径	最大径	器高
1	SI83	平縁、（外）口縁隆帯→RL縄文→調隙帯→刺突列、（内）ミガキ	31.9	31.9	32.1
2	SI83	平縁、（外）隆帯→LR縄文→沈線、（内）ミガキ	32.9	-	(19.2)
3	SR83B	（外）RL縄文、（内）ミガキ	-	(16.2)	(14.6)
4	SR92	切断土器、（外）沈線→LR縄文：炭付着、（内）ミガキ：煤？付着	-	12.5	(9.7)

第72図　遺構内出土遺物（1）土器（1）I区



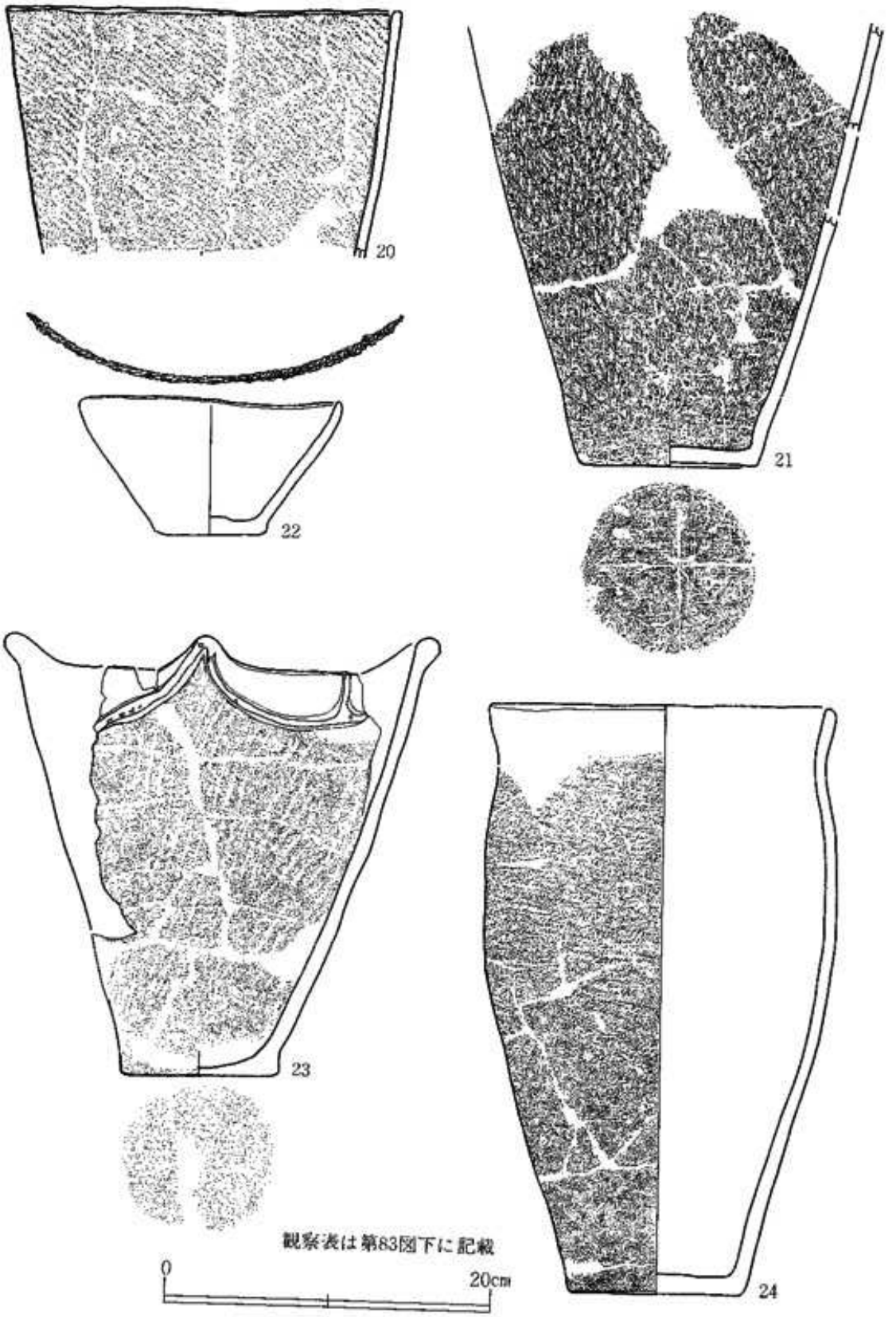
番号	出土遺構	文様・調整等	口径	最大径	器高
5	ＳＩ２１９（炉）	（外）縦ＲＬ縄文，（内）ミガキ；スス付着	-	(26.3)	(25.1)
6	ＳＩ２７３（炉）	半縁？，（外）ＲＬ縄文，（内）ミガキ	27.2	27.2	(23.6)
7	ＳＩ２７３（炉）	（外）ＲＬ縄文，（内）ミガキ・ヘラナデ	-	21.8	(24.2)
8	ＳＩ２７３	（外）ＲＬ縄文→沈線，（内）ミガキ	-	33.7	(29.3)
9	ＳＩ２７３（炉）	（外）ＲＬ縄文→沈線→磨消，（内）ミガキ	-	-	-
10	ＳＩ２７３（炉）	（外）ＲＬ縄文→沈線，（内）ミガキ，９と同一個体か	-	-	-
11	ＳＩ２７３	独形土器，（外）ＲＬ縄文	-	4.8	(4.5)

第73図　遺構内出土遺物（２）土器（２）Ｉ区

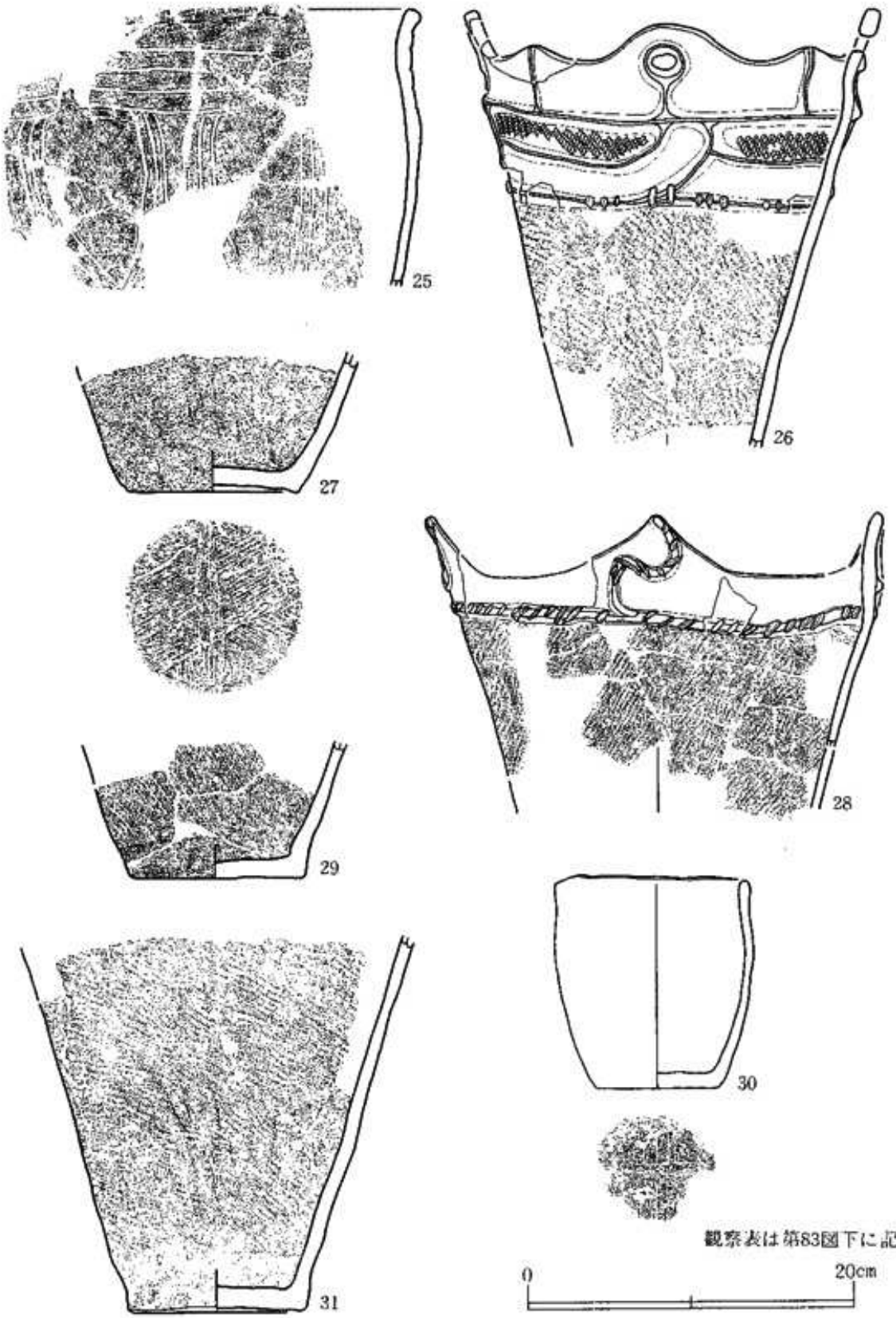


番号	出土遺構	文様・調整等	口径	最大径	器高
12	SKF3	平縁，（外）弧状沈線→ミガキ，（内）ミガキ・ナデ	5.0	8.0	8.0
13	SKF8	（外）RL縄文；スス付着，（内）漆付着	-	-	(3.2)
14	SKF25	壺頸部，（外）B突起→平行沈線→縦LR縄文・刻目列・雲形文・磨消，（内）ミガキ	-		-
15	SKF40A	B突起付平縁，（外）箱→平行沈線・LR縄文→刻目列・雲形文・磨消，（内）ミガキ	10.0	10.7	8.1
16	SKF64A	平縁，（外）突起→平行沈線，（内）ミガキ	-	-	-
17	SK66A	（外）隆帯→刺突列，（内）ミガキ	-	-	-
18	SKF66C	二重波状縁，（外）隆帯・縦LR縄文，（内）ミガキ	-	-	-
19	SKF74B	切断土器（外）隆帯→沈線；朱付着，（内）ミガキ	-	-	-

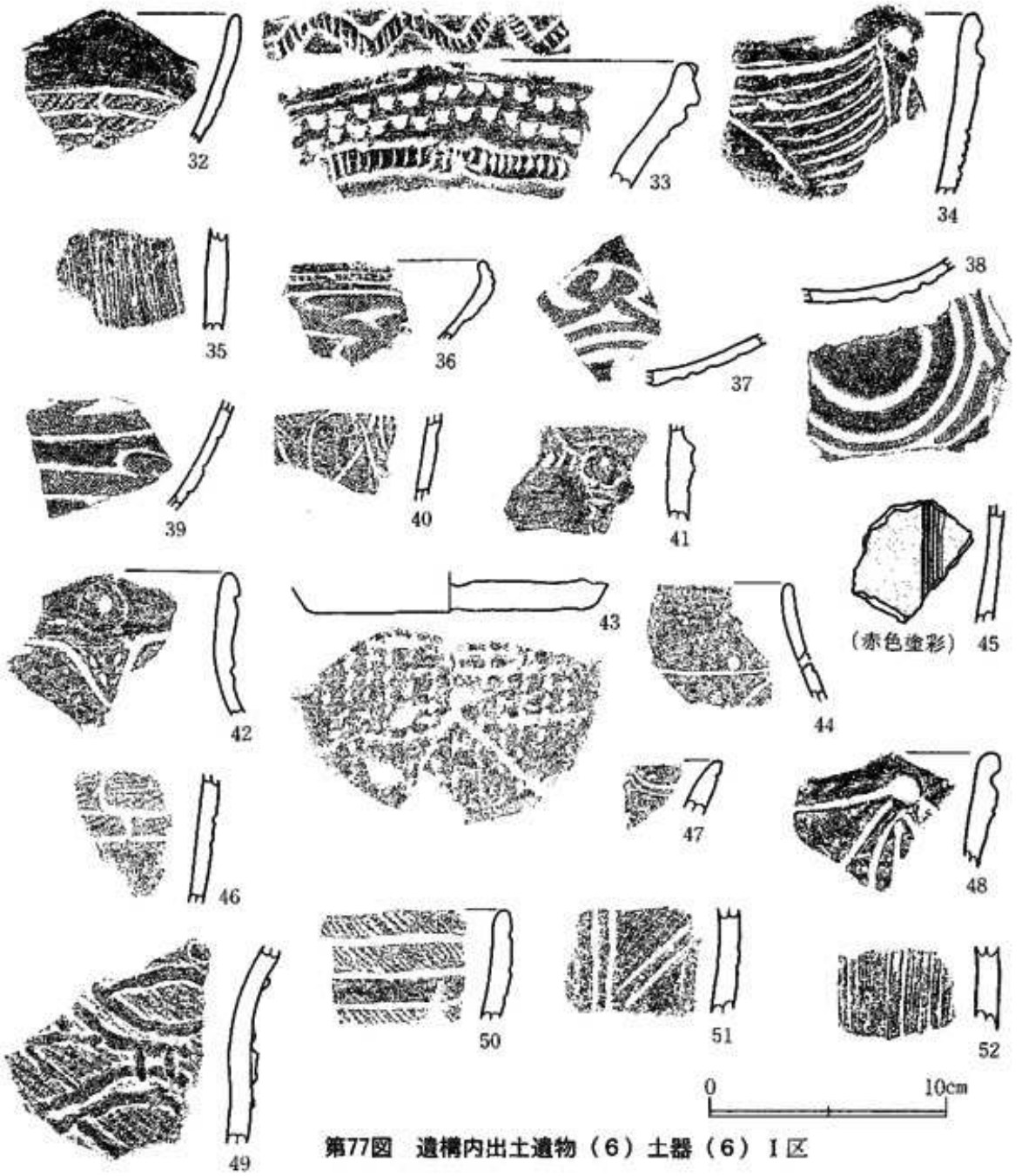
第74図　遺構内出土遺物（3）土器（3）I区



第75図　遺構内出土遺物（4）土器（4）I区



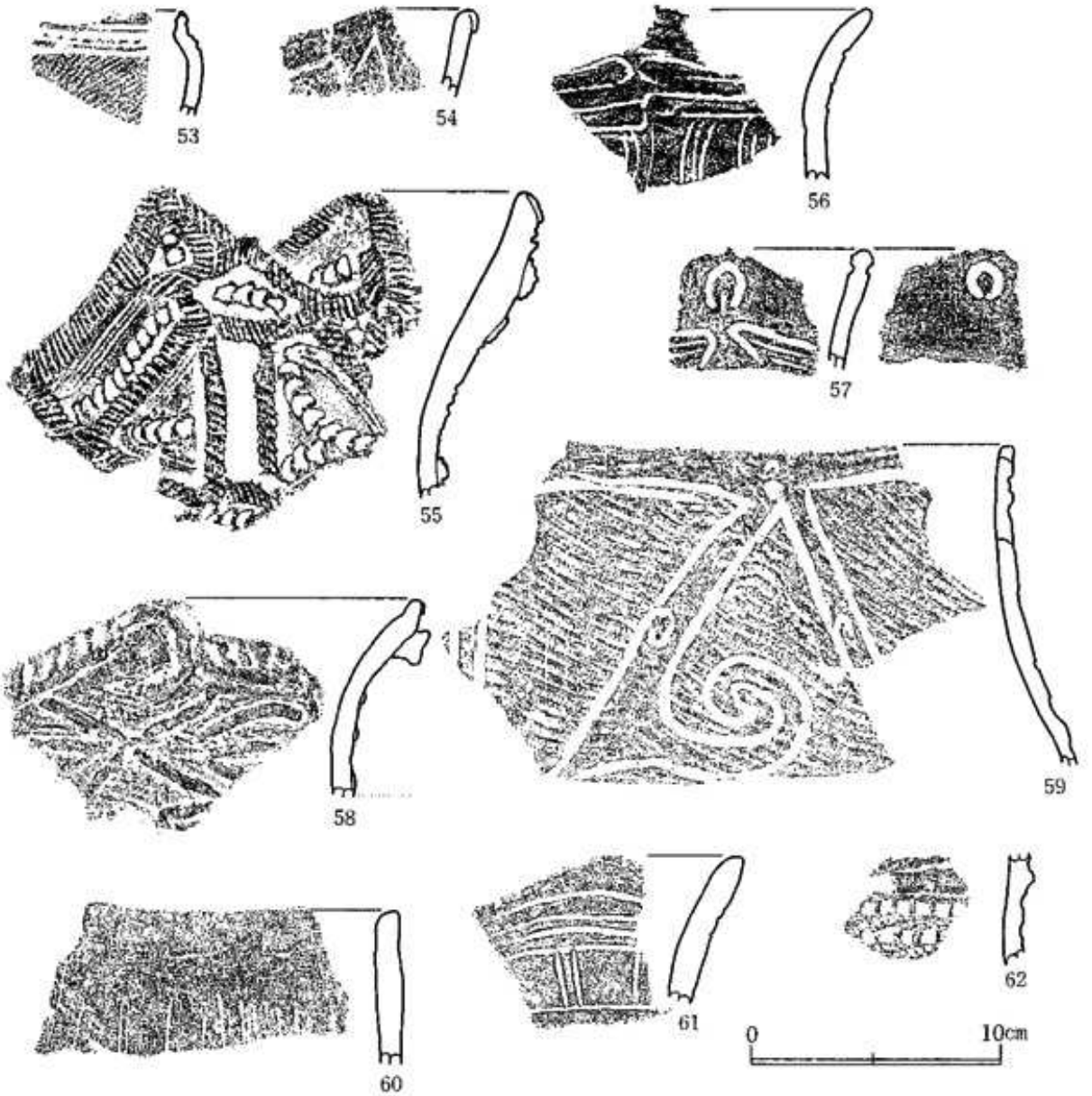
第76図　遺構内出土遺物（5）土器（5）I区



第77図　遺構内出土遺物（６）土器（６）Ｉ区

番号	出土位置	文様・調整等
32	ＳＫＦ３	(外) ＬＲ縄文→沈線→磨消、(内) ：ガキ
33	ＳＫＦ６	(外) 隆帯→刺突、(内) ：ガキ
34	ＳＫＦ７Ａ	(外) 沈線→刺突、(内) ：ガキ
35	ＳＫＦ７Ａ	(外) 条痕、(内) ：ガキ
36	ＳＫＦ２５	(外) 平行沈線→刺目列→ＬＲ縄文→沈線→磨消、(内) ：ガキ
37	ＳＫＦ２６Ｄ	(外) ＬＲ縄文→沈線→磨消：集合帯、(内) ：ガキ
38	ＳＫＦ２６Ｄ	(外) ＬＲ縄文→沈線→磨消、(内) ：ガキ
39	ＳＫＦ２６Ｄ	(外) ＬＲ縄文→沈線→磨消、(内) ：ガキ
40	ＳＫＦ２６Ｇ	(外) 沈線、(内) ：ガキ
41	ＳＫＦ２７Ｂ	(外) 隆帯→刺目列、(内) ：ガキ
42	ＳＫＦ２７Ｂ	(外) 隆帯→刺突→沈線、(内) ：ガキ

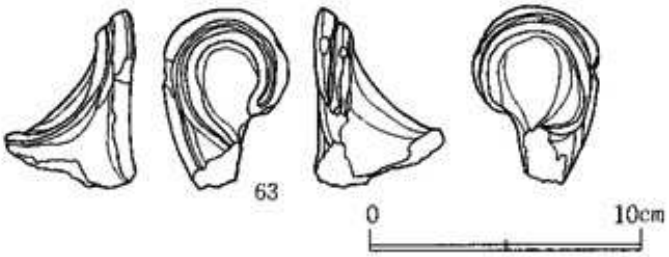
番号	出土位置	文様・調整等
43	ＳＫＦ２８Ａ	(底) 網物痕
44	ＳＫＦ２８Ａ	(外) 沈線、(内) ：ガキ
45	ＳＫＦ２８Ａ	(外) 隆帯→沈線：先付帯、(内) ：ガキ
46	ＳＫ２５２	(外) 撚ＲＬ縄文→沈線、(内) ：ガキ
47	ＳＫ３７	(外) 沈線、(内) ：ガキ
48	ＳＫＦ５６	(外) 沈線→刺突、(内) ：ガキ
49	ＳＫＦ５９Ａ	(外) ＲＬ縄文→隆線、(内) ：ガキ
50	ＳＫＦ６１Ａ	(外) 撚ＬＲ縄文→平行沈線→磨消、(内) ：ガキ
51	ＳＫＦ６２	(外) 沈線、(内) ：ガキ
52	ＳＫＦ６２	(外) 条痕、(内) ：ガキ

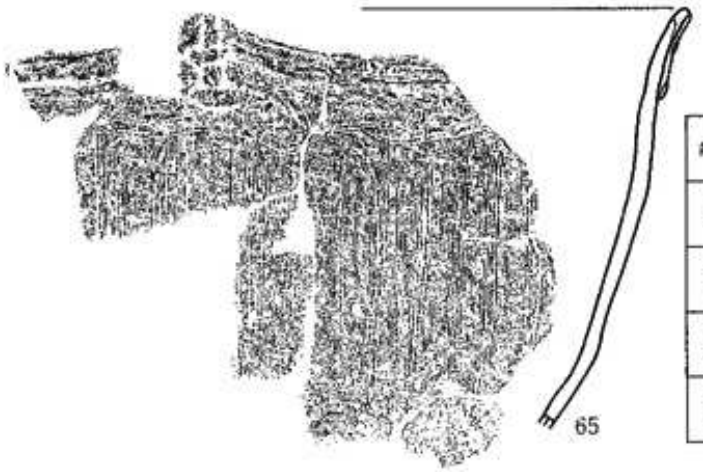


番号	出土位置	文様・調整等
53	SKF62	(外) 平行沈線→刻目列・LR縄文→沈線・ミガキ，(内) ミガキ
54	SKF63	(外) 隆帯，(内) ミガキ
55	SKF64H	(外) 隆帯→LR縄文，(内) ミガキ
56	SKF66CE	(外) 沈線，(内) ミガキ
57	SK72	(外) 沈線，(内) ミガキ・沈線

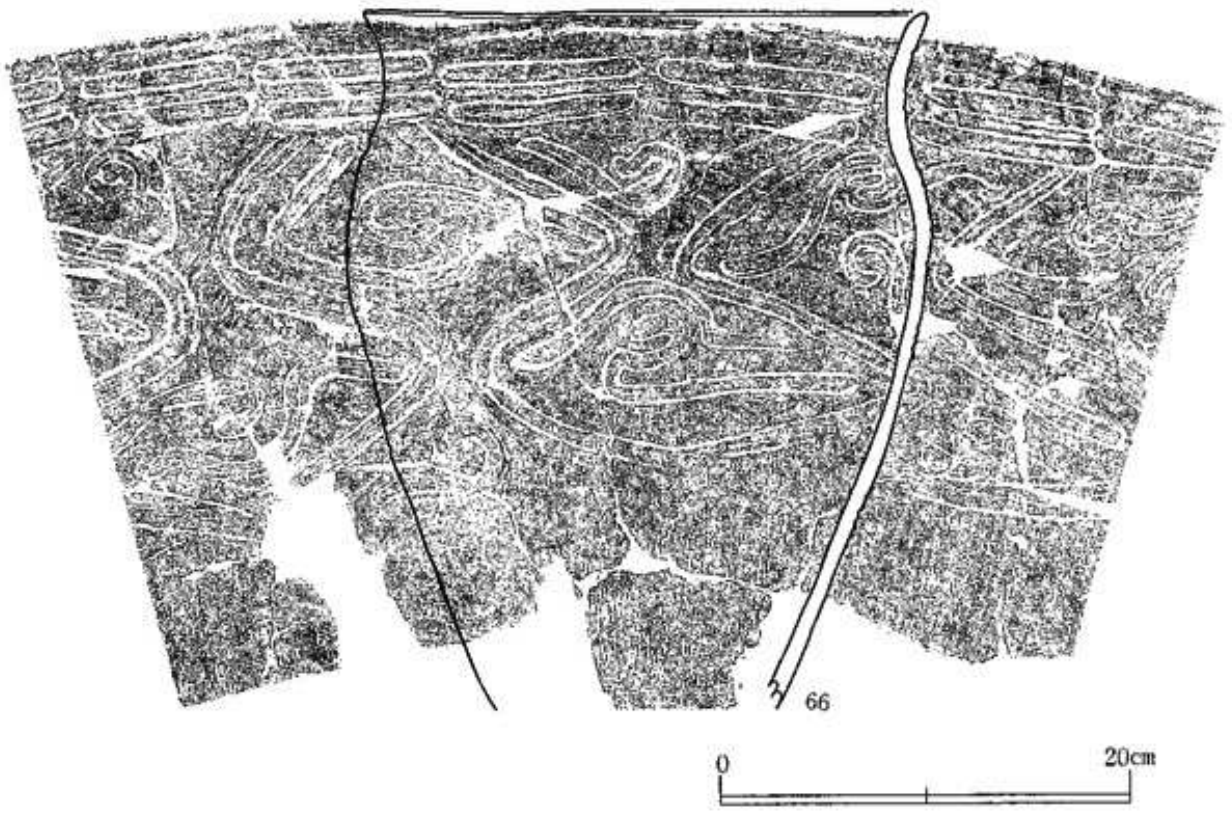
番号	出土位置	文様・調整等
58	SKF74A	(外) RL縄文・隆線，(内) ミガキ
59	SKF74A	(外) 横LR縄文→刻突・沈線→紫沼，(内) ミガキ
60	SKF75	(外) 沈線，(内) ミガキ
61	SKF75	(外) 沈線，(内) ミガキ
62	SK78D	(外) 隆帯→LR縄文→刻突列，(内) ミガキ

第78図　遺構内出土遺物（7）土器（7）I区

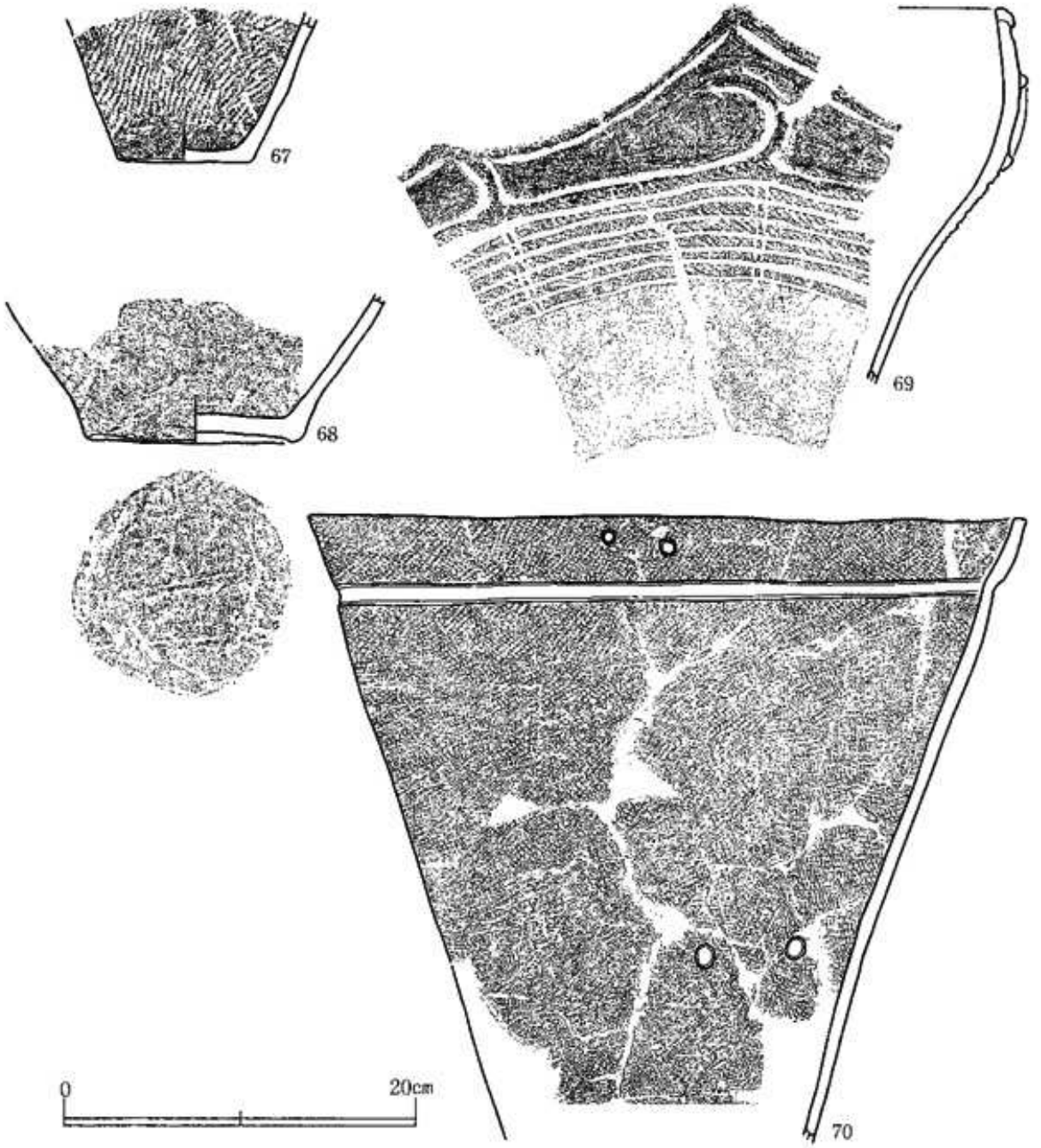




番号	出土遺構	文様・調整等		
	口　径	最大径	器　高	
63	SKF210	隆帯・ミガキ		
	-	-	-	
64	SKF216A	(外) 波線，(内) ミガキ		
	-	(11.1)	(8.8)	
65	SKF216A	波状線，(外) 縦沈線→平行沈線・隆線，(内) ミガキ		
	-	-	-	
66	SKF216A	平縁，(外) 沈線，(内) ミガキ		
	27.7	28.6	(34.5)	

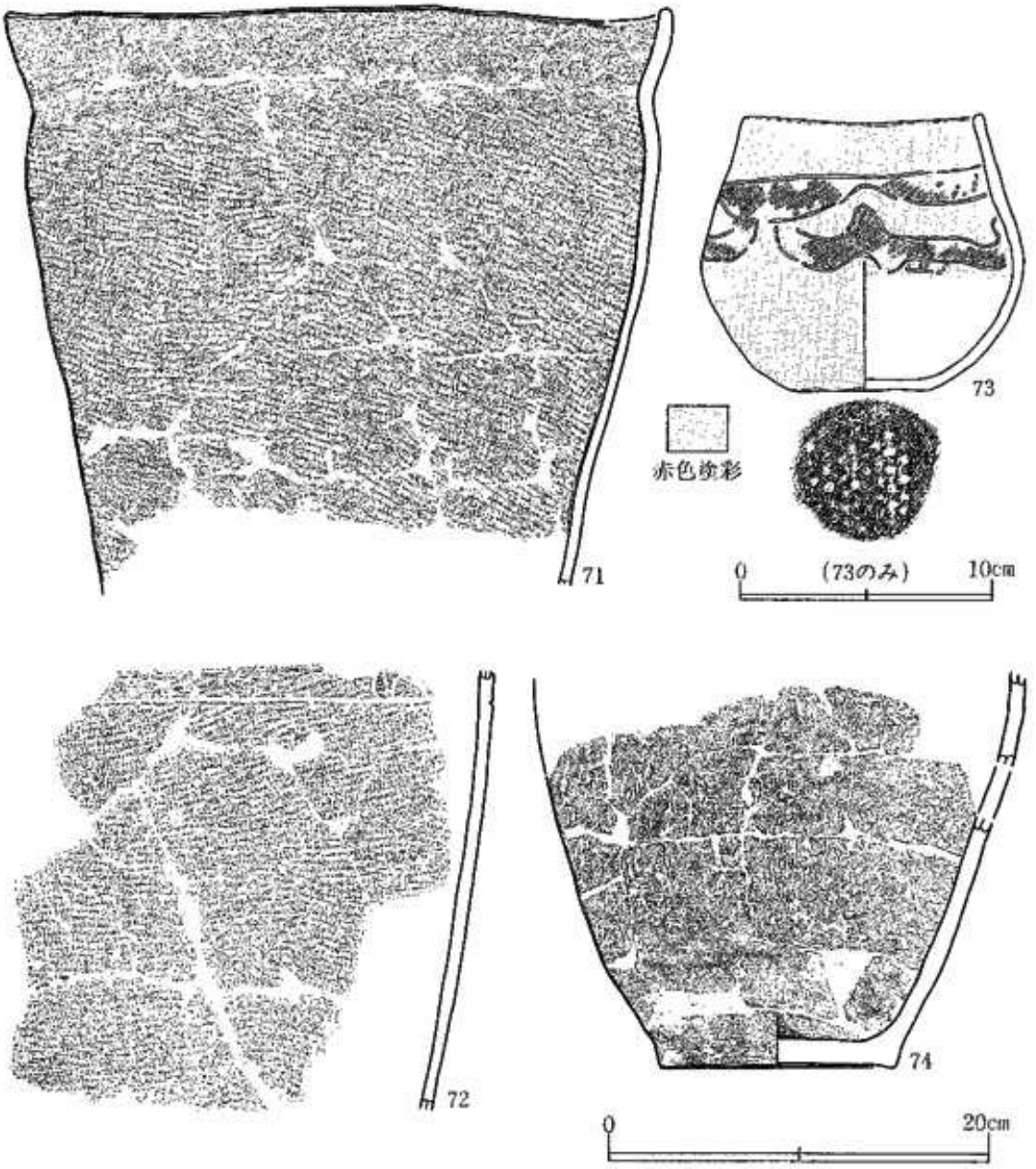


第79図　遺構内出土遺物（8）土器（8）II区



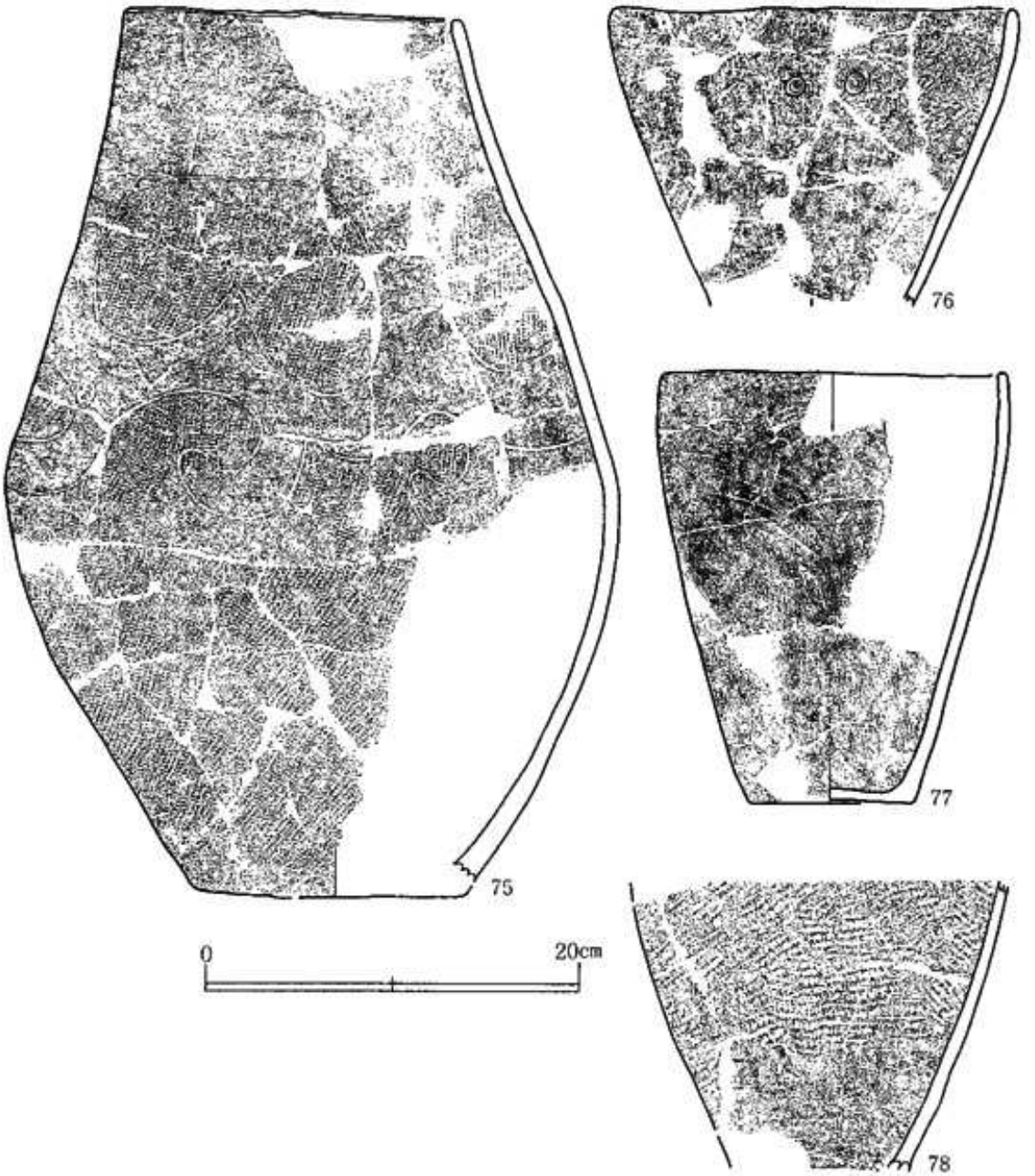
番号	出土遺構	文様・調整等	口径	最大径	器高
67	SKF223	(外) 縦RL縄文，(内) ミガキ	-	(13.2)	(8.2)
68	SKF226	(外) ミガキ，(内) ミガキ，(底) 編物痕	-	(21.6)	(8.2)
69	SKF226	波状線，(外) 隆帯→縦LR縄文→平行沈線→ミガキ；漆？付着，(内) ミガキ	-	-	-
70	SKF226	平縁（LR縄文），(外) LR縄文→沈線，(内) ミガキ	41.1	41.1	(36.0)

第80図　遺構内出土遺物（9）土器（9）Ⅱ区



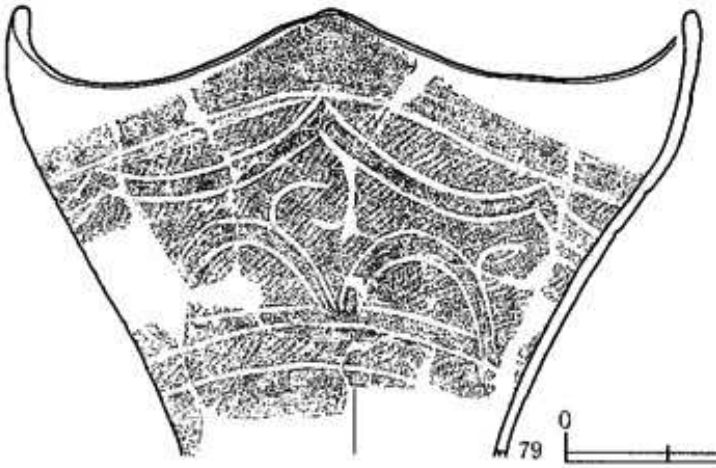
番号	出土遺構	文様・調整等	口径	最大径	器高
71	SKF226	平縁．(外) 原L.R縄文．沈線．(内) ミガキ	35.4	35.5	(31.0)
72	SK227A	(外) L.R縄文・沈線．(内) ミガキ	-	-	-
73	SKF236	平縁．(外) 沈線一L.R縄文：条付帯．(内) ミガキ．(底) 編物痕	8.5	12.9	10.9
74	SK254	(外) L.R縄文．(内) ミガキ．(底) 編物痕？	-	(25.1)	(20.7)

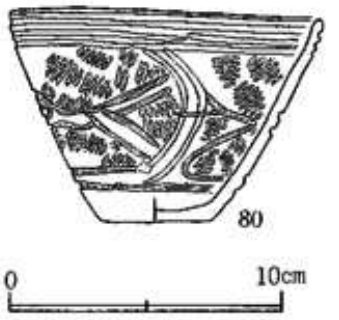
第81図　遺構内出土遺物（10）土器（10）II区



番号	出土遺構	文様・調整等	口径	最大径	器高
75	SKF239	平縁，（外）沈線・RL縄文;未付着，（内）：ガキ	18.1	33.0	48.2
76	SKF270	平縁，（外）LR縄文，（内）：ガキ	21.3	22.0	(16.1)
77	SKF270	平縁？，（内外）：ガキ	18.4	18.9	23.3
78	SKF270	（外）LR縄文，（内）：ガキ	-	(18.9)	(15.4)

第82図　遺構内出土遺物（11）土器（11）II区





番号	出土遺構	文様・調整等	口径	最大径	器高
79	SKF270A	波状縁，（外）ＬＲ縄文→沈線→磨消・ミガキ；スス付着，（内）ミガキ；スス付着	33.4	34.0	(21.9)
80	SKF274	平縁，（外）ＬＲ縄文？→沈線，（内）ミガキ	11.3	11.6	7.6

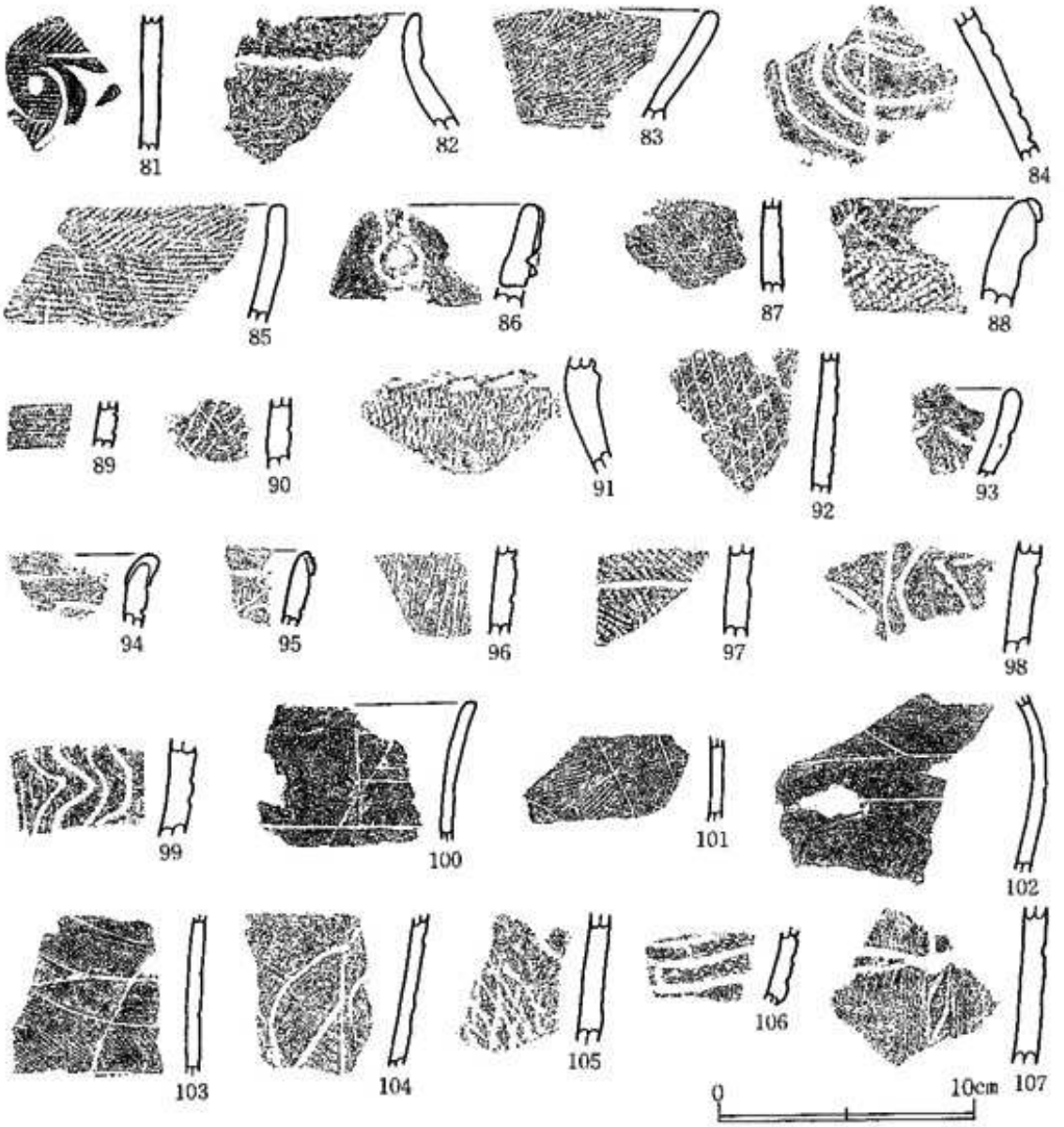
第83図　遺構内出土遺物（12）土器（12）II区

第75図の観察表

番号	出土遺構	文様・調整等	口径	最大径	器高
20	SKF8	平縁，（外）ＲＬ縄文，（内）ミガキ	24.4	24.4	(15.4)
21	SKF8	（外）網目状文，（内）ミガキ，（底）ササ痕	-	(14.0)	(27.1)
22	SKF22B	平縁（ＲＬ縄文），（外）ミガキ，（内）ミガキ	15.8	16.3	8.6
23	SKF28A	波状縁，（外）隆帯→刺突列→Ｒ単条文，（内）ミガキ，（底）編物痕	(26.8)	(26.8)	27.2
24	SKF28A	平縁，（外）縦ＬＲ縄文，（内）ミガキ	21.4	21.8	36.4

第76図の観察表

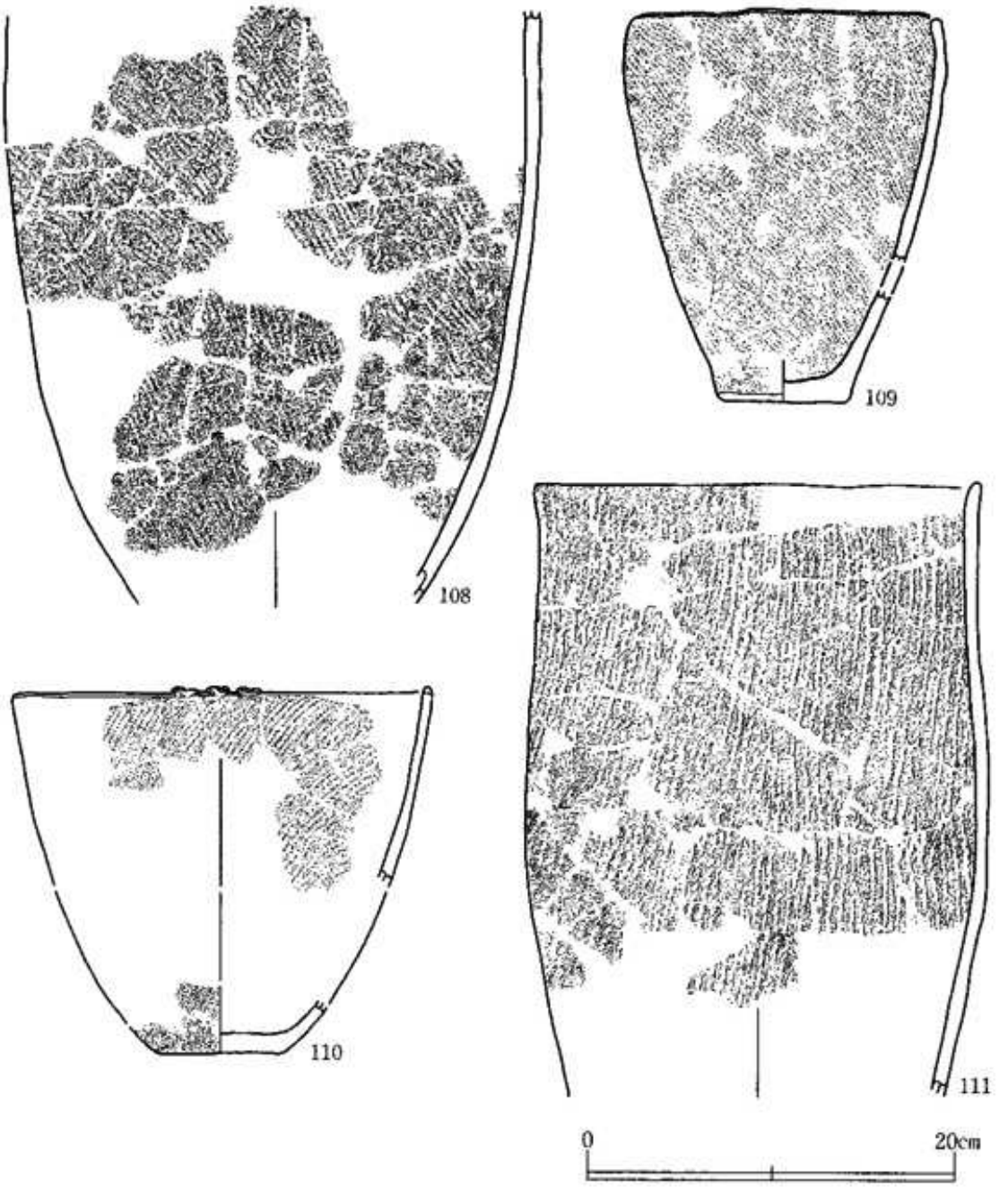
番号	出土遺構	文様・調整等	口径	最大径	器高
25	SK37	平縁，（外）平行沈線，（内）ミガキ	-	-	-
26	SKF61A	波状縁，（外）隆帯→ＲＬ縄文，（内）ミガキ	25.4	25.4	(27.0)
27	SKF64D	（内外）ミガキ，（底）ササ痕	-	(17.3)	(8.1)
28	SKF66A	波状縁，（外）隆帯→刺目→縦ＲＬ縄文→ミガキ；スス付着，（内）ミガキ	27.6	(27.6)	(18.3)
29	SKF66A	（外）網目状文，（外）ミガキ	-	(16.3)	(8.3)
30	SKF66D	平縁，（内外）ミガキ，（底）ササ痕	11.9	12.3	11.3
31	SKF74A	（外）縦ＬＲ縄文，（内）ミガキ	-	(24.2)	(22.7)



番号	出土位置	文様・調整等
81	SKF207	(外) LR縄文→沈線・刺突→貼付, (内) ミガキ
82	SKF226	(外) 隆帯, (内) ミガキ
83	SKF226	(外) LR縄文, (内) ミガキ
84	SKF226	(外) 沈線:朱付着, (内) ミガキ
85	SKF226	(外) LR縄文, (内) ミガキ
86	SK227	(外) 隆帯, (内) ミガキ
87	SK233	(外) 沈線, (内) 磨滅
88	SKF237	(外) 隆帯・縦線・刺目・LR縄文, (内) ミガキ
89	SKF238	(外) 沈線, (内) ミガキ
90	SKF238	(外) R網目状文, (内) ミガキ
91	SKF239	(外) 押引→LR縄文, (内) ミガキ
92	SKF239	(外) R網目状文, (内) ミガキ
93	SK251	(外) 隆帯・R普通文, (内) ミガキ
94	SK251	(外) 隆帯→沈線, (内) ミガキ

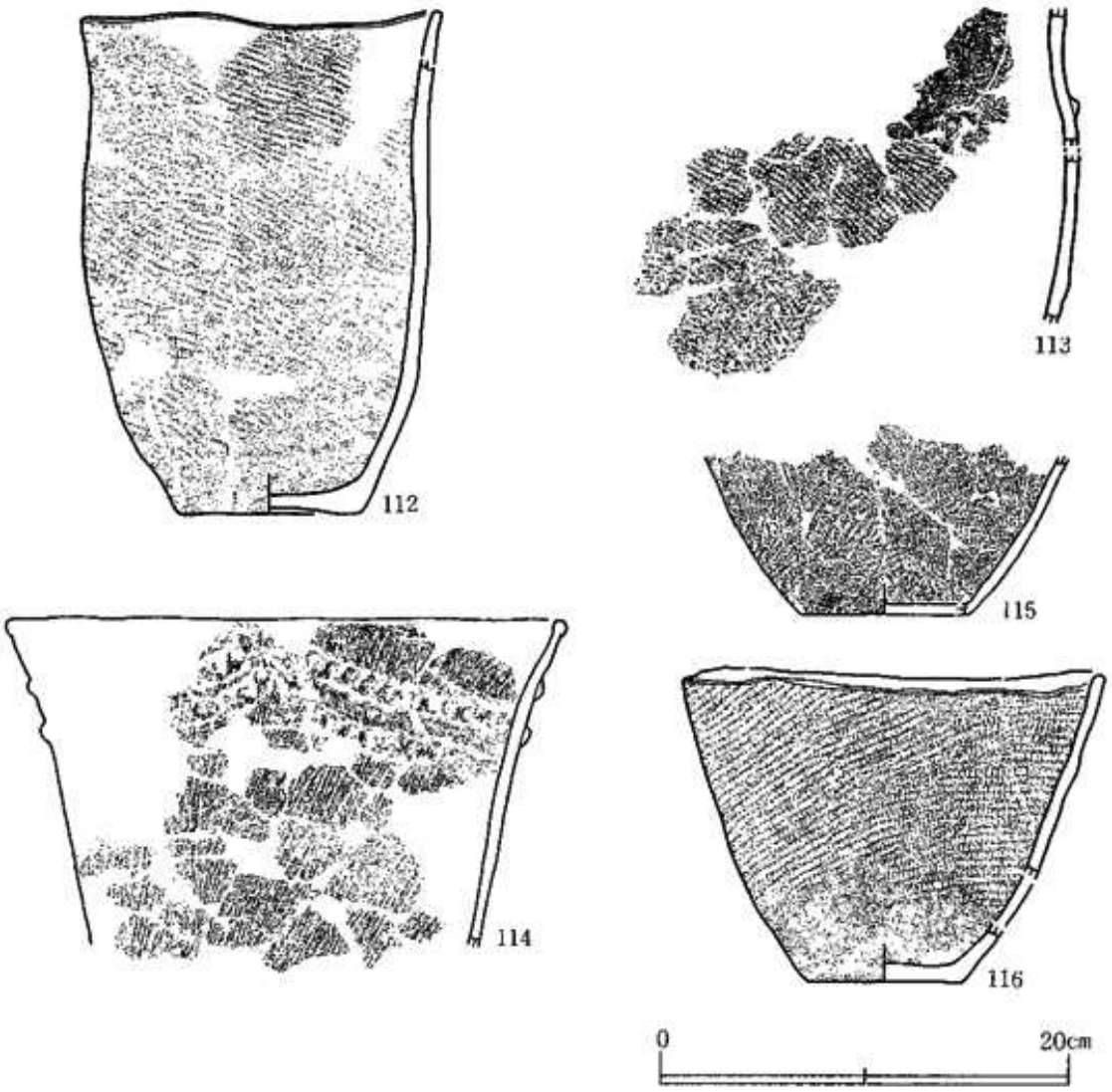
番号	出土位置	文様・調整等
95	SK251	(外) 隆帯・刺突列・沈線, (内) ミガキ
96	SK251	(外) R普通文, (内) ミガキ
97	SKF260	(外) RL縄文→沈線, (内) ミガキ
98	SKF260	(外) 沈線, (内) ミガキ
99	意識外 (M870)	(外) 沈線, (内) ミガキ
100	SKF261	(外) 沈線・RL縄文:朱付着, (内) ミガキ
101	SKF261	(外) 沈線・RL縄文:朱付着, (内) ミガキ
102	SKF261	(外) 沈線→RL縄文:朱付着, (内) ミガキ
103	SKF261	(外) 沈線・RL縄文:朱付着, (内) ミガキ
104	SKF266	(外) 縦LR縄文→沈線→磨消, (内) ミガキ
105	SKF274	(外) R網目状文, (内) ミガキ
106	SKF274	(外) 横RL縄文・沈線, (内) ミガキ
107	SK103	(外) R羽状縄条文, (内) ミガキ

第84図　遺構内出土遺物 (13) 土器 (13) II区



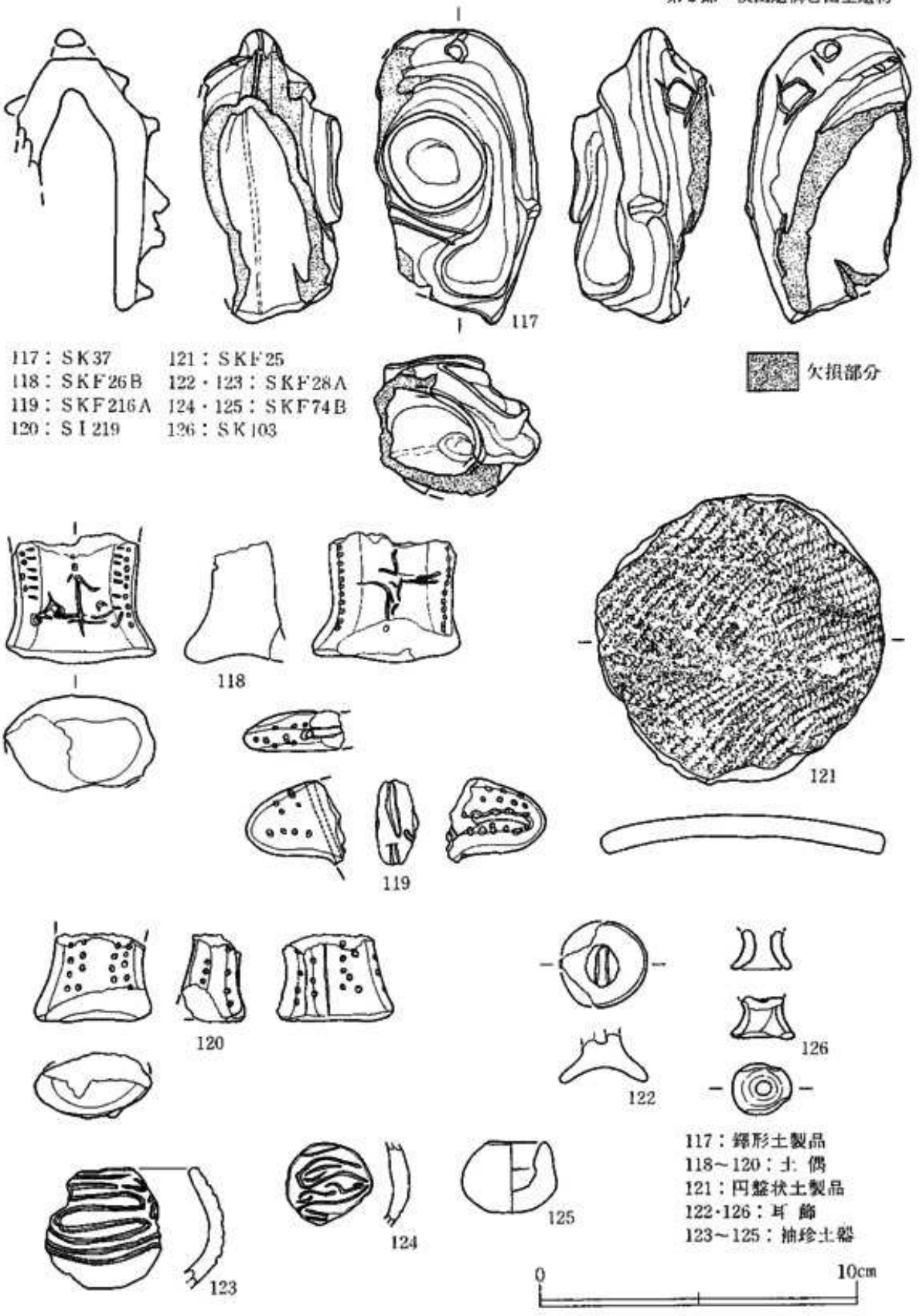
番号	出土遺構	文様・調整等	口径	最大径	器高
108	ＳＲ５	（外）ＲＬ縄文→縦綾絡文，（内）ミガキ	-	(29.3)	(32.3)
109	ＳＲ７Ｃ	平縁，（外）ＲＬ縄文，（内）ミガキ	16.8	17.7	21.5
110	ＳＲ６０	Ｂ突起付平縁，（外）ＬＲ縄文，（内）ミガキ	-	-	-
111	ＳＲ６５	平縁，（外）Ｌ撚糸文，（内）ミガキ	24.4	25.3	(31.3)

第85図　遺構内出土遺物（14）土器埋設遺構（１）

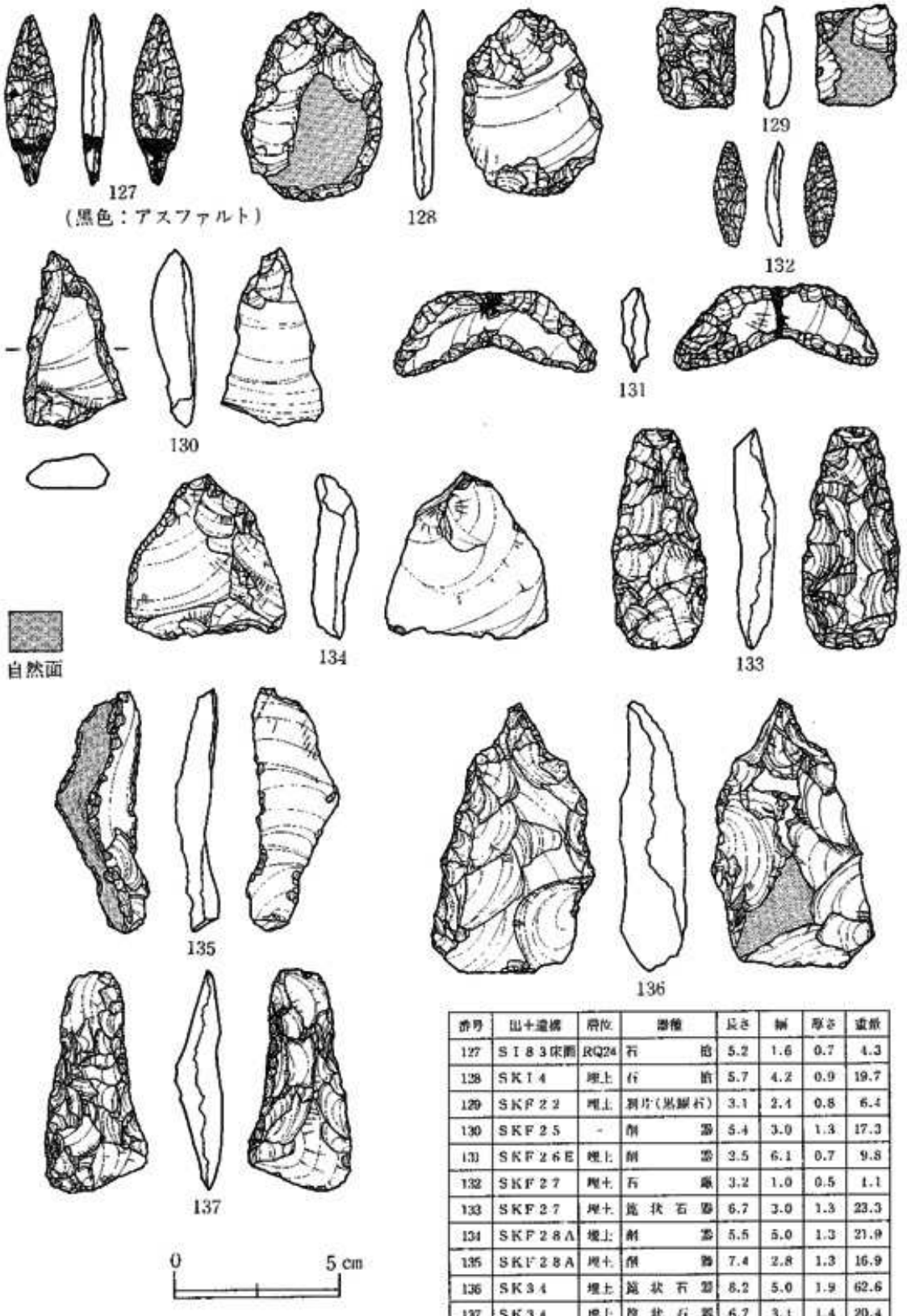


番号	出土遺構	文様・調整等	口径	最大径	器高
112	SR66F	(外) RL縄文, (内) ミガキ	17.8	17.2	24.9
113	SR76	(外) 沈線→隆帯→RL縄文, (内) ミガキ	-	-	-
114	SR80	(外) R原体文→隆帯, (内) ミガキ	-	-	-
115	SN34B	(外) LR縄文, (内) ミガキ	-	-	-
116	SN41B	平縁, (外) LR縄文, (内) ミガキ	20.6	20.6	15.5

第86図　遺構内出土遺物（15）土器埋設遺構（2）・石囲炉

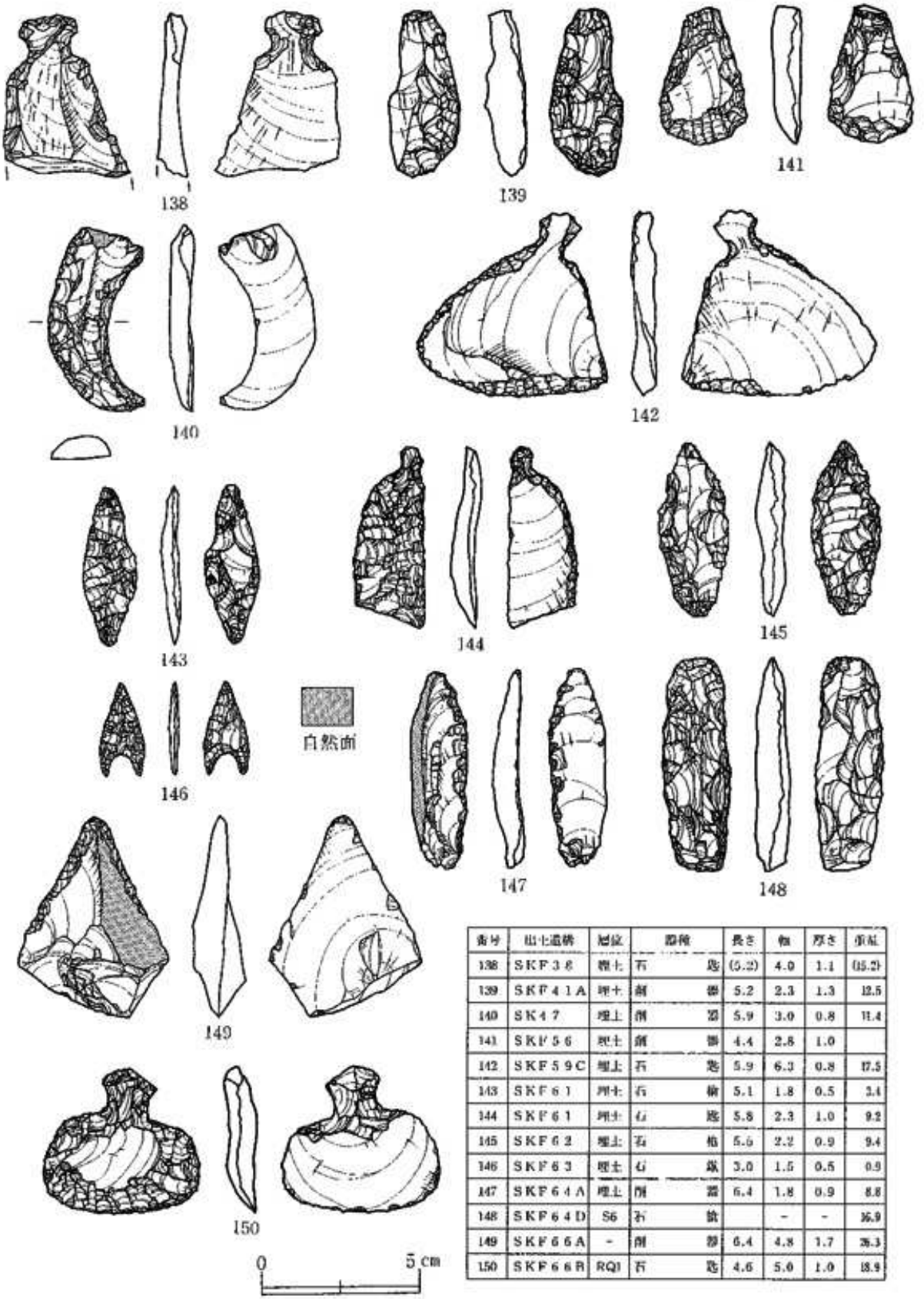


第87図　遺構内出土遺物（16）土製品　Ⅰ～Ⅲ区



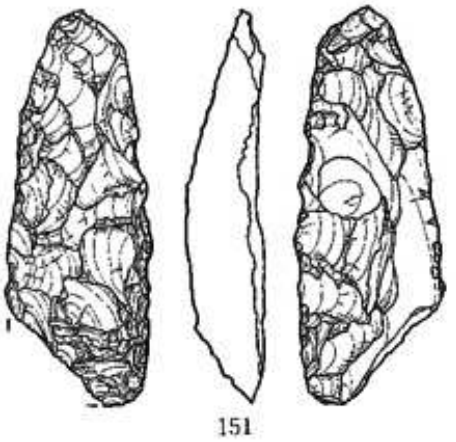
番号	出土遺構	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
127	SI83床面	RQ24	石　　鏃	5.2	1.6	0.7	4.3
128	SK14	埋土	石　　鏃	5.7	4.2	0.9	19.7
129	SKF22	埋土	剥片(黒曜石)	3.1	2.4	0.8	6.4
130	SKF25	-	削　　器	5.4	3.0	1.3	17.3
131	SKF26E	埋土	削　　器	3.5	6.1	0.7	9.8
132	SKF27	埋土	石　　鏃	3.2	1.0	0.5	1.1
133	SKF27	埋土	筒状石器	6.7	3.0	1.3	23.3
134	SKF28A	埋土	削　　器	5.5	5.0	1.3	21.9
135	SKF28A	埋土	削　　器	7.4	2.8	1.3	16.9
136	SK34	埋土	筒状石器	8.2	5.0	1.9	62.6
137	SK34	埋土	筒状石器	6.7	3.1	1.4	20.4

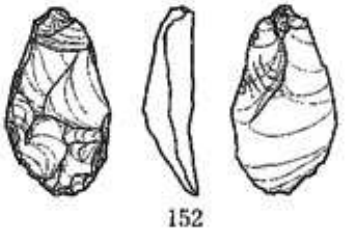
第88図　遺構内出土遺物（17）石器（1）Ⅰ区

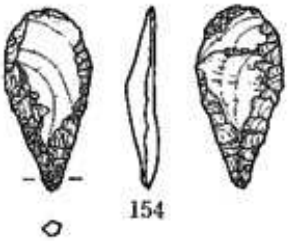


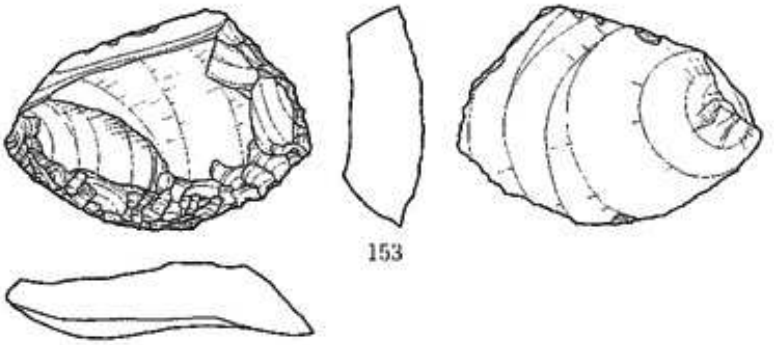
番号	出土遺構	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
138	SKF38	暗土	石　匙	(5.2)	4.0	1.1	(15.2)
139	SKF41A	埋土	剥　器	5.2	2.3	1.3	12.5
140	SK47	埋土	剥　器	5.9	3.0	0.8	11.4
141	SKF56	暗土	剥　器	4.4	2.8	1.0	
142	SKF59C	埋土	石　匙	5.9	6.3	0.8	17.5
143	SKF61	暗土	石　鏃	5.1	1.8	0.5	3.4
144	SKF61	暗土	石　匙	5.8	2.3	1.0	9.2
145	SKF62	埋土	石　槍	5.6	2.2	0.9	9.4
146	SKF63	埋土	石　鏃	3.0	1.5	0.5	0.9
147	SKF64A	埋土	剥　器	6.4	1.8	0.9	8.8
148	SKF64D	S6	石　錐		-	-	16.9
149	SKF66A	-	剥　器	6.4	4.8	1.7	26.3
150	SKF66B	RQ1	石　匙	4.6	5.0	1.0	13.9

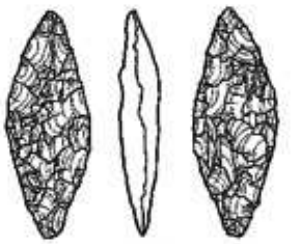
第89図　遺構内出土遺物（18）石器（2）Ⅰ区

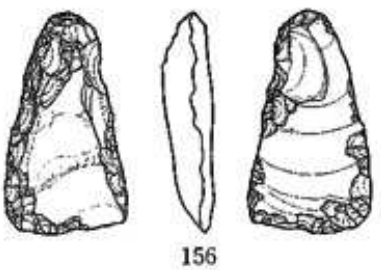


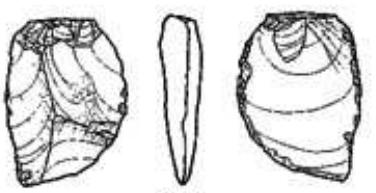


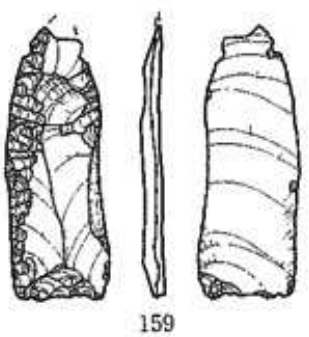






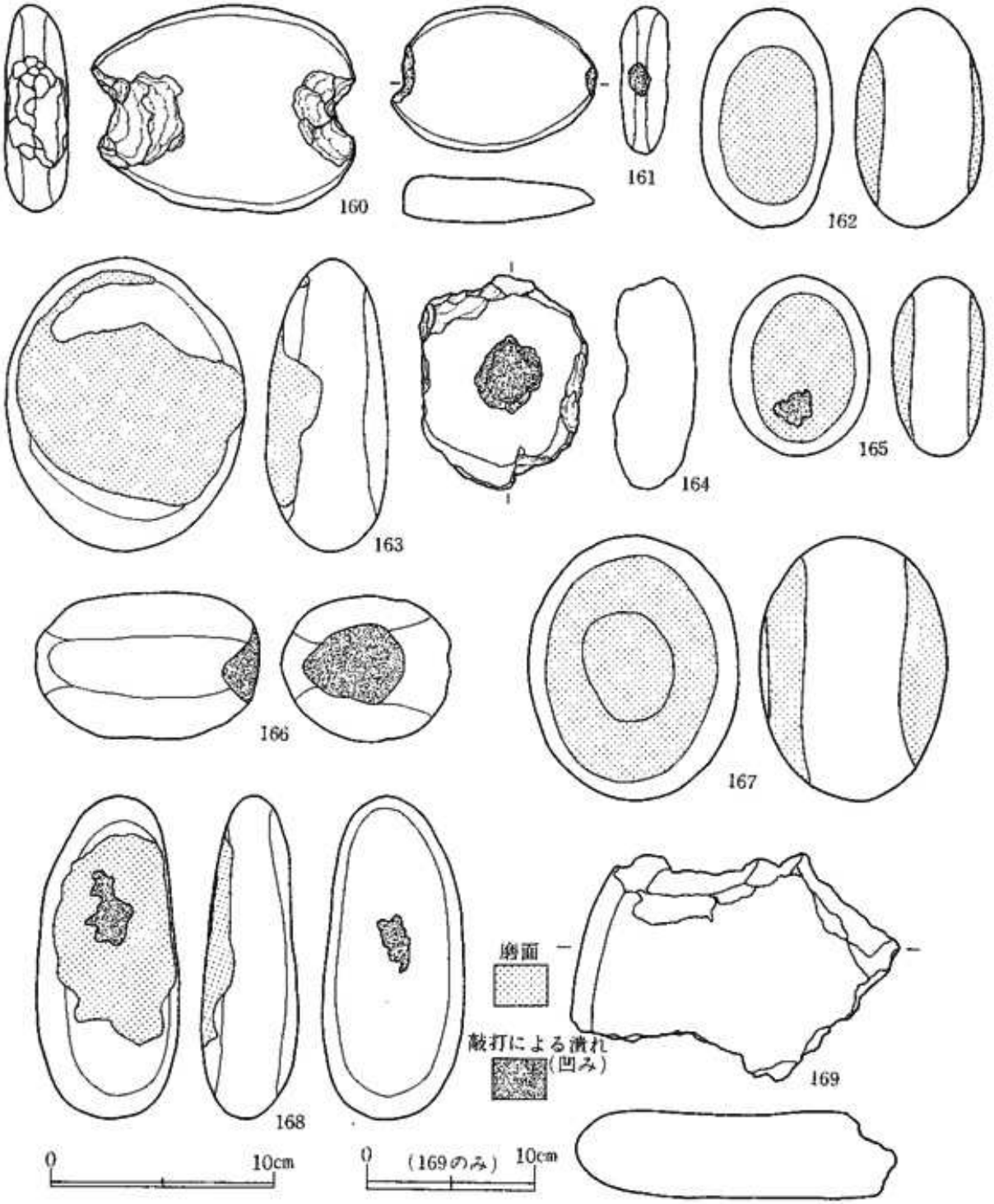






番号	出土遺構	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
151	SKF66C	埋土	石槍	9.7	3.6	1.9	(38.3)
152	SKF66	埋土	掻器	4.7	2.6	1.3	10.8
153	SKF66CE	-	磨製石斧	5.4	7.5	2.0	74.1
154	SK67	埋土	石鏃	4.5	2.1	0.8	5.1
155	SK67	埋土	石槍	5.6	2.0	1.0	9.2
156	SK72	埋土	箆状石器	5.5	3.0	1.1	17.6
157	SR76	埋土	削器	2.9	1.7	0.5	9.9
158	SR76	埋土	石鏃	4.1	3.0	1.0	2.0
159	SKF84	埋土	石匙	(6.7)	2.4	0.6	(8.4)

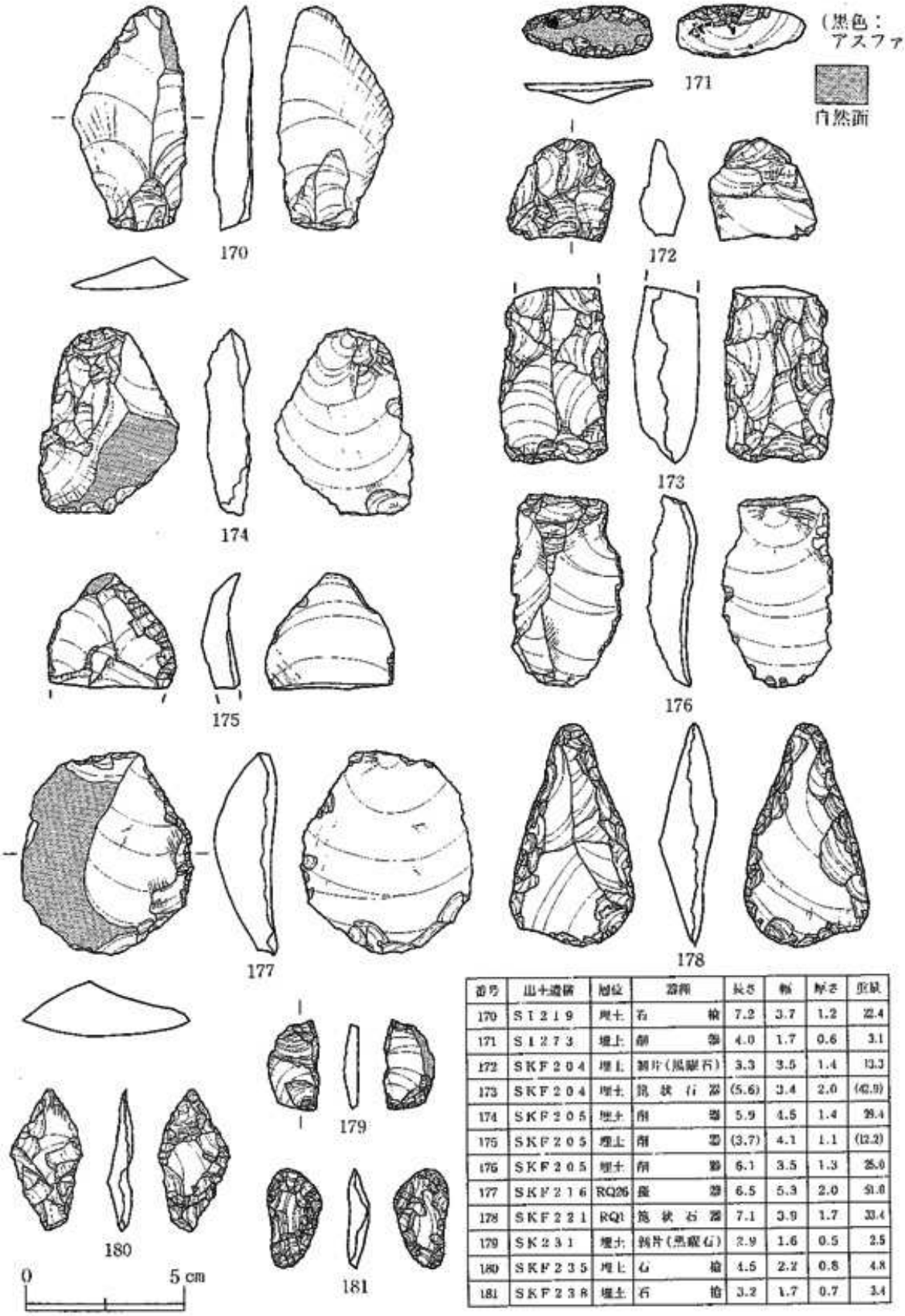
第90図　遺構内出土遺物（19）石器（3）Ⅰ区



番号	出土遺構	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
160	SKF6	-	石錘	8.7	11.7	2.8	406
161	SKF25	埋土	石錘	6.5	9.2	2.1	140
162	SKP26H	埋土	磨石	9.9	5.5	5.7	420
163	SKF34A	埋土	磨石	13.1	11.5	5.4	1003
164	SN41B炉石	S2	凹石	9.5	7.5	3.6	323

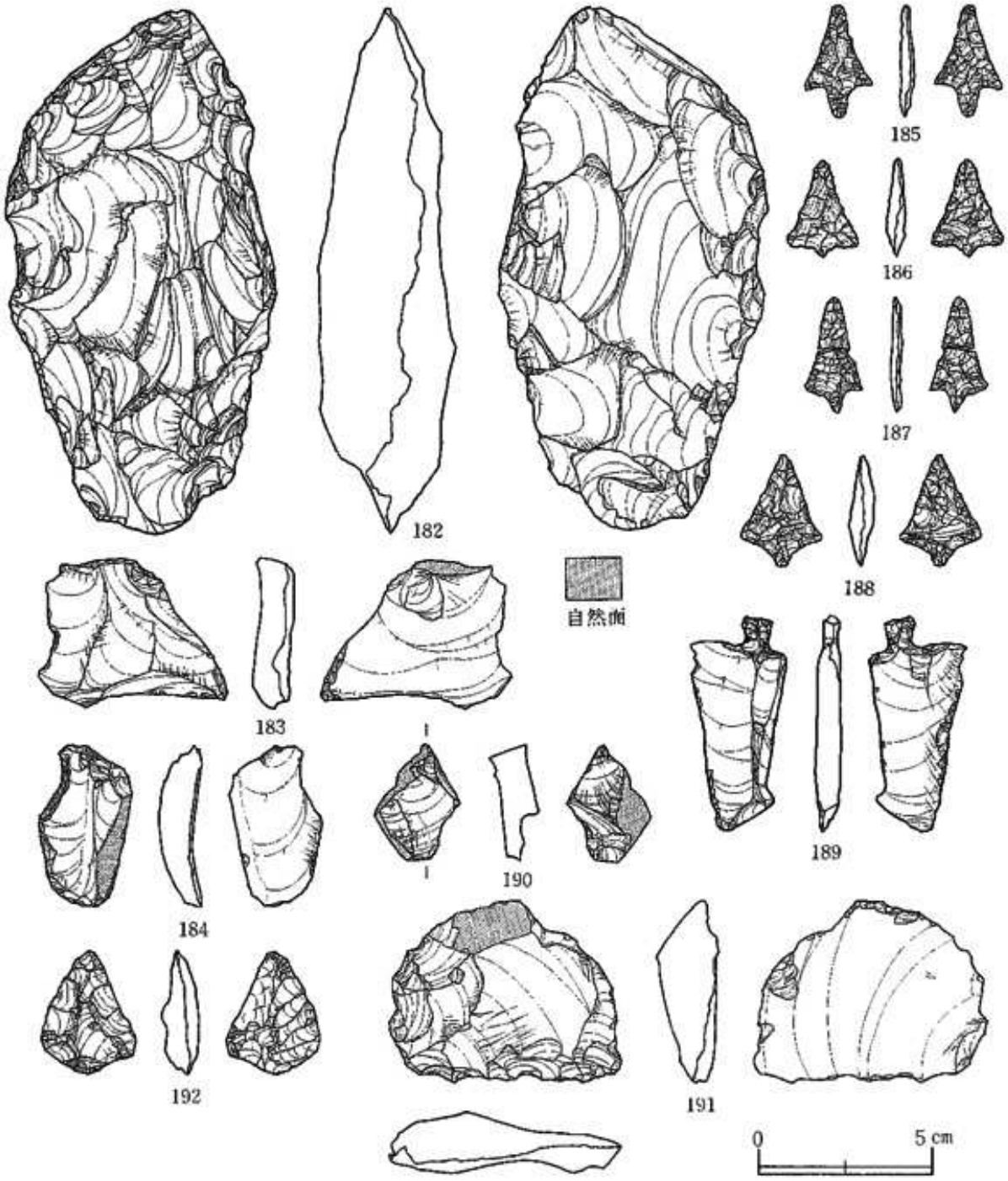
番号	出土遺構	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
165	SKF66B	-	磨石	8.0	6.1	9.1	355
166	SR60内	S2	敲石	10.0	6.5	6.5	623
167	SR60内	RQ1	磨石	11.8	9.4	8.2	1214
168	SKF66C	-	磨石	14.3	6.3	4.4	504
169	SKF34D	-	石皿	(12.9)	(19.4)	5.4	(1718)

第91図　遺構内出土遺物（20）石器（4）I区



番号	出土遺構	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
170	SI219	埋土	石　　槍	7.2	3.7	1.2	22.4
171	SI273	埋上	削　　器	4.0	1.7	0.6	3.1
172	SKF204	埋土	剥片(黒曜石)	3.3	3.5	1.4	13.3
173	SKF204	埋土	楔 状 石 器	(5.6)	3.4	2.0	(42.9)
174	SKF205	埋土	削　　器	5.9	4.5	1.4	28.4
175	SKF205	埋土	削　　器	(3.7)	4.1	1.1	(12.2)
176	SKF205	埋土	削　　器	6.1	3.5	1.3	25.0
177	SKF216	RQ26	掻　　器	6.5	5.3	2.0	51.0
178	SKF221	RQ1	楔 状 石 器	7.1	3.9	1.7	33.4
179	SK231	埋土	剥片(黒曜石)	2.9	1.6	0.5	2.5
180	SKF235	埋土	石　　槍	4.5	2.2	0.8	4.8
181	SKF238	埋土	石　　槍	3.2	1.7	0.7	3.4

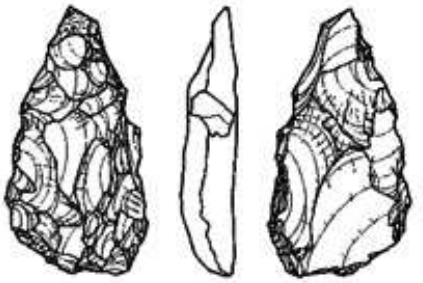
第92図　遺構内出土遺物（21）石器（5）II区



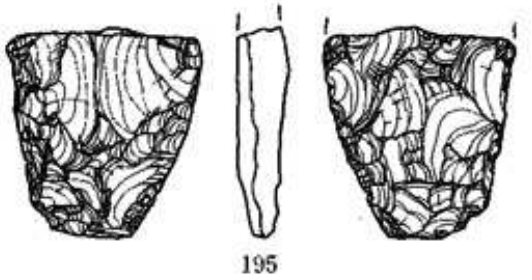
番号	出土遺構	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
182	SKF244	埋土	石　斧	15.3	7.9	4.2	386.0
183	SK250床面	埋土	剥　器	4.4	5.5	1.1	21.2
184	SK251床面	埋土	剥　器	4.7	2.7	1.2	12.8
185	SK253床面	埋土	石　鏃	3.2	2.0	0.4	1.3
186	SK253床面	埋土	石　鏃	2.8	3.9	0.5	1.8

番号	出土遺構	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
187	SK253床面	埋土	石　鏃	3.3	1.7	0.3	3.0
188	SK253床面	RQ13	石　鏃	3.2	2.4	0.7	1.0
189	SK253床面	埋土	石　匙	6.3	2.8	0.8	9.3
190	SK253床面	埋土	剥片（黒曜石）	3.4	2.5	1.5	8.9
191	SK254床面	RQ1	剥　器	5.3	6.7	1.8	47.2
192	SK256床面	埋土	石　鏃	3.6	2.8	1.1	6.9

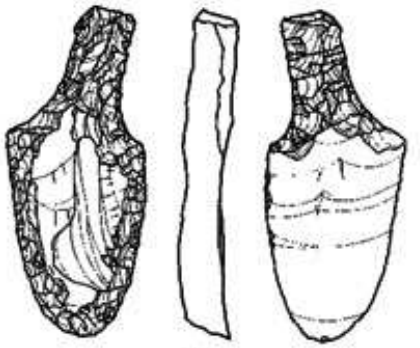
第93図　遺構内出土遺物（22）石器（6）II区



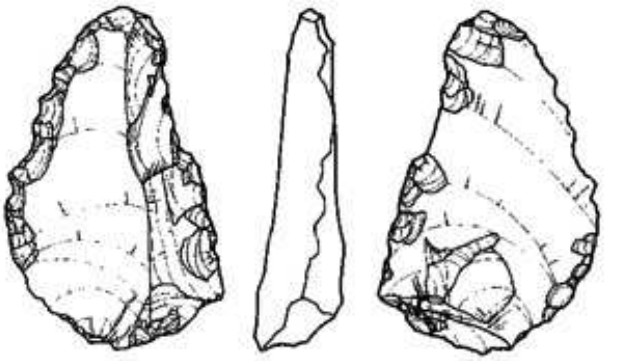
193



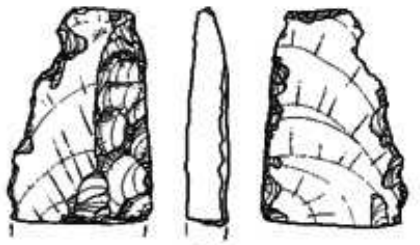
195



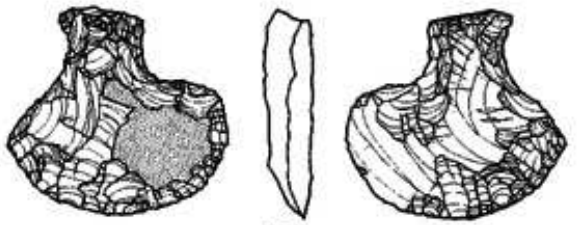
194



196

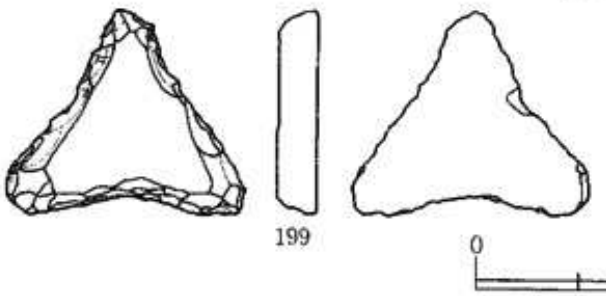


197



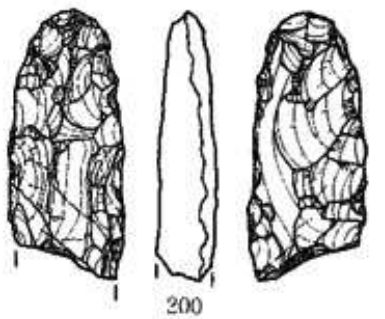
198

自然面



199

0　5 cm

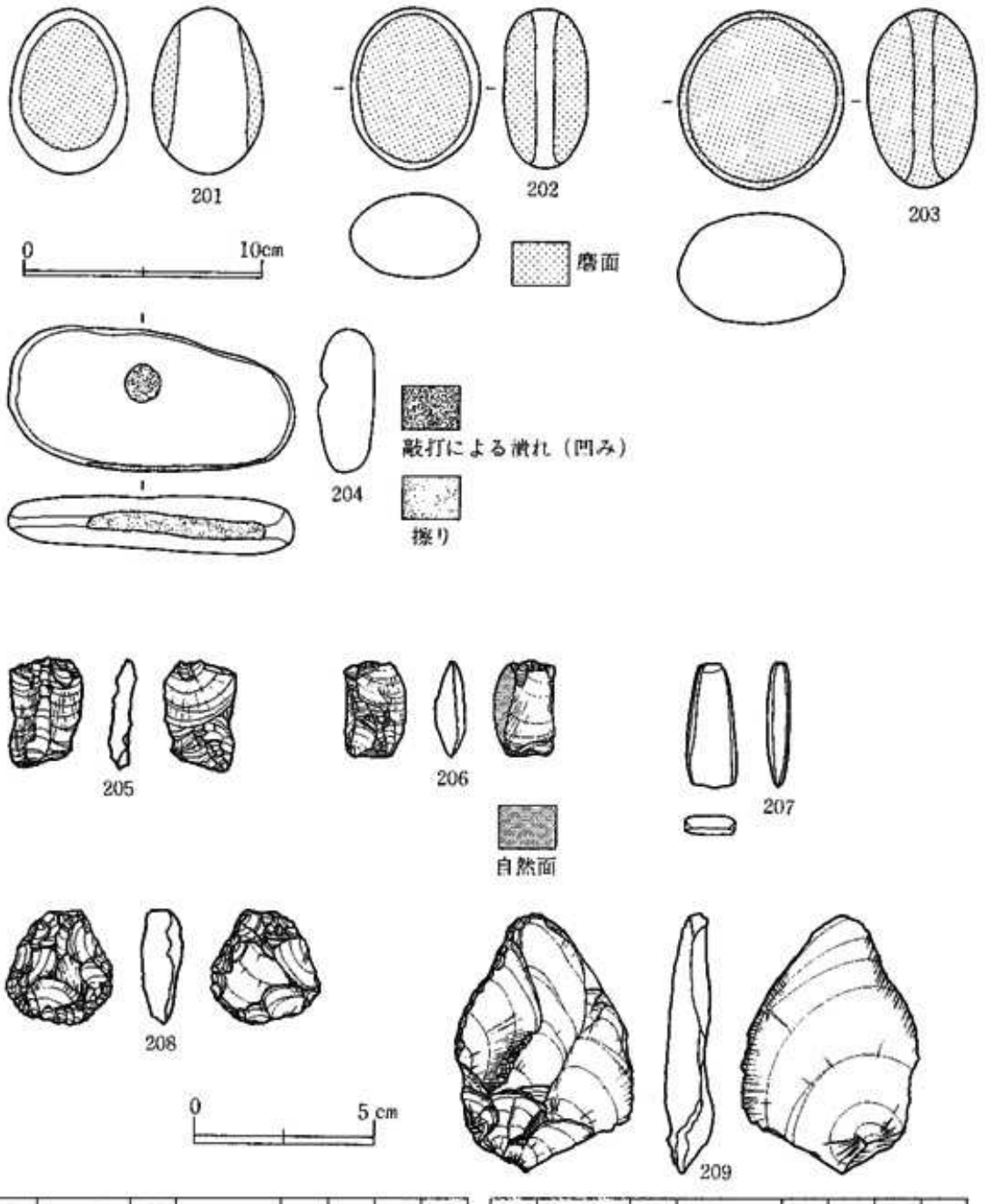


200

番号	出土遺構	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
193	SK256東面	埋土	石　鏃	6.6	5.1	1.3	23.6
194	SK256東面	埋土	石　匙	8.1	3.3	1.1	34.2
195	SK256底面	埋土	石　槍？	(5.2)	4.7	1.3	(33.5)
196	SKF269	埋土	削　器	8.4	5.4	2.2	64.0

番号	出土遺構	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
197	SKF270A	埋土	削　器	(5.3)	3.5	1.0	(19.1)
198	SKF270A	埋土	石　匙	5.1	5.4	1.2	26.8
199	SKF270A	埋土	二次加工ある剥片	5.0	5.9	1.0	26.7
200	SKF274	埋土	石　鏃	(6.6)	2.9	1.4	(28.7)

第94図　遺構内出土遺物（23）石器（7）II区



番号	出土遺構	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
201	SK201	埋土	磨石	6.9	4.9	4.6	165.0
202	SK250	-	磨石	6.8	5.3	3.5	174.0
203	SK250	-	敲石	7.4	7.0	4.5	311.0
204	SKP270A	埋土	擦石(凹石)	6.1	2.0	2.3	248.0
205	ST103	埋土	剥片(黒曜石)	3.1	2.0	0.7	3.6

番号	出土遺構	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
206	ST103	埋土	剥片(黒曜石)	2.7	1.7	0.9	3.6
207	SK103	埋土	磨製石斧	3.4	1.4	0.4	3.6
208	SK104	埋土	円形石器	3.2	3.0	1.2	9.8
209	SN108	埋土	削器	7.3	5.0	1.5	39.4

第95図　遺構内出土遺物（24）石器（8）II・III区

第3節　遺構外出土遺物

遺構外出土の遺物は、縄文時代の土器・土製品・石器・石製品、及び平安時代かそれ以降の鉄滓等である。出土量は、整理用コンテナで約42箱である。内訳は、土器・土製品14箱、石器・石製品27箱、鉄滓等1箱である。出土位置は、遺構の集中するⅠ・Ⅱ区北部にまとまる。

(1)　土器・土製品（第96～98図）

遺構外出土の土器（第96図）は、縄文時代前期後葉から晩期中葉まで各時期にわたるが、後期後葉の時期は欠落する。各時期毎の土器の分布は、量的に最も多い後期前葉期は、該期遺構の分布にあわせるように遺跡ほぼ全体に広がりを見せる。一方、210は中期初頭～前葉に属す北陸系の土器であり、遺構内を含めⅠ区北東部でのみ出土する。晩期中葉期の土器もこの区域でのみ散見される。これらの土器は小破片が多く、器形全体を復元し得た資料はない。

土製品のうち土偶は、遺構内出土を合わせ、7個体確認した。胴部から脚部が残る資料は、いずれも扁平で裾広がりの形態を示す自立形の中実土偶である。文様は縦方向の円形刺突列を主構成とする。221はⅡ区ＭＩ74グリッド（ＳＫＦ237に隣接）で3片に分かれて出土した土偶であり、残存部分から当初より頭部の存在しないT字形の形態を示していたと思われる。肩部から脇の下にかけて径3㎜程の貫通孔が穿たれる。腹面には粘土粒で両乳房と臍を表現し、正中と左右縁辺には1～3条一組の円形刺突が配される。背面には左右縁辺に、隆線貼付後、円形ないしはC字形の刺突が穿たれ、正中部分には背骨を表すように沈線が引かれる。222・223は、Ⅰ区北東部ＬＬ69グリッド（ＳＫＩ23Aに隣接）出土の脚部、頭部資料である。2点は隣り合う形で確認されたが、胎土、作りから同一の個体とは考えられない。222は他の土偶と比較して形態的にも異質であり、足形土製品とでも称すべき遺物かもしれない。223は逆三角形の顔面を有する土偶頭部である。後頭部に横方向の、側頭部（耳部）には縦方向の貫通孔がそれぞれ穿たれる。顔面にはT字形の隆線を貼り付け、眉から鼻を一体的に表現し、両目、鼻孔、口を写実的に刻む。顔面上部を中心に221などにも付される円形の刺突も加えられる。224はⅡ区ＭＯ78グリッド（ＳＫＦ270に隣接）出土の土偶胴部である。ボタン状の貼付による臍が表現され、腹面、背面とも縦3列の円形刺突が付される。

また225・226は、Ⅱ区ＭＰ71グリッド出土の土製品である。225は傘状、226は棒状の形態を示す。

(2)　石器・石製品（第98～107図）

本遺跡における遺構外の石器・石製品は27箱に及ぶ。このうち、定型的と考えられる石器を抽出し、次の器種に分類の上で代表的な石器を図示した。

器種は、石鏃、石槍、石錐、異形石器、トランシェ様石器、篦状石器、石匙、円形石器、ノッ

チのある石器、削器、石錘、半円状扁平打製石器、擦石、磨石、凹石、敲石、石皿、台石、磨製石斧、三脚石器、線刻礫などである。各石器の出土位置、法量は別添の表を参照いただきたい。

①石鏃（227～243）

いわゆる弓矢の矢の先端に装着したと考えられる石器である。長さ4㎝未満、重さ4ｇ未満を一応の基準とし、次に述べる石槍と区別した。37点出土し、うち17点を図示した。全点頁岩を素材としている。基部の形態から3細分する。

A類（227～232）：いわゆる無茎鏃のうち、基部に抉入の見られる凹基無茎鏃の類である。230と232の基部にはアスファルトが付着している。16点確認し、うち15点までがⅠ区出土である。

B類（233～236）：いわゆる無茎鏃のうち、基部が直線的な平基無茎鏃の類である。236は2側縁下部に緩い抉入を加えた特異な形態をなす。7点確認した。

C類（237～243）：いわゆる有茎鏃の類である。基部が直線的なもの（237・238など）と、突出するもの（240など）があり、241は基部に抉入のある凹基有茎鏃である。240の基部にはアスファルトが付着している。14点の確認である。

②石槍（244・248～250）

槍先形の石器である。6点確認し4点を図示する。石材はいずれも頁岩である。244は先端基部ともに欠損しており、分類上石槍としているが、2側縁が鋸歯状を呈する異形の石器である。

③石錐（245・246）

いわゆる石製の穿孔具と考えられる。5点確認している。形態的には全体が棒状を呈するもの3点（245）、錐部とつまみ部が明瞭に分離するもの2点（246）の別がある。いずれも頁岩を素材としている。

④異形石器（247）

定型的な石器、石製品以外で特異な形態を示す石器を1点だけ紹介する。247は黒曜石製の石器であり、石匙に見られるようなつまみが頭部に2つ存在する。刃部は両面調整により仕上げられるが粗く、かつ大きく湾曲していることから実用の具とは断ずることはできない。

⑤トランシェ様石器（256～259）

撥形を呈する片刃の石器であり、直刃斧とも称される。5点確認した。長さはいずれも6.5cm前後の数値を示す。石材は頁岩である。

⑥箆状石器（260～272）

平面形が撥形あるいは楕円形・短冊形などいわゆる箆状を呈する石器である。図示下面が刃部となる。21点確認し13点を図示した。石材は265がメノウ質である以外は頁岩である。法量

（長さ）から2細分する。

A類（260～267）：長さが6cm以上の石器をまとめた。14点確認した。刃部がトランシェ様石器のように直線的なもの（260～263）と丸みのつくもの（264～267）が見られる。

B類（268～272）：長さがおよそ5cm未満の石器をまとめた。7点確認した。刃部はいずれも丸みをもつ。

⑦石匙（273～281）

両側縁から抉りを入れつまみ部を作り出し、片面あるいは両面からの調整剥離により刃部が作られる石器である。12点確認し9点を図示している。中軸線あるいは刃部とつまみの中軸線の交わる角度によって2大別できる。石材はいずれも頁岩である。

A類（273～275）：つまみの中軸線にほぼ平行する刃部を有する縦型のものである。5点確認した。

B類（276～281）：つまみの中軸線と刃部が約45度から90度の角度で交わる斜型・横型のものである。7点確認した。

⑧円形石器（251・252）

全体の形状が円盤状を呈する石器である。両面調整により全周に刃部が作られ、断面が凸レンズ状を示す。252は刃部形成後に敲打による潰れが観察される。石材は頁岩である。

⑨ノッチのある石器（253）

側縁に抉入の認められる石器である。253は図示面の2側縁に半円状の抉入が加えられ、全体として分銅形を呈する。石材は頁岩である。

⑩削器（254・255）

主に縦長剥片の側縁に片面からの二次調整によって刃部を作り出した石器であり、いわゆるサイドスクレイパーである。石材は頁岩である。

⑪石錘（282～292）

一般に漁網錘あるいは編物の錘と想定される石器である。21点確認し11点を図示している。I区で5点、II区で16点出土する。特にII区北東部に集中し、MF76グリッド3点、MH76グリッド2点、MJ76グリッド2点出土している。扁平でおよそ楕円形を呈する礫を素材とする。長辺の両端部に打ち欠きあるいは敲打による抉りをもつ。289は長方形様の石材を用いている。292は下面にも敲打による潰れが見られる。

⑫半円状扁平打製石器・擦石（293・294）

およそ半円状を呈する扁平な礫を素材とし、下辺に刃部・擦面を作り出している石器である。II区SK260外西側で1点（293）、I区北東部LO73グリッドで1点（294）出土している。294は擦面に赤色の付着物が認められることから、ベンガラ生成用の擦石と想定される。2点と

も図示面右側縁に抉入が加えられる。

⑬磨石・凹石・敲石類（295～299）

扁平あるいは球状の礫の1～4面に敲打・磨りなどが認められる石器である。50点ほど確認し、大部分は磨石と称される石器である。295は2面に磨面をもつ磨石、296は2面に敲打による凹面を有する凹石、297・298は凹石と2側縁に敲打による潰面をもつ敲石の機能を併せ持つもの、299は握手部を有する敲石である。

⑭石皿・台石類（300・301）

堅果類などの植物を擦り潰す、あるいは磨製の石器・石製品などの製作等に使用したと考えられる石器である。20点ほど確認しているが、いずれも欠損品である。ここには周堤（縁）をもつ石皿2点を図示した。300は半欠の石皿で底面には2脚が削り出されているが、本来は4脚をもつものと思われる。上面には幅8～12mm程の溝状の凹線が長軸方向に沿って数本認められる。後者の用途が想定される。

⑮磨製石斧（302～305）

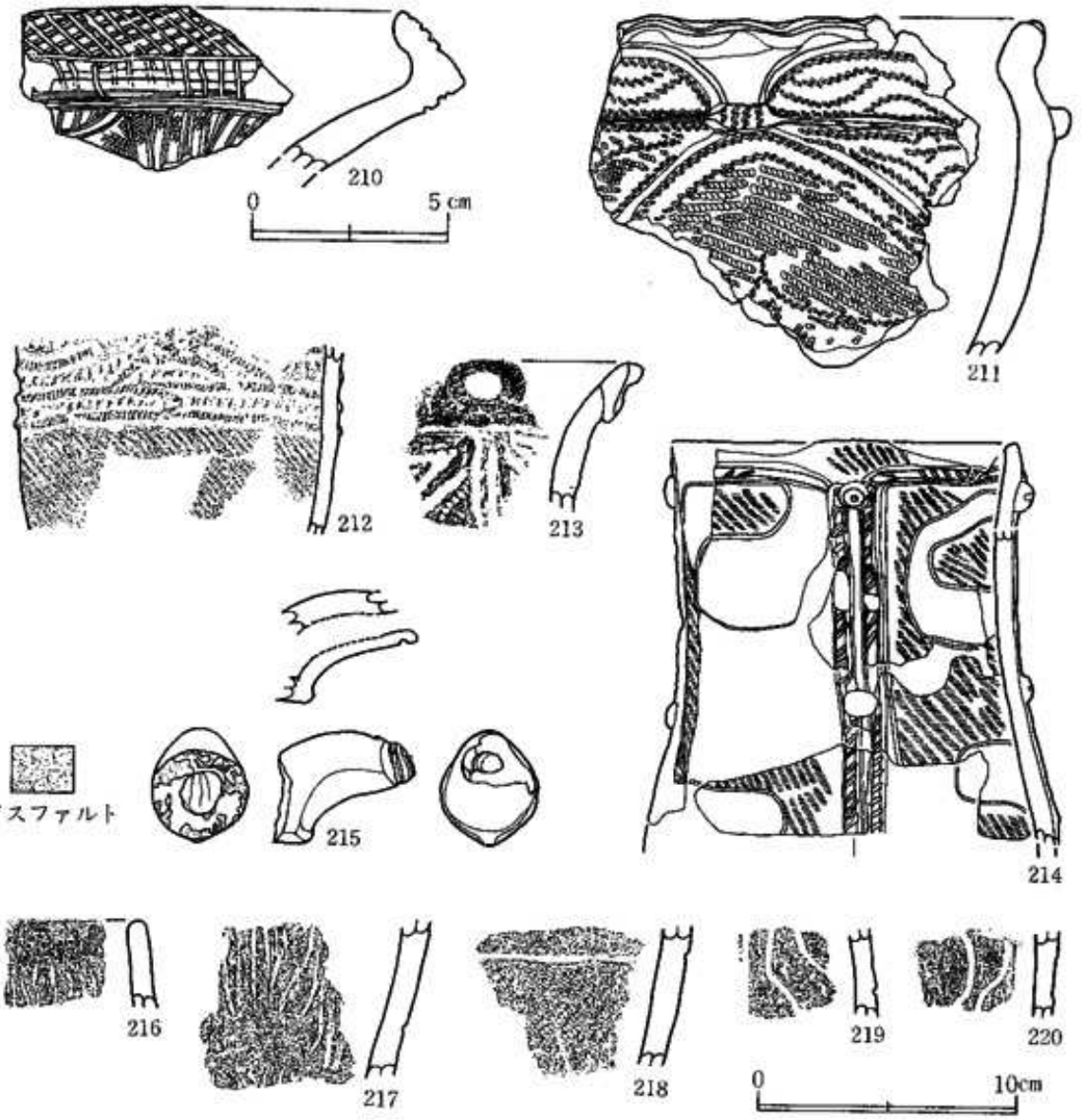
ここには完形品のみ4点図示した。破片の資料を加えると7点出土している。またⅢ区ＳＫ103で出土しているミニチュアの磨製石斧も2点確認している。図示した4点とも両側縁と頭部が研磨されており、定角式の磨製石斧と称される。刃部は直刃か緩い丸刃で、側面観は両凸刃となる共通点がある。石材は主に緑色凝灰岩である。

⑯石製品（306～310）

306は軽石製品で、図示面正面と側面の$\frac{3}{4}$周には沈線が刻まれる。右側面には成形時と考えられる磨面が見られる。309は扁平で楕円形の礫に楕円状の線刻を施している。また全面には長軸方向とほぼ平行に細かな擦痕が観察される。310も板状の礫片面に太い線刻と細かい線刻が見られる。307は三脚石器、308は円盤状石製品である。

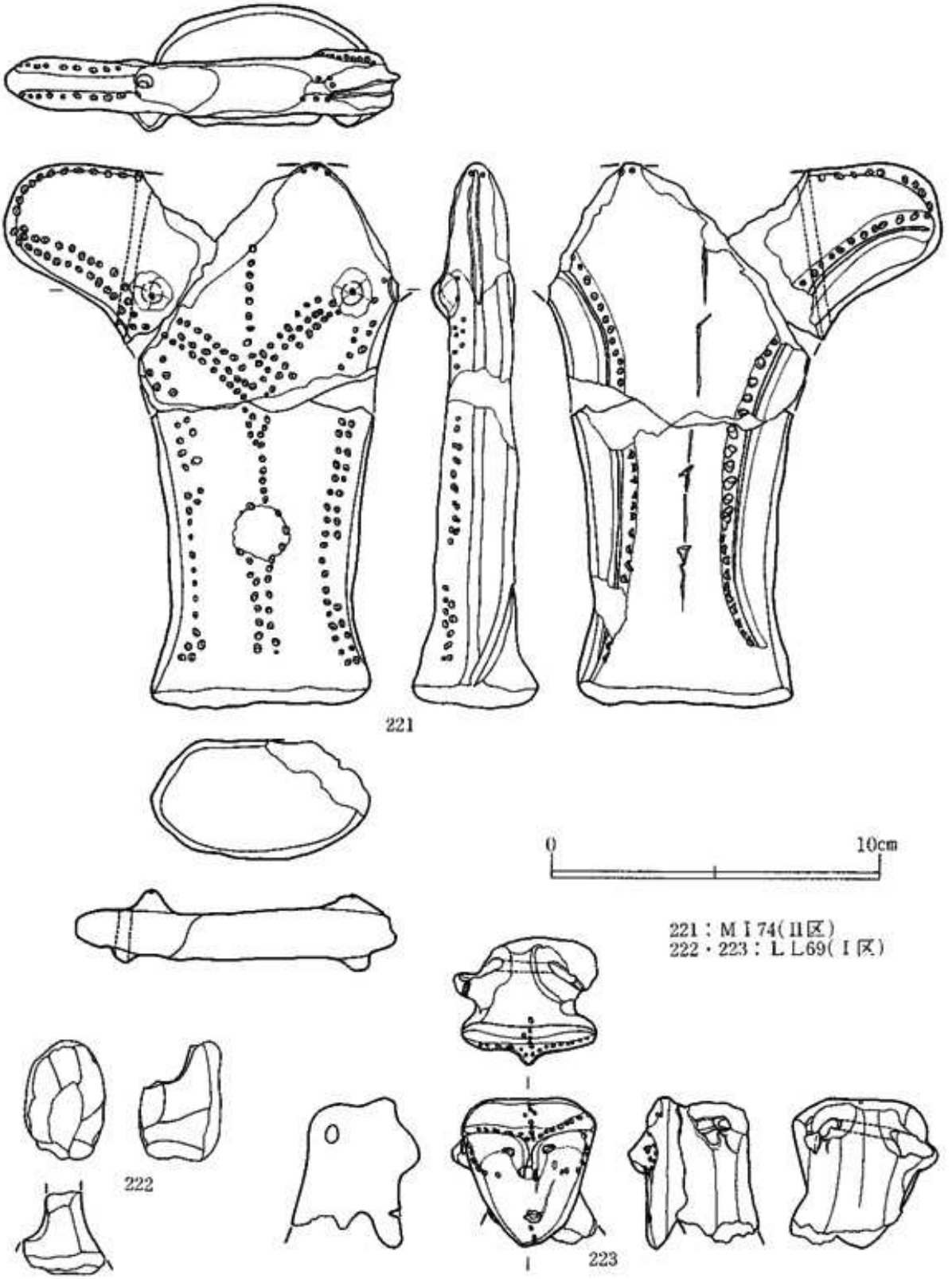
(3)　その他の遺物

家の下遺跡では、上記縄文時代の遺物の他に、ごく僅かではあるが、平安時代かこれ以降と想定される鉄滓も出土している。これは調査区（Ⅰ区）東端中央部の東向き緩斜面部、ＬＩ・Ｊ58～62グリッド第Ⅰ～Ⅱ層中において確認され、総量で約4.5kgある。この区域ではＳＮ93～95焼土遺構が検出されており、鉄滓の出土から推定される製鉄炉等の施設は確認できなかったものの、鉄生産に係わる何らかの施設が存在していた可能性は指摘しておきたい。

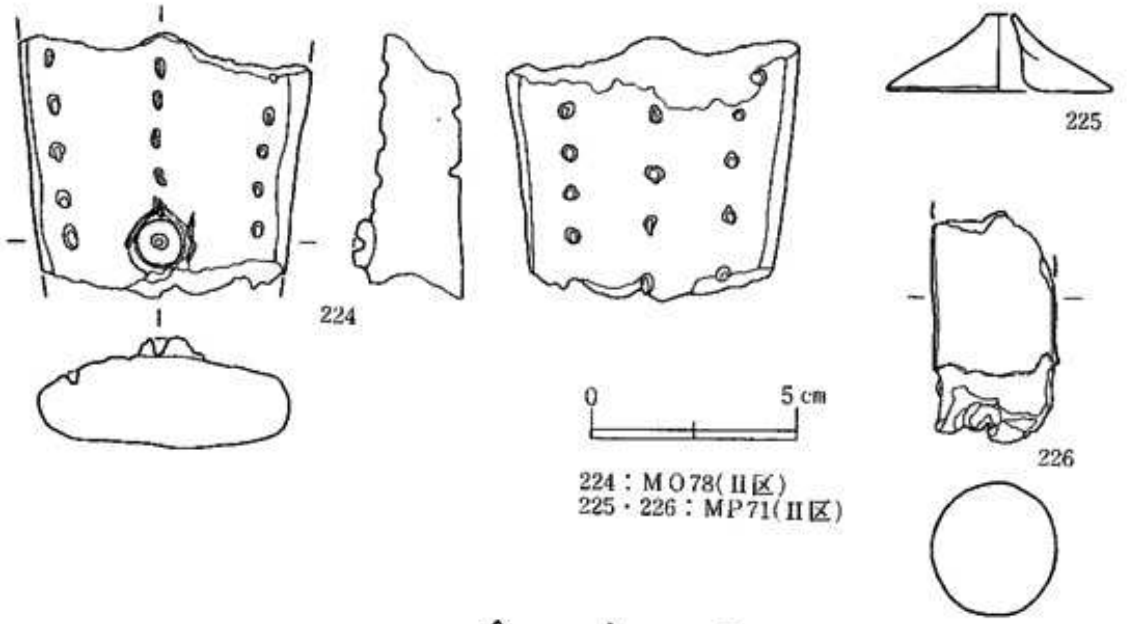


番号	出土位置	文様・調整等	口径	最大径	器高
210	LM71I	平縁．（外）沈線・粘土紐貼付．（内）ミガキ	-	-	-
211	LS63I	平縁．（外）隆帯→RL縄文・LR押圧縄文．（内）ミガキ	-	-	-
212	ML78I	（外）隆帯→刺突列→RL縄文．（内）ミガキ	-	-	-
213	LO70II	（外）隆帯・隆線・LR縄文→沈線．（内）ミガキ	-	-	-
214	LT71II	（外）隆帯→突起→刻目・R縄文・沈線→磨消．（内）ミガキ	13.4	(15.6)	(16.1)
215	MG75I	（注口部）アスファルト付着．（外）ミガキ	-	-	-
216	MN70	平縁．（外）R撚糸文．（内）ミガキ	-	-	-
217	MQ79	（外）LR縄文→沈線．（内）ミガキ	-	-	-
218	MN70	（外）R撚糸文．（内）ミガキ	-	-	-
219	MN70	（外）沈線．（内）ミガキ	-	-	-
220	MN70	（外）沈線．（内）ミガキ	-	-	-

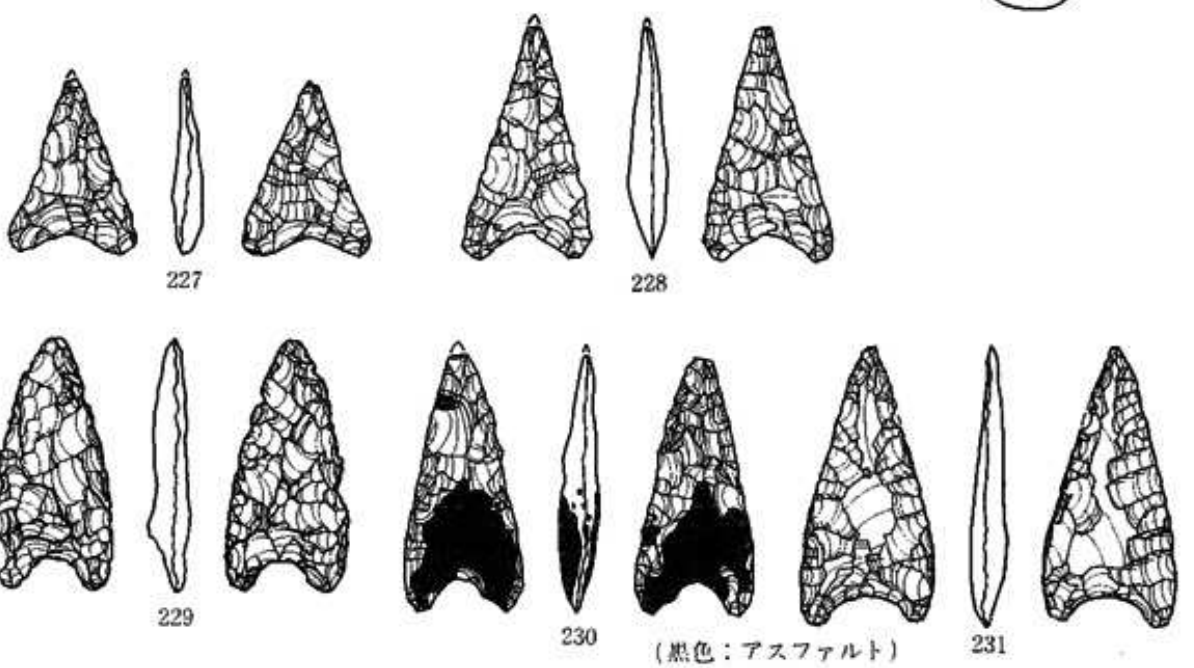
第96図　遺構外出土遺物（1）土器

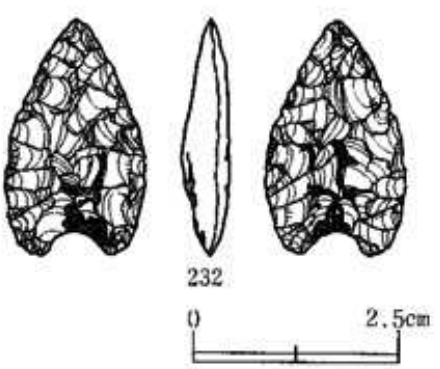


第97図　遺構外出土遺物（2）土製品（1）



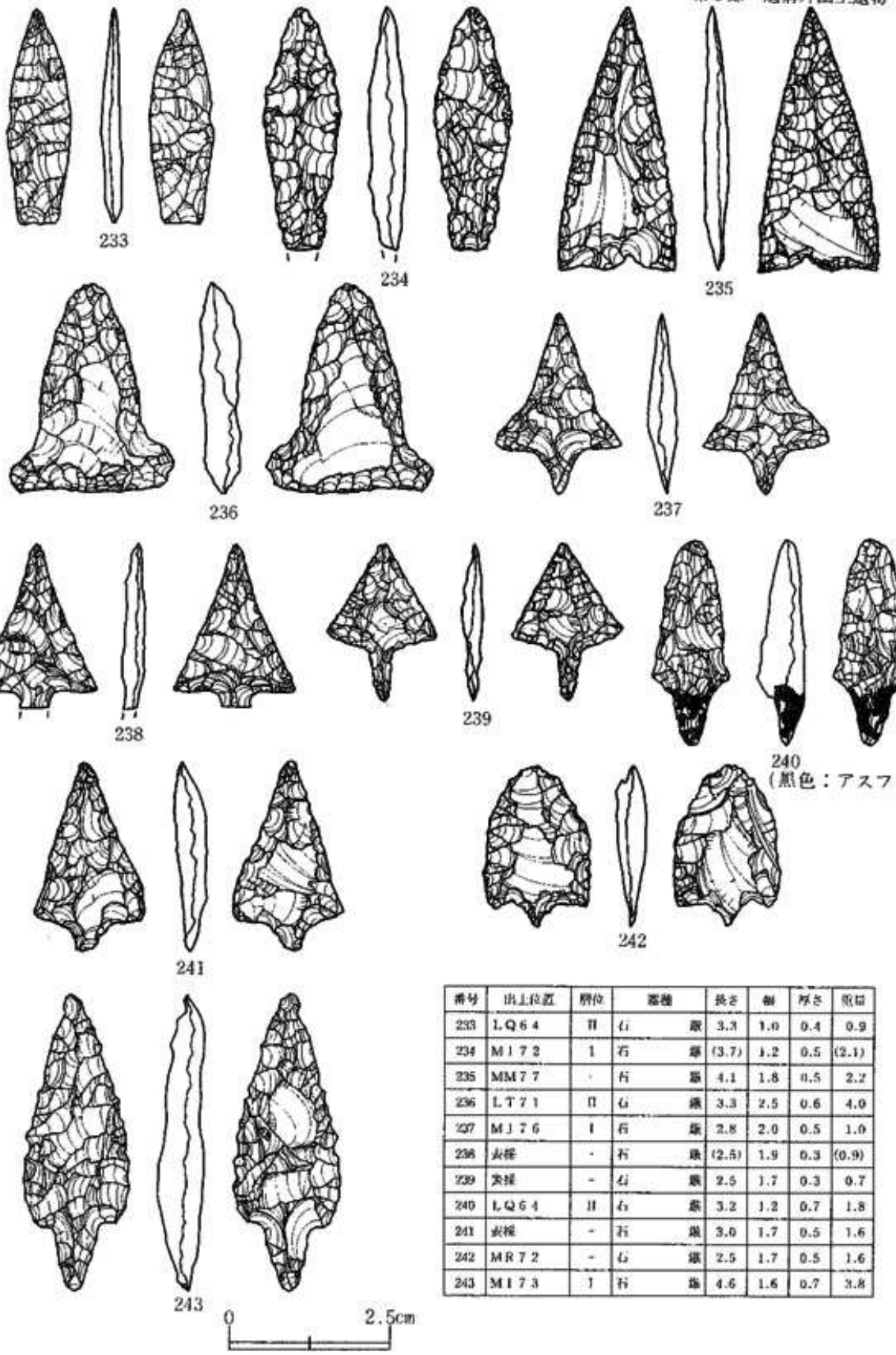
224：MO78(II区)
225・226：MP71(II区)





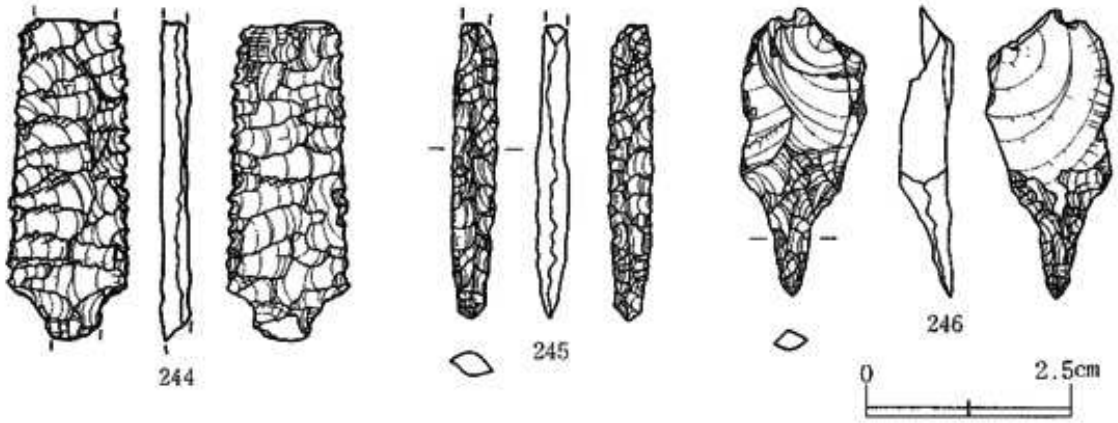
番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
227	LP73	II	石　鏃	(2.2)	1.5	0.4	(0.8)
228	LM61	I	石　鏃	(2.8)	1.7	0.5	(1.3)
229	LS52	III	石　鏃	3.1	1.5	0.5	1.9
230	表採	-	石　鏃	(3.2)	1.5	0.5	(1.7)
231	LK62	II	石　鏃	3.5	1.6	0.5	1.9
232	LR67	IV	石　鏃	2.9	1.7	0.5	2.2

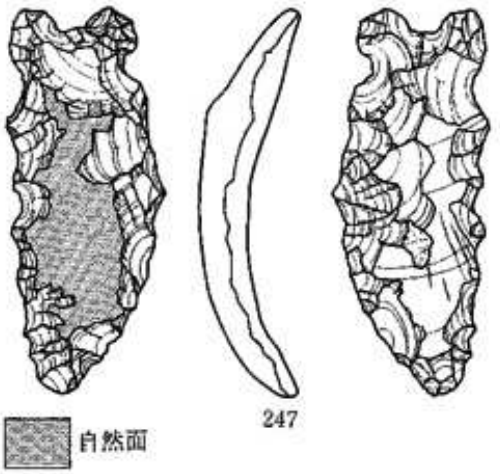
第98図　遺構外出土遺物（3）土製品（2）・石器（1）



番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
233	LQ64	II	石　　鏃	3.3	1.0	0.4	0.9
234	MI73	I	石　　鏃	(3.7)	1.2	0.5	(2.1)
235	MM77	-	石　　鏃	4.1	1.8	0.5	2.2
236	LT71	II	石　　鏃	3.3	2.5	0.6	4.0
237	MJ76	I	石　　鏃	2.8	2.0	0.5	1.0
238	表採	-	石　　鏃	(2.5)	1.9	0.3	(0.9)
239	表採	-	石　　鏃	2.5	1.7	0.3	0.7
240	LQ64	II	石　　鏃	3.2	1.2	0.7	1.8
241	表採	-	石　　鏃	3.0	1.7	0.5	1.6
242	MR72	-	石　　鏃	2.5	1.7	0.5	1.6
243	MI73	I	石　　鏃	4.6	1.6	0.7	3.8

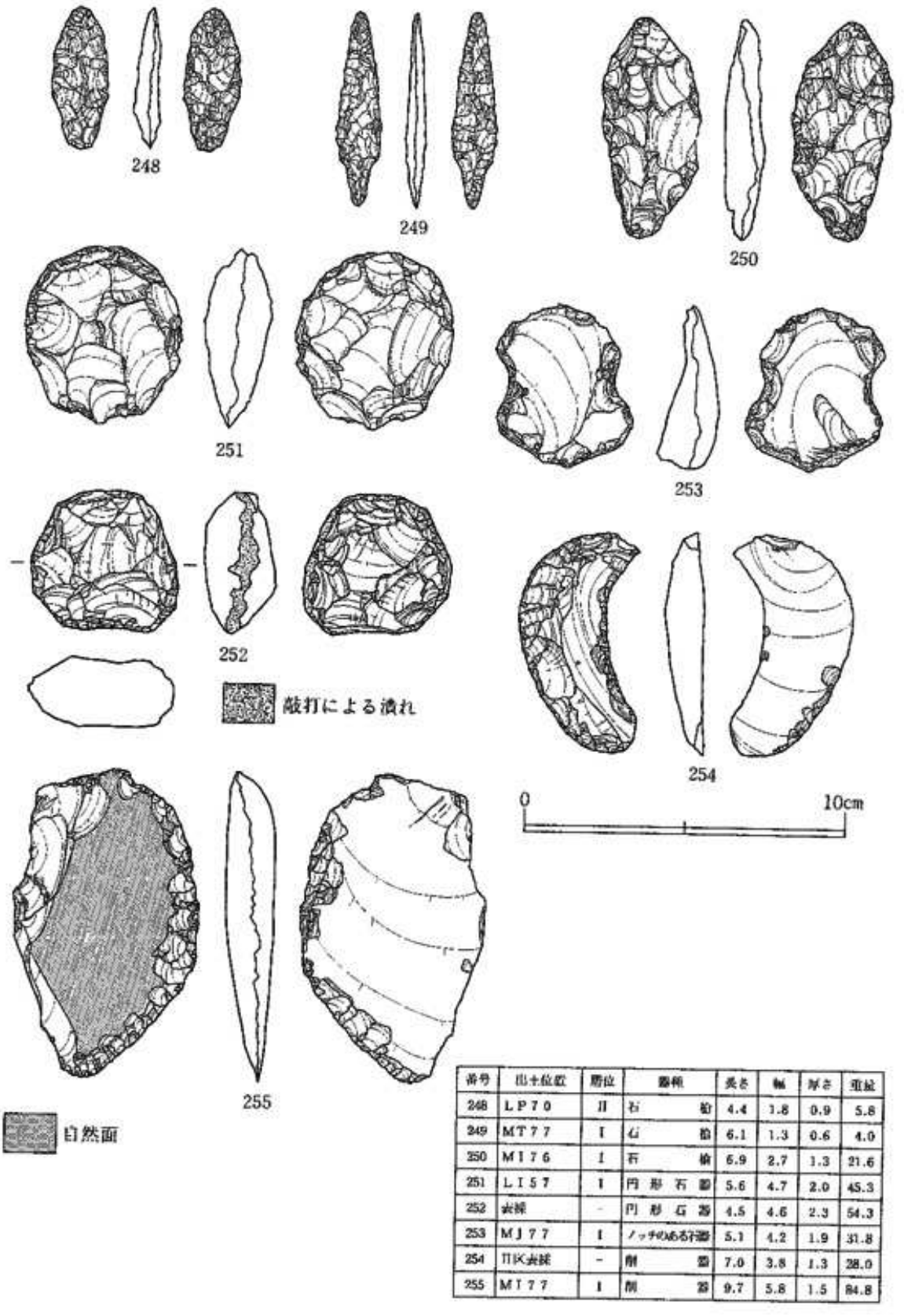
第99図　遺構外出土遺物（4）石器（2）





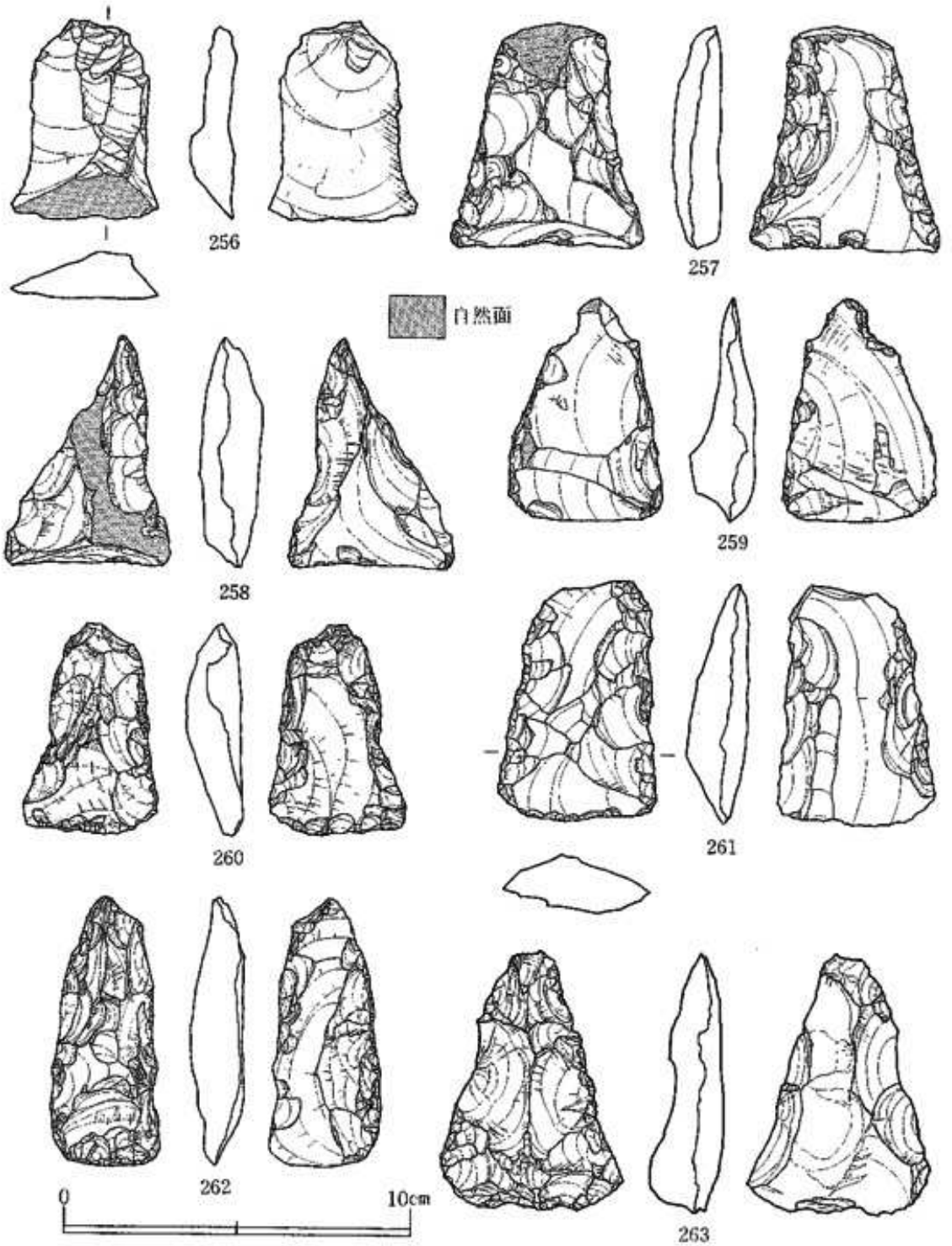
番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
244	ME74	I	石　　槍	(4.0)	1.6	0.4	(2.6)
245	LJ62	I	石　　鏃	(3.6)	0.5	0.4	(0.8)
246	LR68	II	石　　錐	3.5	1.5	0.6	2.4
247	LR59	II	異形石器	4.7	1.9	1.3	5.9

第100図　遺構外出土遺物（5）石器（3）



番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
248	LP70	II	石　　鏃	4.4	1.8	0.9	5.8
249	MT77	I	石　　鏃	6.1	1.3	0.6	4.0
250	MI76	I	石　　槍	6.9	2.7	1.3	21.6
251	LI57	I	円形石器	5.6	4.7	2.0	45.3
252	表採	-	円形石器	4.5	4.6	2.3	54.3
253	MJ77	I	ノッチのある石器	5.1	4.2	1.9	31.8
254	II区表採	-	削　　器	7.0	3.8	1.3	28.0
255	MT77	I	削　　器	9.7	5.8	1.5	84.8

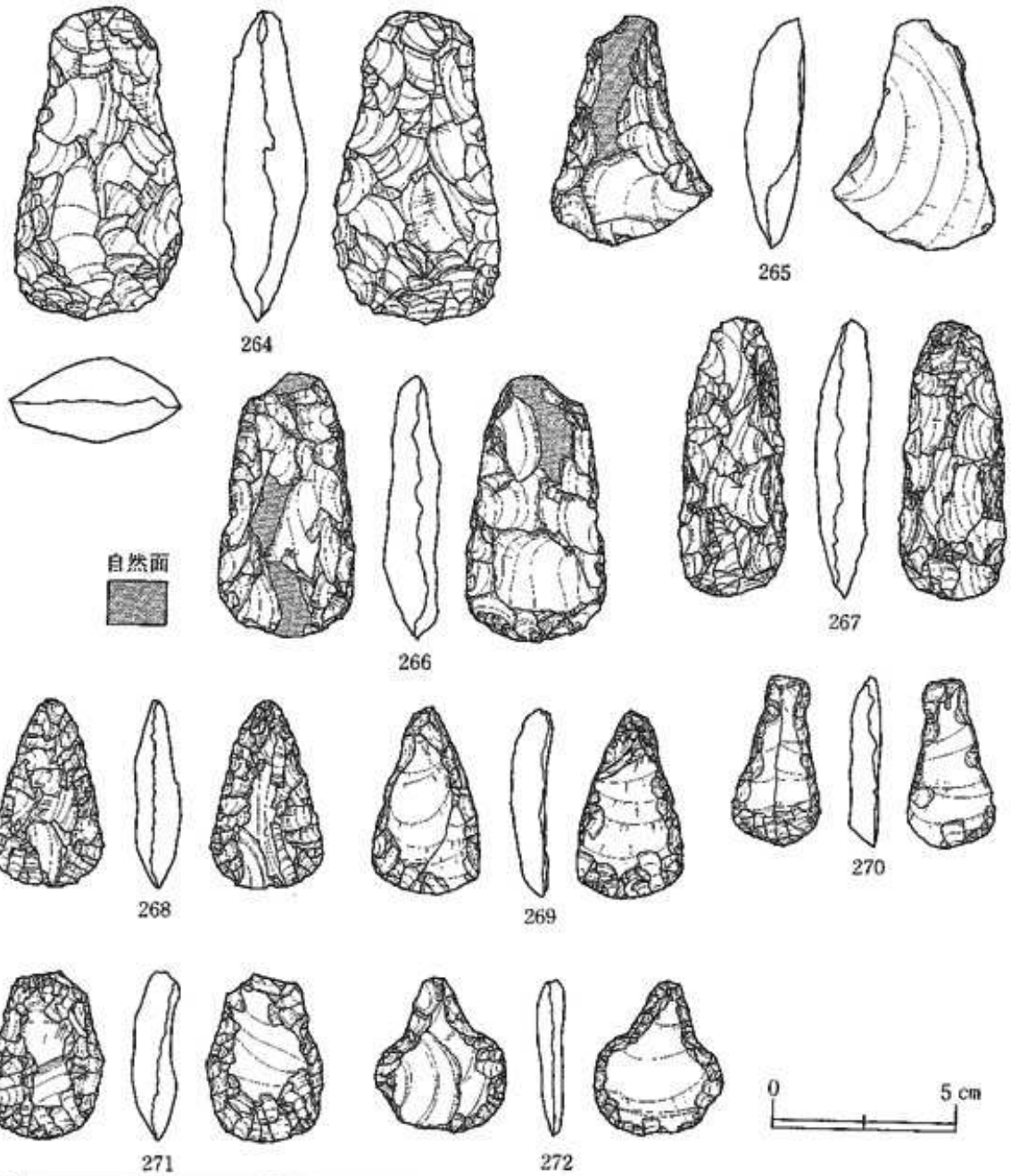
第101図　遺構外出土遺物（6）石器（4）



番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
256	LS70	II	トランシェ様石器	5.9	4.3	1.2	23.2
257	表採	-	トランシェ様石器	6.6	5.6	1.4	46.0
258	MJ77	I	トランシェ様石器	6.7	4.8	1.8	38.9
259	LR69	I	トランシェ様G器	6.5	4.5	2.0	40.8

番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
260	MA66	III	尾状G器	6.2	4.0	1.5	29.9
261	LO70	II	筒状石器	7.0	4.6	1.5	36.8
262	MF76	I	筒状石器	7.8	3.2	1.6	37.2
263	LP58	I	尾状G器	7.6	5.3	2.0	56.6

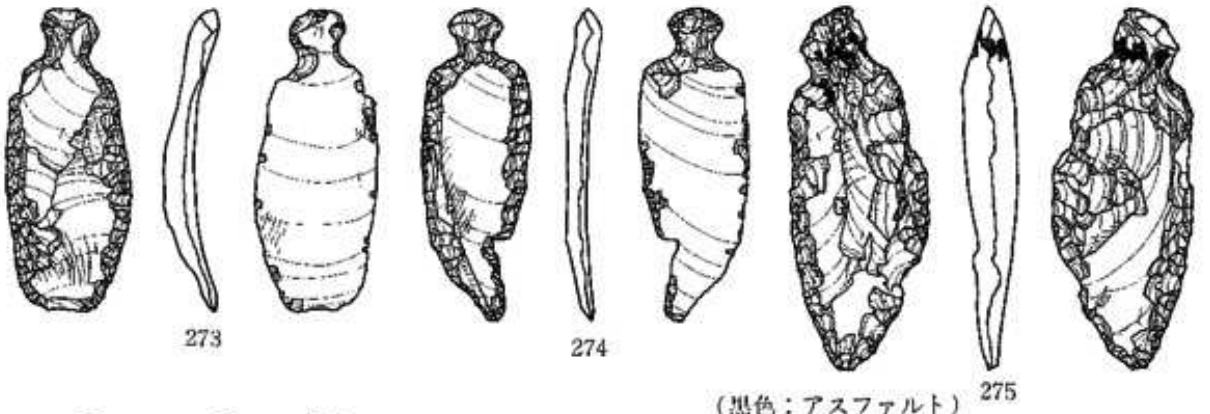
第102図　遺構外出土遺物（7）石器（5）

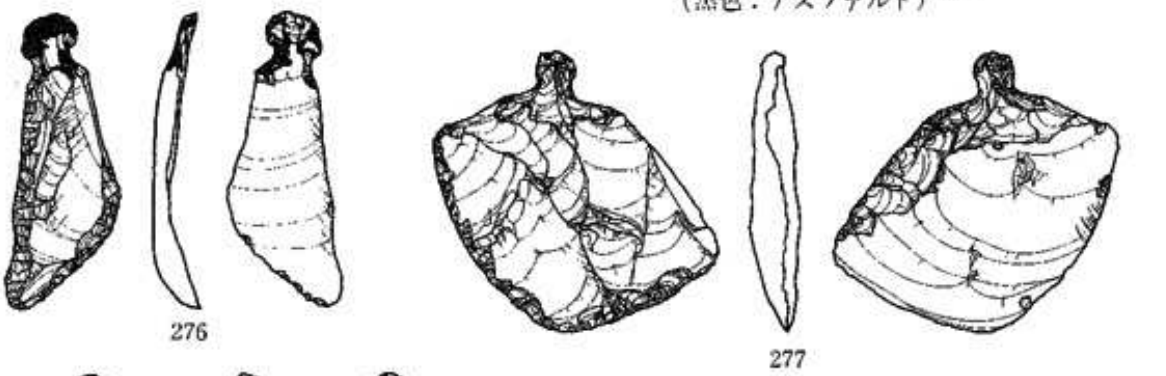


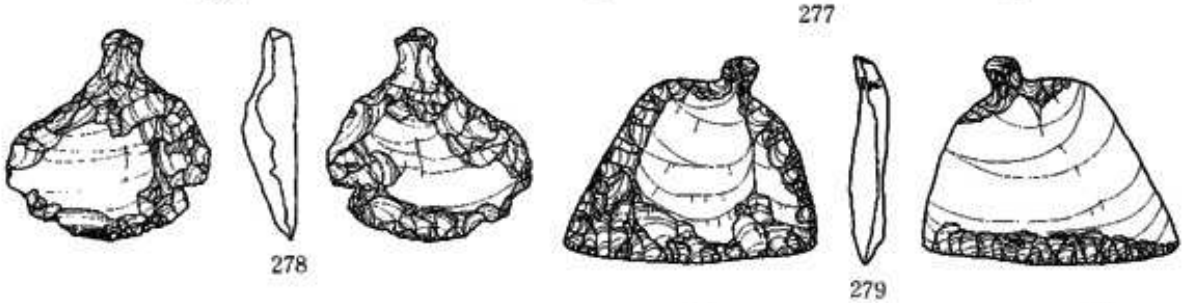
番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
264	LO70	II	尾状石器	8.6	4.7	2.4	75.2
265	LP52	I	尾状石器	6.4	4.5	1.7	36.8
266	II区表採	-	尾状石器	7.3	4.0	1.5	39.3
267	LM53	I	尾状石器	7.7	3.6	1.5	32.9

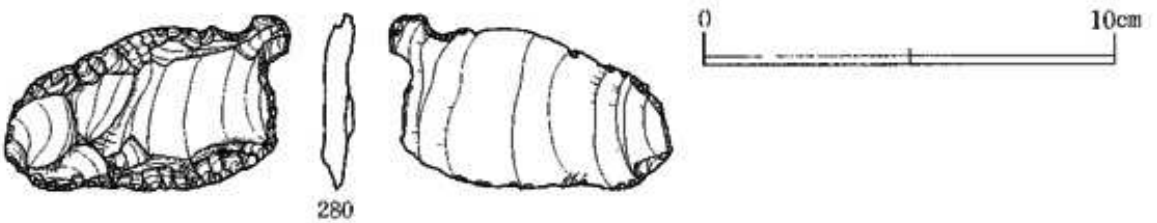
番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
268	LM52	I	尾状石器	5.2	3.2	1.3	16.2
269	II区表採	-	尾状石器	5.1	3.0	1.1	14.1
270	LT71	II	尾状石器	4.7	2.4	0.8	9.1
271	ME74	I	尾状石器	4.6	3.2	1.2	19.6
272	II区表採	-	尾状石器	4.3	3.6	0.7	8.6

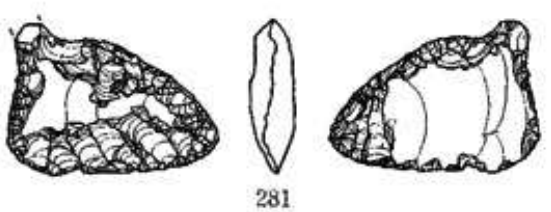
第103図　遺構外出土遺物（8）石器（6）





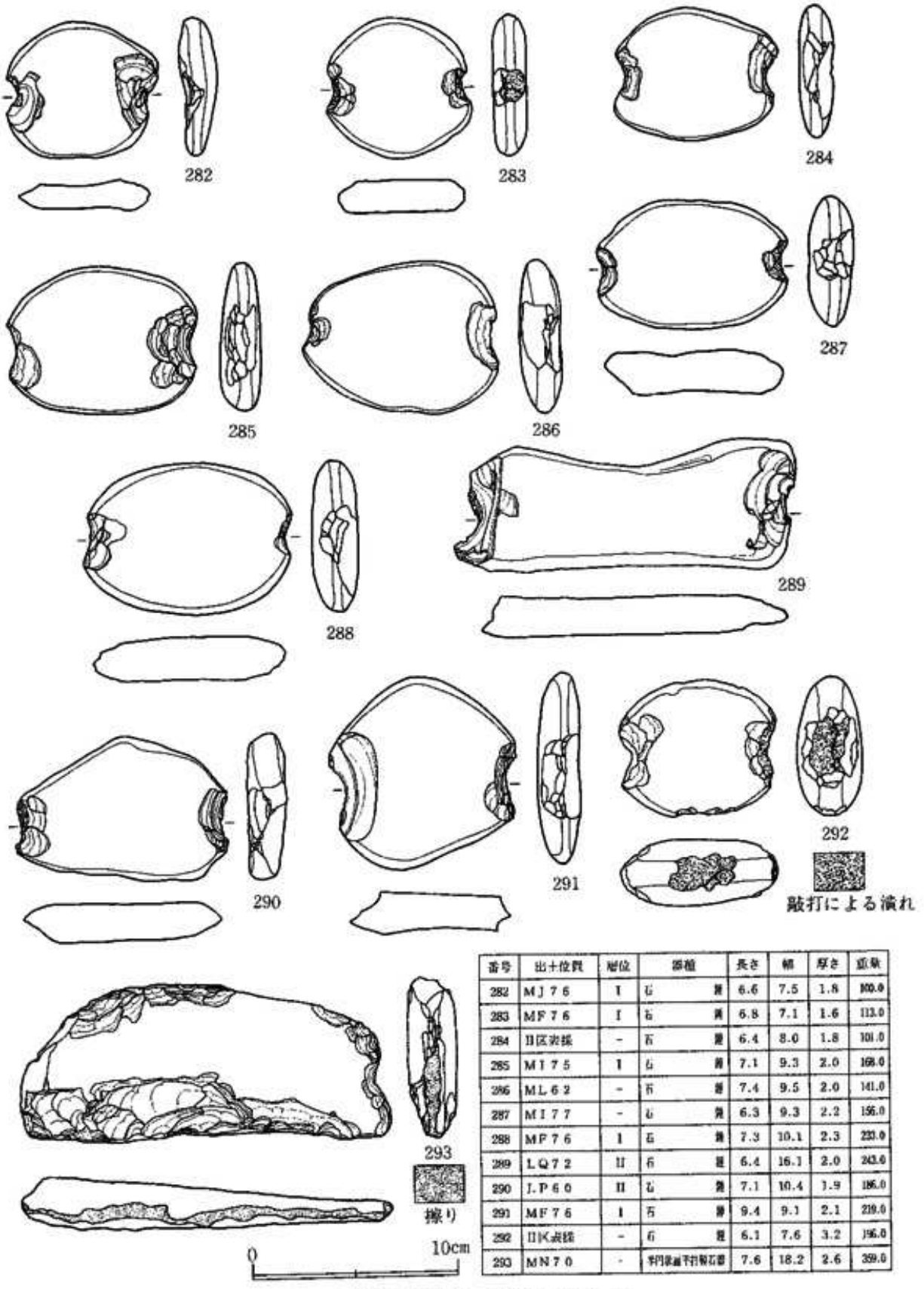






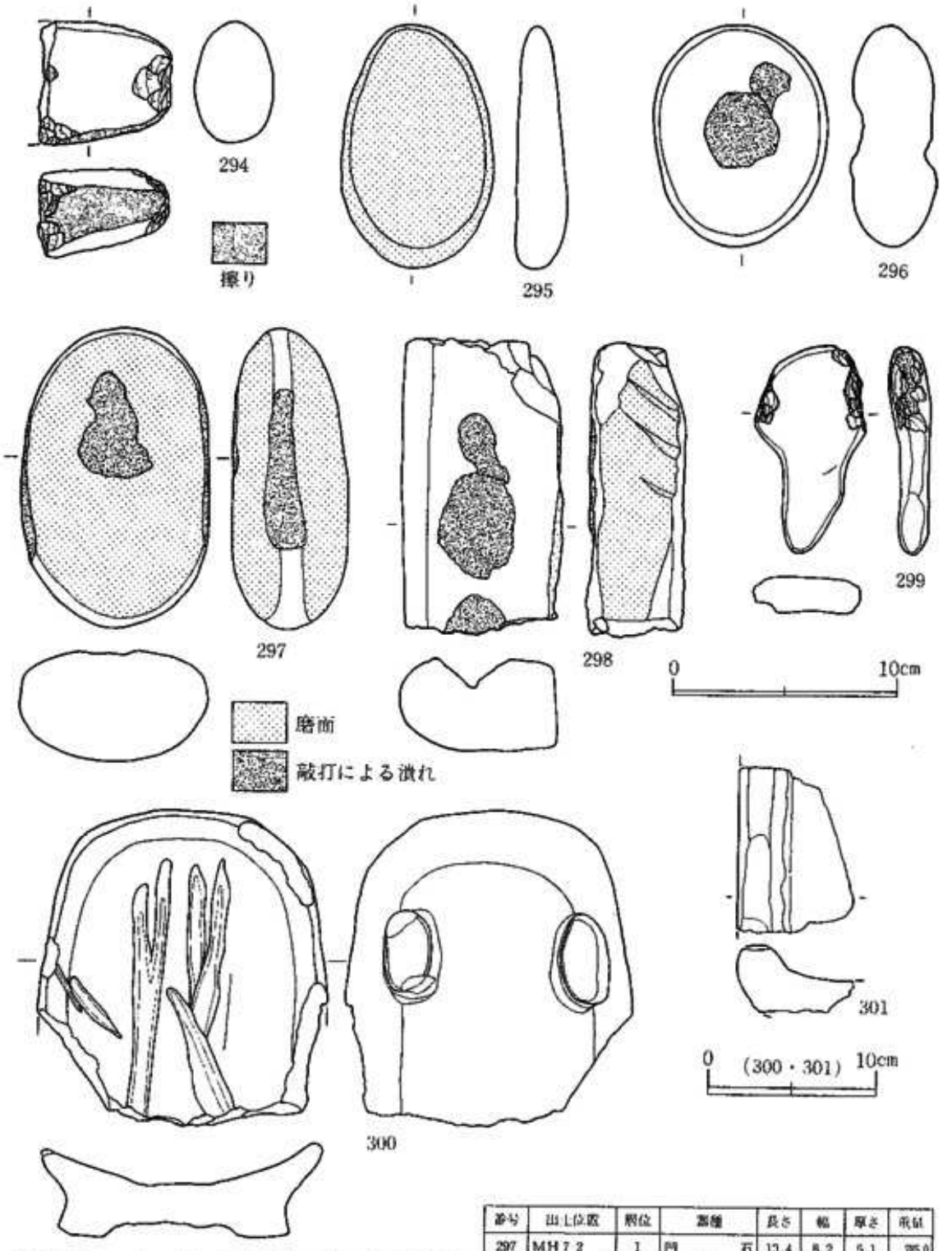
番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
273	I.P71	II	石　匙	7.3	3.0	1.3	15.7
274	MM78	I	石　匙	7.6	2.7	1.1	10.7
275	LO55	I	石　匙	8.9	3.4	1.3	33.6
276	MM77	-	石　匙	7.2	2.8	1.0	10.4
277	MH73	I	石　匙	6.8	6.9	1.2	40.1
278	I.T63	I	石　匙	5.1	5.0	1.3	23.9
279	MP72	-	石　匙	5.1	6.1	1.0	22.0
280	MH74	I	石　匙	4.3	6.9	0.8	14.1
281	I.I.64	I	石　匙	(3.7)	5.2	1.1	(29.2)

第104図　遺構外出土遺物（9）石器（7）



番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
282	MJ76	I	石錐	6.6	7.5	1.8	100.0
283	MF76	I	石錐	6.8	7.1	1.6	113.0
284	II区表採	-	石錐	6.4	8.0	1.8	101.0
285	MI75	I	石錐	7.1	9.3	2.0	168.0
286	ML62	-	石錐	7.4	9.5	2.0	141.0
287	MI77	-	石錐	6.3	9.3	2.2	156.0
288	MP76	I	石錐	7.3	10.1	2.3	233.0
289	LQ72	II	石錐	6.4	16.1	2.0	243.0
290	LP60	II	石錐	7.1	10.4	1.9	186.0
291	MF76	I	石錐	9.4	9.1	2.1	219.0
292	II K表採	-	石錐	6.1	7.6	3.2	196.0
293	MN70	-	半円状扁平打製石器	7.6	18.2	2.6	359.0

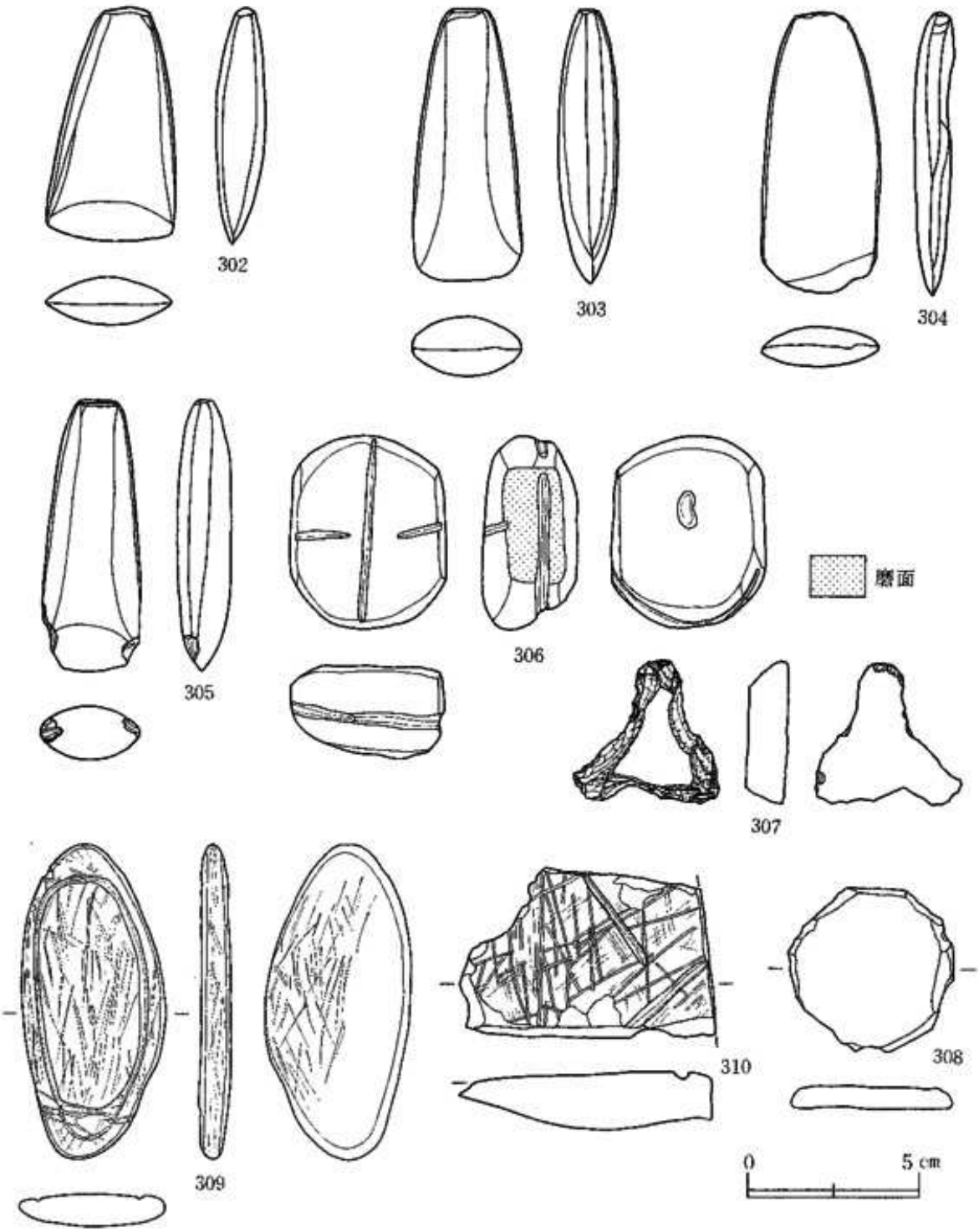
第105図　遺構外出土遺物（10）石器（8）



番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
294	LN65	I	擦石	(5.4)	5.8	3.6	(163.0)
295	LR72	II	磨石	10.8	6.8	2.2	220.0
296	LO72	II	凹石	9.9	7.9	3.8	365.0

番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
297	MH72	I	凹石	13.4	8.2	5.1	785.0
298	LL69	I	凹石	13.2	7.2	4.3	558.0
299	LP	II	敲石	9.2	4.9	1.9	74.3
300	MK77	I	石皿	(18.9)	16.5	17.1	(3121.0)
301	MH72	I	石皿	(9.8)	(7.0)	(4.0)	(256.0)

第106図　遺構外出土遺物（11）石器（9）



番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
302	LK56	I	磨製石斧	6.9	3.8	1.5	58.4
303	LT62	I	磨製石斧	8.0	3.2	1.8	70.3
304	LK65	-	磨製石斧	8.2	4.0	1.1	56.6
305	LK56	I	磨製石斧	7.9	2.8	1.6	64.4
306	LP73	I	磨石類石器石製品	5.7	4.5	2.8	69.0

番号	出土位置	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
307	II区表採	I	二脚石器	4.1	4.3	5.2	16.6
308	LL69	I	円盤状石製品	4.9	4.8	0.7	22.1
309	LM71	I	線刻礫	9.3	4.3	1.0	39.6
310	LO73	II	線刻礫	5.0	7.5	1.6	59.2

第107図　遺構外出土遺物（12）石器（10）

第5章　自然科学分析

はじめに

家の下遺跡（秋田県山本郡琴丘町鹿渡字長信田家の下に所在）は、八郎潟東岸に形成された海成段丘上（森岳II面）に位置し、旧石器時代の遺物、縄文時代前・中期～後・晩期にかけての住居跡・土坑などの遺構や土器・石器など遺物が検出されている。

今回、基本土層の堆積環境を検討するために珪藻分析を、土坑の内容物・燃料材の検討および周辺のイネ科植生について検討するために植物珪酸体分析を、土坑の構築年代を検討するために放射性炭素年代測定をそれぞれ実施した。

1．基本土層の堆積環境

（1）層序および試料

本遺跡の基本土層は、下位からV層～I層に分層されており、V層がVe層～Va層に、IV層がIVc層～IVa層にそれぞれ細分されている。発掘調査所見によると、V層が海成砂層とされており、IV層が粘土層（風化帯）とされている。

試料は、基本土層IV層を対象に上部・中部・下部から採取された3点である（表1）。試料の層相は、下部（試料番号15）が橙色砂質シルト、中・上部（試料番号14・13）が明褐色粘土混じり砂質シルトである。

表1．珪藻分析試料の一覧

試料番号	試料採取層位	試料名	層相
13	IVa層	地山IV層上部土壌	明褐色粘土混じり砂質シルト
14	IVb層	地山IV層上部土壌	明褐色粘土混じり砂質シルト
15	IVc層	地山IV層上部土壌	橙色砂質シルト

（2）珪藻分析の方法

珪藻化石は、試料湿重約6ｇ秤量し、過酸化水素水、塩酸の順に化学処理し、試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。自然沈降法で粘土分、傾斜法で砂分を除去した後、適当量計り取りカバーガラス上に滴下、乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1,000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に同定・計数する。

（3）結果および考察

試料番号15～13の3試料とも珪藻化石は、全く検出されない。珪藻化石が産出しなかった原因としては、①段丘上の乾いた場所から風成堆積したため堆積物中に珪藻がほとんど取り込まれなかった、②堆積後の続成作用により元々存在した珪藻化石が溶解消失した、などのことが考えられる。しかし、今回の場合は、このうちのどれに相当するか判断が難しい。このように珪藻化石が検出されなかったことから、Ⅳc層～Ⅳa層の堆積環境について検討することは困難である。

2．土坑の内容物、燃料材、周辺のイネ科植生

（1）試料

試料は、土坑の埋積物・焼土および土坑の周辺の土壌から採取された合計12点である（表2）。試料が採取された土坑は、基本土層のⅣ層・Ⅴ層を削り構築されている。試料の層相は、土坑埋積物・周囲土壌が主に褐色～黒褐色のシルト～砂、焼土が明赤褐色～褐色のシルト～砂からなる。

表2．植物珪酸体分析試料の一覧

試料番号	採取地点	採取層位	層相
1	SK33A	底部土壌	暗褐色シルト質砂
2	SN33B	上面焼土	赤褐色シルト混じり砂
3	SN33B	周囲土壌	暗褐色シルト質砂
4	SK34A	底部土壌	極暗褐色シルト質砂
5	SN34B	上面焼土	褐色シルト質砂
6	SN34B	周囲土壌	極暗褐色シルト質砂
7	SN34B	SR内土壌	黒褐色シルト質砂
8	SN34B	SR腹面焼土	明赤褐色砂混じり粘土質シルト
9	SK41A	底部土壌	褐色砂質シルト
10	SN41B	底部土壌	赤褐色砂混じり粘土質シルト
11	SN41B	周囲土壌	暗褐色砂混じりシルト
12	SN41B	SR内土壌	暗褐色シルト質砂

（2）植物珪酸体分析の方法

植物珪酸体は、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz，1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.6）の順に物理・化学処理を行って分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。結果は、検出された植物珪酸体の種類と個数を一覧表で示す。

表3．植物珪酸体分析結果

種　類（Taxa）　試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
イネ科葉部短細胞珪酸体												
キビ族	2	2	8	4	4	4	8	6	－	2	1	4
タケ亜科	22	12	28	6	11	8	19	6	17	7	10	20
ウシクサ族ススキ属	－	4	3	－	－	－	1	－	－	1	1	－
イチゴツナギ亜科	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	1	－
不明キビ型	7	15	22	21	12	19	28	8	4	21	6	22
不明ヒゲシバ型	4	10	9	10	10	1	8	3	3	1	3	4
不明ダンチク型	16	4	21	23	7	－	18	1	5	5	5	12
イネ科葉身機動細胞珪酸体												
タケ亜科	6	3	11	2	6	10	4	5	2	－	8	10
不明	1	－	1	－	1	1	－	1	－	－	1	－
合　計												
イネ科葉部短細胞珪酸体	51	47	91	64	44	32	84	24	29	37	27	62
イネ科葉身機動細胞珪酸体	7	3	12	2	7	11	4	6	2	0	9	10
検出個数	58	50	103	66	51	43	88	30	31	37	36	72

（3）結果および考察

結果は、表3に示す。植物珪酸体は、短細胞珪酸体・機動細胞珪酸体ともにほとんど検出されず、キビ族・タケ亜科・ウシクサ族ススキ属・イチゴツナギ亜科などがわずかに検出される

程度であり、また保存状態も非常に悪い。

周囲土壌からは、植物珪酸体がほとんど検出されないため、周辺植生について検討することは困難である。ただし、わずかに検出された種類は、当時、周辺に生育していたイネ科植物に由来する可能性がある。一方、土坑埋積物底部および焼土も、周囲土壌と同様に植物珪酸体がほとんど検出されない。また、わずかに検出される種類も、周囲土壌と同様な種類である。これより、ここで検出された植物珪酸体は、周辺から混入した可能性がある。以上のことから、今回の植物珪酸体の産状から土坑内容物や燃料材の種類について検討することは困難である。

3．土坑の構築年代について

（1）試料

試料は、SK06およびSK74Aの土坑埋積物底部から検出された炭化材2点（試料番号16・17）である。なお、測定は、学習院大学放射性炭素年代測定室に依頼した（表4）。

（2）結果および考察

放射性炭素年代測定の結果、年代値は試料番号16が2390±130y.B.P.（440B.C.年：Gak-18362）、試料番号17が3500±90y.B.P.（1550B.C.年：Gak-18363）であった。両試料が出土したのは、いずれも縄文時代（中期～後期）とされる土坑である。年代値からみる限り、前者は縄文時代晩期末、後者は縄文時代後期に相当すると言えよう（日本第四紀学会編，1992）。

表4．放射性炭素年代測定結果

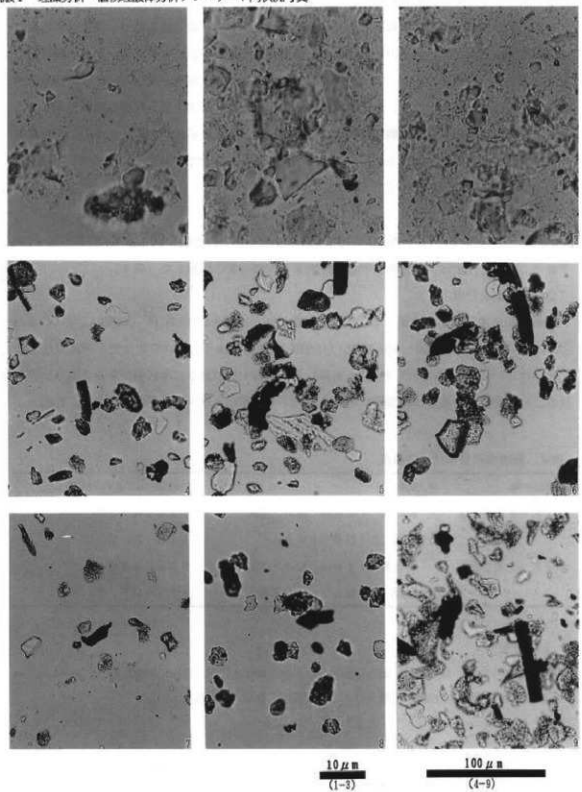
Code No.	試料	年代(1950年よりの年数)
GaK－18362	炭化木　from　家の下遺跡	2390±130
	No.16　3INS　SK06	440　B. C.
GaK－18363	炭化木　from　家の下遺跡	3500±90
	No.17　3INS　SK74A	1550　B. C.

引用文献

近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p.31-64.

日本第四紀学会編（1992）図解・日本の人類遺跡．東京大学出版会，50p.

図版1　珪藻分析・植物珪酸体分析プレパラート内状況写真



1. 珪藻分析(試料番号15)　2. 珪藻分析(試料番号14)　3. 珪藻分析(試料番号13)
4. 植物珪酸体分析(試料番号1)　5. 植物珪酸体分析(試料番号4)　6. 植物珪酸体分析(試料番号6)
7. 植物珪酸体分析(試料番号7)　8. 植物珪酸体分析(試料番号10)　9. 植物珪酸体分析(試料番号12)

第6章　まとめ

家の下遺跡の発掘調査により、縄文時代中期中葉～晩期中葉にかけての竪穴住居跡、土坑・フラスコ状土坑など251基の遺構が確認された。またⅠ区北部の地山面より15,000点を超す旧石器も出土した。遺構外を含めた遺物は旧石器を除くと、縄文時代前期後葉から晩期中葉までの土器・石器類と平安時代かそれ以降の鉄滓が出土している。出土量は整理用コンテナで約80箱になる。ここでは縄文時代各時期における場の使用・変遷を前章までの記録の再整理からまとめてみる。

【前期後葉～中期前葉】この時期に特定できる遺構は確認されていない。ただしⅠ区北東端部出土の2点の北陸系の土器は該期に属する。第96図210（LM71グリッド出土）とSKF64A出土の第74図16であり、上部での短く内屈する度合いは異なるもののキャリパー形の深鉢となるであろう。文様は、口縁下部には2点とも半截竹管を用いた縦位の半隆起線文を密に施す。口縁上部は210は斜行させた半隆起線に直交するように細い粘土紐が貼付され、16は平行沈線で区画された内部に鋸歯状の刻みを横位に展開させる。これらの土器は、器形や文様構成から、北陸地方に分布の中心をおく新保・新崎式土器[1]に類似し、石川県真脇遺跡等で出土している。土器様式では新保・新崎様式のうち古手（第Ⅰ様式）に属すると思われ、時期的には中期初頭～前葉にあたる。北陸系の土器は、県内では男鹿市大畑台遺跡、秋田市下堤D遺跡・坂ノ上F遺跡などで出土例が報告されている[2]。またSKF64Aにほど近いSKF64H埋土出土の土器片（55）は、円筒上層b式に比定されることから、北陸系の土器と併行する時期の遺物と考えられる。一方、SK47埋土中より胎土に多量の細砂粒と微量の繊維を含む土器片（円筒下層d式か）が2点出土し、さらに前期に属するとされるトランシェ様石器、半円状扁平打製石器もⅠ・Ⅱ区内より散在的ではあるが出土している。これらのことから該期の縄文人の活動は、遺跡全体に薄く広く印されたものと推測される。

【中期中葉】この時期に入ると少なくとも住居1軒、フラスコ状土坑4基が構築される。Ⅰ区では長軸13mの大型住居であるSI83と、フラスコ状土坑SKF6・71D・78D、Ⅱ区では北西部でSKF204をそれぞれ検出した。SI83とSKF6は、重複する位置関係にあるが、同時存在の可能性もある。この2遺構以外は台地の縁辺部に立地するものの、次代の遺構立地に比較すると最縁辺（緩斜面部）ではなく、いくらか内側（平坦部）に構築するようにも読める。

各遺構出土の土器は、円筒土器様式の円筒上層c～d式、大木土器様式の大木7b～8a式期に比定される。SI83では同一レベルで円筒上層c式土器（1）と大木8a式土器（2）が共伴する。

【中期後葉～末葉】この時期は、II区で竪穴住居２軒（ＳＩ219・273)、フラスコ状土坑１基（ＳＫＦ239)、Ｉ区のＳＲ66Ｆ土器埋設遺構が構築される。Ｉ区のＳＫＦ66Ｃも中期末葉から後期初頭の土器が混在することから該期構築の可能性もある。しかしこれらの竪穴住居とフラスコ状土坑は、出土土器型式の上からは同時存在とは言い難い。すなわち２軒の竪穴住居は炉に使用の土器が中期後葉の大木９式併行であり、ＳＩ273埋土最上層出土の土器（８）も同一型式内に収まる。一方のフラスコ状土坑は、後葉の土器はなく末葉の大木10式併行あるいは後期初頭の土器が出土していることから、住居が構築された時期にはフラスコ状土坑は存在していないと考えられる。またＳＲ66Ｆは、土器が火熱を受け脆弱となり、内部に焼土も含むことから炉に使用の土器であった可能性がある。しかし周辺の精査によっても周壁、柱穴等を確認できず、屋外炉のような機能を推定する。

２軒確認された竪穴住居跡は、それぞれが形態の異なる炉を有する。ＳＩ219は土器埋設炉＋周堤をもつ掘り込み部からなる複式炉、ＳＩ273は土器埋設炉＋掘り込み部からなる複式炉である。複式炉は、「本来、土器埋設炉と石組炉がセットになった炉跡に対してつけられた形態上の一区分である」と定義づけられており[3]、その意味では複式炉と称することはできない。しかし秋田県内で確認されている炉のうち、土器埋設炉に隣接する施設に石を使用しない掘り込み部を有する炉が比較的多く検出されている。これらの炉跡に対しても複式炉として報告される事例があり、ここでも「形態的に異なる複数の施設からなる炉」を複式炉とする。

土器埋設炉＋周堤をもつ掘り込み部タイプの複式炉は、類例は少ないようであり、近似する形態の炉は、八竜町萱刈沢貝塚６号住居跡（中期中葉）[4]における地床炉＋周堤をもつ掘り込み部タイプであり、一般に周堤をもつ掘り込みは、単独で住居の縁辺部に位置する例が多いようである[5]。また土器埋設炉＋掘り込み部タイプの複式炉は、八竜町萱刈沢II遺跡ＳＩ25竪穴住居跡（中期中葉）[6]や秋田市下堤Ｂ遺跡（中期末葉、大木10式）[7]などで確認されている。下堤Ｂ遺跡では検出した45軒の中期の住居跡のうち、26軒までが土器埋設炉＋掘り込み部タイプの複式炉をもつ。

また、遺構内外出土の７個体の土偶は、法量に大小はあるものの、ほぼ同一の形態、文様構成をとる資料であり、時期的には本期に属すると見られる。逆三角形様を示す頭部土偶は近くの古館堤頭遺跡で、胴部から脚部では、扁平で裾広がりの形態は、二ツ井町鳥野遺跡、秋田市坂ノ上Ｅ遺跡などにそれぞれ類例が認められる[8]。

【後期初頭～前葉】この時期になると、土坑・フラスコ状土坑が数多く構築され、本遺跡最大のピークを迎える。時期の推定できる94基の土坑・フラスコ状土坑のうち、少なくとも８割にあたる76基は、該期の構築である。本時期は中央に切断土器を埋設する住居（ＳＩ92）も構築される。なお、切断土器はＳＫＦ74Ｂでも出土している。また土器埋設遺構ＳＲ５・65・76・

80もこの時期に属す。各遺構は台地中央の平坦部にも住居を含め散在するが、土坑の多くはⅠ区北東端部に密集して配される傾向がある。土坑が密集して構築される例は、周辺遺跡でも認められる。琴丘町宝竜前遺跡・地蔵長根遺跡などである。宝竜前では、B区とした1200m²程の範囲内より中期中葉を中心とする時期の土坑・フラスコ状土坑が43基確認され、地蔵長根は未調査の遺跡ではあるが、宅地造成に伴う土取りにより、法面にフラスコ状土坑が30基以上確認できる。

本期の土坑は、第4章でイ～トに類別した各類型が併存する。イ～ニ類型のフラスコ状土坑は、他遺跡での例から多くは食料貯蔵を主とする施設と推定されよう。事実、Ⅱ区SKF223などでは炭化した胡桃（オニグルミの炭化した核）が底面から出土している。またロ類型のSK86は、開口部周囲に柱穴状ピットを巡らす事例であり、上屋を構築するための施設と考えられる。同種の施設は、八竜町萱刈沢貝塚において県内では初めて検出され（FP13、中期前葉）、その後、山本町吉館堤頭遺跡（2基、前期後葉と中期前～中葉）等でも確認されている。一方、ホ類型の土坑（10基）は、1基（SKF66B、時期不明）を除き、開口部径がおよそ1.1～1.4mの円形を呈し、深さは1m前後の円筒状に掘り込まれる。黒褐色シルト質土で人為的に埋められる例が多いことから、墓の可能性を推測する。更にⅠ区で3基確認したヘ類型の土坑は、径1～1.4mの円形を示し、確認面からの深さは0.6m未満と比較的浅い。坑底面の4隅には杭状の細いピットが穿たれる。SK30は本期と見られるが、他2基は不明である。この種の土坑は、時期を問わなければ、北海道等の続縄文期に見られる「ウサクマイ型」の土坑墓に形態的には類似する(9)。Ⅱ区SK206（ト類型、隅丸長方形）は、ヘ類型のようにピットは伴わないものの、黄褐色粘質土で人為的に埋められた土坑であることから、これも土坑墓と考える。

これら該期遺構出土の遺物は、土器では23・28等のように口縁部に刺突・刻目を伴う隆起帯をもつ例、214のように2条一組の縦方向の隆線による区画文をもつものは、青森県牛ケ沢（3）遺跡（第Ⅲ群土器）(10)や韮窪遺跡等の例から後期初頭に位置づけられよう。また66等は、無文地に口縁部から胴下半部まで渦巻・入組様の沈線を多様するものであり、後期前葉の十腰内Ⅰ式に比定できる。また117の鐸形土製品は、Ⅰ区SK37確認面上出土である。器面上に施される主文様は、隆線による環状文であり、一見すると中期中葉の大木8a式のそれに類する。しかし土製品の胎土・焼成は、SK37に隣接するSKF61A出土土器（26）等に酷似する。この点に着目すれば後期初頭とも推定できよう。

【後期中葉】この時期に入ると、遺構数は極端に減少する。Ⅰ区でフラスコ状土坑1基（SKF3）、Ⅱ区で土坑3基（SKF210、SK253・256）を確認できるのみである。ただ後期前葉から中葉にかけての遺物を出土するフラスコ状土坑がⅡ区から2基（SKF226・274）検出されており、これらも該期構築の可能性がある。遺構の分布は、SKF210を除き台地の中央寄

りに位置する。II区北西端部に立地するＳＫＦ210は前述のＳＫ206同様、黄褐色粘質土で人為的に埋められた土坑であることから墓と推定する。

遺構内出土の土器は、ＳＫＦ３坑底面直上で小型の注口土器（12）が正立状態で検出され、耳状を呈する突起破片（63）、69・79などは、十腰内II式の範疇で捉え得る。

【晩期前葉～中葉】この時期に属する遺構は、Ｉ区の７基（ＳＫ31・ＳＫＦ33A・41A、ＳＮ33B・34B・41B、ＳＲ60）のみである。ＳＲ60土器埋設遺構（晩期前葉～中葉）を除き晩期中葉に構築される。これらの遺構はＩ区北東部に位置し、平坦面から緩斜面に移行する近辺に立地する。

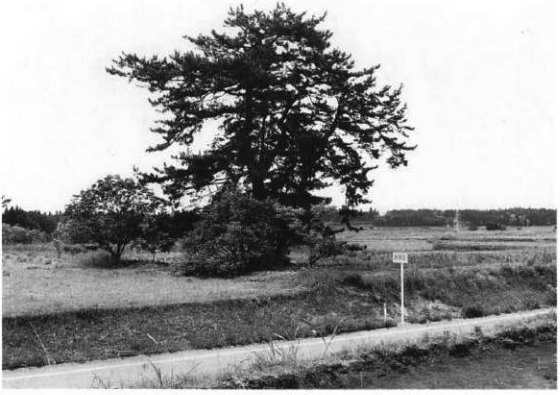
ＳＮ33B・34B・41Bは、それぞれＳＫＦ33A・34A・41A埋土最上位に構築された石囲炉である。ＳＫＦ33A・41Aは出土土器から晩期中葉に構築されていることから、その上位に位置するＳＮ33B・41Bは当然該期かそれ以降となる。ＳＮ41Bに埋設の土器から晩期中葉を下るものではなく、土坑廃棄後程なく石囲炉が作られたと考えられる。ＳＮ34B直下のＳＫＦ34Aは、後期前葉の構築であることから、土坑の廃棄から石囲炉形成までは前２者より間があく。ＳＲ60は倒立埋設で、焼土等なく内部に磨石が２点納められていることから土器棺墓と推測する。

該期の遺物は上記遺構分を除くと、前葉の土器は、II区ＳＫＦ207（後期前葉の構築）埋土出土の１点（81）のみのようである。一方中葉の土器は、Ｉ区に限定される。ＳＫＦ25で壺形土器（14）、ＳＫＦ40Aで台付鉢（15）などがいずれも埋土中より得られている。

註

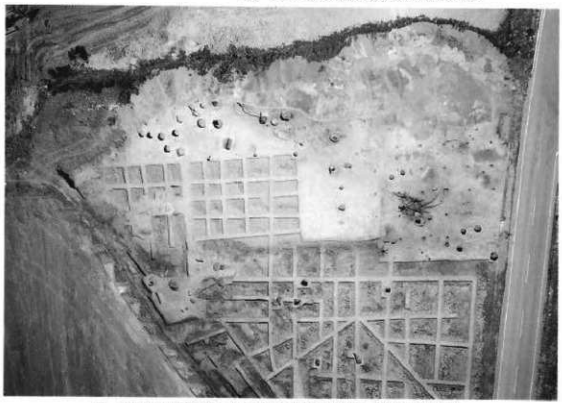
(1) 加藤三千雄「新保・新崎式土器様式」『縄文土器大観』３　中期II　1988（昭和63年）
(2) 富樫泰時「秋田県における北陸系の土器について」『本荘市史研究』４　1984（昭和59年）
(3) 中村良幸「「複式炉」について－岩手県を中心として－」『考古風土記』第７号　1982（昭和57年）
(4) 八竜町教育委員会『萱刈沢貝塚』1979（昭和59年）
(5) 下堤Ａ遺跡27～29号住居跡でも馬蹄形状の周堤をもつ小土坑が住居の縁に位置する。秋田市教育委員会「下堤Ａ遺跡」『秋田市秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1988（昭和63年）
(6) 秋田県教育委員会「萱刈沢II遺跡」『一般国道７号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』秋田県文化財調査報告書第231集　1993（平成５年）
(7) 秋田市教育委員会「下堤Ｂ遺跡」『秋田市秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1988（昭和63年）
(8) 富樫泰時・磯村亨「秋田県の土偶」『東北・北海道の土偶Ⅰ』1994（平成６年）
(9) ウサクマイ遺跡研究会『烏柵舞』1975（昭和50年）、菊池徹夫「アイヌ史と擦文文化」『北からの日本史』第２集　1990（平成２年）
(10) 青森県教育委員会『牛ケ沢（３）遺跡発掘調査報告書』1984（昭和59年）

1．調査前全景（南東→）
水田面より一段高い面が調査区、左側の林部分がII区



2．調査前近景（II区北部、南東→）
松の木の根元に祠が鎮座する

1．調査後近景（Ⅰ区、北東→）
土坑・フラスコ状土坑等が北東部に密集して分布する



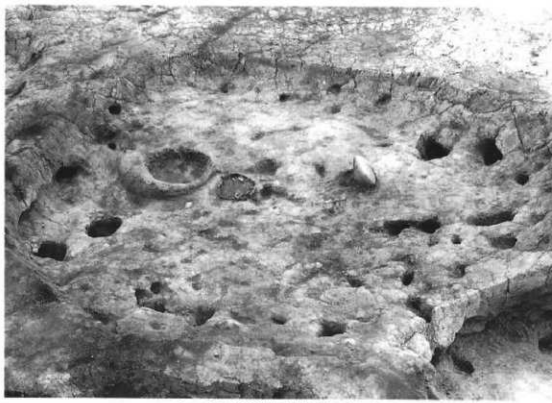
2．Ⅱ区調査後空中写真（1994年７月28日撮影・写真上側が北）

1．I区北端部（西→）

2．I区中央部（北→）

3．II区北部（西→）

調査風景



1．S I219竪穴住居跡完掘（北→）

2．同　炉（半截、南西→）

1．ＳＩ273竪穴住居跡完掘（南西→）

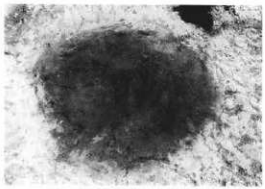
2．同　炉（埋設土器）と前庭部の掘り込み部（南西→）

3．同上　確認状況（土器が２重に埋設される）

4．埋設土器側面（西→）

5．同上　外側の土器取り上げ後（西→）

1．SKF１確認（西→）

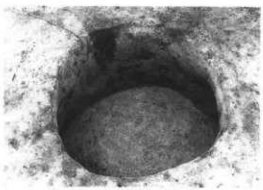


2．SKF２確認（北→）

3．SKF３完掘（西→）

4．同上　断面（南→）

5．SKF６断面（東→）

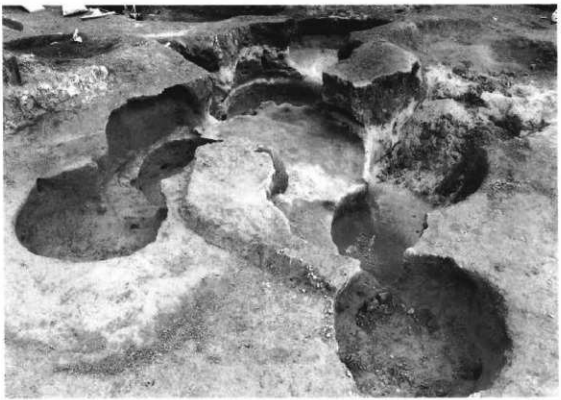


6．SKF８完掘（西→）

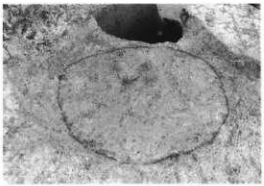
7．SKF21A完掘（北→）

8．SKF26D断面（西→）

土坑・フラスコ状土坑（１）Ⅰ区



1．SKF26A～I完掘（西→）

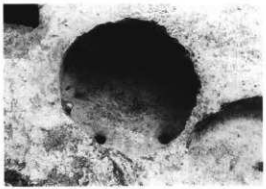


2．SKF26I確認（西→）

4．SKF28A・B完掘（南→）

周囲と同じ粘土で埋められている

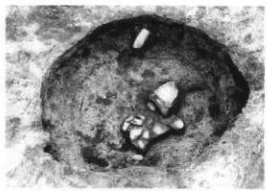
3．SKF27A断面（北東→）



5．SK30完掘（北→）

土坑・フラスコ状土坑（2）I区

1．ＳＫＦ33Ａ断面（東→）

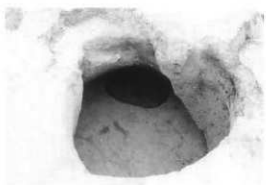


5．ＳＫ37遺物出土状況（北西→）

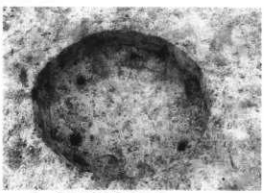
2．ＳＫＦ34Ｄ断面（西→）

6．ＳＫＦ38完掘（南東→）

3．ＳＫＦ35Ａ断面（東→）



7．ＳＫＦ40Ｂ完掘（南→）

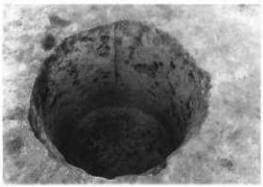


4．ＳＫ36完掘（西→）

8．ＳＫＦ43断面（北→）

土坑・フラスコ状土坑（３）Ｉ区

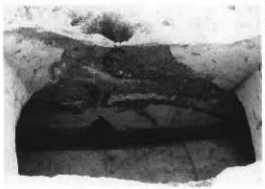
1．ＳＫＦ46完掘（南→）



2．ＳＫ47完掘（南→）

3．ＳＫ48（左）・52完掘（南東→）

4．ＳＫ53完掘（南→）



5．ＳＫＦ56断面（西→）

6．ＳＫＦ59Ｃ・Ｄ・Ｅ完掘（東→）

7．ＳＫＦ61Ａ・62断面（北→）

8．ＳＫＦ63完掘（北→）

土坑・フラスコ状土坑（4）Ｉ区

1．ＳＫＦ64D完掘（南→）

5．ＳＫＦ73A完掘（北東→）

2．ＳＫ66A・Ｂ断面（南東→）

6．ＳＫＦ75完掘（西→）

3．ＳＫＦ68完掘（北→）

7．ＳＫＦ78A・Ｂ断面（北東→）

4．ＳＫＦ69A・Ｂ断面（北→）

8．ＳＫＦ66H・78D・88確認（北→）

土坑・フラスコ状土坑（５）Ｉ区

1．ＳＫＦ84完掘（南→）

2．ＳＫＦ85完掘（南→）

3．遺物出土状況（１）ＳＩ83（第72図２）

4．遺物出土状況（２）ＳＫＦ３（第74図12）

5．遺物出土状況（３）ＳＫＦ25（第74図14）

6．遺物出土状況（４）ＳＫＦ40Ａ（第74図15）

7．遺物出土状況（５）ＳＫ64Ａ（第74図16）

8．遺物出土状況（６）ＳＫＦ71Ａ

土坑・フラスコ状土坑（６）Ｉ区

1．Ⅲ区調査前近景（東→）

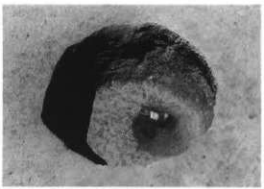
2．ＳＫ102完掘（西→）

4．ＳＫ105完掘（北→）

3．ＳＫ104遺物出土状況（西→）

5．ＳＫ106完掘（北→）

土坑・フラスコ状土坑（7）Ⅲ区



1．ＳＫ201完掘（東→）

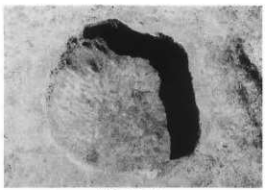
5．ＳＫＦ207完掘（西→）

2．ＳＫＦ203断面（北→）

6．ＳＫＦ208完掘（東→）

3．ＳＫＦ204完掘（西→）

7．ＳＫ212断面（西→）



4．ＳＫ206完掘（北→）

8．ＳＫＦ216Ａ遺物出土状況（東→）

土坑・フラスコ状土坑（８）Ⅱ区

1．ＳＫ222完掘（北→）

5．ＳＫＦ226遺物出土状況（西側）

2．ＳＫＦ223完掘（北→）

6．同上（東側）

3．ＳＫ224断面（南→）

7．ＳＫ227Ａ完掘（北→）

4．ＳＫ225遺物出土状況（南→）

8．ＳＫ233完掘（北→）

土坑・フラスコ状土坑（９）II区

1．ＳＫＦ234断面（東→）

5．ＳＫ243Ａ完掘（東→）

2．ＳＫＦ237完掘（西→）

6．ＳＫＦ244完掘（東→）

3．同上　断面（西→）

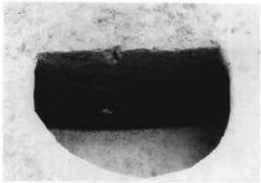
7．ＳＫ252・253・255完掘（北東→）

4．ＳＫＦ239遺物出土状況（西→）

8．ＳＫ252・253遺物出土状況（北東→）

土坑・フラスコ状土坑（10）II区

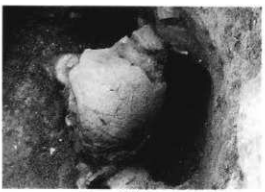
1．ＳＫ252・253周辺の遺構群完掘（北東→）



2．ＳＫＦ262断面（西→）

4．ＳＫＦ270Ａ完掘（北→）

3．ＳＫＦ269断面（西→）



5．同上　遺物出土状況

土坑・フラスコ状土坑（11）Ⅱ区

1．ＳＲ５確認（西→）

5．ＳＲ60側面（東→）

2．同上　側面（西→）

6．同上　半截（東→）

3．ＳＲ７Ｃ（南→）

内部に磨石が２点入れられている

7．ＳＲ65　側面（南→）

4．同上（北→）

8．同上（真上より）

土器埋設遺構（１）

1．ＳＲ66Ｆ確認（北→）

2．同上　半截（東→）

3．ＳＲ80確認（真上より）

4．同上　側面（南西→）
土器埋設遺構（２）

5．ＳＮ34Ｂ（東→）

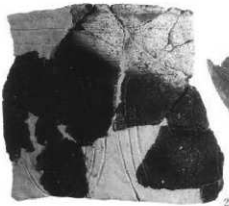
6．ＳＮ41Ｂ（南→）
SKF41A埋土上部に構築される

7．同上　土器確認状況（東→）

8．同上　半截（南東→）
石囲炉

出土遺物（1）　縮尺不同

14


25

15

16

26

28

31

66

65

69

出土遺物（2）　縮尺不同

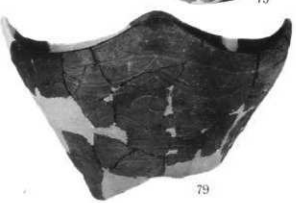
71

70

73

75

74


79

76

80

出土遺物（3）　縮尺不同

図版
22

108

109

117

116

214

210

頁岩原石中に含まれる魚化石
(長さ2.5cm)

出土遺物（4）　縮尺不同

報告書抄録

ふりがな	いえのしたいせき
書名	家の下遺跡（1）
副書名	県営ほ場整備事業（琴丘地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	II
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第256集
編著者名	高橋学・五十嵐一治
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014　秋田県仙北郡仙北町払田字牛館20番地　0187-69-3331
発行機関	秋田県教育委員会
所在地	〒010　秋田県秋田市山王4丁目1番2号　0188-60-3139
発行年月日	西暦1995年3月28日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		m²	
家の下遺跡（いえのしたいせき）	秋田県山本郡琴丘町鹿渡字長信田家の下1-5外	53341		40° 4′ 20″	140° 5′ 15″	19940516 ～ 19941125	6,500	開発事業（農業関連）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
家の下遺跡		旧石器時代		ナイフ形石器 米ヶ森型台形石器	旧石器時代遺物は約15,000点以上（別報告の予定）。
	集落	縄文時代中期 後期 晩期	住居跡　4軒 土坑　183基 石囲炉　3基 焼土遺構　48基 など	縄文土器・石器 など	石囲炉は埋没途中の土坑を利用して設営している。